やまなみ

第 １５ 号

岳人あびこ

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

GAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ

やまなみ

第１５号

手賀沼湖畔

やまなみ　第１５号　目　次

平成２５年(2013年)3月～平成２６年（2014年)2月

やまなみ第１５号発刊に寄せて　　平成２７年度会長　武内勇二

NO.	山　　名	山　域	月　日	執筆者	頁
810	大小山・大坊山（新人歓迎山行）	足利・桐生	4/7	齊田記代美 やまたん	1
811	浅間嶺	奥多摩	4/13	箕輪カオル	5
812	茅ケ岳～金ケ岳	中央線沿線	4/27	矢澤節雄	6
813	今倉山～道志二十六夜山	道志山塊	5/6	矢澤節雄	8
814	弥三郎岳(羅漢寺山)	中央線沿線	5/12	末永三江子	10
815	川苔山	奥多摩	5/26	郷田進	12
816	荒船山（市民山行）	西上州	6/2	市民登山特集号	13
817	瑞牆山～金峰山	奥秩父	6/7-8	村越百々代	21
818	甘利山～千頭星山	中央線沿線	6/16	瀬田映子	23
819	戦場ケ原・太郎山	日光	6/22-23	矢野貞子	25
820	高峰山～篭ノ登山～三方ケ峰	浅間連峰	7/7	箕輪完二	26
821	猫魔ケ岳・磐梯山	会津地方	7/20-21	飯合しげ子	28
822	高松岳・焼石岳	東北（秋田・岩手）	7/28-30	矢野裕子	30
823	月山・蔵王（熊野岳～刈田岳）	東北	7/31-8/2	高橋芳恵	32
824	加賀白山	北陸	8/7-10	外崎蓮	34
825	南岳～槍ケ岳	北アルプス	8/22-25	武内勇二	38
826	鳳凰三山（薬師岳～観音岳～地蔵岳）	南アルプス北部	8/30-31	新谷直恵	41
827	筑波山（ウイズハイク）	筑波山塊	9/7	やまたん	43
828	笠ケ岳～至仏山	尾瀬	9/27-28	郷田進	46
829	甲武信ケ岳	奥秩父	10/10-12	高橋芳恵	48
830	燧ケ岳	尾瀬	10/12-13	品田千恵子	50
831	倉見山	富士急沿線	11/2	石塚あさ子	52

NO.	山　　名	山　域	月　日	執筆者	頁
832	大持山～子持山～武甲山	奥武蔵・秩父	11/9	村松敏彦	54
833	九鬼山	富士急沿線	11/17	中村育子	55
834	鶴島御前山～高柄山	中央線沿線	11/24	坂巻明	56
835	伊予ケ岳（忘年山行）	房総	12/1	やまたん	58
836	手賀沼一周（クリーンハイク）	我孫子市・柏市	12/8	瀬田映子	61
837	高川山	富士急沿線	12/15	中村育子	62
838	笠取山（クリスマス山行）	奥秩父	12/21-22	北川勝久	64
839	大菩薩嶺～小金沢連嶺	秩父大菩薩連嶺	1/11-12	田村光子	66
840	シダンゴ山～宮地山	丹沢	1/19	本田愛子	68
841	嵯峨山・石尊山～烏帽子山（県連房総ロングハイク）	房総	1/25-26	武内勇二	70
寄稿	カナディアンロッキーハイキング	カナダ	7/5～14	矢野貞子 瀬田映子	72

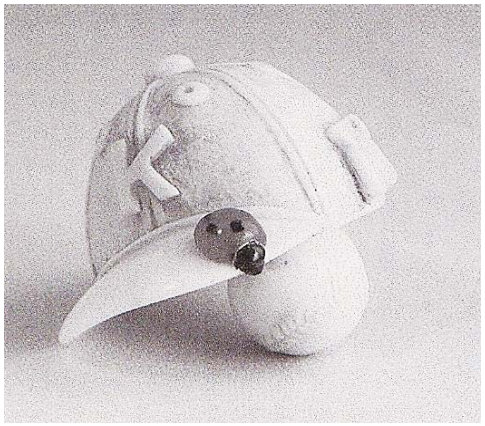
イラスト提供

表紙　　小川誠二郎氏　　版画　（ハガキ大）　遺作

挿絵　　内田和成氏

　　箕輪完二氏

　　室崎宏治氏



内田和成氏　象牙（3．5cm）

「隠れん坊（帽）　帽子内にもう一匹の天道虫」
日本象牙彫刻会新人賞受賞作品（2014年度）

やまなみ　第１5号　目　次

平成２6年(2014年)3月～平成２7年(2015年)2月

NO.	山　　名	山　域	月　日	執筆者	頁
842	岳ノ山～大鳥屋山	足利山塊	3/21	新谷直恵	75
843	大小山～大坊山	足利・桐生	3/29	末永三江子	77
844	宝篋山（新人歓迎山行）	茨城県南	4/6	飯沼トミ子 やまたん	78
845	岩殿山	中央線沿線	4/13	末永三江子	82
846	長者ケ岳～天子ケ岳	富士周辺	4/18	外崎蓮	83
847	金時山	箱根	4/20	石塚あさ子	84
848	四阿屋山・両神山	奥秩父	5/9-10	村越百々代	86
849	本社ケ丸～鶴ガ鳥屋山	中央線沿線	5/11	大山冬臣	88
850	乾徳山	奥秩父前衛	5/24	中村育子	90
851	半月山	奥日光	5/24	矢野裕子	91
852	浅間山（前掛山）（市民山行）	浅間連峰	6/8	市民登山特集号	93
853	雲取山～和名倉山～笠取山～雁坂峠	奥秩父	6/12-15	矢野貞子 高橋芳恵	100
854	安達太良山	安達太良	6/15	齊田記代美	103
855	長七郎山	赤城・榛名	6/19	新谷直恵	105
856	乙女高原～小楢山	中央線沿線	6/21	中村育子	107
857	小野岳・二岐山	阿武隈山地	6/29-30	本田愛子	108
858	子持山・小野子山	上州	7/12-13	箕輪カオル	110
859	西吾妻山～東大嶺	吾妻連峰	7/20-21	北川勝久	112
860	甲斐駒ケ岳～仙丈ケ岳	南アルプス	7/21-24	矢澤節雄	114
861	霞沢岳～徳本峠～島々宿	北アルプス	7/30-8/2	矢野貞子 高橋芳恵	117
862	荒川三山～赤石岳	南アルプス	8/1-5	武内勇二	120
863	鳥海山	出羽	8/7-9	箕輪カオル	123
864	北穂高岳・奥穂高岳	北アルプス南部	8/21-24	石塚あさ子	125
865	南山展望台～愛宕山（ウイズハイク）	筑波山塊	9/6	やまたん	128

NO.	山　　名	山　域	月　日	執筆者	頁
866	小金沢山	大菩薩嶺	9/13	高橋芳恵	131
867	雨飾山	頸城山塊の西端	9/20-21	室崎宏治	132
868	火打山～妙高山	頸城山塊	9/26-27	中尾雅彦	134
869	鬼怒沼湿原	奥日光	10/7-8	高橋富美子	136
870	威守松山・巻機山	南魚沼	10/11-12	外崎蓮	138
871	七ケ岳・荒海山	南会津	10/24-25	箕輪完二	141
872	半月山	奥日光	10/29	瀬田映子	143
873	黒檜山	上州	10/30	品田千恵子	145
874	黒岳～雁ケ腹摺山	中央線沿線	11/3	林敏生	146
875	権現山	中央線沿線	11/8	田村光子	148
876	三頭山	奥多摩	11/11	渡辺清子	149
877	岩山	前日光	11/15	桐生恭子	151
878	御正体山	道志山塊	11/16	大平太計夫	152
879	矢倉岳～金時山	小田急沿線	11/24	本田愛子	154
880	手賀沼一周（クリーンハイク）	我孫子市・柏市	11/30	室崎宏治	155
881	御殿山・愛宕山（忘年山行）	房総	12/7	やまたん	157
882	倉岳山	中央線沿線	12/13	村松敏彦	160
883	（秋山）二十六夜山～赤鞍ケ岳・今倉山～（道志）二十六夜山	道志山塊	1/8-9	武内勇二	161
884	高川山	中央線沿線	1/12	中尾雅彦	164
885	大霧山	奥武蔵	1/17	矢野裕子	165
886	大崩（津森山～人骨山）・東大演習林（県連房総ロングハイク）	房総	1/24-25	高橋芳恵	167
887	北八ケ岳（東天狗岳）	八ケ岳連峰	1/27～28	石塚あさ子	169
888	高水三山(高水山～岩茸石山～惣岳山)	奥多摩・秩父	2/11	室崎宏治	171
889	陣馬山～景信山～城山	高尾山系	2/14	北川勝久	173
890	長瀞アルプス～宝登山	秩父	2/21	村越百々代	175
寄稿	大雪山・トムラウシ山花紀行	大雪山系	7/8～15	大山冬臣	177
寄稿	岩木山・白神岳	奥州	8/25～29	高橋芳恵	182
寄稿	槍ケ岳・大キレット・北穂高縦走	北アルプス	10/7～10	大山冬臣 大畠清江	184

やまなみ第１５号発刊に寄せて

平成２７年度会長　武内勇二

１９９６年１０月、山が大好き人間８名が会津朝日岳に集い、新しい会を立ち上げてから１８年、この期間の岳人あびこの山行の紀行文は全部「やまなみ」に収められています。そして「やまなみ」も号を重ねて、まもなく第１５号が発刊されるまでになっています。諸般の事情により、今回から発刊時期を２年に一度に変更したため、第１５号には平成２５年度～２６年度の会の山行約８０回分の紀行文が掲載され、これまでにない大部となりました。過去に「やまなみ」の編集に携わった者の一人としてその苦労が分かるだけに、第１５号の編集委員の方々のご努力に深甚な謝意を表したいと思います。

岳人あびこの発足以来、延べ８８０回ほどの山行が全て「やまなみ」に収録されており、「やまなみ」には会の歴史がぎっしりと詰まっていると言ってよいと思います。これまでの山行が簡単に検索できるよう、巻末には「山行索引」も載せられています。折に触れて過去の「やまなみ」を手に取ると、懐かしい会員の名前があり、その方の山への想いが活き活きと綴られています。２０年近くもの歳月を経ると、初めの頃の会員は退会された方も多く見受けられ、中には残念ながら他界された方もおられますが、山での想い出は今も「やまなみ」に残されています。

来年、岳人あびこは創立２０周年を迎えます。会が今後もますます発展すると共に、これからも「やまなみ」を大切にしていきたいと念じて第１５号発刊の言葉としたいと思います。

平成２５年度

平成２５年３月～平成２６年２月

＜８１０＞新人歓迎山行

大小山・大坊山
（314m）　（285m）

やまたん
齊田　記代美

変化に富んだ山を楽しむ
懇親会　ゲーム　大いに盛り上がる

新人３人

家でテレビを見ていても一日
山に登って楽しんでも一日　　大坊山山頂

遊びにも真剣な山の仲間

齊田　記代美

今年度最初の山行は３名の新人の方を迎えての歓迎山行となりました。
前日の天気図から、雨を覚悟の山行と思っていました。私は食料担当の一人だったので、前日の買い物の時も、「バーベキュー会場は屋根があるので、バスで行ってバーベキューを楽しみましょうよ！」と気楽なことを話し合っていました。ところが、どのように低気圧が動いたのか、時には青空も顔を見せるくらい予報が外れ大小山、大坊山ともに登ることができました。

大小山は、３１２ｍといっても、男坂には岩場があり、又大小山から妙義山まではもう一度下って登ってのアップダウンがありと変化に富んで楽しむことができました。帰路は、さすが女坂と名付けられるだけのことはあって、やさしいくだりとなりました。いつの日か大小山～大坊山への縦走を思い描きながら、山を下り待たせておいたバスで移動し、次の大坊山へと登り返しました。２８５ｍの大坊山は大半が階段で、大小山を登破してきた足には少し頑張りがいりました。山頂は広く、おおきな山名標識の前で記念写真を撮り下山開始しました。

日ごろの行いの良い仲間なのでしょう、下山中ポツポツ降り出した雨はバスに乗って走り出したら大粒の雨になった。

懇親会は雨の中でも屋根つきのバーベキュー会場で４班に分かれ、それぞれ競い合い、自分たちの班こそは火の起こしかたが一番早く、バーベキューも上手にできたと、スパイが出現する（？）くらい盛り上がりました。その後のじゃんけんゲーム大会も、山登りに劣らず真剣に取り組み、雨雲をも吹き飛ばして楽しい一日を過ごしました。

新人の方３名も何の違和感もなく私たちの中に溶け込んでいらしたように見受けられました。これからも色々な山にご一緒したいですね。

楽しい山行　協力のおかげ

総合リーダー　箕輪完二

・定例会（水）では「悪天候予報の中でも午前中は雨でないので、何とか貸し切りバスに乗り、大小山に登りたい。雨模様によってはバーベキュー会場に直行し、懇親会はしたい」と計画を述べた。しかし天気は少し前倒しとなり、午前中も雨の予報となっていった。(木)
・バス予約の取り消しに関しては向観光から、前日の正午までとの予約を運転手確保の理由から前々日（金）までに山行の有無を知りたいとの連絡が入る（木）。

・バスへの事前積み込みのための飲み物、酒類等が都合により運び込まれる（金）。
・最後の決断をして、野菜、乾物類等を前日（土）の正午前に郷田さんと向観光へ運び込む。社長と面談の末、それまでの大型バスからキャンセルの出た中型バスに切り替えることができ、費用と時間を大幅に短縮することができた。
・当日の朝、バスの中で「不幸」で参加できない１名を除き全員参加を確認して、あらためて岳人あびこの結束の強さを知る思いがした。
・中でも新人の方々で前夜、柏市内のカプセルホテルに宿泊した人。集合場所の我孫子駅北口に早朝５：00に着いて皆を待った人。いずれも泣かせる話である。
・気になる天候は意外なほど平穏だった。高速道も一般道も空いている。予定時間より早く、大小山登山口である養老の碑に到着できた。
・近くの広場でラジオ体操をして体をほぐし、リュックを整理して雨具を取り出しやすい位置に置き換える等をして出発。大小山は岩の山であり滑りやすい、予定通り男坂を登り大小山（妙義山）で折り返し、慎重に女坂を下る。
・大小山は石灰岩やチャートを主とする岩石だと言う。海底地殻がいかに強い力で押し上げられたかを物語る山である。その岩肌を直接、掴むことができて幸いだ。
・大坊山は中型車までしか登山口である大山祇神社の駐車場に入れない。大坊山まで、集合写真や休憩等を含めて往復１時間。時間はだいぶ節約できた。
・空は晴れ間も出る程に回復。と思いきやバスでキャンプ場に向かう先には黒い雲。あっという間に大粒の雨となった。同じ足利市内なのに自然の猛威を感じる。
・キャンプサイトは雨の中、若者のグループや子供を含む家族連れで賑わっていた。
バーベキューはとても美味しかった。食材の量もちょうど良かった。（運転手さんに焼そばを提供するなどＤ班は余裕の気配りだ）
・「ヘイ//カム・オン」ｹﾞｰﾑは単純なジャンケンでわかりやすく、全員が夢中で駆け廻った。いつの間にかＡ班に見知らぬ青年が並んでいる。何か解らないまま１位チームが決まり終了してしまったが、Ｄ班にも見知らぬ青年が並んだと聞く。後で考えたのであるがこれは「ヘイ・カモン」と叫びながら楽しそうに走り回る姿に思わず飛び入り参加してしまったのだ。それほど楽しそうに見えたようだ。
・「億万長者ゲーム」もジャンケンの勝負である。個人と班対抗の合計で１位チームを決め「ヘイカモン」ゲームとの合算でＤ班の優勝となった。
・多くの人が合計１５回程度のジャンケンをしたと思う。これだけ回数を重ねると平均化するものであるが、小川さんは平素の勝負強さを買われて関所守りとして活躍した。全体を通して１３勝２敗ぐらいと、ここでも勝負強さ見せつけた。
・岳人あびこにも哲学者的な人がいて「家でテレビを見ていても１日、山に登って楽しんでも１日」と言ったのを思い出す。蓋し名言ではないか。
・ヒヤリハットもなく早めに我孫子に楽しいまま戻れて本当に良かった。計画から反省会まで多くの人々に支えられた山行でした。感謝。

Ａ班　見晴台で一休み

パワー溢れて素晴らしい会

門松　文子

先日は新人歓迎山行を企画してくださってありがとうございました。
今回が２度目で自分の体力に不安を感じながら参加いたしましたが皆さまが親切に歩き方や滑らない足の着き方などアドバイスして下さりなんとか登ることができました。高さだけ聞くと低い印象ですが登ってみると大違い、大坊山は登りばかりで息が切れましたが他の皆さまは平気な様子なので驚きました。
バーベキューではあんなに大きいソーセージは初めていただきました。どれもみな美味しく、じゃんけんゲームでは皆真剣で、何事にもパワーが溢れて素晴らしい会だと思いました。多く

の事を準備してくださったことを心より感謝申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。

B 班　大小山の男坂を登る

「感謝」と「感心」につきる

宮野　浩司

振りかえってみて、ただただ「感謝」と「感心」の２語だったと思っています。

「感謝」・・・新人である私の安全に常に気を配り、また会の一員として早く溶け込めるよう声かけしてくださいました。また、山行中４つの注意やアドバイスをいただきました。その中の１つは会長からコンパスと地図の合わせ方を通して、適切な道具を購入する事の大切さを教わったのですが、登山靴以外まともな道具を準備しなかった私は「主体的な山行」が実行できていない自分に早速気づく事になりました。指導してくださった皆様、ありがとうございました。

「感心」・・・山行を運営する皆様のご苦労を当日知ることとなりました。まずリーダーが２回も予め下見に行ったというお話、バーベキューの下準備を前日までに行っていた食担の皆さま、レクの準備、会計ご担当等々。「感心」などと感想を述べ生意気かもしれませんが、今までどちらかというと一人で自由に動いていた私にとっては、山岳あびこのチーム力に圧倒されました。

当面、皆様のお力添えをいただくことになりそうですが、１日でも早く自立し宮野が入会してから更に楽しくなったと言ってもらえるように頑張りたいと思います。

ところで・・・山行でのお酒は格別においしいですね。

C 班　大坊山山頂

迎えてくださって、感謝します

石塚　あさ子

雨の音、風の音を聞きながら、期待と不安な気持ちで床についた前夜。なかなか寝付けないで夜が明けてしまいました。雨はとりあえず止んで、我孫子の集合場所へ。皆さんと顔を合わせてホットしてますます期待が高まりました。山に近づくにつれてバスから見る景色、山の芽吹きの淡いうす緑色にピンクの山桜、一年のうちで今しか見れない色合い、大好きです。

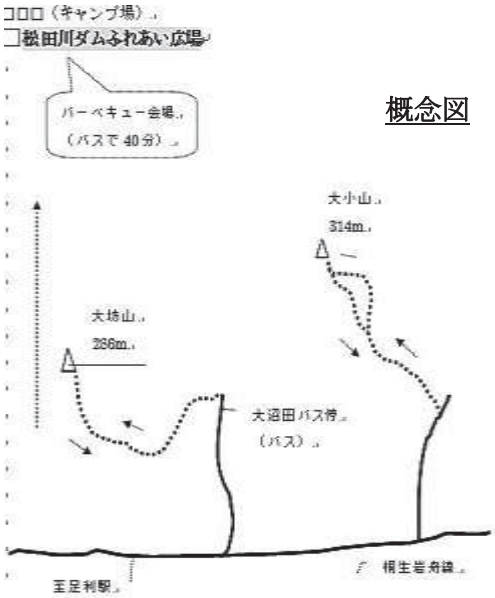
登山口でラジオ体操の後いよいよ登山、Ｄ班のリーダー箕輪カオルさんの後ろを歩きました。いつも気を使っていただきありがとうございます。リーダーの背中、足元を追って登り、いつも同じリズムで同じ姿勢で登っていく姿、そして余計な事は言わないが、確実に後ろの私に気を配りながら登っていく姿に感動しました。さすがだと思いました。

山の途中で振り返ってみる町の景色に人それぞれの暮らしを思い、また木々の芽吹き、小さくとも可憐に咲いている名前も知らない草花。大小山のやまぶき、大坊山の山つつじ、とても楽しい山行でした。又。バーベキュー、ゲームと皆さんそれぞれ役割を持って楽しんで、とても和やかな雰囲気で、これも岳人あびこのすばらしい所なのですね。この年齢で新人として迎えて下さりありがとうございます。
これから、自分の体力と日程を考慮し、いろいろ教えていただきながら山行に参加したいと思っています。本当にお世話になりました。

D 班　大小山山頂

ヘイ！カモン！

男坂を登る



概念図

概　　要

山名	大小山・大坊山		
月日	平成２５年４月７日(日)		
山域	足利、桐生	地形図	1/25000 足利、佐野
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	花の時期に岳人あびこの新人を歓迎する。		
費用	約 3、500 円	交通機関	貸し切りバス
日程	我孫子駅北口 5:40→高速自動車道（常磐・外環・東北・北関東）→養老ノ碑広場 7:30⇒鳳仙寺前（準備体操）7:43/7:55⇒男坂分岐 8:10⇒見晴台 8:37/8:42⇒大小山 8:54⇒大小山（妙義山 314m）9:05/9:10⇒大小山 9:20⇒見晴台 9:30/9:35⇒女坂分岐 9:40⇒養老の碑広場 10:10/10:15→バス移動→大山祇神社広場 10:30/10:35⇒大坊山 11:00/11:05⇒大山祇神社広場 11:30/11:38→バス移動→松田川キャンプ場 12:25/15:00(懇親会とゲーム)→高速自動車道（北関東・東北・外環・常磐）→我孫子駅北口 17:30（解散）		
ﾙｰﾄ状況	・2 回にわたる下見の結果、大小山～大坊山の稜線は岩場の面白みを味わえ、眺望も良い素晴らしいコースと言える。しかし一方では地元のハイキングマップに「急峻な岩場あり、健脚コース」となっており、また地元の人の「最近もヘリコプターが飛んで人を救助した」との情報もあり、足利市役所にも確認した。 ・新人歓迎山行として又３０名規模でこれを実行できるか難問である。山行時間と全員の体力を考慮し、大小山～大坊山から大小山・大坊山とした。 ・当日の天候により大小山のみの選択も有りとの思いで計画した。 ・悪天候予報の中、向観光の中型バスにキャンセルが出て、その中型バスをチャーターすることができ、大坊山直下の登山口、大山祇神社まで行くことができた。 ・岩が嫌いでなければ、冬の晴れた日に近場の山として山行計画をすれば、素晴らしい展望と岩場のスリルを味わえるだろうと思う。		
参加者	Ａ班　中村八(L)、原田(SL)、矢野裕、小川、桐生、箕輪完(CL)、外崎(総Ｌ)　７名、 Ｂ班　品田(L)、中村隆(SL)、本田、村松、郷田、新谷、門松　７名 Ｃ班　高橋芳(L)、清家(SL)、末永、坂巻、矢澤、村越、宮野　７名 Ｄ班　箕輪カ(L)、高橋英(SL)、矢野貞、武内、斎田、石塚　６名 男性 11 名、女性 16 名　計 27 名		

＜８１１＞

浅間嶺
（903m）

箕輪　カオル

春を探して、花と出会う

春の花が咲いていました

平成２５年４月１３日（土）晴れ

浅間嶺登山口バス停には、ちょっとした空地もあり、そこでラジオ体操第二で体を解す。（ラジオ体操第二というところが面白い）南秋川橋を渡るとすぐに集落となる。山からの水音がいたるところから聞こえ、そこには、白い花をつけた山葵が点在する。すみれ、山吹、つつじと山の花々が目に入ってくる。浅間尾根の道標はしっかりついてはいるが、まず分岐ごとに地図読みで方向確認をして進む。かつては、荷馬が通う生活路であったというこの尾根には馬頭観音や山祠が多く、勾配の少ない稜線の道は昔人の往来が偲ばれる。杉の樹林は手入れが行き届き、木漏れ日で明るく風通しもよい。途中「サル石」と書かれた看板の脇に、猿の手形がついているという岩があったが、形があるのかないのかよくわからないところが想像を掻き立てるのだろう。風張峠分岐から一本松分岐へ到着。ここはとても見晴らしがよく、御前山や大岳山が眺望できる。浅間石宮の祠を過ぎ、杉木立を通り抜けると人里（へんぼり）分岐である。この辺りは分岐が多いように感じた。あらかじめ下見をしてくれたリーダーの指示に従ったが、やはり地図やコンパスは必須と思う。浅間嶺休憩所は大勢で賑わっていた。私たちは、休憩所から離れた展望台で少し遅めの昼食タイムとする。桜の古木が多いこの展望台は、大岳山、御前山の他に富士山が眺望できて嬉しいことだ。ここを出発して間もなく片栗の群生、延齢草、ニリンソウの花々に出会う。沢沿いの道では水場があり、さらに下ると水車のある古民家風の茶店（蕎麦屋）がある。時坂峠に石祠があり、眼下に山村風景が広がって気持ちがよかった。払沢の滝入口までこの時坂集落を下る。新緑の中、枝垂桜が満開であった。人の気配はないものの、物干しが枝垂桜の下に設置されていて、何とも不釣り合いではあるが贅沢なことである。かつては使っていたであろうと思われる小屋の梵鐘がもの悲しく映る。

途中マウンテンバイクのハイカーにも出合った。春光を浴びながらの古道歩きは本当に気持ちよかった。種類の豊富なすみれ、モミジイチゴ、マムシ草、延齢草、ニリンソウ、山吹、キケマン、カタクリ、つつじ、桜、山藤、山葵等々数多くの花々に出合え「春を探しに浅間嶺を歩く」にふさわしい暖かで穏やかな山行日和であった。

払沢の滝へは行かないで、豆腐の「ちとせ屋」でお土産を買いバスに乗る。武蔵五日市内の食堂で反省会。

概　　要

山名	浅間嶺		
月日	平成２５年４月１３日(土)		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 猪丸、五日市
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	春の花を探しに		
費用	￥３９３０	交通機関	電車・バス
日程	我孫子駅千代田線 5:33 発→新松戸駅 5:46/5:51→西国分寺駅 6:48/6:55→立川駅 7:00/7:23→武蔵五日市駅 7:58 バス 8:22 発→浅間嶺登山口 9:12 着(準備・体操)　歩行開始 9:30⇒風張峠分岐 10:30⇒一本松(930m)11:05⇒浅間石宮 11:25⇒人里分岐 11:55⇒浅間嶺山頂 12:27(昼食休憩)/13:00⇒小岩への分岐 13:15⇒水飲み場 13:45⇒峠の茶屋お休み処 14:00⇒時坂峠 14:25⇒払沢の滝入り口バス停着 15:10 払沢の滝発 15:20→15:45 五日市バス停/反省会→武蔵五日市駅→我孫子駅着 19:56(解散) 行動時間５時間４０分　歩行時間　４時間４０分		

ルート状況	・危険なところは特になし 一本松へは巻き道の方がしっかりしているので間違えそうになったが参加者の機転で、通り過ぎていないことを確認して前に進むことができたが分岐が多い ・山頂直下の休憩所は大勢の人が居り、一つしかないトイレに列ができていた
参加者	齊田（L）　高橋芳(SL)　原田　箕輪カ 瀬田　本田　中村育　村越　矢澤　外崎 男２名、女８名　計 10 名

浅間嶺にて

カタクリの咲く山道で

概念図

＜８１２＞

茅ヶ岳～金ヶ岳
（1703m）　（1764m）

矢澤　節雄

「百の頂きに百の喜びあり」

深田記念公園

日本百名山を目指していたので、深田久弥に縁のある「茅ヶ岳」には、やはり一度は登っておきたい山であった。昨年 8 月に 65 歳からの日本百名山を制覇して、一年も経たずにこの山に登れるとは嬉しい限りである。余談ではあるが、深田久弥と一緒に茅ヶ岳に登った人の話によれば、「深田久弥は途中の休憩で、落としたアンパンを手で掃って食べた後、アンパンの紙袋を持ったまま急に脳卒中で倒れた」とのこと。（昭和 46 年 3 月 21 日。享年六十八歳）　妹は、私が山に行くのを知ると、冗談に「あんちゃん、アンパンを忘れ無いで」という。私は気にしないで何時もアンパンを持っていくことにしている。

「岳人あびこ」では、「茅ヶ岳」山行を過去 2 回実施しているが金ヶ岳には来ていない。茅ヶ岳は、日本二百名山・山梨百名山の二冠である。金ヶ岳は無冠であり、この山の名を私は知らなかった。郷田さんは、今回が初めての山行リーダーで、よく調査されて茅ヶ岳～金ヶ岳の縦走を計画されたのであろう。山行リーダーとして気合が入っていると感じた。

登山口に左手にある深田公園に立ち寄る。小さな公園で四阿・テーブル・ベンチなどが整備されている。深田久弥直筆の文字が刻まれている記念碑「百の頂に百の喜びがある」の前で当然のごとく記念の集合写真を撮る。（蛇足：深

田久弥の文学碑は、出生地である石川県加賀市大聖寺町の江沼神社境内にもある。「山の茜を顧みて一つの山を終りけり何の俘のわが心早も急かるる次の山」と詠んだ。奥さんから「山三つは多い」と言われ、「山の茜」と「次の山」とを「空の茜」と「次の旅」とに換えたそうであるが、記念碑は直す前の詩文である。また深田記念公園では「深田祭」が、郷里の江沼神社境内では「久弥祭」が行われている。）

なだらかな道を、エイザンスミレ・ヒゲネワチガイソウ・ハシリドコロなどの花を愛でながら登る。春の日差しが心地よく、道端の斜面は３０ｃｍ程も積もった落ち葉の絨毯で、女性群喜々として大の字になって絨毯に寝転ぶ。思わず男性群も誘われて。楽しく最高の登山日和である。

女岩から道は、やや急な登りになり、所々小さな岩登りなどもあるが、木の間から富士山が見え隠れする。茅ヶ岳山頂直ぐ手前の金峰山・瑞垣山がよく見える所に深田久弥の急逝の碑あり、一週間ほど前の 4 月 21 日に深田祭が行われたからであろう、花が供えられていた。

茅ヶ岳山頂は、ほぼ平坦で小広く、小岩が点在している。山頂から 360 度の眺望を楽しむ。

山頂から金ヶ岳方面へ鞍部まで下り、鞍部から金ヶ岳への登りの途中で写真のスポット「石門」にて集合写真をパチリ、石門をくぐる。

金ヶ岳（双耳峰の北峰）山頂は、茅ヶ岳より高いが、展望は茅ヶ岳のほうが良い。金ヶ岳からの展望範囲は、富士山から南アルプスまで。八ヶ岳、金峰山などの方面は木々が立ち並び、見えない。

「明野ふれあいの里方面下に、崩落の恐れのある危険な箇所がある」との看板が出ている処を下った。確かに急な岩場もある細い尾根伝いの道ではあるが、多少緊張するも恐怖感は無く、面白い。私の前を大山さんが軽やかに下る。完全に足は回復されている。こちらは大山さんに付いて行くのがやっとである。また最近癖になった足の痙攣が始まった。幸いも下山口の「明野ふれあいの里」で、タクシーが着くまで時間の余裕があり、リーダーにも気付かれず、皆さんにも迷惑を掛けずに済んで助かった。「明野ふれあいの里」の広場をタクシー乗り場まで300ｍ？の歩きは長く、タクシーに乗るにも、足に力が入らずヨッコラショである。昨年の神室連峰の火打岳の下りで、初めて足の痙攣を起こした。その後、虎毛山山頂直下の下山で、また今年、丹沢の大蔵尾根下山で起こした。これで四回目である。足の痙攣の症状は、筋肉や筋が攣って痛くなるのではなく、大腿四頭筋に震えがおき、力が全く入らない。ひどいと立っていられない。箱根駅伝で選手が倒れるのを見ることがあるが、その症状と同じである。自律神経が働き、これ以上無理をしてはいけないとの警報が出やすい体質になってしまったようである。１時間もすれば歩け、翌日には回復して登山にも支障はないようである。大山さんから、登山前にキネシオテープを貼ることを勧められた。今後、足の痙攣予防策を研究し、色々試さなければならない。会の山行参加には、迷惑が掛からないよう、慎重な検討が必要だ。

楽しい反省会の後、皆で茅ヶ崎駅のフォームからクッキリと見える茅ヶ岳・金ヶ岳を眺めた。全員が、茅ヶ岳に金ヶ岳を加えたことで、面白く楽しい山行にしたとの感想であった。足の痙攣はあったが登れてよかった。参加者の皆さんに感謝します。

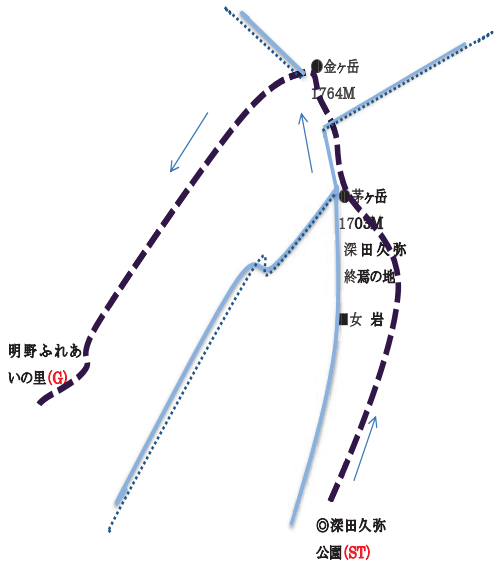
茅ヶ岳山頂　↑

金ヶ岳／岩尾根の下り

概　要

山名	茅ヶ岳〜金ヶ岳		
月日	平成２５年４月２７日(土)		
山域	中央沿線	地形図	1/25000 茅ヶ岳
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２A
目的	南アルプス展望		
費用	約 9200 円	交通機関	電車,ﾊﾞｽ,ﾀｸｼｰ
日程	我孫子駅（常盤線）5:31→新宿駅 06:30 発→（臨時特急号）→韮崎駅 08:28/ﾊﾞｽ 08:51→深田公園入口 0911/0920⇒休憩（衣服調整）09:50/09:55⇒女岩⇒休憩 10:40/10:50⇒茅ヶ岳（1703m）昼食 11:40/12:20⇒金ケ岳南峰山⇒金ケ岳 13:15/13:25⇒ふれあいの里 15:05/15:25→（タクシー）→（反省会）韮崎駅 16:53 特急あずさ→新宿→我孫子 20:00		
ﾙｰﾄ状況	・（登山口〜茅ヶ岳）当初アカマツの混じった広葉樹林帯の中、広い登山道、次第に狭い本格的な登山道、急登をジグザグに上り稜線に、女岩付近崩落あり迂回路その他特に危険箇所なし ・（茅ヶ岳から金ケ岳）３つ程のピークを超える狭い登山道 ・（金ケ岳〜）当初、狭い岩場尾根道注意が必要、途中崩落箇所あり、後半は平坦な下り道		
参加者	郷田（L）、矢野貞、大畠、瀬田、大山、矢澤 男３名、女３名　計６名		

概念図



＜８１３＞

今倉山 〜 道志二十六夜山

（1470m）　　（1297m）

矢澤　節雄

兎に角、日本〇〇〇名山とか日本三大〇〇〇とか名の付く山や場所に登ったり、訪れたりするのが好きである。今回の山行はすごい。

今倉山…山梨百名山・都留市二十一秀峰
赤岩……都留市二十一秀峰
二十六夜山…新花の百名山・都留市二十一秀峰

全部でメダル５個の獲得である。今年はメダル幾つ獲得できるか楽しみである。大月市秀麗富嶽十二景のメダルにも挑戦しよう。

このコースは、一座ではなく三座縦走することで面白く、なかなか良い山である。中でも赤岩からの富士山の眺めは素晴らしかった。

私はこの三山の名を初めて聞く。二十六夜山が「花の百名山」なんて知らない。（新も含めて花の百名山は二百もあるから当然全部は憶えていないのであるが。）改めて NHK「花の百名山」のビデオを見直してみると、二十六夜山の雪道を登っている紹介であった。「花の百名山」の紹介なのに何故に雪道の季節なの。変な紹介である。

「新花の百名山」の本で、田中澄江は「二十六夜山」が都留市には２山あること（確かに地図には 2 山ある）、そして両山ともマムシが怖く、ノイバラの藪コギで難渋したと述べている。（時代は変わった。今は、登山道は整備されている。）「二十六夜山」の花の挿絵は「ヒゴスミレ」である。特に「エイザンスミレ」の印象を語っている。私は、「ヒトリシズカ」の写真がうまく撮れたことが嬉しい。

「二十六夜」なんて聞いたこと無い。インターネットで調べてみたので紹介する。

「江戸時代に、旧暦の１月と７月の２６日の夜、月の出るのを待って拝む行事を「二十六夜待」という。この日の夜半すぎに出る月は、出る間際の光が三つに分かれ、瞬時にまた一つになるように見え、その光の中に阿弥陀・観音・勢至の三尊の姿が見えるといわれ、これを拝むと幸運が得られるという信仰があった。１月は寒いので、７月の二十六夜待が、江戸を中心に盛ん

に行われた。この山の山頂ででも、村人が「二十六夜待」を行ったことで付けられた山名である」と紹介されている。

蛇足：　十五夜は旧暦 8 月 15 日の月が「中秋の名月」。旧暦の秋は 7 月・8 月・9 月、それぞれ初秋・仲秋・晩秋と呼ぶ。「中秋の名月」と書くのは、8 月(仲秋)の名月という意味ではなく、秋の真ん中の名月であるからだ。別名「芋名月」。十五夜は必ずしも満月になるとは限らない。2013 年は 9 月 19 日が十五夜。十三夜は旧暦 9 月 13 日の月見。十五夜だけの月見は「片見月(かたみつき)」といって良くないとされ、翌月十三夜の月も見るべきとされた。別名「後の月」。月見団子は十五夜が 15 個に対して、十三夜には 13 個供える。お供え物も旬の物が出揃う。「豆名月」「栗名月」の異名もある。

山麓に『芭蕉　月待ちの湯』があり、松尾芭蕉立ち寄り「名月の夜やさぞかしの宝池山」と詠んだと伝えられている。

下山後いろいろ調べるのも面白い。この山は由緒があることを知る。「忘れる雑学」が、また増えた。田中澄江も二十六夜の下山後に「山梨県史」を読んでいる。

前置きが長くなった。リーダー大畠さんの定例山行報告書は、大変分かり易く且つ丁寧に記述されているので、山行の紀行報告は省略させて頂く。

この山行で私は大失敗をした。リーダーの手配準備よろしく、都留市駅ではジャンボタクシーが待っており、すぐに道坂隧道手前の登山口に、下山口の上戸沢バス停でもタクシーが待っており、赤坂駅に着くと運良く予定一本前の大月行き列車が到着、全く待ちのロス時間なしで大月へ。大月での反省会は時間がタップリある。天気に恵まれ、すばらしい景色と花々、仲間との楽しい会話で最高の登山に満足しての反省会、酒がすすむ。テーブルの向かいは「山と酒の友」A さん。会話が弾む。酒がすすむ。A さん、この辺で酒はお仕舞いとしたときに、私が、A さんに日本酒の注文を勧める。A さん首を傾げて止めようとしていたが、私が強く勧めるので、A さん銚子一本追加した。これがよくなかった。帰りの電車の中で A さん気を失って倒れてしまった。A さんには申し訳ないことをしてしまった。山行の仲間にも迷惑を掛けた。すみませんでした。十年ぐらい前になるか、同じことを私はやらかしている。今回で二度目である。私は、中学校の旧友達と年に一度は旅行をしているが、飛騨地方を旅行した時のことである。高山市内の和食レストランで名物飛騨牛を食べ、酒飲む。うまい。酒がすすむ。食後、高山市内の屋台会館で T 君が気を失って倒れた。T 君に酒をどんどん勧めたのは同じテーブルにいた矢沢だと皆に非難された。今では仲間との会食では、T 君は私から離れた席に座るようになっている。今後は、人に酒を勧めることは止めよう。

<u>概念図</u>

概　　要

山名	今倉山～道志二十六夜山		
月日	平成 25　年 5 月 6 日(月)		
山域	道志	地形図	1/25000　都留
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	新緑と展望		
費用	約 4500 円	交通機関	JR　富士急 タクシー
日程	我孫子駅 5:33→新松戸駅 5:46/5:51→西国分寺駅 6:48/6:55→高尾駅 7:22/7:26→大月駅 8:14/8:21→都留市駅着 8:37 タクシー発 8:45→道坂隧道バス停着 9:05/9:15⇒尾根に出る 9:35（衣服調整）⇒ピーク H3010m10:05/10:10⇒今倉山東峰 H1470m10:40/10:50⇒西峰(御座入山)11:05⇒西ヶ原 11:24⇒松山(赤岩)H1450m11:40/12:10(昼食)⇒林道に出る 12:53⇒二十六夜山 H 1297 m 13:10/13:25⇒仙人の水 14:10⇒カッチャ石 14:15⇒林道に下山 14:40⇒上戸沢バス停着 14:50 タクシー発 14:53→赤坂駅 15:00/15:02→大月駅着 15:20 反省会 15:30/16:40 大月駅発快速 16:49→高尾駅着→西国分寺駅→新松戸→我孫子駅 19:55 <快晴> 行動時間 5 時間 35 分 歩行時間 4 時間 35 分		

ルート状況	・登山道は全体によく整備されていて道迷の心配はない。 ・二十六夜山からは標高差千メートルを下る。途中斜面につけられたジグザクの登山道は急下降の上、砂礫まじりで滑りやい。注意が必要。 ・勾配が緩やかになった頃水場仙人の水がある。水量豊富で一息つける。
参加者	**A班**　高橋芳(L)、高橋英、箕輪カ、田村村越、坂巻、郷田　**B班**　矢野貞(L)、原田、箕輪完、新谷　大山、矢澤、大畠(CL) 男７名　女７名　計 14 名

今倉山山頂

エイザンスミレ

ヒトリシズカ

↑
マメザクラ

←
疲れにくい歩き方研修

＜８１４＞

弥三郎岳（羅漢寺山）
（1058m）

末永　三江子

まん丸い坊主頭のような頂上

今朝方まで雨が降っていた。空はどんより雲だらけ、日中は晴れるといいな～！
柏で電車を待っていると入ってきた電車に皆の顔がみえた久しぶりです。高尾駅で宮野さんと合流し、それぞれにおしゃべりしていると甲府駅到着。ジャンボと普通タクシーにのり昇仙峡グリーンラインの駐車場で降りる。ラジオ体操の後、２班に分かれて出発。灰色の雲はどこにも見えず真っ白な雲と青空良い天気になりそうだ。天狗岩を見ながら渓谷遊歩道にはいると素晴らしい滝が現れた。滝をバックに写真撮影を行う。
階段を上がるとみやげ屋が点在。登山口が見つからないため近くの店の女性に聞くと「以前はここから入っていたんだけれど今はロープウェーができたから登山する人はいない。登山道が荒れていて危険だからロープウェーで言ったほうがいいよ」と何度も言う。その言葉をあとにリーダーの指示にて入山した。この仲間の判断力はすごい、コンパスと地図を見ながら「方向的にあっちだ、こっちだ」とどんどん前に進んでいく。ひとりで行ったら絶対道に迷うだろうと思いながら後をついていく。美しい緑の中に赤やしお、ツツジ、藤が咲いている。春から初夏の山は新緑が美しい、空気もきれい、深呼吸も度々しながら歩いていくと先をさえぎる横棒２本、「ちょっと待って！」とリーダーが偵察する。こっちは行けないと帰ってきた。「じゃあ、こっち側がまき道になっているのかな？」と坂を下って見に行った。「こっちから行かれるよ！」という声につづいた。弥三郎岳の手前で昼食。一息ついて弥三郎岳頂上に到着。そこはまん丸い坊主頭の上に立っているようだ。
快晴、大きく深呼吸、ストレス解消、周りの山々をゆっくり眺め、気分爽快、南アルプス、富士山、茅ヶ岳、３６０度のパノラマを楽しんだ。下山が始まりロープウェー乗り場へ、体調が悪い本田さんに瀬田さんが付き添いロープウェ

ーで降りることになる。残った１１人は下山道へ、ここでも「どの道で降りる」とコンパスと地図を片手に確認している、「方向的にはこっちなんだけど」と言っていると、その道を登ってきたという登山者が教えてくれた。長いゆるい下り坂、途中、白砂山へ寄る、さっき登った弥三郎岳が見えたので写真を撮る。
腰から足の調子がどんどん悪くなり始めたが酷くならないうちに昇仙峡ロバス停に着いた。二人と合流し、タクシーに乗り甲府駅に戻る。小作で反省会、大汗をかいた後のビールのおいしいこと。予定通り電車に乗り、おしゃべりをしている間に柏に着いた。久しぶりの参加の私に気を使っていただいて有難うございます。
お世話になりました。

三角点だけの弥三郎岳山頂

イカリソウ

南アルプス独り占め

概　　要

山名	弥三郎岳（羅漢寺山）		
月日	平成２５年５月１２日（日）		
山域	中央沿線	地形図	1/25000 甲府北部
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	新緑を求めて昇仙峡へ、展望随一の山		
費用	約５５００円	交通機関	電車､タクシー
日程	我孫子駅 5:33 発→新松戸駅 5:46/5:50→西国分寺駅 6:47/6:55→高尾駅 7:22/7:26→甲府駅 9:21/タクシー(山梨交通)→昇仙峡グリーンライン駐車場 9:50/10:00⇒仙峨滝 10:35/10:40⇒見晴らし台 12:00/12:20⇒弥三郎岳 12:35/12:40⇒金剛峰 13:10/13:25⇒白砂山 13:40/13:45⇒昇仙峡入口バス停 15:05/タクシー(山梨交通)→甲府駅 16:48→立川駅→西国分寺駅 18:35/18:40→新松戸駅 19:38/19:40→我孫子駅 19:53 解散 歩行時間　４時間１５分		
ﾙｰﾄ状況	・仙峨滝からの登山はバリエーションルートであり、ここからの入山者は少ないようである。 道標等はないが、踏み跡は薄いながらも確認できる。 ・弥三郎岳から先は一般ルートであり道標もある。 ・登山道は土が柔らかく歩きやすい。弥三郎岳・白砂山は山頂だけが岩になっている。		
参加者	坂巻(L)　外崎(SL)　大畠　品田　村越 矢野裕　石塚　瀬田　末永　本田　宮野 矢野貞　田村 男２名、女１１名　計１３名		

概念図

＜８１５＞

川苔山
(1363m)

郷田　進

新緑の中の静かな稜線

渓谷を渡る

新緑の中、渓谷沿いの散策と静かな稜線を長く下る山行である。本会では様々なバリエーションで春、秋を中心に過去５回実施の人気の山域である。今回の川苔橋から川苔山―赤杭山―古里の標高差１，０００m、距離 15K の日帰りコースは初めての試みである。

まず驚いたのは、青梅線のハイカーの多さである。立川から満席の状況、特に女性が多い。更には奥多摩駅からのバス臨時便を２台増発しても満杯の状況であった。そして約７割が川苔山 BS でおりたことである。東京からの近さ、百尋（ひゃくひろ）の滝に代表される数々の滝と渓谷の美しさ、特に新緑の頃天候にも恵まれ大変な賑わいであった。

＜川苔山バス停～百尋の滝～川苔山＞

渓谷沿いの林道を４０分ほど進み、登山口に入る。まわりのガクウツギやフジの花が楽しみながら橋を何回かわたり、いくつかの滝を眺めながら渓谷沿いを進む。登山口から１時間ほどで百尋の滝に到達する。高さ、水量とも申し分のない奥多摩一と言われる名滝である。

滝を出発し、かなりの急登を少しずつ登り 2 時間ほどで川苔山山頂に着く。本来なら四周の山々が眺められるはずだが、あいにく霞んでこの日展望はなかった。登り口バス停同様大勢のハイカーで広い山頂がいっぱいである。ゆっくり昼食を満喫する。女性陣からのフルーツ等の差し入れはいつもながら美味しく頂く。

川苔山の下の東の肩では、しおやしおが話題になる。メンバーのご主人がこの地で美しい写真を収めていたそうである。「ないね、ないね」と諦めていたとき、「これじゃない！」花の数は少なかったが、大きな美しいしおやしおは印象的だった。

百尋ノ滝

＜川苔山～赤杭山～古里駅＞

下山は、かなりの長丁場である。日没が遅いこの時期ならではの計画である。木々の中、良く整備された下山道を周りの新緑を眺めながらの下山も良いものである。約 3 時間半かかってようやく古里駅につく。周辺のそばやでビールとそばで楽しかった山行を振り返り帰路についた。

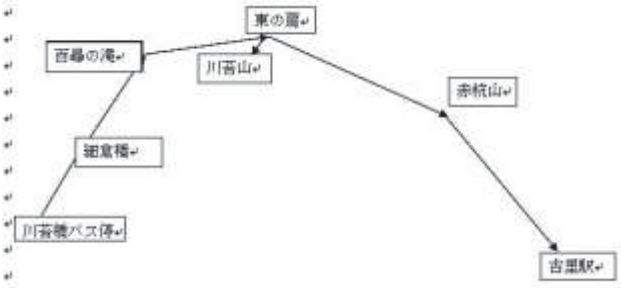
家で TV を見ていても 1 日、少し重い腰をあげれば楽しい自然に巡り会える。女性陣は 1 日中しゃっべていたが、私には小鳥のさえずりに聞こえた。

ウツギ

概　　要

山名	川苔山		
月日	平成２５年５月２６日(日)		
山域	奥多摩	地形図 1/25000	奥多摩湖・東日原・原市場・武蔵御岳
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B
目的	新緑を楽しむ		
費用	3000 円	交通機関	ＪＲ・バス
日程	我孫子駅 5:33→新松戸駅→西国分寺駅→立川駅→奥多摩駅 8:29/8:35 バス→川乗橋バス停 8:55⇒林道終点 9:40/9:50⇒百尋ノ滝 10:40/10:50⇒川苔山分岐 11:30/11:50⇒川苔山山頂 12:40/13:10 ⇒赤久奈山 14:40/14:55⇒古里駅 16:15/17:25→青梅駅→立川駅→西国分寺駅→新松戸駅→我孫子駅 〈歩行時間６時間　行動時間７時間２０分〉		
ﾙｰﾄ状況	・登山口には２，３台の車を止めることが出来る。 ・登山口にはトイレがある。 ・登山道は整備されていてわかりやすく、岩稜帯もしっかりしていて、危ない箇所はない。 ・下山道は行程が長く、所々痩せているが注意して歩けば問題はない。		
参加者	田村(L)、大畠(SL)、矢野貞、斉田、村越　郷田　矢沢 男２名　女５名　計７名		

概念図



＜８１６＞市民山行

荒船山
（1423m）

市民登山特集号より転載

つつじ　ズミ　新緑あふれる山

経塚山山頂にて
全員の晴れやかな顔が揃った

A班

鎖・ハシゴの先の素晴らしい展望

＜ＣＬ　村松敏彦＞

Ａ班は会員４名、一般市民６名、合計 10 名の構成で標高 1,050ｍの内山峠の登山口を 8 時 50 分に出発する。天気は一昨日までの天候とは打って変わって雲は多少あるが、雨の心配は全く必要ない絶好の登山日和だ。

周囲の樹々は長い冬から早春の季節に移り変わるかの様に、若葉の清楚な色に変わりつつあった。アップダウンを繰り返しながら整備された登山道をゆっくり進む。時折山ツツジの真っ赤な色が周囲の若葉色の中に映えて美しいコントラストを描いている。

1 時間ほどすると、大きなオーバーハングした岩壁の鋏岩修験道場跡に着く。祠と地蔵がひっそりと置かれ、当時を偲ばすのに充分な雰囲気を醸し出している。ここで一休み、皆さん元気溌剌、会話に、おしゃべりに賑やかだ。ここを過ぎると程なく飲めるけど飲めない（飲み口までいけない）一杯水に着く。水の流れを横目に見て無視して通過、そこからはハシゴ、鎖等続くがいずれも問題ない。笹が出てきた台地に着くと、もう艫岩の展望台は近い。

艫岩展望台からの景観は素晴らしい。山頂に雲が掛かった浅間山、神津牧場が箱庭のように

奇麗な緑のじゅうたんを敷き詰めた様に眼下に見える。下をのぞくとすっぱり切れた岩壁で足がすくみそうになる。ここで早いが昼食にする。ここからは平坦な道をゆっくりペースで経塚山に向かう。途中出合ったズミの巨木、偶然見つけたクリンソウの群落に歓声を上げて、すべりやすい頂上直下の急登を登り、最後の目的地経塚山に着いた。A班の人達は足並みも揃い、トラブルもなく、なごやかな一日を過ごす事が出来た。メンバーの皆様に感謝。

『荒船山市民登山』に参加して

＜馬越ヒサ子＞

今回で市民登山に３回参加させていただきました。いつも感じますことは完璧な準備と登山への心構えを徹底されていることに毎回驚いています。

私たち登山仲間は何十年も山登りは経験していますが基本的な知識はあまりなく体験するなかで各自が自己流で習得してきました。

市民登山に参加させていただく毎に登山中に会員の方にアドバイスをいただきます。

今回も下りを滑りながら下りていると『つま先に力を入れるんだよ』そうなんだとそれからは一度も滑ることなく下山できました。いろいろご指導いただき私にとっては学びの場として大変有難く思っています。

荒船山は３度目でしたが登山は同じ場所に何度行っても決して同じ風景ではなく常に新鮮に感じます。まして、メンバーが異なるとまた、新たな発見が多々あり有意義で楽しいものです。今回の荒船山登山の新緑の美しさ、山つつじ、ずみ等の花々、思いがけない自然のクリン草との出会い美味しい空気いずれをとってもすべて素晴らしくその場にいつまでも居続けたい気持ちにさせてくれ自然を満喫することが出来ました。

それだけでなく帰りのバスの中で坪田様の制作された“ブナ林の四季”のビデオは本当に感動しました。また、機会がありましたら是非見せていただきたく思いました。

毎回会員の皆様の温かく素晴らしいおもてなしと大変な準備等のご苦労に心から感謝の気持ちで一杯でございます。

楽しく充実した１日でした。

本当にお世話になりありがとうございました。

来年も楽しみ

＜川端美智子＞

岳人の皆様、お世話になりました。荒船山楽しい登山ができました。

一週間前から傘マークの天気予報が続き、前日まで気がかりでした。朝暗い曇り空。バスが上信越自動車道に入ると前から上州の山々が出迎えてくれるように見えました。

登る頃には気持ちのいい天候になりました。

山つつじ、新緑、そして九輪草がとても美しかったです。鳥のさえずりも！“山のレベル５とするとこの山は１だ”と聞きました。ハシゴ、クサリを使っているとき、雨でなくてよかったとつくづく思いながら登り、降りました。展望台で終わりと思ったらまだ先１時間かけて経塚山まで登り最高でした。岩端に近寄らないよう娘からも言われていたので遠くを眺めてました。

帰りのバスの窓から見る荒船山、他の山と形が違っています。でも、登るのは同じでした。

温泉に入り、食事まで用意していただきありがとうございました。また来年も楽しみにしています。よろしくお願いします

経塚山頂上

B班

地球のダイナミズム実感

＜Ｌ　箕輪完二＞

Ｂ班は総勢１１名で会員５名、市民６名（夫婦１組）だったので、それぞれ名簿順にマンツウマンでお互いを確認し合う体制を取った。最初の準備体操の後、やまたんに載せる感想文の書き手を募集したところ、例によりなかなか出てこない。決まらなければ最後はジャンケンをしましょう、と言いながら一人ひとり聞いていったところ、男性二人が書きますと名乗り出て

くれた。何より自主性を大切にしたかったので助かった。

北川 sL に先頭を歩いていただいた。市民を気遣ってゆっくりとしたペースで歩き、新人の門松さんをはじめ全員が市民をサポートしながら交流も深めていった。特に植物の話題には女性の関心が深く、留まることはない。植生の議論は現地でこそ話題に花が咲く。そこは大切にしたかった。それが市民登山山行の持ち味ともいえる。

天気も梅雨に入りながらも雨とはならず、展望はあまりきかない状況であったが、眩いほどの新緑とツツジの花の中を登山できたこと。クリンソウなどの珍しい花に出合えたこと。何より全員が無事に下山できたことが良かったと思う。山行後の交流会等で皆の意見を総合すると一様に楽しかった、良かったという感想が聞かれた。二人の感想文を読んでもそのことが伝わってくる。反面、会員の中には疲労感を漂わせる場面もあった。どこか無理をしていないか、総括したいものである。

私は概ね次のように考える。

１、市民参加の目安として、参加する会員数と同程度以下とする。

２、実行委員会の皆さんも楽しめるぐらいの余裕を持って取り組む。ところで、荒船の湯を出てバスに向う途中、女性会員に「この辺りはどのような山なのですか」と尋ねられた。その時の答えとしては概略「大昔の火山の内側です。阿蘇山のカルデラの中にいるようなものです」と答えたと思う。インターネット等で調べてみると、本宿という地域を中心に 950 万年～600 万年前に激しい火山活動があり、大陥没も起こり物語山、荒船山や妙義山はその外輪山的な山として奇岩・奇勝を生み出したとある。またある会員からは「荒船山では方位磁石が利かないのだ」とも聞いた。我々の絶対と思っている方位磁石も所によっては狂いが生じ、また時とともに変化しているのである。今、甲府盆地と下仁田地域が面白いといわれる。双方とも近くに中央構造線が走り、地球のダイナミズムを実感できる場所である。

市民登山感想

＜古屋　一＞

天気、コース、参加者ともに申し分のない三拍子揃った今回の荒船山市民登山、当方の数少ない経験のなかでも、こんなに楽しい山歩きは、未だかつて記憶にはありません。

なかでもＢ班は、ご夫婦でご参加の方や初参加の方もいらっしゃるなど、計算され尽くした絶妙な班編成でございました。メンバーは若輩者の当方も含め、互いに全く面識もない方々ではございましたが、運営スタッフの丁寧なリードとしっかりとしたサポートによりまして、山旅を終える頃には、お互いが「愛称」で呼び合えるまでに班全体が打ち解けておりました。因みに、当方も還暦ながら早速「お兄ーさん」と命名いただき、運営スタッフの「おかめパトラ」様や参加者の「転んびあローズ」様らのお姉様方々にも、道中、随分と可愛がっていただきました。このようなこともございまして、我孫子や柏の街中で「お兄ーさん」と、再び声を掛けられた時の恐怖に今から慄いております。

さて、この種のイベントは、天気やコースも然りではございますが、参加者の実年齢、体力や経験が未知数であること等から歩行ペースや時間配分に十分配慮しなければなりません。

そのうえ参加者のケガ、事故、道迷いや車内への昼食忘れ等のリスクにも予め対策を講じておかなければなりません。その点、運営スタッフの周到は十分でございました。

例えば、昼食後のデザートに始まり、フルーツ・おやつの配布、登攀路での補助ロープ設置や車中での過ごし方等にもきめ細かい配慮が伺われ、「岳人あびこ」の組織統制に「ブナ」のような力強さを感じました。これ以外にも参加者へのカメラ撮影など数多くの細かいお気遣に対しまして、本文をお借りして深謝いたします。

当方も地元我孫子のスポーツ親睦組織を預かる身にあり、日頃から組織の裾野拡大と構成員の高齢化や後継者育成に頭を痛めておりました折、梅雨の晴れ間に、清々しい「ヒント」をいただいた貴重な一日でもありました。

運営スタッフ皆々様、本当にありがとうございました。

丁寧な説明　有益な山行

＜塩沢俊雄＞

今回当山行には初めて参加させていただきました。私は現在 73 歳です。地元のウオーキングクラブで月に 2～3 日は 1 回 10～15 ㎞程度歩いております。登山も個人で年 3 回程度は比較的安全な低い山には登っています。山の好きな仲間と「個人単独では行き難い人気の山」へ行ってみようと考えておりました時に、我孫子

市広報で今回の山行を知りました。
　当初は自分の年齢、体力を考えると皆さんに迷惑をかけてしまうのではないかと不安で躊躇しておりました。その折、三浦雄一郎さんの80 歳でのエベレスト登山計画が報道されており、自分の背中を押された感じで参加申し込みを致しました。とはいえ、5 月 19 日の説明会までは不安でいっぱいでした。岳人あびこの役員方の懇切丁寧なご説明を聞き、闘志が湧いてきました。
山行の為に 1 日の歩行量も従来（1 日 1 万歩以上）の 5 割増しの生活パターンに変えました。バスの中で会長さんが「元気だから山へ行けるのではなく、山へ行く目標があるから元気なのだ」との三浦雄一郎さんのエピソード話をされましたが、この考えには心から承服しました。これからの自分の生き方の指針にしたいと思います。長くなってしまいますので以下箇条書きで感想を述べさせていただきます。一口に言って非常に有益な山行でありました。今後もこのような山行機会があれば是非参加したいと思っています。

良かった点

1. 荒船山というあまり俗化されていない場所の選定が良かった。
2. 事前説明会で装備から行程迄丁寧に説明していただき不安が払拭されました。
3. ５班に班分けされ、一緒に行動することで、メンバー同士親しみを感じ助け会い、班長、副班長さんのリードも適格協調出来た。
4. 費用も格安。個人山行の場合は今回の 2 倍以上はかかってしまうと思います。
5. 当班のメンバーは皆非常にあかるい人達で楽しく登山が出来ました。（他班も同じと思うが・・・）

今後お願いしたい点

自分は昼食後 5 分位歩いた時点で両足の膝上の筋肉がつり気味になった。
また何時出るか、不安のまま歩いていましたが、難なく下山できました。途中で班長さん、副班長さん、他の会員のご意見、アドバイスを聞きながら実行したことが効を奏したかと思います。（休息の後要注意、休息の取り方、筋肉休ませない、屈伸運動、温めてマッサージ等々）
事前説明会等で足つりの防止と措置、急斜面の下り方、急斜面登下山時の登はん間隔等の注意、鎖の使い方、他のアドバイスをいただければ、さらに良かったのではないかと感じました。（ベテランの方々には常識かも知れませんが・・・・・）　以上。

浅間山（雲の中）をバックに艶岩にて

C班

「あ～ら、お久しぶり！」

＜L　外崎蓮＞

　バス乗り場で一年に一度の懐かしい顔に出会い、お互いに体力が落ちてきていることをひとしきり慰めあう。こんなほっこりした交流も市民登山の醍醐味かも知れない。今年は募集に力を入れたお陰か、主催者側よりも市民の方の参加が多かった。本当に嬉しいことである。
荒船山は荒波に漂う船のように見えることからその名前がついたと言われるが、特異な山容はどこからでもそれと判る。登山口まで車が入り、気軽に登れる山だ。
C班のメンバーは 11 名。内山峠で簡単な体操と連絡事項と全員の名前を確認し合うと、一列になって出発する。滴るような緑と少しヒンヤリした空気が心地いい。まだ山ツツジも咲いている。登山道は歩きやすく、とても足に優しい。すぐ後の加藤さんの足取りに合わせてゆっくり歩く。
間もなく後方でハプニングが起こった。ご夫妻で参加された奥様の登山靴の踵がはがれているという。ご本人は気がつかなかったようだが、矢野さんが、すぐさま救急袋のテーピングテープを取り出して固定してあげた。見ればご主人の靴の踵もはがれているという。ご夫妻はどこまでも仲が良く、こちらも固定して事なきを得た。劣化を防ぐには、仕舞っておくより履いて歩くのがいいようだ。最高齢の加藤さんは、時々立ち止まっては汗で濡れたタオルを絞る。私は飲み方が足りないのか、ほとんど汗をかかなかったので驚いてしまった。水場の先から岩がちの登山道になるが、いい具合に階段状に足

がかりがあって難なく登ることが出来た。
船尾にあたるテラスのような艫岩からは、北西の山々が望めるという。方位盤には目もくれず、皆でお弁当を広げる。昼食の後は南に方向を変え、荒船山最高点の経塚山の下までルンルン歩きだ。おまけに、クリンソウの群落との出会いに感激する。山歩きはこれだから楽しい。ひと登りで船首・へさきにあたる経塚山へ。５班全員の晴れやかな顔が揃ったところで記念撮影を行う。下りもゆっくり歩行を心がけ、事故もなく無事に駐車場に戻ることが出来た。
　今回、リーダーという大役を引き受けて感じたことだが、私たちは、参加された市民の方々の力量や経験年数について、もう少し知っておく必要があるのではないか。リーダーとしてそのあたりの配慮が足りず、ご迷惑をお掛けしたことを深く反省している。

荒船山に登って

＜石川ツユ子＞

　梅雨入り最初の登山で雨を心配していたけど、その心配もなく良く晴れて、良かった…
朝出発の時、私の手違いで皆様の出発時間を少し遅らせてしまって、申し訳有りませんでした。
登山口に着いて、役員さんから色々注意する事など説明を聞いて９時頃登山開始。私は久しぶりの登山なので、ちょっぴり心配していましたが、リーダー、サブリーダーの指示で楽しく歩けました。最初はとても歩きやすい平らな道が続きましたが、そのうち急な登りなど鎖もあり、色々変化に富んでいて登りがいのある山だなあと思いました。私は荒船山は前に一度登ったことがあるのですが、前の時のことはあまりよく覚えてなくて、今回はしっかり景色を楽しみながら歩けました。新緑がすごくきれいで目にやさしく、オレンジの山ツツジと白いズミの花、その他めったに見られない「くりん草」の花がとてもきれいで、こんな山の中でしっかり咲いていて感動しました。
私は岳人あびこさんの会の登山に参加させていただいたのは、今回で３度目ですが、毎回感じることは、いつも役員さんたちがとても親切で行き届いていることです。本当にありがとうございました。

荒船山山行に参加して

＜加藤澄子＞

　天候に恵まれ、新緑真っ只中、ウグイス、ホトトギスの小鳥たちの鳴き声や、クワガタ草そして思いがけない九輪草の群生やズミの好香に歓迎されました。沢から流れる冷気に日頃の喧騒を忘れ、自然の懐の優しさに包まれる幸福、適度のアップダウンとスリル…。だから又、山へ出掛けたくなるのです。
会の皆様方の御苦労に感謝申し上げます。又、市民参加の方々も方法は異なっても、楽しく安全な山行を続けられ、多いに自然を満喫されることを願います。

経塚山山頂

D班

安全な登山への協力に感謝

＜Ｌ　郷田進＞

　山を愛する市民との交流を含め、当会の活動へのご理解を頂く狙いで、今年も市民登山が行われた。市民からの参加者 29 名、当会参加者 23 名　総勢 52 名という過去最大人数のパーティとなった。心配された天候にも恵まれ、狙い通り楽しく安全な登山を無事終了しほっとしているところである。
　D 班は、市民 5 名会員 5 名の編成、簡単な自己紹介と体操、留意すべき事項の確認の後、登山を開始、全員多少の登山経験ありのようなので安心、本市民登山のリピーターもあり、危険箇所も慎重に通過、周りの新緑の美しさや花々、心地よい風など自然を満喫しながら、順調に山行を進める。昼食時トラブル発生、お弁当をバスに忘れてきてしまった参加者に周りの班員がすぐに多数の暖かい各種の差し入れ、山を愛する者の優しさを感じる。後半も、各人の体調を気遣いながら、安全重視で歩をすすめる。
　下山後、入浴、懇親会等を楽しみ、我孫子に

向かう。道路渋滞等あり予定より少し遅れての我孫子・柏着であった。
　各班のリーダー及びサブリーダーそして参加者全員の協力を得て、本年度の市民登山を終了することができました。実行委員の一人として心から感謝申し上げます。そして、また来年もいっしょに山にいきましょう。

＜大久保清美＞

今回、我孫子市民登山に初めて参加いたしました。
満席のバスに揺られて２時間半、一度見たら忘れられない山姿をもつ荒船山に到着です。梯子や鎖場もある道、花咲く木々、艫岩からの眺め、極めつけは赤紫のクリンソウとの感動の出逢いでした。岳人あびこのスタッフの方々の気さくな心使いに一人参加の私も安心して歩き通す事ができました。ありがとうございました。

荒船山・我孫子市民登山に参加して

＜岡沢春明＞

　この度の荒船山では、大変お世話になりました。開催日前の週間天気予報からは、当日までも悩ましい思いをしましたが、善意ある゛岳人あびこ゛や゛一般参加者゛の方々の日頃のご精進のお陰で、天気の心配も晴れて楽しい山歩きができました。本当に有難うございました。
荒船山の山野草に関して感じたことですが、この時期としては以外に種類が少なく、マバラで、花が小さいと思いました。舞鶴草は小さくて可憐なこと、延齢草の葉ッパは小さくて謙虚なことと思いましたが、これも良いものでした。
山頂付近で九輪草の群落が見られたのはハッピーでした。酢実の純白の花がとても良かったですが、笹の広がりからも奥日光等と同じ様な問題になっているのではないかと思いました。
私は定年退職してから山歩きを始めたので、やっと3000mクラスの山の楽しさを知ることができました。後８年は、゛行ける内に行こう゛と思っていますが、近頃、膝や股関節に疲労を感じる様になりました。痛みではないのが勿怪の幸いなので、朝・夕のストレッチング体操を心掛けて頑張っています。
来年も、また、皆様と山でお会いしましょう。

艫岩展望台にて

E班

落葉広葉樹にツツジの彩り

＜Ｌ　武内勇二＞

・曇り空ながらも時々薄日が射す、暑くもなく寒くもない絶好の登山日和となった。
・内山峠から荒船山への登山道は長野県（佐久市）と群馬県（下仁田町）の県境に沿っている。登山口から艫岩のテッペンまでの標高差は約２００m、歩きやすい道ではあるが、岩がむき出しになっている箇所があり、濡れていると滑りやすい。艫岩まで登れば、頂上（行塚山）へ向かって平坦な道が楽しめる。
・Ｅ班は全体で５班５２名の大パーティの最後尾を行くこととなった。Ｅ班は、市民参加者６名、会員５名、計１１名の編成、トップを経験豊富な高橋芳さん（SL）にお願いし、ゆっくりと焦らずに歩こうと、トップと打合せたのち出発。
・落葉広葉樹の中の道は、明るく清々しい。ツツジが赤の彩りを添える。発声練習に暇のないやや訛った鶯の鳴き声が、静寂の中に響く。途中、花が咲くと枯れると言われる熊笹の花を見かけた。世代交代の時期を迎えたのであろうか。
・先頭を行くＡ班のリーダーが、特に滑りやすそうな箇所にシュリンゲをかけておいてくれたので心強かった。シュリンゲ回収が、最後尾のＥ班の仕事。
・艫岩で昼食の後、行塚山に向かう。上り下りの無い爽やかな道は荒船山登山のハイライト。赤い花をつけたクリンソウの群落も楽しめた。
・見知らぬ男性から矢野裕さんに声をかけられビックリ。市民登山募集のポスターに利用したクリンソウの写真のインターネット管理者だった。送られたポスターで我々の山行を知り、声をかけたようだ。地元の方のようで、立派なカメラを持っていたので、写真を撮りに登ってきたと思われる。

・行塚山で全員の写真を撮ったのち下山開始。
　艫岩からの下りで滑り易い箇所も慎重に通過、ヒヤリハットもなく無事内山峠に下山した。市民参加者の頑張りに感謝。

荒船山登山に初参加して

＜角田幹夫＞

今回登山に参加した動機は、今年４月古希を迎えたこと、又８０歳で三浦雄一郎さんがエベレストの最高年齢登頂に成功等大いに刺激された事でした。

毎日ウオーキング１０，０００歩～１２，０００歩歩いているので単純に歩行には、自信をもっていたのですが山歩きは、全然違う事がわかりました。図書館で中高年登山トラブル防止を読んでいたので、フラット・フイット歩行で斜面、岩場、濡れた道を歩きスリップしなくて無事下山できました。登山前は、足でも折って皆様に迷惑かけたらどうしようとそればかり考えておりました。

下山後温泉にて体重測定したところ、１．５ｋｇ減少しておりました。登山は非常にエネルギーを消費するものだと思いました。

これから自分の体力を考慮し、又会員に迷惑をかけぬよう山行に参加したいと思います。
指導して下さった皆様、本当にありがとうございました。

荒船山山行

＜高田美智子＞

私の我孫子市民登山参加も今年で四回目となりました。
参加申し込みをしてからは、体力不足を補うために暇さえあれば体力作り（といっても近くを散歩したり自己流の体操をしたり）に励みました。その甲斐あってか今回の山行はあまり疲れず最後まで頑張る事が出来ました。

登り初めからさわやかな初夏の風に当たり、鶯の鳴き声に励まされながら進みました。しばらく行くと「さすが岩山」と思われる険しい岩場を皆と怖い怖いと言いながら登り続けました。鎖場や梯子もあり、そして平坦な道もありと変化にとんだ楽しい山だなと思いながら歩みを進めていくと、突然目の前の熊笹の中に九輪草の素晴らしい花畑が広がりました。その美しさに皆さんは写真撮影に夢中でした。その後しばらく進んで行くと行塚山が「そうは行かぬぞ」とばかりに最後の厳しい登りを与えてくれました。その甲斐あってか、頂上に着いた時の皆さんの顔からは素晴らしい笑顔が溢れていました。

全員で記念写真を撮り一息入れてさあ下山。帰りも同じコースを戻りましたが、やはり岩場の所はとても怖かったのですが、さわやかな風と小鳥の囀り、季節の花々に癒され、励まされながら誰一人怪我もなく無事に下山する事が出来ました。これも皆さんの心を一つにして励まし合いながらの山行だったと思っております。　最後に、岳人あびこの会員の皆様の早くからの計画・準備・連絡などお世話をお掛けしました。本当に有難う御座いました。

経塚山にて　↑

ヤマツツジ

急だから、ゆっくりね　↓

「岳人あびこ」主催の市民登山について

山行部長　村松敏彦

市民と共に山登りする、「市民登山」も 19 回目を迎える事になりました。自然の美しさ、癒される高山植物、四季の織りなすうつろい等多くの市民の人達に自然との対話が出来る機会を体験して頂きたく創立以来、地元に根付いた山の会であるべくこの行事を毎年開催してきました。この計画を安全に終わらすためには、多くの会員の協力と実行委員の努力なくして成し遂げられません。　自然をフィールドにする山登りには多くのトラブルが潜在しています。滑落、転倒、ケガ、病気、その他、どれが発生しても致命的になります。

山には救急車は来ません。又、病院もはるか遠くです。そのために不特定多数の人達をどの様にして安全に、この行事を終える事が出来るかが最大の課題となります。

この計画を実行するために今年の２月、山の選定に掛かりました。３月の総会の時点で実行委員６名が決まり、行先の山も西上州の「荒船山」に決定して具体的に動き出しました。まずＰＲ活動として我孫子市、柏市の広報に又、ミニコミ誌等に原稿と共に掲載をお願い提出すると同時に、過去何回か参加された方々に優先的に葉書等でお知らせしました。又、ポスター張りにも協力をお願いしました。今回は予想以上に多くの参加希望があり、参加説明会の連絡のお知らせ、会場設定、資料の作成、等多くの作業が必要でした。又、山行及びアプローチが安全にスムースに行くためにも下見が必要条件でした。危険個所の確認、懇親会の「荒船の湯」との打合せ、５名の実行委員の参加で綿密なチェックが行われました。又、雨天時のための見学場所、懇親会の会場の設定、打合わせ等検討事項は多くありました。市民参加者説明会が終わると参加者の班編成、バス会社の手配及び打合せ、座席表の作成（班毎、公平化を念頭に）、名札の作成、行き帰りのバス内でのビデオ及び歌集の手配、その他、雑用が次から次へと出てきました。それらを実行委員及び会員の献身的な協力のもとに解決してきました。当日には、今回初めて北柏駅北口の乗車個所を作ったため思わぬハプニングもありましたがトラブルのなく終える事が出来ました。

その結果、天気も味方して、２日前迄の予報が変わり、素晴らしい天気になり、芽吹いたばかりの若葉が山ツツジとのコントラストを描き、美しい自然美を見せてくれました。帰りのバスの中で「今日は楽しかったね」という会話が出来るような行事で終わらせようと云う目的は充分達成されたと考えます。

ツアー会社でもなく、旅行社でもない、趣味で集まった山の会が１９回も続けていくためにはそれなりの努力と献身的な奉仕の精神と多くの人達の協力が無くては実現しませんでした。この行事を今後も続けていくためには、参加される市民の方たちも単なる同行者でなくパーティーを組むメンバーの一人であると云う自覚もって積極的に行動して頂きたいと切に願うものです。傍観者であってはこの素晴らしい行事は実現しません。

平成２５年度市民登山実行委員

村松敏彦　高橋英雄　原田和昭
箕輪カオル　新谷直恵　郷田進

概念図

荒船山

＜８１７＞

瑞牆山～金峰山
（2230m）（2599m）

村越　百々代

石楠花のトンネルと岩稜を歩く

概　　要

月日	荒船山		
月日	平成 25 年 6 月 2 日（日）		
山域	西上州（群馬、長野県境）	地形図 1/25000	信濃田口、荒船山、西上州（昭文社）
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	一般市民と新緑の山に登り、親睦を深める		
費用	6.000 円(交通費、入浴、保険費込)	交通機関	貸切バス
日程	我孫子駅北口集合 5:30→大型バス発 5:38→北柏駅北口広場 5:44/5:55→柏ＩＣ経由→上里ＳＡ7:20/7:40→下仁田ＩＣ7:56→内山峠着 8:35/8:50Ａ班から出発⇒鋏岩修験道場跡⇒9:50⇒一杯水 10:15⇒艫岩展望台着 10:45/11:15⇒分岐 11:50⇒経塚山 1,422.5m12:05/12:20⇒艫岩展望台 13:00⇒鋏岩修験道場跡 13:45/13:50⇒内山峠着 14:30/15:00→荒船の湯着 15:20→荒船の湯発 17:05→下仁田ＩＣ経由北関東自動車道出流原ＰＡ18:25/18:40→真岡ＩＣ19:10→国道 294 号経由→我孫子駅北口着 20:55（解散）		
参加者	【Ａ班】村松(CL)、桐生(SL)、品田、原田、（一般）川端、吉田、馬越、佐藤、加藤寿、加藤富 【Ｂ班】箕輪完(L)、北川(SL)、瀬田、中村育、門松、（一般）牧野直、牧野国、古屋、増沢、高橋富、塩沢 【Ｃ班】外崎(L)、矢野貞(SL)、箕輪カ、新谷、矢澤、（一般）関根、加藤淳、石川、加藤文、湯原清、湯原八 【Ｄ班】郷田(L)、斎田(SL)、飯沼、中村隆、（一般）岡沢、綿引、大久保、桝谷、横山 【Ｅ班】武内(L)、高橋芳(SL)、本田、矢野裕、宮野、（一般）岡地、高田、林、角田、遠藤、小板橋 市民参加者　29 名、会員　23 名　合計 52 名　（男 19 名、女 33 名）		

アズマシャクナゲ

キバナシャクナゲ

瑞牆山荘前でジャンボタクシーを降りたら、春ゼミの声に迎えられた。地図のレクチャーを受けた後、歩き始めて５分ほどすると大きな岩があちこちに見えてきた。「これが黒雲母花崗岩だ」と思いながら富士見小屋をめざす。途中の林道の見晴ポイントからあのゴツゴツ、ニョキニョキとした瑞牆山の姿が見え、感動する。思わずシャッターを切った。

1 時間ほどで富士見小屋に到着、荷物を降ろし、身支度をした後山頂をめざし出発する。ちょうどアズマシャクナゲの見ごろの時期で、シャクナゲのトンネルの中を歩く。色が一本一本微妙に違って綺麗、ウットリするほどだった。1:40 山頂に着く。頂上での眺望はよくなかった。ヒョウが降り、雷も鳴って雨も降り始める。山頂での雷は初めての経験だったので、ちょっと怖く感じた。ゆっくりと山頂での眺めを楽しむこともできずに下山を始めた。これはとっても残念。時々雷鳴を聞きながら歩く。雨にぬれるシャクナゲを見ながら行きと同じ道なのに、見る角度によって花々が違って見えるのがまた素敵だった。

黒雲母花崗岩の岩肌はざらざらしていて、とても滑りやすかった。下山途中に滑ってストンと落ちるというヒヤリハットも経験する。富士見小屋に 3:45 着。

夕食前に『瑞牆山のなりたち』についての講義をする。一生懸命準備したプリントを忘れてしまい、箕輪さんが持ってきてくれた事前に送っておいた概要のプリントと口頭での説明になってしまった。申し訳ない…

翌日は金峰山。瑞牆山と同じ黒雲母花崗岩。ざらざらと滑りやすい岩肌も同じ。3 点確保、みんなで声を掛け合いながら登って行った。山頂ではガスのために周りが見えず、楽しみにしていた山座同定が出来なかった。もう少しここにいればガスが晴れるかも…とも思ったが下山開始になる。しばらくして天気が良くなり金峰山の姿も見ることができた。

帰りに「益富の湯」（世界でも有数のラジウム鉱泉）で汗を流した。

二日間の山行、お天気には恵まれなかったが咲く花には恵まれた。

見つけた花…ウワミズザクラ、マメザクラ、アズマシャクナゲ、オーレン、イワカガミ、キバナシャクナゲ等々

今回の山行は、事前に瑞牆山のなりたちについて調べていたので、これまでのどの山行よりも楽しみだったし、一つ一つの岩を見る自分の思いが違っていた。課題を与えてくれた箕輪さんに感謝したい。ありがとうございました。

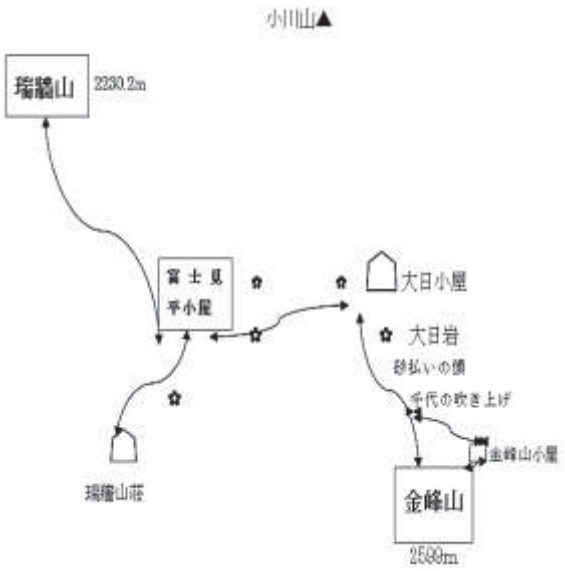
シャクナゲトンネルをくぐって
金峰山山頂（2,599M）

瑞牆山に向けてシャクナゲのトンネルを登る

概　要

山名	瑞牆山～金峰山		
月日	平成 25 年 6 月 7 日(金)～8 日(土)		
山域	奥秩父	地形図	1/25000 瑞牆山 金峰山
形式	小屋伯	グレード	2B、3B
目的	山の成り立ち、巨岩奇岩とアズマシャクナゲを楽しむ		
費用	約 20,000,円	交通機関	JR.バス,ﾀｸｼｰ
日程 1日目	我孫子駅 5:31→新宿（あずさ 1 号）7:00→韮崎 8:37/50→（バス、タクシー）瑞牆山荘 9:35・10:05/10:20⇒富士見平小屋 11:15/50⇒沢 12:15⇒瑞牆山 13:40/50⇒沢 15:15⇒富士見平小屋 15:45　（泊）		
日程 2日目	富士見平小屋 5:50⇒鷹見岩 6:30⇒大日小屋 6:45/50 ⇒ 大 日 岩　7:25/30 ⇒ 砂 払 の 頭 8:30/40⇒千代の吹上げ 9:00⇒五丈岩 9:40 ⇒ 金 峰 山 山 頂　9:45/10:10 ⇒ 金 峰 小 屋 10:35/40⇒千代の吹上げ 11:00⇒　砂払いの頭 11:30/35⇒大日岩 12:20⇒大日小屋 12:45/50⇒　富士見平小屋 13:20/35⇒瑞牆山荘 14:00/25→ 増富の湯（入浴・反省会）14:47/17:15 → 韮 崎 （ あ ず さ　30　号 ）17:50/18:23→新宿 20:07→我孫子 21:05		
ﾙｰﾄ状況	・両山とも花崗岩の岩山でロープ、はしごが設置されており、慎重に行動した。 ・瑞牆山、金峰山のアズマシャクナゲが見ごろであり、シャクナゲトンネルの下を歩くのは心地よかった。 ・金峰山、稜線は岩稜を多くの登山客が行き交い、通過に留意した。		
参加者	高橋芳(CL)　大畠(L)　田村(L)　品田 箕輪完　矢野貞　村越　郷田　矢澤　藤倉 男性 3 名　女性 7 名　合計 10 名		

概念図



教育研修会「村越ﾚﾎﾟｰﾄ」より抜粋
「瑞垣山の成り立ち」

村越　百々代

深田久弥は、この山を「針葉樹の大森林からまるでにょきにょきと岩が生えているような」と表現した。鋸岩、大ヤスリ岩など、岩々に名前がつけられている。

山名の由来は、山稜を三分割する「みつなぎ」が変化したという説や、崖を意味する「がき」に由来する。また『甲斐国史』では、玉塁と呼ばれる金峰山に対し、瑞塁を呼び習わしたとする説が紹介されている。古くからの信仰の山で、洞窟には修験者の修行跡や刻字が残り、山頂の西峰には弘法岩があり、空海開山伝説も伝わる。

小仏層とは…（高尾山の説明から抜粋）高尾山をはじめとする周辺の奥秩父の山々は、１億年ほど昔は海底であったと考えられています。そしてこの海底に、およそ７０００年前～１億年前（地質時代で言う中世代）の間を通して、少しずつ地層が堆積していきました。この海底の層は、その後の何度となく発生した大規模な地殻変動によって海底の地盤が盛り上がり、海上に姿を現し、そして高尾山をはじめとする周辺の山々に形成されていきました。

高尾山と周辺の山々を形成しているこの一帯の地層を、その地層が特に露出している代表的な場所である「小仏峠」から名をとり「**小仏層**」と呼んでいます。この「小仏層」という名は、実は高尾山のある関東を中心に使われています。一般的には、同時期、同様の地層の現象が見られる四国一帯の名をとり「**四万十層群**」と呼ばれることが多いです。（略）

さて、この小仏層も、四国に分布する「四万十層」についても、およそ１億年前に海底に堆積した「海成層」と考えられています。この時代はというと「中生代白亜紀」1 億 4300 万年前～6600 万年前で、まさに恐竜が闊歩していた時代です。瑞牆山は、昇仙峡神聖岩体　第三紀黒雲母花崗岩とされている。（約 2,300 万年前から約 500 万年前で、ちょうど日本海ができて日本列島が中国大陸から離れた頃と同じ地質時代）＊奥秩父西端の金峰（きんぷ）山や瑞牆（みずがき）山から昇仙峡にかけて，第三紀の花崗岩が分布している。列車の窓からも，金峰山頂上に露出する五丈岩が見える。瑞牆山は花崗岩の割れ目が風化し，残った花崗岩が岩峰群を造って，特異な風景を造っている。

（抜粋は編集係）

＜８１８＞

甘利山～千頭星山

（1731m）（2139m）

瀬田　映子

シダとレンゲツツジの色彩の妙

前夜から降り続いた雨が心配で、参加者の顔も今一優れないで出発した。Ｂｕｔ、甘利山グリーンロッジ駐車場に着いた頃には雨も上がり、みんなの顔に笑みが出てきた。

甘利山グリーンロッジ駐車場でトイレ・身支・体操をすませた後 10:00 に出発。

レストラン「つつじ苑」横から甘利山の登山道に入った。５分程登ると左側に道があり東屋がみえたが帰りに寄る事にして進んだ。良く整備された登山道に咲く山野草にはすべて名前が書かれていた。誰かが「おおやまさんだ！」と言った。可愛い白い花には「オオヤマフスマ」と書かれていた。この他にも地面を這うように咲くキジムシロ・黄色い花のウマノアシガタ・スズラン・マイズルソウ・・・・・・甘利山頂上付近の木道はオレンジ色に染まった満開のレンゲツツジが咲く大群落。グリーンのシダの葉とオレンジのレンゲツツジの色調がなんとも言えない！！その木道の中をのんびりと歩くころには日差しもさして暑くなってきた。遊歩道のような登山道を３０分足らず歩くと甘利山の山頂に着いた。甘利山の頂上は 360 度の展望が素晴らしい場所で、そこからは富士山や甲府盆地、千頭星山、その他の山々が一望出来た。

甘利山からいったん下り、上り返す行程途中前方に大木の見事な満開のレンゲツツジが・・・・奥甘利山だ。笹藪をかき分け山頂に向かう。僅か２分で登頂！！ここから下を振り返るとオレンジ色に染め上げられた甘利山の山頂が見えた。

奥甘利山を後に先へ進む。静かな山道を少し下りさらに進むとここから急登となった。登山道らしい道が続く。道の脇のカラマツの幹には鹿よけなのだろうか合成樹脂製のカバーが巻かれていました。急坂を登るとＴ字路になった大西峰の肩に着いた。大西峰はピークを踏まずに、左にゆるやかに巻いて通りすぎた。先へ進むと視界がけた。広大な笹原です。前方に千頭星山

が望める素敵なところだ。リーダーの「少し遅くなりますが千頭星山に登った後、ここで昼食にしましょう」の声に元気倍増・・・前方の千頭星山に向かいます。しばらく緩やかな道が続き林に入ったがすぐまた笹原に出ました。この笹原を超え、斜面を少し登ったところに千頭星の山頂がありました。2139m と比較的高い山ですが周りは木立に囲まれ眺望はありませんでした。甘利山の賑わいとは対照的に静かな山頂です。集合写真を撮りすぐに笹原まで戻りました。広大な笹原に大きな円陣を作り、みんなの差し入れを頂きながら楽しい昼食をとりました。３０分程休憩し、もときた道を下山します。下りはオレンジ色に染めた奥甘利山・甘利山のレンゲツツヅをゆっくり堪能しながらの下山です。帰りに寄る事にしていた東屋が見えてきました。東屋からは甲府盆地とその向こうの富士山が絶景撮影のポイントのようです。甘利山グリーンロッジの管理人さんに聞いたところ、夕方ロッジに到着し宿泊して、この東屋で富士山からの日の出を撮りにくるカメラマンが沢山いるそうです。

梅雨時期にありながら晴天で、レンゲツツジ満開の絶好タイミングの今回の山行を計画してくれたリーダーの中村さんに感謝！！感謝！！　本当に　有難うございました。

まずは甘利山制覇

概念図

概　　要

山名	甘利山～千頭星山		
月日	平成 25　年　6 月　16 日		
山域	中央線沿線	地形図	1/2500 鳳凰山韮崎
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	レンゲツツジの咲く季節、花と富士山を楽しむ		
費用	5300 円	交通機関	貸し切りバス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場前 5:35→柏 IC→八潮 PA→談合坂 SA→韮崎 IC→甘利山グリーンロッジ 9:35/10:00⇒甘利山 10:30/10:35⇒奥甘利山 11:10/11:20⇒大西峯⇒千頭星山 12:40/12:50⇒昼食 12:55/13:25⇒奥甘利山 14:15/14:20⇒甘利山 14:50/15:00⇒東家 15:05/15:10⇒グリーンロッジ 15:30/15:45→韮崎 IC→談合坂 SA→加平 PA→柏 IC→我孫子駅 20:45 曇りのち晴れ　＜歩行時間 4 時間 05 分＞		
ﾙｰﾄ状況	・登山口から甘利山までは観光地化されていて、道はよく整備されている。 ・奥甘利山～千頭星山の道は歩きやすく、要所要所に標識があって、道迷いの心配はない。		
参加者	A 班　中村育(L)、大畠(SL)、本田、新谷、斎田、矢野貞、村越、大山 B 班　郷田(L)、外崎(SL)、田村、矢野裕、桐生、瀬田、矢澤 男 3 名　女 12 名　計 15 名		

眼下は甲府盆地

＜８１９＞

戦場ヶ原・太郎山
(2368m)

矢野　貞子

開けた岩場　太郎山

太郎山山頂にて

梅雨の合間の山行で天気が心配だった。日光の駅からバスにのるのだが、かなりの行楽客が行列。臨時バスが出された。ガイド好きのバスの運転手によれば中禅寺湖より上は梅雨がないとのこと。でも窓の外は雨が降っていた。高徳温泉日光アストリアルホテル前でバスを降りて少し遠回りしたが、光徳牧場の奥のテント場に９時半に着いた。まだ営業前なので管理人が居ないためどこでも自由に張れる、炊事場とトイレに近い所にテントを張った。
テントを張ったあと１０時のバスに乗り赤沼まで戻り、そこから戦場ヶ原の散策に向かった。雨が降って来てしまい、蓮華つつじやワタスゲをゆっくり鑑賞することもなく走るように木道を歩き続け、１時間余りで湯滝に到着。茶店の軒で雨をよけながら軽食を取った。

雨が止む様子もないので、三本杉まで行き、買い物をしてテントに戻ることとした。日光乗り放題の乗車券（フリーパス 4400）を購入したため、バスは乗り放題だ。

屋根のある炊事場を宴会場に整えカレーの夕食を食べ、明日の天気を心配しつつ早めに就寝。真夜中にトイレに起きたら月が出ていて懐電が必要なかった。新谷さんは余りに美しい月だったのでしばらくお月見をしていたと話していた。

４時起床。ガイドブックの歩行時間は１０時間。日光行のバスの最終が１５時５０分なので最低でも２時半にテントに戻らなければならない。戻る時間がない場合は途中で引き返すとのリーダーのことばを胸に５時１５分出発。広い道を１時間程で山王峠に到着。いったん林道に出て、山王帽子山に取り付く穏やかな登りだが、なかなか頂上に着かない。１時間程の登り。登った分くらいをくだり太郎に取り付く。しばらく登ると旧道との分岐に着いた。昔はここが太郎への登山道だったが今は崩落していて廃道になっている。石楠花が咲いていた。ここから小太郎まで急登がつづいていた。皆は黙々と歩いた。足元にはイワカガミが咲いていた。開けた岩場の頂が小太郎だ。ここからは男体山が目の前に聳えたっている。太郎山へ続くやせた尾根が見える。やせた尾根も巻き道があり登山道は見た目ほどではない。ごつごつした岩の頂上直下の登りがきつい。しかし黄色い花が登山道の回りいっぱい咲いていて苦しい登りを慰めてくれる。岩場をこえ小ピークを２つ越えたところが太郎山の頂上だ。太郎山からの展望は素晴らしく、男体山、女体山、皇海山などのやまなみが 360 度みることができた。バスの時間が気になり早々に帰路に着く。２時前にはテント場に到着しテントを撤収し、高徳牧場でアイスクリームを買いみんなで食べながらバス停まで歩いた。バスを待っている間ホテルの裏に九輪草が咲いているというので見に行った。

結構登りがいのある山で、機会に恵まれなければ行くことも出来ないのかなと思った。
テント泊も楽しかった。

キバナノコマノツメ

概　要

山　名	戦場ヶ原・太郎山		
月　日	平成２５年６月２２日(土)～２３日(日)		
山　域	日光	地形図	1/25000 男体山
形　式	テント 泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目　的	①日光の山々の展望　②湿原散策　③テント生活を楽しむ		

費　用		約７，５００円	交通機関	東武電車、バス
日程	１日目	我孫子駅 5:31→北千住駅 5:55/6:31→東武日光駅 8:25/8:35（バス）→中禅寺温泉バスターミナル 9:15/9:25→光徳温泉日光アストリアホテル 9:50/10:00⇒光徳キャンプ場 10:15/10:45（テント設営）⇒日光アストリアホテル 10:50/11:20（バス）→赤沼 11:30⇒戦場ヶ原⇒湯滝 12:55/13:10⇒湯滝入口バス停 13:20/13:35（バス）→三本松バス停 13:45/14:08（バス）→日光アストリアホテル⇒キャンプ場 14:30 ＜歩行時間:１時間 30 分＞		
	２日目	キャンプ場 5:15⇒山王峠 6:15/6:20⇒山王帽子山 7:20/7:30⇒分岐 8:10/8:15⇒小太郎山 9:10/9:20⇒太郎山 9:45/10:00⇒小太郎山 10:25/10:35⇒分岐 11:00/11:10⇒山王帽子山 11:50/12:00 ⇒ 山王峠 12:40/12:55⇒キャンプ場 13:40/14:30（テント撤収・あと片付け）⇒日光アストリアホテル 14:55（バス）→東武日光駅 16:05/17:39→北千住駅 19:55/20:01→我孫子駅 20:28 着 ＜歩行時間:約８時間＞		
ルート状況		・登山道はよく整備されており、光徳から小太郎山までは危険箇所なし。 ・小太郎山～太郎山間に一部痩せ尾根がある。最大難所の剣ヶ峰の岩場は巻き道を通れば特に危険はない。 ・光徳テント場はオープン前。事前に管理人に連絡して、使わせていただいた。水、トイレ使用可能。ただし電気なし		
参加者		武内(L)，箕輪完(SL)、外崎、矢澤、村松、郷田、矢野貞、齋田、新谷 男５名､女４名　計９名		

概念図

＜８２０＞

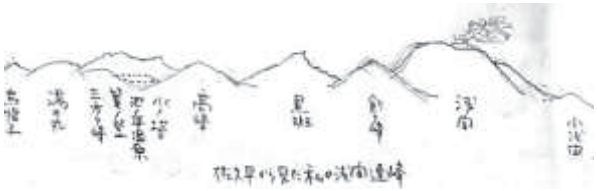
高峰山～籠ノ登山～三方ヶ峰

（2091m）（2227m）　　（2040m）

箕輪　完二

故郷の山なみ　名前分かってうれしい

池ノ平湿原



佐久平から見た浅間連峰（スケッチ　箕輪完二氏）

運営委員会で、夏場に向かい、山行計画が少ないという意見を出したら、それを山行部長が汲み上げてくれ、実現した山である。突然の計画で人数が集まるか心配であったが、多方面からの声掛けで 14 名が集まり、しかもマイクロバスでの山行が実現した。

関東平野は梅雨明けであったが碓氷峠をぬけて長野に入ると、浅間の峰は厚い雲に包まれていた。高峰高原の登山口では小雨となり、水ノ塔・籠ノ登では風雨が強い場面もあった。池ノ平湿原まで下りるとそれも治まり、高峰温泉に入るころには晴間さえ出て佐久平も見えてきた。

浅間高原は花の百名山としても紹介されており、高峰～池ノ平湿原では多くの高山植物がみられた。仲間の皆さんからは、シャクナゲ、コケモモ、ツガザクラ、イワカガミ、ゴゼンタチバナ、サラサドウダン等の名が何度となく聞こえてきた。特に池ノ平の先端にある三方が峰ではコマクサの群落を見ることができ感激した。

実は私の故郷は長野県の佐久平である。子供のころから浅間山と蓼科山・八ヶ岳を見て育った。佐久平から見た浅間山連峰をスケッチするとおよそ上図のようであるが、浅間山に連なる山の名は覚えることはなかった。高峰山に登った記録はあるがどの山かを知ることもなかった。「岳人あびこ」に入会し、籠ノ登、水ノ塔、池の平湿原、黒斑、高峰など何度かくり返し登ったのだが、浅間連峰がどのように連なっているのか概要は描けるがよく解らなかった。特に４つ目の高峰から続く山なみの名が解らなかった。今回その辺がほぼ解ってきたことが嬉しい。写真と地図その他を重ね合わせて細かく描いてみた。

２つ目の発見は池の平湿原が古い火山の噴火口だったということである。籠ノ登山に火山岩が転がっていても、また小諸懐古園に何度となく行っており浅間山の火山灰から出来ていると言われても、浅間の噴煙は常に東の群馬方面になびいており、浅間の噴火がどうしてここまで来るのか疑問のままだった。その訳が少しわかったような気がする。小諸懐古園は高峰山の西の麓にあり、池ノ平から南側の火口壁が噴火で崩れ落ちたと考えると少し納得できた。

実際に湿原を歩いてみて、風雨の中でも苦労して登ってみて初めて解ることがある。そんな実感を強く持った山行でした。リーダーはじめ共に参加していただいた皆さんに感謝いたします。

篭ノ登山山頂は強風！

概　要

山名	高峰山～篭ノ登山～三方ヶ峰		
月日	平成 25 年 7 月 7 日（日）		
山域	浅間連峰	地形図 1/25000	嬬恋田代、車坂峠
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	大展望の三山と花の楽園		

費用	7,000 円	交通機関	マイクロバス（貸切）
日程	我孫子駅北口ふれあい広場発 5:45→上里ＳＡ 7:25 → 高峰高原ビジターセンター 8:50/9:10 ⇒ 高峰山　10:10 ⇒ 高峰温泉 11:00/11:15⇒水ノ塔山/12:30⇒篭ノ登山 13:25⇒兎平 14:05⇒三方ヶ峰 14:40⇒兎平 ⇒高峰温泉入浴　15:30/16:05⇒我孫子着 20:50		
ﾙｰﾄ状況	・高峰山へのルートは高峰高原ホテルの直ぐ脇が登山口です。登山道及び道標は良く整備されて歩きやすい。 ・うぐいす展望台から水の塔へのルートは大きな岩の急登で、加えて雨で濡れていたため非常に歩きずらい。時間に余裕を持って行動すべき。 ・このルートには水場はない。夏場での行動には水の補給を忘れずに。 ・水の塔から篭ノ登に至るルートに何ヶ所かザレているところがあるが慎重に行けば問題ない。		
参加者	村松（L）、外崎（SL）、高橋英、武内、飯沼、箕輪カ、箕輪完、本田、矢野裕、郷田、大山、矢澤、坂巻、宮野 男９名、女５名、合計 14 名		

シャクナゲ

コケモモ

ハクサンチドリ

ミネウスユキソウ

＜８２１＞

猫魔ヶ岳・磐梯山

（1404m）　（1817m）

飯合　しげ子

吾妻・飯豊連峰　大小の湖沼一望

休暇村磐梯高原キャンプ場

もしもし、磐梯山に行きたいんですけどまだ間に合いますか？行きたいの？大丈夫よ・・・とこんな調子で今回も山行に参加させていただきました。なんせ、一年ぶりの一泊二日テント泊。やたらと背中のリュックが重い。歩く姿は亀でした。

一日目　猫魔岳

郡山駅でレンタカー2 台を借り、猫魔ヶ岳をGo!Go!なんか久しぶりなのでドライブ気分。雄子沢登山口から美しいブナ林。沢の音。ひんやりとした空気を体に感じながら緩やかに登ってゆく。登山者とは会うこともなく一時間ぐらいで大きな木造建築の雄国沼休憩舎に着く。この付近はレンゲツツジ、沼周辺の湿原にはニッコウキスゲが多く、開花期はみごとというが、すでに咲き終わっていた。沼の土手を歩いているとたくさんのトンボがお出迎え。樹林帯の中に入ると、道はぬかるみ多し、沢多しで靴は泥んこ。そんなこんなで猫石に着く。化け猫伝説が残る巨大な石に腰掛ける。眺めがよく、雄国沼、沢山の沼、湖が見られる。ここから２０分ぐらい登ると、猫魔ヶ岳山頂。こちらも展望は素晴らしく、東に磐梯山、遠くに猪苗代湖、沼、湖が散らばって美しさバツグン！

下山路、草深い林道を長時間歩き、やっと車道に出る。目の前が開け、ホッとする。道沿いには白やピンクのホタルブクロ、山百合、ヤナギラン、etc が目を楽しませてくれる。また登山道を歩き、休憩舎に戻り、無事駐車場に帰る。すぐさま、レンタカーで今晩の宿の磐梯高原キャンプ場へ。リヤカーで荷物を運び、芝生の上にテントを二張り。初めてという人もいたので、ここで講習会タイム。（簡単でしょ？）

夕食は特製夏野菜カレー。野菜いっぱいのサラダ。大満足の食事でした。

二日目　磐梯山

4 時起床。テントは苦手といいながらぐっすり寝た。急いで朝食を済ませ、キャンプ場を後にする。裏磐梯スキー場へ車を走らせる。早朝のためか登山者の姿なし。しょっぱなからゲレンデの直登に大汗を流すが、周りは花だらけ。特にヤナギランが見事でした。

樹林帯を抜けると火口原につく川原にあるような石がゴロゴロ。周囲の赤茶けた断崖絶壁が圧倒的な迫力で迫ってくる。赤ペンキを目印に樹林帯を進む。急斜面につけられた鉄製のくいをつかみ、よっこらせ、よっこらせ、よっこらせ、早く終わってよ！と汗を絞りながらまっしぐらに登る。やがて、稜線につくと、櫛ｶﾞ峰、沼の平が広がっていた。ここから急坂をひと登りして、弘法清水に着く。茶店が２軒。おいしい水が流れている。ちょっとトイレタイム。（３００円で携帯トイレを買い、そのままお持ち帰り。）ここまでくれば山頂は目前。最後の急登に気合を入れる。７月２１日晴れ am８：４５磐梯山登頂バンザーイ！

やっと、やっと、登ってきました。山頂のパノラマは文句なし。最高です。吾妻連峰、飯豊連峰（これはまだ行ったことがないので、是非とも登りたい）、眼下に広がる大小の湖、沼が一望できる。天気も良かったので、本当に登って良かった。時間の許す限り楽しんだ。

下山路は中湯から銅沼に下る。下山後、ぞくぞく登山者が登ってきた。近隣の小学生集団、若者グループ、家族連れなど、途切れることなく続く。

銅沼に立ち寄る。赤茶けた沼の光景に驚く。気持ち悪い。樹林帯を抜けるとスキー場に出る。またヤナギランをみながら車に戻る。温泉で汗を流し、郡山駅でささやかな反省会を行った。

二日間、何事も無く無事楽しい山行を終えることが出来ました。みなさん、お疲れ様でした。いつも突然参加させていただき、快く受け入れてくださって、有難うございます。

猫魔ヶ岳　　↑

猫魔ケ岳　　↑

雄国沼から猫魔ヶ岳　　↑

飯豊連峰（磐梯山山頂）

銅沼

概　要

山名	猫魔ヶ岳・磐梯山		
月日	平成 25 年 7 月 20 日（土）～21 日（日）		
山域	福島県 会津地方	地形図	1/25000 磐梯山・猪苗代
形式	テント泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
目的	NHK 大河ドラマ「八重の桜」に因んで会津を訪ねる		
費用	約 20,000 円	交通機関	JR・ﾚﾝﾀｶｰ
日程 1日目	我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:18（東北新幹線つばさ 121 号）→郡山駅 7:30/8:00（レンタカー）→郡山 JC8:20→磐梯河東→磐梯ゴールドライン→雄子沢登山口の駐車場 9:30/9:50⇒雄国沼休憩舎 11:05/11:15⇒猫石 12:40/12:55⇒猫魔ヶ岳 13:15/13:25（昼食）⇒分岐 13:45⇒雄国沼一周⇒雄国沼休憩舎 15:30/15:40⇒雄子沢登山口・駐車場 16:35/16:40（レンタカー）→休暇村磐梯高原キャンプ場 17:05 着　＜歩行時間:6 時間 45 分＞		
日程 2日目	休暇村磐梯高原キャンプ場 6:00（レンタカー）→裏磐梯スキー場の駐車場 6:10/6:15⇒分岐 6:30（噴火口周り）⇒稜線⇒弘法清水・茶屋 2 軒 8:05/8:15⇒磐梯山山頂 8:45/9:20⇒弘法清水 9:45/9:50⇒八方台登山口との分岐 10:55⇒銅沼 11:35/11:40⇒スキー場上部 11:50⇒裏磐梯スキー場の駐車場 12:15/12:20（レンタカー）→休暇村裏磐梯で入浴 12:40/13:50（レンタカー）→磐越道 14:30→郡山駅 15:25/17:00（やまびこ 216 号）→上野駅 18:35/18:56→我孫子駅 19:33 着　＜歩行時間 5:00＞0 分＞		
	<u>猫魔ヶ岳</u> ・猫魔ヶ岳と磐梯山は、磐梯山ゴールドラインを挟んで八方台登山口の右手と左手に位置し、どちらにも最短距離で登れる。そのため 50 台収容の駐車場は、シーズン中は車であふれる。それを避けるため、国道 459 号線沿いの雄子沢登山口から登る。		

ルート状況	・雄子沢に沿ってゆるやかな樹林帯を 1 時間強で雄国沼休憩舎に着く。きれいな木造の建物で、室内にトイレがあり、中で休憩ができる。 ・沼の縁から樹林帯に入ると、しばらくは道が非常にぬかるむ。水はけが悪いようだ。3 本ほど沢を渡るが、足場が悪く、水量が多いときは要注意。 ・岩塊の猫石は絶好の展望台。雄国沼の全景が見渡せる。 ・下山路として、猫魔ヶ岳を下った分岐を左手にとり、雄国沼に向かって草深い林道（？）を長時間歩く。さらに舗装された車道に出て道なりに進み、バスの発着する展望台脇の階段を下って沼に下りる。沼のほとりを大きく一周して雄国沼休憩舎に戻る。 ・沼の散策が目的の場合は、展望台まで車で来られる。 <u>磐梯山</u> ・磐梯山の登山口として、表登山口（猪苗代口）・翁島登山口・川上登山口・八方台登山口・澁谷登山口・裏磐梯登山口の 6 コースがある。 ・今回は裏磐梯の静かなコースから登る。磐梯山の岩壁と噴火口が圧巻。 ・裏磐梯スキー場クローズ期間中は、スキー場の駐車場まで車が上がれるので、かなり時間短縮が出来る。 ・噴火口と思われるガレ場の通過の際は、赤ペンキの矢印を見落とさないこと。ここを通過する途中、左手方面から川上温泉コースが合流する。 ・合流地点の先から磐梯山の噴火口上部まで、唯一残る樹林の中をまっしぐらに登る。斜度がきついため、ガレた登山道の両脇には一歩毎につかめるように、U字形を逆さにしたような鉄製のくいが打ちこんである。 ・稜線に上がると後方には櫛ガ峰が、左下に沼の平が広がる。 ・各登山コースの合流地点（翁島コースを除く）である広場には茶店が二軒あり、弘法清水が流れている。 ・下山路として中の湯方面に下り、中の湯の分岐から銅沼に下る。銅沼の登山道を抜けると裏磐梯スキー場に出、斜面を下って今朝の出発点の分岐に戻ってきて、時計周りで一周したことになる。
参加者	外崎（L）、村松（SL）、北川、武内、郷田、村越、矢澤、石塚、飯合 男 5　女 4　計 9 名

＜８２２＞

高松岳・焼石岳

（1348m）（1548m）

矢野　裕子

大らかな　深い　ブナの森

高松岳山頂

私は、花の多い人気の山として度々紹介されている焼石岳を希望しました。
初めての東北の山。想像以上におおらかで、深い深いブナの森、そして素朴な人に触れることができました。

一日目は高松岳。ここは地味ですが山頂からの眺望は忘れることができません。登山道は入る人の少なさを物語り、草が茂って地面も見えづらく、枝をかき分けながら進みました。雨がポツポツきたけれど蒸し暑くて雨具は付けたくない。ブナの葉っぱの傘を頼りに進み、表示も何も無いけれど水場はこの辺りかな、というところでさすがのベテランの勘。ちゃんと脇道に逸れて小さな樋から流れる水を発見。共同の水各自 2ℓを汲み、やっとの思いで避難小屋へ。見晴らしの良い丘の上の、しっかりした中二階の避難小屋は快適！私は衣類を干しながら、二階の窓から雨上がりの草原のような景色を眺め、この非日常の静けさに浸りました。貸切で水入らずの夜も、楽しく更けていきました。

朝、御来光だよの声に私はまた二階の窓からうっとり！ちょうど東向きで心洗われるようなオレンジ色の空。慌しく身支度し、明るい朝日に元気をもらって、頂上にかけての展望を満喫しました。残雪を抱えて美しい稜線を見せる鳥海山には息をのみました。三日間の中で、こ

の時が一番晴れていて気持ちがよかった。東北シリーズを歩いた先輩たちは、虎毛山や栗駒山を感慨深げに眺めていました。

下山したら焼石岳へ。予定変更で中沼登山口から。車移動の途中、工事中の石淵ダムはスケールが大きくて圧巻。林道では雨上がりの砂利に難儀する車を降りて、手押しで進んだりもして、有難くもやっと登山口へ辿り着いた。実は私は短いし沼が見られるので、こちらから登りたかった。駐車場でちょうど出会ったのが避難小屋を掃除してくれている地元のボランティア。矢継ぎ早に喋った中で自慢の小屋だというのが、この後本当によく分かることになった。最後に元のようにして出てくださいね、と。

花の名山も先日来の豪雨のため入り口は川。コバイケイソウやミズバショウの咲く木道の花畑に出て、やっと来たーー！と実感した。中沼・上沼は霞んでいたけど静かな森の中にある佇まいがとてもロマンチックだった。花を愛でながら、重いザックに耐えて一歩一歩登る。銀明水に着くと急いで背中のビールを冷やす誰かさん。すぐ先の避難小屋は石段を上がると本当に清潔な立派なログハウス。二重窓で暖かく、自慢の自然浄化方式水洗トイレは臭いも全くなし。今日も貸切。素晴らしい！！思いっきり荷物を広げ、ゆったりとくつろぐことができた。

翌朝も雨音。カッパで出発。残念ながら展望がなく山頂は風も強く、見事なはずの姥石平も今一つ。それでも花の種類は私が数えても３０種類以上。この日は、白いハクサンイチゲやミネウスユキソウが似合っていました。L がここはこんなもんじゃないんだよ、と。小屋に戻り、誰からともなく掃除をして、皆で「ありがとう」と声に出して扉を閉め、下山を開始しました。途中、上ってくるグループは幾つかあり、二人連れの男性はなんと僕は柏から、と。相方は地元の人らしく、この葉はミズと言って食べられるよという意味のことを訛りで話して手渡してくれました。

また最後に良かったのが、ひめかゆ温泉。大きなお宿で、とろりとしたしょっぱいお湯は、三日間濡れ続けた体を労わるように、心地よく疲れをとってくれました。私は初・岩手。駅前で南部煎餅と南部鉄の風鈴を買い求めた後、新幹線の水沢江刺駅でウェストポーチからお金を落としたらしく、近くにいた御婦人がにっこり笑顔で駈け寄って、手渡してくれました。この旅は、人もとても温かく感じました。ありがとう、東北の山。

焼石岳中沼コースの花畑

雨と風の焼石岳山頂、タッチだけ

概念図

概　要

山名	高松岳・焼石岳		
月日	平成 25 年 7 月 28 日（日）～7 月 30 日（火）		
山域	東 北（秋田、岩手）	地形図 1/25000	秋の宮、桂沢（高松岳）焼石岳、石淵ダム（焼石岳）
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ
目的	①花の山を訪ねる。②避難小屋に泊まる		
費用	約２５，０００円	交通機関	ＪＲ、レンタカー

日程	1日目	我孫子駅 5:10→上野駅 5:43/6:10（やまびこ 51 号）→一関駅 8:35/8:55（駅レンタカー）→須川温泉 10:10/10:15→子安峡温泉→泥湯温泉駐車場 10:55/11:30 ⇒ 新湯跡 12:15/12:20⇒水場 14:05/14:15⇒子安岳分岐 14:20⇒高松岳避難小屋 15:40 （泊） ＜歩行時間:約 4 時間＞
	2日目	高松岳避難小屋 5:55⇒高松岳 6:20/6:30⇒高松岳避難小屋 6:40/6:50⇒山伏岳 7:40/8:00⇒車道山伏岳登山口・川原毛地獄 9:50⇒泥湯温泉駐車場 10:20/10:45（レンタカー）→石淵ダム→尿前林道→中沼登山口・駐車場 13:05/13:30⇒中沼 14:15/14:25⇒上沼 14:50⇒つぶ沼分岐 15:25/15:35⇒銀明水 16:00（水汲み）⇒銀明水避難小屋 16:20 （泊） ＜歩行時間:約 6 時間＞
	3日目	銀明水避難小屋 4:55⇒姥石平 6:20/6:25⇒泉水沼⇒焼石岳 6:50/6:55⇒泉水沼⇒姥石平 7:25⇒銀明水避難小屋 8:35/9:00⇒つぶ沼分岐 9:30⇒上沼 10:00⇒中沼 10:25/10:30⇒中沼登山口・駐車場 11:05/11:15（レンタカー）→焼石岳登山道入口 11:40（国道 397 号）→ひめかゆ温泉 11:50/12:50→水沢江刺駅（レンタカー返却）13:55/15:43（やまびこ 62 号）→上野駅 18:28/18:45→我孫子駅 19:18 着 ＜歩行時間:約 5 時間 30 分＞
ルート状況		・高松岳泥湯温泉登山ルートは刈り払い不十分。土砂が流れ所々歩行困難な斜面もあった。 ・高松岳避難小屋には水場なく、子安岳分岐手前の水場より持ち上がる必要あり。（歩行時間約１時間、標高差約５０ｍ） ・高松岳避難小屋は新しくはないが、15 名程度は収容可能 ・焼石岳中沼コースは沢沿いの道。木道が腐っていたり、ぬかるんでいたり、冠水している箇所もあったが、登山道はよく踏まれており歩くのに支障はない。 ・焼石岳銀名水避難小屋近く（４～5 分）に美味しい水が滔々と流れている。避難小屋は地元ボランティアの手で、きれいに管理されている。トイレは水洗。 ・焼石岳銀明水避難小屋より上には残雪有り。凍っているので滑り易い箇所あり。また、木道が傾いているところがあるので、不用意に足を載せると転倒しやすい。
参加者		武内（L） 村松（SL） 外崎 矢野裕 齋田 本田 男２名 女４名 計６名

＜８２３＞

月山・蔵王（熊野岳～刈田岳）

（1984m） （1841m）（1758m）

高橋　芳恵

信仰の山と高山植物を訪ねる

月山　　8 月 1 日

「雲の峰　幾つ崩れて　月の山」元禄 2 年 6 月、俳人松尾芭蕉は門弟曾良と共に白装束で月山に登った。鶴岡から月山八合目までの月山高原ラインは今も原生林の中であり、芭蕉の旅はどれほど大変なものだったかを考えながら鶴岡から月山高原ラインを 1 時間ほどで八合目に着いた。降り始めていた雨はさらに強くなり、レストハウスの軒下で雨具をつけ準備をしたが気の重い出発となった。御田原参籠所には赤い涎掛けをしたたくさんの地蔵様が鎮座し、いよいよ神の領域に足を踏み入れた。白装束の修験者がぴったりの雰囲気である。

弥陀ヶ原付近からニッコウキスゲ、ハクサンフウロウ、上るにつれ花の種類が増え、仏生池小屋付近の花の素晴らしさに感嘆の声が上がった。仏生池小屋でしばらく休息し、管理人に事前の残雪の様子を問い合わせたお礼を述べると、「月山はこんな天気が普通です」と言われ、おかげで気が軽くなった。リーダーの懸念は天気に恵まれるかどうかである。イワヒゲ、トウウチソウ、チングルマ、ハクサンシャジン、ミヤマキンバイ、ミヤマシオガマ、ヨツバシオガマ、アオノツガザクラ等々花の種類の多さに感嘆。幸い雨も降ったり止んだりとなり、頂上に近くの傾斜地にどこまでもコバイケイソウの群落が続き、初めて見る光景であった。頂上には月山神社があり、全員でお祓いをうけ、人型の短冊を水に流して禊をした。下山は牛首から金姥を通り姥ヶ岳に向ったが途中 2 か所の残雪斜面を通過したが危険はなかった。姥ヶ岳は展望の良い広い山頂だが、あいにく今日は展望が望めず残念であった。姥ヶ岳から 20 分ほどでリフト上駅となり 15 分ほどで下駅に到着した。一時的には晴れ間があったものの駐車場に着くころには激しい降りとなり迎えのタクシーに飛び込んだ。この後、山形自動車道を一路蔵王温泉に向った。自転車レースが趣味の運転

手さんと意気投合し話が弾んだ。

蔵王温泉には４時過ぎに到着し、濡れた雨具やザックを丁重に運んでくれる宿の皆さんに恐縮しながら名湯でゆっくり昨夜からの疲れをいやした。明日の天気が気にはなるもののここまで来たからには仕方がない。夕食はお座敷で反省会を兼ねた宴席となり、夕食後、中村育子さんから「芭蕉と奥の細道」のレクチャーを受け、箕輪カオルさんから「蔵王の歌」の指導をいただいた。当会のメンバーのマンパワーの素晴らしさを再確認し、ひと時を楽しんだ。おもてなしの心が行き届いた良い宿でもあった。

８月１日　月山山頂にて

蔵王　（熊野岳・刈田岳）　８月２日

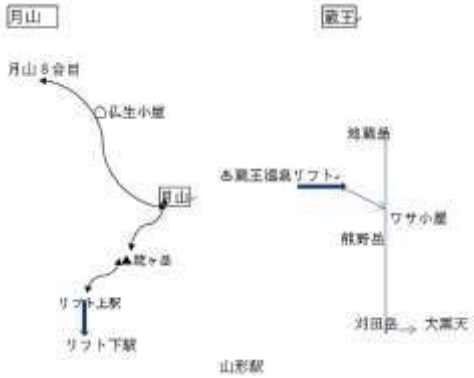
雲の間の青空に期待したが、雲が立ち込めた朝であった。宿近くの樹氷高原駅からロープウェイで観松平へ。五葉松の点在する遊歩道を歩きイロハ沼では目の覚めるようなキンコウカの群落を楽しんだ。ワサ小屋を目指した１時間の登りは長く感じられた。過日の豪雨のためか、一部土砂崩れの跡を注意して通過した。ワサ小屋で稜線に出た。霧雨のため濃霧で展望がないため、予定していた地蔵岳登頂は断念したが、往復 20 分の地蔵岳は登るべきだったと後悔している。霧と風とで視界がない中、杭を頼りに熊野岳山頂に到着、しっかり参拝した。山頂が見通せず、二度目登頂の矢澤さんからのアドバイスに助けられた。

その後も杭を頼りに刈田岳をめざし、途中エメラルド色のお釜に立ち寄り山頂の刈田嶺神社に参拝した。メンバーは一日誰とも話さなかったと思われる神社の宮司さんの傾聴ボランティアも果たした。宮城側の大黒天駐車場にタクシーを予約してあったため、下山を急いだが山形側に比べ宮城側の蔵王は火山爆発の赤茶けた荒々しい様相で山形側とは一変し、この山の奥深さを感じた。蔵王は山形から宮城にいろいろな縦走コースがあり、再度挑戦したい山と心に記した。帰路は白石蔵王から新幹線に乗ったが太平洋側は天気がよく、やっと梅雨が明けそうな空模様であった。

夜行１泊２日、日本海側から太平洋へという山旅は２日間を通し雨と悲惨なものであったが、豊かな自然、多種多彩な高山植物、何よりも素晴らしいメンバーの協力で温かい思いが残る最高の山旅であったと自賛している。同行いただいたメンバーの皆さんに感謝です。ありがとうございました。

８月２日　蔵王山頂にて

<u>概念図</u>



コバイケイソウ群落

概　　要

山名	月山 ・蔵王（熊野岳、刈田岳）			
月日	平成 25 年 7 月 31 日（水）～8 月 2 日（金）			
山域	東北	地形図	1/25000 月山・立谷沢・蔵王	
形式	山麓泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２A	
目的	信仰登山の盟主を訪ね、高山植物を楽しむ			
費用	約 32,000 円（お祓い料を除く）	交通機関	JR,　バス、タクシー	
日程 1日目	（前夜泊）我孫子駅 21:22→上野 21:55/22:50（夜行バス）→鶴岡第一ホテル 5:20/6:00（タクシー）→月山八合目 7:00/15⇒御田原山籠所 7:30⇒弥陀ヶ原⇒仏生池小屋 8:30/45 月山山頂 11:30/50⇒牛首 12:55⇒姥が岳 13:35/45⇒リフト上駅 14:00→下駅 14:20⇒姥沢 14:30⇒駐車場 14:35/14:40（タクシー）→(山形自動車道)蔵王温泉 16:15 ホテル喜楽（泊） 行動時間 7 時間 15 分歩行時間 5 時間 30 分			
日程 2日目	蔵王温泉 8:30（ロープウェイ・リフト）→黒松平 8:50⇒イロハ沼 9:30/40⇒ワサ小屋跡 10:45/11:00⇒避難小屋 11:20⇒熊野岳 11:40/12:00⇒お釜 12:35/45⇒刈田岳 13:00/20⇒大黒天（駐車場）14:00（タクシー）→白石蔵王 15:15/16:00→上野 18:00→我孫子 19:20 行動時間　5 時間 30 分　歩行時間　4 時間			
ﾙｰﾄ状況	・両山とも多くの参拝者、登山者が訪れる山でありルートはしっかりしていた。 ・残雪状況を確認し念のための軽アイゼンを携帯したが、小雨と気温が高めであったためストックで通過できた。姥ヶ岳手前の下り斜面では場合により必要なことも考えられる。 ・蔵王のワサ小屋跡手前付近に土砂崩れ跡があり、通過には要注意だった。 ・霧雨の為、熊野岳山頂付近から刈田岳まで杭を目印に山頂（蔵王神社、刈田神社）に至った。			
参加者	高橋芳(L)、矢野貞(SL)、品田 、箕輪カ、箕輪完、瀬田、中村育、矢澤、藤倉 男２名　女７名　計９名			

ハクサンイチゲ

ハクサンフウロ

＜８２４＞

加賀白山
（2702m）

外崎　蓮

広がる花畑に肩の荷を忘れてうっとり

日本の三大霊峰の一つ白山は、石川・福井・岐阜・富山の４県にまたがり、御前峰、大汝峰、剣ヶ峰が聳え立つ堂々たる山群である。面白いことに、同じ名称の室堂、御前、大汝、別山、弥陀ヶ原が立山連峰にもあることだ。昔の人が信仰の山として、共通の名を付けたのだろうか。誰かに聞いてみたいものだ。また白山という呼称は、春遅くまで真っ白に雪が残るところから、そう呼ばれたと聞いたことがある。夏の最盛期、ハクサンと名の付く花々に出会うために、魅力をいっぱい秘めた白山に向かった。

8/7（夜）

我孫子駅で一同の顔が揃うまではハラハラドキドキする。斉田さんは実家のある金沢へ一足先にたった。秋葉原駅のバス乗り場から、22 時丁度発の夜行バスに乗る。バスは高崎から日本海へ出て、富山から金沢へ。ほとんど眠れぬまま、朝の７時に金沢に到着。斉田さんと合流して６人が揃った。

8/8（晴）　あれっ、ガスバーナーがないぞ！？

金沢駅前から今度は急行バスに乗り換える。終点の別当出合までは約２時間だが、途中トイレ休憩のため、白峰温泉と市ノ瀬に寄った。10 時少し前に別当出合に着く。支度がすむと別当谷に架けられた長いつり橋を渡って対岸に出、砂防新道を登る。下山路との分岐地点から崩れた急な石の階段を上がり、先ほどの下山路の取り付き地点を見送って中飯場に着いた。小広い

平坦地にはトイレや水道があり、ベンチも置かれてあって格好の休み場になっている。ここを登った先にも水場があり、水には困らないようだ。登山客が多いためか道もよく整備されている。中飯場から２時間ほど登って甚之助避難小屋に到着した。以前来た時は、今にも倒れそうな古い小屋だったが、場所も少し下方に移動して、りっぱな小屋が出来ていた。南竜道分岐まで登って来ると、辺りが開けて気持ちも開放的になってくる。ここからは黒ボコ岩を越えて室堂へ登ることもできる。狭い三叉路で一息いれた。付近はお花畑が広がり、鮮やかなピンクのシモツケソウがひときわ目立つ。この先の南竜道はコース一番の悪路で、左手が切れているため花見どころではない。ロープを伝って越え、南竜道出合に着く。明日はここからエコーラインを登って室堂へ上がる予定になっている。木道をなだらかに下っていくと、南竜ヶ馬場に建つ幾つかの赤い屋根が見えてきた。草原の中の、見覚えのある懐かしの我が家だ。自然に足が早まる。セントラルロッジでテント場の受付をしてから、小高い丘の上にあるテント場に上がって行った。土手一面に咲いたハクサンコザクラが出迎えてくれた。
休む間もなくテントを２つ設営し、手分けして背負ってきた炊事用具を出すと、肝心のガスバーナーが見当たらない。リーダーが我が家に置き忘れてきたことが判明。今更どうにもならないので、セントラルロッジに電話で訳を話し、台所を使わせてもらうことになった。そこで夕食の食材と食器やアルコールを持参してロッジに向かう。何と失敗が転じて、ガス台１台 1 時間で 200 円也を 2 台借り、おまけに炊飯器に流しの水とテーブルと部屋の電気とトイレも使え、蚊に刺される心配がなく快適この上なし。今回は幸運だったが、私にもバーナーとガスのネジが合わなかった過去の苦い経験があって、他人事ではないと反省した。
夜中、雨粒がパラパラとテントをたたいた。真っ暗なテント場には、この夜 14～15 張りのテントが張られていた。

8/9（晴）　白山はやっぱり花の山だった！

テントを張ったまま、サブザックと朝食を持ってロッジへ下りていくと、掃除係りの若者が起きていた。台所ですぐお湯を沸かす。朝食は個人が持参したものを食べるので、後片付けが素早くできる利点がある。６時にロッジを出発。朝靄が垂れこみ、空気が重い感じがする。昨日歩いてきた南竜道出合まで引き返し、花の道・エコーラインを登る。真っ先に目に飛び込んできたのが真っ白なコバイケイソウの群落だ。今年はコバイケイソウの当たり年とやらで、今が盛りの群落が目を引いた。メンバーは花々の写真を撮るのに忙しく、中々前に進まない。名高い花の山に来て素通りはもったいないというものだ。弥陀ヶ原の木道を進み、観光新道との分岐から石のゴロゴロした急坂を登る。室堂方面から白装束の老若男女の団体が下ってきた。熱心な信者たちが御前峰山頂の奥宮を参拝してきた帰りなのであろう。あいさつを交わした。灌木の中を 100mほど登って室堂平に到着。広い平坦地に建つ室堂センターで休憩後、目の前に聳える御前峰に向かう。小石の敷かれた道をジグザグに 250mほど登り、緑色の反り返った屋根の奥宮に着いた。お社を前にすると、しぜんに頭が下がり、手を合わせてしまう。一等三角点が少し離れた岩の上にあった。お天気はいつの間にか晴れ上がったが、遠方の山々は霞んで見えなかった。眼下には室堂センターの赤い屋根が小さく見えた。後ろを振り返ると、今立っている御前峰より 30mばかり低い剣ヶ峰がすぐ近くに聳えている。登山道はないそうだが、たまに登る人がいるらしい。いた、いた、目を凝らすと瓦礫の中に動くものが。
鞍部に下りると、やはり男性が一人、登って行くのが見えた。下りは剣ヶ峰と御前峰との鞍部からお池めぐりコースをとる。付近には火山の噴火で堰き止められた湖が 7 つもあるそうだ。先ず出てきたのが雪に覆われた紺屋ヶ池と小さな油ヶ池。ざらざらした赤土のピークを越えると、一番大きな翠ヶ池が出てきた。たっぷりと水を湛えていたが、この日の池の色は残念ながらグレイ。大汝峰を背後にしながら血ノ池、千蛇ヶ池と下る。千蛇ヶ池は、夏でも雪と氷に覆われた万年雪の残る湖なのだそうだ。日が当たらないわけでもないのに。御前峰の直下から室堂までは広いカール状になっていて、さまざまな高山植物が短い夏を謳歌していた。
カメラマン達はせっせと撮りまくる。憧れのクロユリは、エコーラインを登って来るときもたくさん咲いていたが、室堂平の草原の中は見事だった。
室堂センターに 11:45 に戻る。トイレのあと、ここでラーメンを食べたかったが、食べ終わるまで 30 分も待てないとリーダーが怒るので、あきらめて下山することにした。そんなに先を急ぐ理由はない筈なのに。食べそこなった５人は黙ってリーダーの後に続く。間もなくトンビ

岩に着く。５分休むと、さ～出発とリーダー。花のないコースだから仕方ないか。かくして13:15 にはセントラルロッジに着いてしまった。ついでに２日目のテント場代とガス代を支払ってテント場に戻る。時間つぶしも兼ねて、15:00 から１時間ほど、ボランティアによる自然観察会に参加した。テント場の周囲を一周しながら植物の説明を受けたが、新しい発見もあって楽しいものであった。ハクサンの付く花は、何と 18 種もあるという。
驚いてしまった。テント場の土手に生えているというハクサンオオバコには会えなかった。
解散後、夕食の食材を持ってロッジに行く。昨夜のメニューは、斉田さんによるマーボー茄子。豚肉を炒めて味噌とからめて持ってきた。豚汁も凝っていて、具だくさんでとても美味しかった。今晩は私で、ウナギ飯と春雨の酢の物と茄子の味噌汁。楽しく食事を終えてテント場に引き上げる。夏とはいえ日が暮れると冷えてくる。外でミーティングのあとテントに入った。寝しな、私は斉田さんと連れ立ってトイレに行った。トイレは私たちのテントからは離れたところにあるのだ。テントの明かりだけの暗闇に濃いガスがかかり、すぐ先が見えなくなっていた。ヘッドランプも足元をぼんやり見せてくれるだけで用をなさない。一人では怖いと思った。一緒に行かなかった矢野さんが、23 時を過ぎた頃トイレにたった。声を掛けたところ、一人で大丈夫だという。そろそろ戻ってきてもいい頃だと思い、テントから上半身を出してヘッドランプを振り続けた。だが、一向に戻って来ない。私は不安になり、隣のテントでゴソゴソ起きていた矢澤さんに知らせた。彼にはテントの目印になってもらい、私は原っぱに出てヘッドランプを大きく回転させた。よく見ると、前方のヘッドランプが動き回っている。矢野さんだと確信して近づいて行った。向こうも気が付いて近づいてきて、お互いの顔が見え出すと、走り寄って手を握り合った。彼女の手はすっかり冷たくなっていた。どれくらいの時間さまよっていたのだろう。矢澤さんの照らしてくれたテントに無事に戻った。テント場では、明かりが灯っていても似たようなテントばかりなので、私はどの位置にあるか見当をつけて外に出ることにしている。今夜もまた雨粒がテントをたたいていた。

8/10（晴）

4:10 に起床し、テント内の物を近くの炊事棟に運んで荷造りをする。まわりのテントがまだ起き出していないからだ。テントも炊事棟で畳み、全部背負ってロッジへ移動する。ガスを借りてお湯を沸かし、個人が持参したものを食べる。台所を片付け、さんざんお世話になったロッジを後にした。木道を歩く靴の音だけがする静かな朝だ。甚之助避難小屋まで下って来ると、今日一番目と思われる登山者が登ってきた。この後からはゾロゾロと数えきれない人とすれ違う。あまりにも大勢の登山者が登ってくるので、道を譲るのに相当時間がかかった。
中飯場もかなり混雑していた。眼下の谷底には、がけ崩れを防ぐ大がかりな砂防堰堤が上の方まで連なっていた。あちこちにある堰堤群は国の有形文化財に登録されているという。砂防工事が始まって昨年で丁度 100 周年になるらしい。この登山道も砂防工事のために造られた道であるという。豪雪地帯の白山は、大量の雪解け水が浸み込みやすい地質のため、土砂崩れが起こりやすいのだそうだ。
一方通行の取り付き地点から右に折れ、別当谷の崖っぷちを歩く。右手には手すりがないので、転んだら真っ逆さまに谷に落ちていく。長いつり橋を渡り、無事に別当出合の広場にたどり着いた。このつり橋は、11 月頃には板が外されるという。30 分ほど待って、9:40 発のバスに乗る。次の停留所の市ノ瀬で下車し、永井温泉で汗を流した。11:50 発のバスを待つ間、由緒あるこの温泉でくつろぐ。２時間ほど揺られて金沢駅に出た。帰りの切符を買ってから、待ってましたとばかり「駅の蔵」へ。すっかりほろ酔い気分でほくほく線に乗った。あまり乗る機会のないほくほく線は、日本海の海岸に沿って走る。越後湯沢で Max に乗り換えて上野へ。矢澤さんと大山さんの会話が盛り上がっている間に上野駅に到着した。上野駅構内は蒸し風呂のような暑さだった。

概　要

山名	加賀白山		
月日	平成 25 年 8 月 7 日(水)夜～8 月 10 日（土）		
山域	北陸	地形図	1/25000 市ノ瀬、白山
形式	テント泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ
目的	１．ハクサンと名の付く多くの花に会いに ２．日本を代表する３霊山に登る。(富士山、立山、白山)		
費用	約 23,000 円	交通機関	夜行バス、バス、ＪＲ

日程	1日目	我孫子駅発前夜 20:50→日暮里駅経由秋葉原駅前 21:40/22:00（日本中央高速バス）→金沢駅前 7:00/7:30（北陸鉄道、急行直行バス）→市ノ瀬経由別当出合 9:50/10:15⇒中飯場 11:05/11:15⇒別当覗き 12:15/12:20⇒甚之助避難小屋 13:25/13:35⇒南竜道分岐 14:10⇒南竜ヶ馬場セントラルロッジ 14:55/15:05⇒南竜ヶ馬場テント場着 15:10（テント設営）　晴
	2日目	南竜ヶ馬場テント場発 5:00⇒セントラルロッジ（朝食）5:10/6:00⇒エコーライン出合 6:10⇒観光新道との分岐 7:20⇒室堂ビジターセンター7:50/8:15⇒御前ヶ峰（白山奥宮）9:05/9:30⇒池巡りコース紺屋ヶ池・油ヶ池・翠ヶ池・血ノ池・五色池・百姓池・千蛇ヶ池 10:35⇒お花畑コース⇒室堂ＢＣ 11:45/12:10⇒トンビ岩コース⇒南竜ヶ馬場セントラルロッジ 13:15/13:30⇒テント場 13:40 着　自然観察会:15:00～16:00（無料）テント泊り　曇り後晴
	3日目	テント場 5:00⇒南竜ヶ馬場セントラルロッジ（朝食）5:05/6:00⇒南竜道分岐 6:30⇒別当覗き 7:30⇒中飯場 8:30⇒別当出合 9:15/9:40（シャトルバス）→市ノ瀬温泉 9:55/11:50（金沢駅直行急行バス）→金沢駅 13:40/15:12（はくたか 19 号）→越後湯沢駅 17:50/18:08（ＭＡＸトキ 340 号）→上野駅経由→我孫子駅着 19:57 晴
		・昨年の関越道のバス事故により、夜行高速バスの規制が強化されてバスの本数が非常に少なくなり、早目の予約が必要だ。金沢行きのバスはすっかり様変わりした秋葉原駅の中央口の広場から出発している。 ・3 列の座席は非常にゆったりしていて、良く眠れる。眼が覚めたら金沢に着いていた。ここで一足早く、故郷に帰郷していた斎田さんと落ち合う。 ・白山に行くには別当出合からのコースが最もアクセスが良いのだが直通バスは 1 日 3 本しかない。（金沢発 6:30．7:00，7:30、2,000 円） ・登山道は何れも良く整備されていて、道標もしっかり有り、問題ない。これだけ整備されていると、お花畑に入ったり、登山道から外れて歩いたりする人もいなくなると思う。 ・テント場は非常に広く（100 張）ロケーションもお花畑の中でのテント生活で素晴らしい。（300 円／一人）

ルート状況	・白山には 2 カ所の宿泊施設（白山室堂ロッジ 700 人、南竜山荘 150 人）が有り、いずれも予約が必要との事。テント泊は必要なし。 ・水場は方々にあり、多くの水を持参して行動する必要はない、疲れるだけ。 ・シーズン中は市ノ瀬～別当出合間はマイカー規制有、この間はシャトルバスが 20 分間隔で運行されている。 ・市ノ瀬にある永井旅館で温泉に入れる。料金は 600 円。 ・帰りのバスも金沢直行バスは日に 3 本しかないので注意が必要だ。 ・始めて知ったのだが「大人の休日倶楽部」の適用はＪＲ東日本の範囲内で他のＪＲ西日本などでは適用されない。
参加者	村松（L）、外崎（ＳＬ）、斎田、矢野裕、大山、矢澤　　男 3 名、女 3 名　計 6 名

概念図

＜８２５＞

南岳～槍ヶ岳
（3032m）（3180m）

武内　勇二

天狗池は雪　槍を断念

御前峰(2,702m)

クロユリ・ハクサンフウロ

ゴゼンタチバナ

ハクサンフウロ

クロユリがいっぱい

イワギキョウ
（珍しい白花）

ご苦労様でした

南岳登頂　↑↓　槍ヶ岳ようやく現る　↓

（1 日目）

この夏はひときわ日照りが続き、連日家庭菜園の水遣りに追われていた。しかし、山行が近づくに連れ北から寒気が南下し天候が不安定となった。山行直前の長野県の天気予報は、２日目「曇り」、３日目「曇り一時雨」の予報だったので楽観的に判断して山行実施を決めたが、なんとなく不安の残る旅立ちとなった。

新宿発スーパーあずさに乗り込み、松本で路線バスに乗り換えて、予定通り上高地に到着した。梓川沿いの遊歩道を横尾まで歩く。いつ来ても木立の中の遊歩道は気持ちよく、これから山に入るとなると余計気持ちは高揚する。行程の都合で徳沢にキャンプ出来ないのは残念だが、いつかはこの素敵な草原でテントを張りたいものだと思いながら、横尾まで歩を進めた。夏山のピークは過ぎたためか、横尾のテント場

はそれほど混み合ってはいなかった。

概　要

山名	南岳～槍ヶ岳		
月日	平成 25 年月 22 日(木)～8 月 25 日(日)		
山域	北アルプス	地形図 1/25000	槍ヶ岳、穂高岳
形式	テント泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	４Ｃ
目的	①北アルプス南部の展望。 ②逆さ槍２景（天狗池、鏡池）を楽しむ。		
費用	約 27,000 円	交通機関	JR、路線バス
日程 1日目	我孫子駅 5:42→新宿駅 7:00（スーパーあずさ）→松本駅 9:39/10:20（バス）→上高地 11:50/12:30 ⇒ 明 神　13:15/13:20 ⇒ 徳 沢 14:07/14:20⇒横尾 15:15（泊） ＜歩行時間:約 2 時間 30 分＞		
日程 2日目	横尾 5:00⇒槍見河原 5:45/5:55⇒一の俣 6:05⇒二の俣 6:10⇒槍沢ロッジ 6:43/6:50⇒ババ平（キャンプ場）7:32/7:40⇒水俣乗越分岐 8:15/8:25⇒天狗原分岐 9:35/9:40⇒天狗池 10:45/11:05⇒休憩 12:05/12:15⇒天狗原分岐 13:30⇒南岳 14:20⇒南岳小屋 14:30（泊） ＜歩行時間:約 8 時間 15 分＞		
日程 3日目	南岳小屋 7:35⇒南岳 7:45/7:50⇒休憩 8:50/9:00⇒中岳 9:30/9:35⇒飛騨乗越 10:45⇒槍ヶ岳山荘 11:05/11:50⇒水沢 13:05/13:15⇒天狗原分岐 13:35⇒水俣分岐 14:28⇒槍沢ロッジ 15:15/15:25⇒二の俣 15:48⇒槍見河原 16:10/16:15⇒横尾 16:55（泊）　＜歩行時間:約 7 時間 55 分＞		
日程 4日目	横尾 6:20⇒徳沢 7:20/7:25⇒明神 8:15/8:20⇒上高地 BT9:05/9:30（バス）→平湯温泉 9:55/12:05→松本 13:30/13:56（あずさ）→新宿→神田→上野→我孫子 ＜歩行時間:約 2 時間 35 分＞		
ルート状況	・天狗池はまだ残雪多く、本来の 1/3 程度の水面がでているのみだった。 ・天狗原上部に残雪有り。踏み跡は消えているのでルートを見失わないよう注意。 ・天狗原から主稜線へ出る前に鎖・梯子、ザレ等危険箇所あり。 ・槍・穂の主稜線で２９８６ｍピーク付近に足場の悪い箇所あり。下は切れ落ちており恐怖感ある。		
参加者	武内（L）、坂巻、矢澤、郷田 男４名、計４名		

（２日目）

朝５時、出発直前にポツンときた。今日は「曇り」のはずなのにと恨めしく空を見上げる。青空も見えるが、明神岳頂上付近は黒い雲に覆われていた。念のため雨具を付けて出発したが、たいした雨にはならず槍見河原での休憩時に脱ぐことが出来た。槍の穂先は残念ながら雲の中だった。

常念岳に源を発する一の俣、二の俣の激流に架かる橋を越え、槍沢ロッジに到着。ここまでは比較的平坦な道なので歩きやすい。ロッジで水を補給して出発。ババ平の槍沢のテント場はここからまだ３０～４０分は掛かる。途中、赤沢岩小屋の標識があるが、人工物は見当たらない。槍沢側にある大きな岩の下の窪みを小屋に見立てたのだろうか？ババ平の槍沢テント場で小休止していたとき急に雨が降り出した。一面の黒雲に覆われ止みそうにもないので、慌てて雨具を付けた。登山道は忠実に槍沢の流れに沿って付けられており、東鎌尾根に突き上げる水俣乗越に近づくに連れ傾斜が増す。槍からの下山者も多くなり、ペースが乱されることが多くなった。早く天狗原分岐につきたいものだと心に呟きながら黙々と歩く。

天狗原分岐よりペンキマークに従って水の涸れた槍沢を横切り、灌木の山道を抜けると天狗原の一角に到着した。氷河期に押し出された大きな岩がゴロゴロ、ここは氷河公園とも呼ばれている。お目当ての天狗池は雪渓に覆われ、１／３程度の水面が顔を出しているだけだった。お盆も過ぎたのに、例年以上に雪が多い。３年前の８月上旬にここに来たときは、池はもっと大きく湖面に映る槍ヶ岳を見ることが出来た。今回の山行の目的の１つは、天狗池に投影する槍ヶ岳を見ることであったが、雪がなかったとしてもこの天気ではかなえられない。池のほとりで昼食休憩を取った。気温が低く休んでいると体が冷えて寒い。上部から登山者２名が降りてきた。上部の雪渓で下り道がわからなくなり 30 分ほどロスしたと言う。

ペンキマークを忠実に辿りながら岩の間を縫うようにして登る。休憩をはさんで１時間強登ったところで傾斜が緩くなり、幅３０～４０ｍの細長い雪田がルートを塞いでいた。ここが問題の雪渓で、踏み跡は完全に消失していた。直進して対岸に渡りルートを探したが見当たらない。霧のため視界も悪いのでコンパスで進行方向を確認、雪渓の右方向を重点的に探してペンキマークを発見した。

岩がゴロゴロする急な斜面を登り、キケンと大書きされた岩の鎖場を横切り、梯子を上り、更に岩を捩り、ザレ場を上がるとやがて槍～穂の主稜線に出た。稜線では西からの雨風が吹き荒れていた。強風と大粒の雨に晒されながら南

進したが、疲れもありペースは上がらない。南岳の頂上に着いたときは正直言ってほっとした。

南岳の小屋についたが、とてもテントを張れる状態にはない。体も雨でずぶぬれになり寒いので、即刻小屋泊まり（素泊まり）を決断した。小屋ではストーブが焚かれ、乾燥室もあった。ザックの中までグッショリと濡れていたので、まずは着替え、次いで濡れたものを乾燥室で乾かすことに専念した。落ち着いたところで、自炊室に集まり風雨を無事に乗り切ったことに乾杯した。3000m の高度のため、高山病を訴えるメンバーもいたので、早々に食事を終えあとは自由行動とした。風雨は更に強まり、落雷の恐れから乾燥室の電源も落されたので、濡れたものはほとんど乾かなかった。松本地方には大雨警報が出た。槍ヶ岳付近は明日朝までは強風（20m）と雨の予報が出ている。明朝はとても予定していた５時に出発できる状況ではない。西風が強いため、西鎌尾根も断念せざるを得ないだろう。場合によっては１０時頃まで待たざるを得ないかもしれない。メンバーには明朝の出発を遅らせ、６時の朝食を告げて就寝した。小屋は空いていた。１０数名の泊り客のみで、１枚の布団に１名、夏の北アルプスとは思えない。おかげでゆったりと眠ることが出来た。

（３日目）

未明、強い雨風が吹き荒れていた。雨風が収まらない限り稜線歩きは危険なので、最悪、風の裏側になる昨日のルートを下るしかないが、主稜線直後にある難所を下るのはなんとなく気が進まない。朝食後、天気の様子を見ながらゆっくりと身支度した。小屋の住人は一人二人と悪天候の中を出発していった。殆んどが、大キレットを越え穂高方面に向かったようだ。チャレンジ精神はたいしたものだと感心する。小屋の主人から、滝谷に架かる橋が流され槍平から新穂高に降りる道は通行不能との情報があった。これで南岳新道と飛騨乗越から槍平へ下るエスケープの方法は閉ざされた。

７時半過ぎ、雨風が少し収まった気配があるので、とりあえずは稜線上の天狗原分岐まで行き、その後は状況を見ながら槍まで稜線を行くか、天狗原経由で槍沢を下るかを選択しようとメンバーに告げて出発した。南岳頂上では、霞んではいるものの記念撮影ができる状態になっていた。雨も風も少しずつ弱くなってきたようだ。注意すれば稜線歩きも大丈夫と判断、主稜線を槍まで行くこととした。無理すれば当初計画通り槍～西鎌尾根経由双六小屋まで行けないこともなさそうだが、雲は低く渦巻いており、展望のない尾根を行っても面白くない。無理して行くこともないと心に決めた。

2986m ピーク付近の岩場の難所も無事に通過、中岳（3084m）の上りにかかる。150m ほどだが、傾斜がきつく結構苦しい。大喰岳付近で、休憩している男女２名に会った。昨夜は槍平に泊り、飛騨乗越を越えてきたという。飛騨乗越付近風が強いので注意が必要とのアドバイスを受けた。大喰岳の下りに差し掛かった時、それこそ忽然と槍の岩峰が目の前に現れた。メンバーから思わず歓声が上がる。霧が激しく流れ、槍がせわしく現れたり消えたりしていた。

心配した飛騨乗越の風もさほどではなく、テント場の中を縫って槍ヶ岳山荘に到着、小屋に入って休憩した。時折、霧が晴れるので合間を見て記念撮影も出来た。注意すれば登れないことはないが、風にあおられる危険が皆無ではないこと、もし、横尾まで下るとすれば時間的にきついので、パーティメンバーの同意を得て、穂先への登頂は断念こととした。

多少の想いを残しながら殺生小屋目指して下山開始。霧はすっかり晴れ、槍沢の全景を見下ろし、昨日登った天狗原へのルートも見渡せた。正面には常念岳のピラミダルな雄姿、槍に突き上げる東鎌尾根も望めた。展望を楽しみながら、どんどん高度を下げて行く。水沢で休憩後、天狗原分岐を目指す。眼下に見えているのになかなか着かない。水俣分岐、槍沢のテン場を抜けて、槍沢ロッジで一服、ここまで来れば横尾までは２時間はかかるまい。横尾のテント場は土曜日の夜にも拘らず、それほど混んでいなかった。昨夜からの雨のせいか、明日の昼まで雨の予報のためか、それともハイシーズンが終わったためか。

（４日目）

テント撤収後、予報通り雨になった。日曜日なので遅くなると上高地は観光客でごった返すので、雨の中を急いで上高地に向け出発した。徳沢、明神で休憩、コースタイムより早く上高地 BT についた。新穂高温泉で入浴、反省会を済ませ、お昼の上高地行きバスに乗り、松本経由我孫子に帰着した。

今回の山行は天狗池と鏡池に映る「逆さ槍２景」を楽しみに計画したが、両方ともかなえることが出来なかったのは残念だった。悪天候への対応等リーダーとして悩むこともあったが、全員無事で下山できたことを素直に喜びたい。

上高地河童橋 さあ「槍」を目指す

<u>概念図</u>

＜８２６＞

鳳凰三山
（薬師岳～観音岳～地蔵岳）
（2780m）（2841m）（2764m）

新谷 直恵

南アルプスの甲斐駒や仙丈ヶ岳に登ったとき、際立って目に入ったのが地蔵岳のオベリスクだった。その姿が見えると「ああ、地蔵岳！」と、一様に声が上がるシンボル的な存在で、いつの日にかそのオベリスクを間近に見てみたいと思っていた。

今年の夏は毎日猛暑が続いてなかば嫌気がさし、どこか涼しい高地に逃げ出したいと、その日をひたすら待ちわびることになった。

スーパーあずさを甲府で降りると予約されていたタクシー２台で夜叉神峠まで入り、そこから入山。

タクシーに乗っている間にわか雨がザーッと通り過ぎ、降りるときには雨はすでに止んでいた。台風が接近しているためお天気が変わりやすく不安定である。

夜叉神峠までは、緑の森の快適な道が続くが、まだまだ蒸し暑く汗が滲む。やがて稜線が見えてくると、「このあたりから北岳、間ノ岳、農鳥岳の白峰三山が見えるのになあ」と呟く武内さんの言葉に足を止めるが、あいにく霧がかかって展望は臨めない。

杖突峠でひと休みするが、そこから道は急勾配となり、汗が吹き出してくる。相変わらず湿度は高い。

樹林帯を抜けると、山の懐に抱かれオアシスのように南御室小屋は建っていた。小屋の右手、南アルプスの豊富な天然水が湧き出ている。男性たちは小屋ではなくテント泊なので、テントを張っている最中にもまた雨が降って来た。

乾燥室で濡れた衣類を乾かし、全員でゆっくりティータイムを楽しむ。まだ日は沈んだばかりだが早めの夕食を終えると、それぞれ明日に備えて早々に床に就く。

夜中トイレに起きて小屋の外に出ると、空は満天の星。台風はどこかへ消えたらしい。手の届きそうな星空にしばし見とれた。星のまたたきが聴こえそうな山の夜はかけがえのない癒し空間。

5時出発　稜線に出たら朝陽が眩しい

早朝、夕食時に配られた朝食用のお弁当を暗闇の中でヘッドライトを頼りに食べ５時に出発。

薬師岳までの道中、急登の樹林帯から雲海の中に朝日が昇り、富士山もぽっかり雲の上に臨め、歓声が上がる。案じた天気もすっかり快晴。森林限界を越えると、白砂の大地が続く。薬師小屋を過ぎると薬師岳が間近に見えてきた。ここからは稜線を歩くスカイトレイルで気分は最高。

ところどころにピンクの可憐なタカネビランジがひっそりと咲いているのに足を留めてしばし見とれる。薬師岳、続く観音岳と、見事な山容を仰ぎ見るが、ふと誰がその名を付けたのだろうかと思った。それぞれの山容が仏像を思わせて納得がいくのである。

１座目　薬師岳

やがて地蔵岳のオベリスクが見えてくる。空に峻厳とそびえ立ち、圧巻の姿容。リーダーはここで２０分時間を取り、登りたい人は登るようにと、自らはそこに留まった。
私も風景をゆっくりと楽しみたかったので、岩登りともなる頂きには行かずにその周辺を歩くことにした。稜線には数えきれない程の小さなお地蔵様が並べられている。

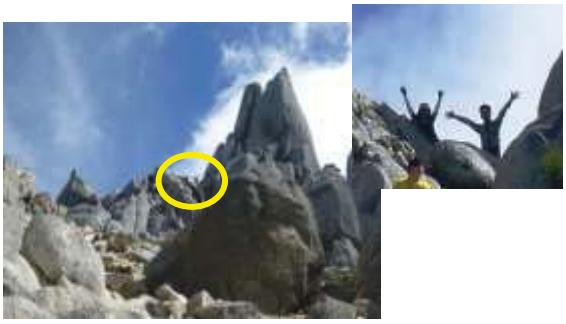
計画では白鳳峠から広河原へ降りることになっていたが、風が強いのでルートを変え青木鉱泉へのドンドコ沢を降りることになった。かつてお地蔵さんを担いでこの急な沢をドンドコ、ドンドコと降りたのだそうだ。お地蔵さんをお借りすると子宝に恵まれるという言い伝えがあったという。

それはほんとうに厳しい道だった。降りるだけではなくアップダウンの繰り返しが嫌という程続くからだ。途中、川を流れる音が間近になり、幾つかの滝に出会うが、足が棒のようで展望台まで行く気力もない。

ようやく青木鉱泉に着いたときには１５時を過ぎていたから下山道を８時間以上歩いたことになる。青木鉱泉の宿は木造２階建てで雪見障子のある瀟洒な作りで、裏は深い山に抱かれた別荘の風情。鉱泉でゆっくり足を伸ばし、さすり、ようやく生き返った。

帰りはバスを待つ時間も惜しくタクシーで甲府まで戻ることになった。だが国道を過ぎ駅に入る道は恐ろしく渋滞していたので、タクシーの中から店を予約したのは正解だった。駅前にある小作で熱々のほうとうを食べながら生ビールで乾杯をし、全員無事の長い行程を互いに喜びあった。

すべての予定を完遂できたことに多いに満足し感謝を捧げた夏の山行だった。



「30 分間で登れるところまで！」
勇姿、貞子さんと宮野さん

子供のカモシカ

概　要

山名	鳳凰三山		
月日	平成２５年８月３０日～３１日		
山域	南アルプス北部	地形図	1/25000　鳳凰山
形式	山小屋／テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３B
目的	南アルプス展望及び南アルプス縦走		
費用	約２万円	交通機関	JR　タクシー
日程 1日目	常磐線我孫子駅05:31→新宿0630/0700（ｽｰﾊﾟｰあずさ１号）→甲府 0828/0840（ﾀｸｼｰ×2）→夜叉神峠入口 0935/0950　⇒夜叉神峠 1055/1105⇒杖立峠 1230/1250⇒苺平 1430⇒南御室小屋（1510） 歩行時間：４時間４０分		
日程 2日目	南御室小屋 0505⇒薬師岳 0645/0650⇒観音岳 0715/0735⇒赤抜沢の頭 0850/0855⇒地蔵岳 0900/0930⇒五色滝 1100/1110⇒南精進の滝 1320/1325⇒青木鉱泉 1525⇒（日帰り入浴）1640（ﾀｸｼｰ×2）→甲府駅 1810（反省会:小作）1856（特急かいじ 122 号）→新宿 2035→柏・我孫子 2150 歩行時間：９時間 10 分		
ルート状況	・夜叉神峠までは緩やかなハイングコース、杖立峠に向かう途中から急勾配となる。その後林の中をゆっくり進む。（コースタイムに誤りありー５０分程） ・小屋から稜線まではかなりの急勾配、稜線上は天候により強風に注意が必要、ドンドコ沢は、標高差約 1700m、岩場・木の根が多く特に足元に慎重さが必要		
参加者	郷田(CL)、矢澤、武内、宮野、矢野裕、矢野貞、中村、新谷、桐生、斎田 男４名　女６名　計１０名		

概念図

＜８２７＞ウイズハイク

筑波山
（876m）

やまたんより転載

濡れた岩　慎重に一歩一歩！

御幸ヶ原にて

反省することしきり

１１班　　外崎　蓮

ウイズハイクを始めて今年で 12 年目になる。立ち上げた最初の年（平成 14 年）は、台風襲来のため房総の鋸山を断念して大洗水族館に行った。そして翌年鋸山に登り、晴れ渡った太平洋を満喫した。その後も台風で流れた年もあったが、当会のふれあいハイクとして続けられてきた。

今年は我孫子市の福祉バスの予約がとれなかったため、みずきのマイクロバス２台を使用させてもらった。福祉バスは 8:30 から夕方 5:00 までと時間に決まりがあるため、比較的交通量の少ない短時間で行ける茨城・栃木方面の山に限られてくる。筑波山は昨年、実行委員の間から次年度の山として候補にあがっていた。市内のどこからでも見え、ふるさとの山にしたいような馴染み深い筑波山に、一度は登らせてあげたい、という思いがあった。

当日はまずまずの天気で、稲刈り真っ最中の田園の中を筑波山に向かった。ところが、まわりの山はくっきりと見えているのに、筑波山の山頂部だけにガスがかかっている。雨よりはまだいいかと気を取りなおした。つつじヶ丘から

1班　女体山山頂　やったあ！

ロープウエイで女体山駅に上がり、ここから階段の多い坂道を歩き出す。女体山の山頂は狭いので、2 班ずつ交代で登ることにした。案の定、山頂からは何も見えなかった。白い「もや」の下には、箱庭のような美しい風景が広がっているというのに。筑波山に上がったら、いの一番に見せてあげたかったのに。

その間、3・4 班はガマ石へ移動し、そこで時間をつぶしてもらうことにした。あとで報告を聞いてからでは遅いのだが、3・4 班に同じ道を 3 度も歩かせることになり、特に足の弱い人、またサポートする側にも負担を強いてしまった。いただいた名簿の中にコメントがなかったこともあるが、近くで待機してもらえばよかったと悔やまれる。

ウイズハイクを終えてみて、自分なりに精一杯やったつもりでも大きな穴だらけであった。他にもあれやこれやと反省することしきりである。

我々にとっては何気ない道でも、足の弱い人にとっては一歩一歩の足運びの大変さが、一緒に歩いてみて気付かされた。ウイズハイクは下見から計画、実施まで気が抜けないが、行動を共にする利用者の方々のことをよく知っておくことの方が、もっと大切ではないか。次年度からは支援員の方々にも会議の席に出席していただき、情報交換を密にしていきたいと考えている。

「みずき」の明るさ

２班　　郷田　進

2 回目の参加となる。みずきの参加者の中にも見覚えのある顔がある。班ごと顔合わせ後マイクロバス２台に分乗し、筑波山に向かう。

つつじヶ丘からロープウエイで山頂に向かう。本来なら展望が素晴らしいのであろうが、あいにく視界はきりのため不良、ロープウエイを降り女体山に向かう。

岩階段の登り、各利用者にフォローがつき、慎重に歩を進める。記念撮影後の下りの悪路は、濡れていることもあり更に難航を極める。一人に２～３人つきそい本当に慎重に一歩ずつのあゆみとなる。健常者との違いを痛感する。その分、無事昼食会場の広場にたどり着いた時には、大きな拍手があがる。

みずき利用者の明るさと清々しさに励まされ、当たり前に登山が楽しめる喜びを感じる一日であった。

2 班　素晴らしい笑顔

歩き始めはこわごわ

３班　齊田　記代美

利用者１名が欠席し、2 名となった。　バス内で利用者への質問では、１人は園芸班、もう１人はお菓子班との答えが返ってきた。

ハイクキングは、ロープウェイを降り、がま岩を目指した。下見の時は少し下ったところと思ったが、利用者の方と歩くと一瞬道を間違えたかと思うほど遠くに感じられた。　歩きはじめ利用者２人は支援者の方を頼りにしているので、私たちは周りから声掛けをするのみであった。そのうち少しずつ馴染んできて、がま石から女体山に登り返すときには手をつないで登れるようになった。歩きはじめは一歩足を出すのもこわごわと歩いていたがだんだんと自信が少しついたようで自分からずいぶん足を前に出せるようになった。

また声掛けや手をつないだり、肩を貸したりするだけで、利用者は汗びっしょりになりながら一生懸命に歩いてくれた。　山頂に着いた時や昼食場所についたときの達成感のある笑顔が印象に残りました。

3班　ハイポーズ　！

足に優しい山の選定を

４班　　桐生　恭子

前日の天気予報で途中から雨具を着るようになるかと心配していた雨にならずほっとした。前日の雨のせいか岩がぬれていて滑りやすくなっていた。

４班は利用者３名のうち１名欠席であった。利用者１名は難なくこなしていたのが、他の１名の利用者の脚力が前者と比較してその差が大きかったとおもう。

昨年のように健脚チーム、のんびりチームのように班分けをして、のんびりチームの歩行を少なくするような体制をお願いしたいと思った。

また、先にガマ石に行きそのあと登りかえして女体山の山頂に行くコースだった。結果として女体山、ガマ石を余分に往復させてしまうことになり、利用者にもサポートするほうにも負担が大きかったと思った。

下の広場で待っていてもらうという選択肢を取らなかったことを反省している。

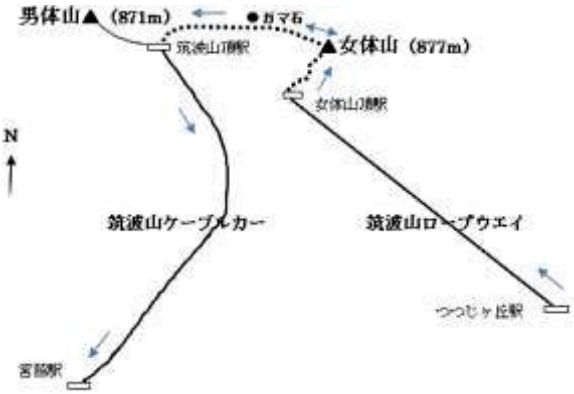
今後考えていただきたいことは、安全性を考えると、筑波山のような岩の段差のまちまちな登山道を上り下りするのではなく、歩きやすい（岩のない）足に優しい山の選定をお願いしたいです。

昼食はいつものように食担さんのおかげでおいしくいただいた。ありがとうございました。

ガマの油売りの口上を楽しむ

4班　女体山　頑張った！

概念図



はじめは一歩足を出すのもこわごわ

概　要

山名	筑波山		
月日	平成 25 年 9 月 7 日（土）		
山域	筑波山塊	地形図	1/25000　　筑波
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	障害福祉サービス事業所の利用者さんと共にハイキングを楽しむ。		
費用	1,500 円	交通機関	マイクロバス２台（みずき所有）

日程	我孫子駅北口ふれあい広場 8:20/8:35→守谷→下妻道の駅（トイレ休憩）9:55/10:10→つつじヶ丘駐車場 11:10/11:30（ロープウエイ）→女体山駅 11:35⇒女体山山頂（１班と２班）11:45/11:55（３班と４班はガマ石へ）⇒1・2 班と 3・4 班が御幸ヶ原の途中ですれ違う 12:20⇒1・2 班ガマ石 12:30/12:35⇒休憩広場 12:55（最終到着４班 13:15）全員で昼食/13:50⇒御幸ヶ原茶店前広場 14:00（写真撮影・自由行動）⇒ケーブルカー山頂駅集合 14:30/14:40（ケーブルカー）→宮前駅 14:50⇒筑波山神社参拝⇒大駐車場 15:20/15:30→千代川農産物直売所 16:00/16:26（トイレ休憩と買い物）→我孫子駅北口ふれあい広場着 17:35（解散） ＜歩行時間：約２時間＞
ルート状況	・ロープウエイ女体山駅からジグザグに坂道を登ると、10 分ほどで御幸ヶ原の突端に出る。女体山の山頂は右手へ一登り。山頂直下の反対側には、白雲橋コースの登山道が上がってきている。白雲橋コースの頂上直下は非常に足場が悪く、泥まみれの岩が晴天時でも滑りやすい。 ・同じように御幸ヶ原の登山道もゴロゴロした石の泥んこ道で、非常に歩きづらい。その上、思いのほかアップダウンがある。 ・御幸ヶ原の茶店手前の登山道わきに、休憩や昼食に適したテーブルの置かれた広場がある。団体の場合でも利用しやすい。その上、高い木々が日を遮ってくれる。
参加者	**１班**：外崎（L）、宮野（SL）、石塚、中村隆 利用者：大林、徳本、成嶋、支援員：寒竹、金子、松丸、小学生：松丸 **２班**：郷田（L）、中村育（SL）、瀬田、本田 原田、利用者：勝代、山本、楠家、支援員：小野、清野 **３班**：斉田（L）、飯沼（SL）、清家、武内、 利用者：中村、及川、支援員：田中、三嶋 **４班**：桐生（L）、高橋英（SL）、品田、箕輪完、 利用者：根本、加納、支援員：吉水、渡邊 参加者　岳人あびこ 17 名　みずき利用者 10 名：支援員９名　小学生１名　計 37 名

ロープウエーに乗って

＜８２８＞

笠ヶ岳・至仏山
（2228m）（2058m）

郷田　進

紅葉と尾瀬ヶ原の大パノラマ

尾瀬ヶ原と燧ヶ岳（至仏山からの眺望）
笠ヶ岳　天気良し眺め良し

から南北に望む日本百名山の「燧ケ岳」と「至仏山」、前者は数年前踏破済、残りの至仏山はあこがれの山の一つであった。台風の過ぎ去った直後、まさに台風一過の快晴の秋晴れの中の山行である。箕輪リーダー以下８名（男４名、女性４名）我孫子・柏から出発し、上野で新幹線利用で目的地を目指す。上毛高原駅からジャンボタクシー（乗員 10 名）を利用、人数が揃えばバス利用より、安価で早く楽に目的地に着ける。グループ山行に大きなメリットである。本山行では、地図読みの教育実習担当を仰せつかり、各人行きの新幹線車中から各人に地図読みの復讐及び本山行での地図読みの準備（ここはどこでしょう？）をして頂く。

初日は、鳩待山荘で荷物をデポし、身軽になって笠ヶ岳を目指す。オヤマ沢田代分岐までは、良く整備された登山道である。分岐後は、ぬかるみが点在する悪路もあるものの、途中好展望地が数箇所あり、紅葉を愛でながらの快適な稜線歩きが楽しめる。前方には正に傘の形（正三角錐）の笠ヶ岳が観れる。最後、急登のザレバを登ると（至仏山、燧ケ岳に劣らない）正に 360 度の大パノラマが広がる。ゆっくり大展望を楽しみながら至福の時間を過ごす。同じ道をピストンし山荘を目指す。少し時間を要してしまい

山荘の者に心配をかけてしまったようである。余裕ある行動が必要と反省する。

鳩待山荘は、食事（デザートつきバランス食）、トイレ、部屋など尾瀬の表玄関に相応しい民宿並みのサービスを提供してくれる山荘である。特に登山後の入浴は、本当にありがたい。食後、明日の行程のミーティングを行う。地図読みの成果か約１０００ｍの急登３時間が各人真剣に心構えをしていたようである。足の捻挫が気になる高橋英さんは、とりあえず山の鼻まで同行し、その後を考えるとのことであった。（結果的に、本人の強い希望により至仏登頂を皆と果たす。）帰りの時間、目標時間、登山上の留意事項等綿密に打ち合わせる。

２日目、朝5時には前の広場に大勢の登山者、夜行便で尾瀬を目指す人たちである。あらためて紅葉の時期の尾瀬の人気を知る。我々も民宿並みの朝食をすませ、０６３０に山荘を出発する。気温は４度ほど、冷気の中で朝日がまぶしい。さすが山の秋を感じる。標高差１，０００ｍの上りを意識してか普段おしゃべりな女性陣も真剣に歩を進めている。終始後方に尾瀬ヶ原、燧ケ岳そして山々の景色を楽しめる登山道が、急登の苦しさを忘れさせてくれる。雨天ならば滑りやすい蛇紋岩も晴天のため気にならない。各人のがんばりと周りの景色（荷物の軽さも：一部山荘にデポ）のおかげでコースタイム（3H）を上回るタイムで至仏山を登りきる。

青空と蛇紋岩に抱かれて（至仏山）

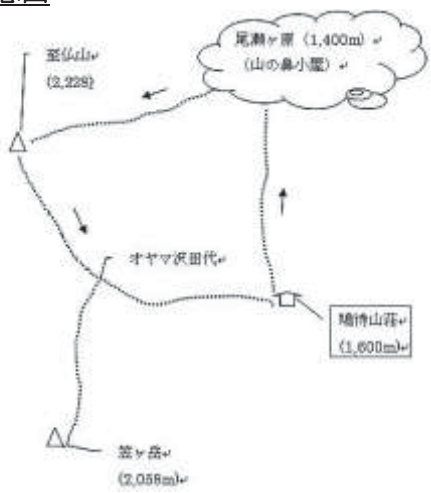
余裕ができ、山頂でゆっくり休憩（お昼も）し、前日に続き大パノラマを満喫する。尾瀬ヶ原に燧ケ岳・平ケ岳、遠方には赤城山、武尊山、谷川岳、日光白根、鳥海山など登りたい山が目白押しである。その後稜線沿いに小至仏を経由し昨日のオヤマ沢田代の分岐を目指す。そして、昨日と同じ慣れた道（3回目）で山荘を目指す。予定より早い１３４０に鳩待山荘到着。その後、昨日と同じジャンボタクシーで移動、尾瀬戸倉温泉（ぷらり館）でゆっくり温泉につかり山行の汗を流す。当館は、露天風呂もあり温泉の質も良く料金も安く（500 円）お勧めである。上毛高原駅前の蕎麦屋で山行を振り返り（本会では、反省会と称する）、帰路につく。

尾瀬の紅葉を愛でる方法は色々あるが、終始登山道から紅葉と尾瀬ヶ原が楽しめる本コース（至仏山登山）はおすすめの一つである。きめ細かい企画をしてくれた箕輪リーダーと各役割りを積極的にこなしてくれた各参加者に感謝し、充実した山行を噛み締めている。

概　　要

山名	笠ヶ岳・至仏山			
月日	平成２５年９月２７日（金）～２８日（土）			
山域	尾瀬	地形図	1/25000 至仏山・藤原	
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ	
目的	美しい秋の尾瀬、至仏山・笠ヶ岳を楽しむ。蛇紋岩を探す。			
費用	約 26,000 円	交通機関	ＪＲ＋新幹線）、Ｊタクシー	
日程	1日目	湖北駅 5:19→我孫子駅 5:31→柏駅 5:35→上野駅（新幹線）6:04/6:42→上毛高原駅 7:53/8:00（ジャンボタクシー）→鳩待山荘 9:20/9:53⇒オヤマ沢田代 11:46⇒小笠 12:50/12:55⇒笠ヶ岳 13:40/14:00⇒小笠 14:50/14:55⇒オヤマ沢田代 15:55/16:00⇒鳩待山荘 17:10　〈歩行時間６：３０〉		
	2日目	鳩待山荘 6:25⇒山ノ鼻小屋 7:15/7:30⇒（約 30 分毎に 4 回休憩）⇒至仏山 10:30/11:00⇒子至仏 11:50/12:00⇒鳩待山荘 13:40/14:20（ジャンボタクシー）→尾瀬戸倉温泉（ぷらり館入浴）15:10/15:50→上毛高原駅（反省会）17:00 /18:22→上野駅 19:34/19:34→我孫子駅 20:32　〈歩行時間６：３０〉		
ﾙｰﾄ状況	・笠ヶ岳へのルートは台風の影響もあり、倒木や水たまり等が多くあり、思いの外、時間がかかった。 ・至仏山へのルートは鳩待峠から尾瀬ヶ原に下りて、上り専用のルートをとった。			
参加者	箕輪完（L）、郷田（SL）、高橋英、本田、斎田、新谷、村越、矢澤 男性４名　女性４名　計８名			

概念図



花になった4姉妹（小至仏）

ツリフネソウ

ホソバトリカブト

エゾリンドウ

＜８２９＞

甲武信ヶ岳
（2475m）

高橋　芳恵

奥秩父主脈

甲武信ケ岳山頂

10 月 11 日

アンケートで好きな山は？と問われ自分の今まで出かけた山を思い浮かべた。これまで登ったどの山も好きな山だったけれど、あえて言えば東北の山と奥秩父と回答した。

今回、経験豊かな矢野貞子リーダーが計画された奥秩父、甲武信岳に参加させていただいた。山行の効率を考え、塩山駅前のタクシー会社のサービスで会議室の提供を受け前夜泊とした。早朝大弛峠に到着した時には激しい風と大雨で大急ぎ近くのトイレに飛び込むこととなった。雨具を整え、すぐ近くの大弛小屋で朝食をとらせていただいた。小屋には１組の泊り客が朝食中であったが、管理人の人柄も含め、山小屋らしい小屋であった。皇太子さまが登山されたこともあり、登山口から木の階段が整備されていて、登り始めの体にはかえって堪えた。

大弛小屋から 30 分程で前国師、さらに 15 分程で北奥千丈岳（2601m）、国師が岳（2592m）と是非行きたかった奥深い山があまりにも簡

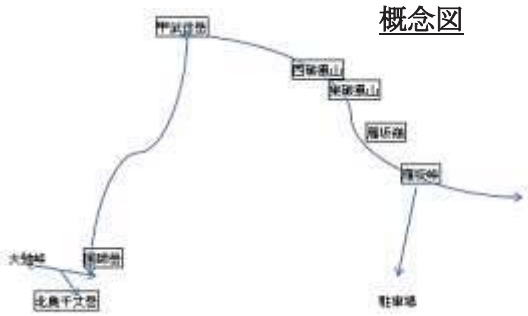
単に登ることができることに驚いた。
この縦走路は看板に緑の回廊とあるだけに苔むした緑のマイナスイオンが体に心地よく、シャクナゲの木が続くこの道を花の時期に来てみたいと思った。国師のタルのあたりは倒木が多く、何度も跨いだり、下をくぐったりして進む。落葉樹が少ないためか紅葉は少ないが、豊かな水が森を包んでいる感じがした。両門の頭（2263m）付近の岩壁には注意と大弛小屋で指示をいただいたが難なく通過した。金峰山の千代の吹き上げ付近の方がはるかに上である。富士見（2373m）までは急な登りがあり必死に登った。1時間半で千曲川
流遊歩道の分岐があり、手前の水師から目指す甲武信岳がしっかり確認できた。ガレ場を急登しあっけなく山頂に到着した。山頂は甲武信岳の由来のとおり埼玉県、山梨県、長野県、環境庁の標識が示されていた。我がグループだけの静かな山頂からは雲に隠れていた富士山がみるみる姿を現し、紅葉と今まで縦走してきたやまなみを存分に眺めた。山頂から 15 分下った所に奥秩父にふさわしい風情のある甲武信小屋がある。最近、ソーラーシステムを取り入れ、トイレを改修し使いやすくなったとのこと。今夜は我がグループと単独者の８名のみ。小屋の外でゆったりと休憩時間を過ごし、昨夜、山行部長の旧知のＳさんから差し入れられたご当地ワインと巨峰の相伴に与かった。タイムリーに今日は同行のＮさんの誕生日とあってバースデイパーティーの祝宴となった。2400mの高地の冷え込みはかなりなもので夕食時前からストーブにかじりついていた。夜，満天の星を久しぶりにしばし眺めた。

10 月 12 日

5 時 45 分出発。木賊山は巻道を選び、賽の河原から歩きにくい急坂を破風山避難小屋へ下った。しっかりした避難小屋の前で休息。天気は快晴、西破風山（2318m）からは富士山、木賊山、甲武信岳、金峰山が一望され来し方を確認し、明るい紅葉の山を楽しんだ。このあたりもシャクナゲの群生である。岩だらけの稜線を上下し東破風山、さらに１時間で三角点のある平らな雁坂嶺（2289m）に到着した。その先の雁坂峠は広く、明るい、素晴らしい展望の峠であり「日本三大峠　雁坂峠」の看板があった。遠くには下山地点の鉄橋が確認できる。雁坂峠は日本の交通史上もっとも早くから人の行き来が記録された峠と言われ、武田信玄の時代には狼煙場が雁坂峠に設置されていたという。甲州と武州を結ぶ交通の要衝としての往還路は2000mの高さがあり、昔の人々の脚力には驚くばかりである。

下山路はカヤトの斜面をジグザグ、ジグザグと下り、川に沿ったザレ道を進む。川べりで昼食の後、林道を下り、12 時 10 分下山口、雁坂トンネル料金所駐車場に出た。予約していたタクシーで塩山温泉に直行、途中、Ｓさんの知り合いの巨峰農園でおいしい巨峰のお土産まで買える楽しいおまけもあった。
奥秩父主脈縦走路のうち、大弛峠から雁坂峠に至った今回の計画は期待どおりの素晴らしく充実した山行であった。秩父から雲取山を経て金峰山、増富温泉までを奥秩父主脈縦走路といい「かもしか山行」で４泊５日を要するとの
もしか山行」で４泊５日を要するとのことであるが、この素晴らしい山域の縦走をぜひ実現したいと念じている。

概念図



稜線を行く

甲武信ケ岳

概　要

山名	甲武信ヶ岳		
月日	平成 25 年 10 月 10 日(木)～10 月 12 日(土)		
山域	奥秩父	地形図 1/25000	金峰山　雁坂峠
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	秋の奥秩父を楽しむ		
費用	18,500 円	交通機関	ＪＲ・タクシー
日程 1日目	我孫子駅 19:03→新松戸→西国分寺→塩山 22:21→タクシー宿泊所 22:30		
日程 2日目	塩山（4:50)→大弛峠（5:45）⇒大弛小屋(6:00/6:50)⇒前国師（7:25/7:30）⇒北奥千丈岳（7:43/7:45）⇒分岐(7:50/8:00)⇒国師ケ岳(8:05/8:10)⇒国師ヶ岳のタル(9:55/10:05)⇒東梓(10:43/10:55)⇒両門の頭⇒昼食（12:10/12:40）⇒富士見下（衣服調整）13:00/13:05⇒千曲川源流遊歩道出会(13:50)⇒甲武信ヶ岳(14:15/14:35)⇒甲武信小屋(15:50)　＜歩行時間:6 時間＞		
日程 3日目	甲武信小屋（5:45）⇒木賊分岐(5:55)⇒賽の河原（衣服調整）6:15/6:20⇒破風山避難小屋（6:50/7:00）⇒西破風山(7:40/7:50)⇒東破風山（8:15/8:25）⇒雁坂嶺（9:20/9:30）⇒雁坂峠（9:55/10:15）⇒昼食 11:15/11:30⇒林道終点（11:40）⇒雁坂トンネル料金所前（12:10/12:50）→塩山温泉（13:30/14:50）→反省会（15:10/16:15）塩山（16:31）→高尾→西国分寺→新松戸→我孫子（19:30）　＜歩行時間:6 時間＞		
ﾙｰﾄ状況	・大弛峠に降りたら横殴りの雨だった。峠付近は風が強く紅葉の葉すべて落ちていた。タクシーから見たトイレで合羽を着て小屋に向かったら小屋はタクシーを降りた目の前だった。 ・大弛小屋で朝食、休憩は有料と言われたが雨が降っていたため小屋で食事。 ・国司ノタルまでは針葉樹が多く苔むし、倒木が多く雨に濡れて滑りやすかった。 ・富士見までの登りが直登でつらかった。 ・頂上には埼玉、山梨、長野標識があった。 ・甲武信小屋は我々7 名と他 1 名だった。明日は 70 名の予約が入っているとのこと。 ・木賊山は巻き路をいった。 ・破風山避難小屋はきれいな小屋だったが水場まで 20 分が難点。 ・雁坂峠は笹原の見通しの良い所。峠まで下ってきたら木々が紅葉していた。 ・雁坂峠からの下りは歩きやすい道だが渡渉箇所が 2 か所と沢をわたる所がある。 ・雁坂トンネルの料金所前からタクシーに乗った。		
参加者	矢野貞(L)、大畠(SL)、高橋芳、田村、中村育、村松、郷田男 2 名　女 5 名　計 7 名		

＜８３０＞

燧ケ岳
（2356m）

品田　千恵子

雪を冠ったナナカマドの実　笹の葉

雪の残る燧ヶ岳山頂

秋晴れの良いお天気。
沼田駅からの乗車でしたが上毛高原駅発のバスはすでに満席で増便はなく、寿司詰め状態のまま２時間くらい立ちどうしでした。
　それでも大清水からの林道は、乾いた落葉がハラハラと落ちる中、歩くのは気持ちよくて足も進む、見上げる木々の先には山ブドウの実が所どころ目につき、甘酸っぱくおいしかった。
途中おいしい岩清水を飲み一休憩し、三平小屋に到着、外崎さんによる小豆たっぷりのお汁粉は本当においしかった～。
今まで晴れていた空模様が急に寒さと共に小雨が降り始めた。三平小屋で昼食をとった後、小屋脇の木道へと進む。木道は修繕が行われており、途中、一方通行となっていた。長蔵小屋までの尾瀬沼の草紅葉は寒さの中、最後の季節を迎え、こんもりとした斜面に立つ、白い幹のダケカンバとの黄葉が絵画のようでした。
１日目の宿は長蔵小屋別館で、６人部屋にはコタツもあり、トイレも洋式で湯量豊富な風呂もあって、本館、別館ともにキレイに手入れされており、快適な山小屋泊りとなりました。
消灯時には小雨だったのに、夜中、窓打つ強風雨で目を覚め、明日のお天気が心配になりました。

早朝、目を覚ますと小雨と風、空にはまばらではあるが星が出ていて、変な天気？。朝食を５時４５分に食べ、小屋の前で写真を撮り、出発する。このころになると空模様も落ち着きホット安心する。
長蔵新道入口には台風の影響と平成１５年の地震の影響で、地図記載より１．５倍の歩行時間を見るようにと標識が立っていた。赤い実を沢山つけたナナカマドとオオシラビソ、ダテカンバの急な登坂を楽しみながら進む。
ミノブチ岳近くになると笹の上に冠雪が見られ、足を止めていると下山者が「先の様子が心配なので引き返します」と下りて行った。
本日の山行予定をみんなで話し合った結果、予定通り山行することになる。いつもの山行より、安全かつ慎重に行動するよう注意を受け、頬打つ冷たい風の中、一歩一歩進んでいった。
ミノブチ岳から俎ぐらの途中、尾瀬沼方面を見下ろすと雪を冠したナナカマドの赤い実と笹の緑のコントラストが見事で、あちこちシャッターの音が聞こえた。
俎ぐらの頂上には雪はなくここが冠雪の境みたいだ。頂上には大勢の登山者で混んでいたので集合写真を撮り、ゆっくりする間もなく下山を開始した。
御池側からの登山者が泥だらけになりながら「良く、捏ねておきました。」と一言あり、ああ一聞かねば良かったと不安になりながら下りました。間もなく良く滑る岩と着地した足元には良く煉られた泥、それに段差のある急坂には閉口しました。熊沢田代、広沢田代の木道は落ち葉が重なり、水を吸っていてこれまたスケートを履いたようによく滑った。とにかく良く滑って、良く煉られた泥に足を取られながら無事、御池バス停まで着くことができました。
帰りは檜枝岐「駒の湯」で入浴タイム。広間がなかったので会津高原尾瀬口駅で反省会の予定でしたがお店が一軒もなく、残念ながら電車の中で御つまみをポリポリ食べながら無事、山行を終える事ができました。
いろいろな経験ができ、楽しい山行となりましたことをリーダーをはじめ皆さんに感謝いたします。

ミノブチ岳と尾瀬沼

燧ケ岳に向かいます

雪景色に見とれながら

概　要

山名	燧ヶ岳		
月日	平成 25 年 10 月 12 日（土）～13 日（日）		
山域	尾瀬	地形図	1/25000 三平峠・燧ヶ岳
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
目的	①　尾瀬で最初に建てられた山小屋に泊まる　②　尾瀬の草紅葉		
費用	約 23,000 円	交通機関	JR、私鉄、ﾊﾞｽ
日程 1日目	我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:14（上越新幹線とき 301 号）→高崎駅 6:58/7:10（上越線）→沼田駅 7:56/8:40（関越交通バス）→大清水バス停 10:36（20 分遅れ）/10:50⇒奥ブドウ沢橋 11:37/11:42⇒一ノ瀬休憩所 12:02/12:07⇒岩清水 12:35/12:40⇒三平峠 13:16/13:20⇒三平下 13:35/14:25（お汁粉タイム）⇒長蔵小屋 14:43 着（長蔵小屋泊） ＜歩行時間：約 3 時間＞		

	2日目	長蔵小屋 6:17⇒長英新道⇒ミノブチ岳 9:05/9:10⇒俎嵓（2346m・三角点）9:48/10:02⇒熊沢田代 11:13/11:16⇒広沢田代 12:13⇒御池駐車場 13:08/13:10(会津バス）→桧枝岐役場前・駒の湯入浴 13:30/15:00（10 分遅れ・会津バス）→会津高原尾瀬口駅 16:05/16:23（会津鬼怒川線）→新藤原駅 17:02/17:05（東武鬼怒川線）→下今市駅 17:56/17:59（東武日光線）→東武動物公園駅（東武伊勢崎線）→北千住駅 19:53/20:09（常磐線）→我孫子駅 20:32 着　＜歩行時間:約 6 時間 10 分＞
ルート状況		<u>大清水～長蔵小屋</u> ・大清水から一ノ瀬休憩所までは約 1 時間の林道歩き。休憩所の先で三平橋を渡ると、すぐ左側に登山道がある。 ・沢を右岸に渡り返し、坂道を登って行くと、登山道脇に湧き水の岩清水がある。 ・尚もジグザグの坂道が続くが、1700mあたりから緩やかになり、針葉樹林に囲まれた三平峠に着く。登りはここで終り。 ・三平峠から 10 分下ると三平下、尾瀬沼のほとりに着く。休憩所やトイレ、ベンチがあり、格好の休憩場所。 ・長蔵小屋は、三平下の木道を右手へ 20 分。 <u>長蔵小屋～俎嵓</u> ・平坦な大江湿原を横切り、尾瀬沼畔の浅湖湿原の脇から長英新道に入る。緩やかな登りで歩きやすい。ただ、雨の降ったあとは相当にぬかるむ。 ・2210mのミノブチ岳で、沼尻平からの登山道と合流する。ここからは、足場の悪い岩場を越えて俎嵓へ。ここに三角点がある。2356mは柴安嵓で東北の最高峰。 <u>俎嵓～御池</u> ・俎嵓の直下も急な岩場。急坂が緩んだあたりから道がぬかるみ出す。腐った木道が大変滑りやすい。 ・俎嵓から 340mほど下ったあたりに広大な熊沢田代が広がる。木道をやや下り気味に行くと、鞍部に 2 つの池がありベンチがある。 ・少し登り返した先から再び急坂の下り。深くえぐれて石がゴロゴロした登山道は非常に歩きづらい。 ・さらに 180mほど下った先に広沢田代が広がり、池塘が点在している。 ・このあとも石がゴロゴロした沢状の坂道を下り、御池の登山口に出る。
参加者		外崎（L）、武内（ＳＬ）、北川、品田、石塚、宮野　　男性 3　女性 3　計 6 名

＜８３１＞

倉見山
(1256m)

石塚　あさ子

紅葉のトンネル　ふかふかの道

紅葉に負けない笑顔で

先週の山行が残念ながら雨で中止になり、今日は楽しみにしていました。
雄大な富士の展望と紅葉、両方の期待を持って富士急行線東桂駅で降りました。11 月にしては暖かく山行日和なのですが、遠くの視界がはっきりしないのが不安です。
それでも、東桂駅前で民家の屋根の間から富士山の頂をぼんやりながら見る事が出来、さらに期待が高まりました。駅から 10 分位歩き、お寺の墓地と墓地の間が登山道の入り口で、準備体操をして歩き始めました。間もなく急な登りになり、歩くリズムがまだつかめないうちで少し不安になりましたが、矢沢さんの約 30～40 分位で尾根に出るよ、の言葉で気持ちを切り替えて歩きました。大小さまざまなどんぐりが沢山落ちていてびっくり、雑木林の木の種類が沢山あるのでしょう。そんなどんぐりを踏みしめながら又木々の間から見える下の街並みを眺めながら更に登っていくと徐々に色づいた木々が増え木漏れ日をあびて輝く紅葉がとても綺麗でした。快適に尾根を歩き山頂前の最後の急登をのぼり、山頂に到着です。

山頂に来て初めて富士山を見ることが出来るはずですが、残念ながら見えませんでした。
ここで昼食タイムです。時間もゆっくり取って、みんなから回ってくる美味しい物をいただきました。山で食べる食べ物はなんて美味しいのでしょう。
しばらく休んで、エネルギーの補給もしましたし、出発です。いきなり急な下り坂です。下って少し登ると見晴し台です。富士山の展望が素晴らしい所のはずですが、ここでも残念でした。紅葉のもみじのトンネルを感激しながら落ち葉でふかふかの登山道を快適に歩きました。食べられる？そうなキノコを見つけて会話が弾み、又途中休憩では、もみじの歌をみんなで大合唱？し、さらに歩くと富士見台に着きました。やはり、富士山は見えないものと思っていましたが、後ろから見えるよ！の声。雲の合間から頂上のみですが見えました。大きい富士山の頂でした。ほんの数分ですが・・・感激を胸にジグザクの道を下山しました。民家の垣根の真っ赤に色づいたみごとなどうだんつつじを見ながら、無人の寿駅に着きました。振り返ってみると、今登ってきた倉見山の紅葉がとても美しく、なごり惜しい楽しい山行でした。充実した一日でした。有難うございました。

概念図

ナナカマドの実

バックに富士山が見える(？)はず　↓

概　要

山名	倉見山		
月日	平成２５年１１月２日(土)		
山域	富士急沿線	地形図	1/25000 河口湖東部
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	「富士山」展望		
費用	約4,000円	交通機関	JR、富士急
日程	我孫子 5:50→新松戸→西国分寺→高尾 7:46→大月 8:34→東桂 9:04/9:40⇒長泉院（登山口）9:35⇒尾根 10:22⇒休憩（あと100m）11:25⇒倉見山（昼食）11:50/12:30⇒堂尾山富士見台 13:50⇒下山口 14:30→寿駅発 14:58→大月発 16:48 歩行時間約４時間４０分		
ルート状況	・最初申し込みの時点で１２名だったのでSL に高橋芳恵さん、大畠さんをお願いして２班に分けて計画しました。ただ３連休の初日ということもあり最終人数は８名になりました。班は分けずにみんなでのんびりあるきました。 ・東桂駅前でかろうじて富士山を確認できましたがこの日はとうとう下山し始めてからしか富士山は確認できませんでした。 ・紅葉もところどころにみられ、もう少し日が照れば・・・という天気でした。柏、我孫子あたりは雨が降ったようでしたが、一日高曇りの中帰りの電車で富士山のシルエットに見送ってもらいました。		
参加者	桐生（L）、高橋芳・大畠（SL）、箕輪完、矢澤、新谷、矢野裕、石塚 男性２名　女性６名　計８名		

＜８３２＞

大持山～子持山～武甲山
（1294m）　（1273m）（1295m）

村松　敏彦

わああ～きれい！！

妻坂峠から始まる紅葉の尾根歩き

奥武蔵の山に登るのは何年振りだろう。この方面は時間的には近いのだがなかなか足が向かない。確か、数年前に忘年山行等で正丸峠周辺に登ったのが最後の様な気がする。良く考えてみるとこの地域には圧倒的な山とか高山に咲く花とか眼を見張る様な景色とかはない。しかし、改めて今回の山行で感じた事は近くでありながら、日本の原風景な山村と低山ながら自然が豊かに保存されている貴重な地域だと思う。(武甲山を除いて)今後はもっと足を向けて良い山域の様な気がする。

秋の深まる 11 月初旬、名前負けするようなスピードの西武特急レッドアロー号と西武秩父駅経由タクシーで男３名、女５名の賑やかなグループが鳥居と怖い様な狛犬２体に迎えられて武甲山登山口に着く。武甲山は２百名山の一座で名前の由来は日本武尊が自らの甲（かぶと）をこの山の岩室に奉納したと云う伝説からと言われているようだ。登山口の駐車場には 20 数台の車がこの山の人気の高さを誇っていた。ほとんどの人が所謂、表参道登山口から登って行くが我々は妻坂峠を目指して右側の林道から大持山～子持山を経由して武甲山を目指す。小さな沢沿いの道をゆっくりしたペースで程なく峠に着く。はるか昔、秩父と武蔵を結ぶ交易の峠として又、鎌倉街道として、多くの往来が有った事だろう。（畠山重忠が鎌倉に出任する時、妻がこの峠で見送ったと云われてる）1 体の石像が寂しそうに迎えてくれた。峠からは山頂がガスに覆われた石灰岩で白い武甲山が見える。まだ、まだ遠い。

妻坂峠から武甲山までの尾根歩きは実に楽しい。まず、大持山まではいくつかのアップダウンを繰り返しながら広い尾根を左斜面に彩る赤、黄色、薄緑に輝く紅葉に歓声が上がる。「わああ～きれい、すてき」と途切れる事のない声が静かな自然林に響く。程なく左から怖い様な名の鳥首峠からの道が上がって来ると上部が欠けた三等３角点のある大持山山頂に着く。山頂は狭く曇り空のため展望はない。

記念写真を撮ると子持山へと急ぐ。岩と岩の間を抜けたり登ったりして変化のある稜線を「面白い尾根歩きだね」と話しながら、武甲山から縦走してきたグループと狭い登山道を譲りながら急坂を降りる。目の前に大岩が現れると広い子持山の山頂はすぐそこだ。風が冷たく気温は相当低く雲の流れも速い。晴れていれば武甲山が美しい三角錐の姿を見せてくれるだろうが今日は上部にガスがかかり残念だ。

武士平から上がって来る分岐で昼食にする。大勢の女性と同行すると、とにかく色々な食べ物が次から次へと差し入れが来る。単に口を開けていれば食べ物が入って来るようだ。広い防火帯のような道を降りると「シラジクボ」に着く。この名の由来は何所から来ているのだろうか。右に朝の登山口に降りるルートを見送って直進する。ここから武甲山を見上げるとカラマツ林の黄葉が素晴らしい。左斜面のカラマツの黄色と右斜面の杉林の緑のコントラストが見事だ。1 枚の錦絵を見ているようだ。標高差、約 250ｍを一気に登って武甲山御嶽神社のある広場に着く。その奥に展望台が有って 1,304ｍの標識と方位盤がたっている。しかし、展望はガスのため真っ白だ。足元では姿は見えないが石灰岩採掘のためのブルドーザーのエンジン音が唸りを上げていた。（以前、山頂はもっと北にあった。S52 年に三角点が移動したとのこと）標高の高い場所には珍しい水洗のトイレに寄って浦山口駅への下山路に掛かる。30 分経過頃アクシデントが有ったが幸い怪我もなくほっとする。山登りには細心の注意が必要だ。周囲を見渡すと厳しい冬を迎える山々が最後の饗宴を繰り広げていた。長い林道歩きも数軒の茶屋と秩父礼所 28 番の橋立寺の絶壁が見えると浦山口駅は近い。休日、2 本ある池袋駅直通電

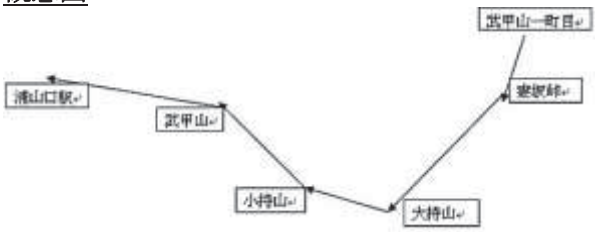
車に乗り帰途につく。

武甲山山頂展望台

概　要

山名	大持山～小持山～武甲山		
月日	平成２５年１１月９日(土)		
山域	奥武蔵・秩父	地形図 1/25000	原市場・正丸峠・秩父
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B
目的	紅葉を楽しむ。		
費用	４，０００円	交通機関	ＪＲ・西武池袋線・タクシー
日程	我孫子駅 5:31→日暮里駅→池袋駅 6:50→西武秩父駅 8:12→武甲山一丁目 8:35/8:45⇒妻坂峠 9:45/9:50⇒大持山 10:55/11:05⇒小持山 11:45/12:05⇒シラジクボ 12:45/12:50⇒武甲山 13:20/13:35⇒長者屋敷の頭 14:10⇒林道入口 15:10/15:15⇒そばや 15:50/16:10→浦山口駅 16:15/16:38→西武池袋駅→日暮里駅→我孫子駅　**行動時間７時間５分**		
ﾙｰﾄ状況	・登山口には車を止めるスペースがある。 ・武甲山山頂にはトイレがある。 ・登山道は整備されていてわかりやすく、岩稜帯もしっかりしていて、危ない箇所はない。 ・下山道は行程が長く、所々痩せているが注意して歩けば問題はない。		
参加者	田村(L)、村松、高橋芳(SL)、大畠、矢野裕、郷田、矢澤、石塚 男３名　女５名　計８名		

概念図



＜８３３＞

九鬼山
（970m）

中村　育子

太陽に輝くモミジの下でご機嫌のみんな

天気が良く、楽しむ時間がたっぷりあった。
登りの「杉山新道」は、２万５千分の１の地形図には記載されていない。が、富士急線禾生駅からの道は標識がしっかりしていて迷うことはなかった。頂上直下の急坂を登ると富士見平だ。正面に富士山が大きく見える。太陽の光を浴びて輝いていた。１団体が富士を真正面に見ながら、弁当を広げている。私達は邪魔をしないよう遠慮してそのまま頂上に向かった。
食後は三座同定。滝子山、百蔵山などを教えてもらう。ツェルトの使い方、写真の撮り方も教わっての講習会。広げてくれたツェルトの中に「入ってみて。暖かいから」と貞子さんがいう。入ってみる。本当に暖かかった。基本的な研修を繰り返すことが大事なことだと実感する。
帰路は富士見平まで降り、そこからは来た道とは違うルートで田野倉駅に向かう。登って来る時素通りした富士見平には、もう誰もいなかった。正面に富士、左に御正体山、右に三つ峠山。富士は逆光に照らされて、雪の日陰になったところが鉛色に光っていた。そこがぎらぎらと氷の塊ように見える。晩秋の午後の、逆光の富士には物悲しい雰囲気があった。
道はなだらかになり、暖かい日差しの中を、枯葉を踏みしだきながらのんびり歩く。紅葉も下るにつれて鮮やかになってゆく。サンサンと輝く太陽の光を受けた大きなモミジの木が目の

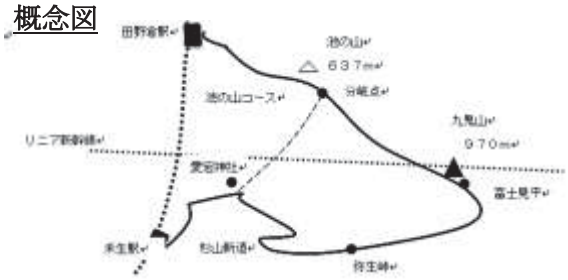
前で黄色に燃えていた。こんな素晴らしい景色に出会えた、楽しい山行であった。
　斎田さん、ご一緒のみな様、楽しい山行を有難うございました。

富士見平から見た午後の富士山

概　　要

山名	九鬼山		
月日	平成２５年11月１７日(日)		
山域	富士急行沿線	地形図 1/25000	大月、都留
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	晩秋の山歩きと富士展望		
費用	¥２５００（反省会の費用を除く）	交通機関	JR電車・富士急行線
日程	我孫子駅千代田線 5:50 発→新松戸駅 6:03/6:10→西国分寺駅 7:07/7:13→高尾 7:45/7:46→禾生駅 8:44⇒落合橋 9:05⇒杉山新道入口(身支度・体操) 9:20⇒弥生峠 10:20⇒富士見平 11:00⇒山頂 11:15(昼食・研修)⇒富士見平 12:05⇒天狗岩 12:20⇒愛宕神社分岐 12:45⇒池の山 13:20⇒池の山登山口(下山口)13:50⇒田野倉駅 14:13→大月駅(反省会) 15:21→神田 17:22→上野 17:54→我孫子 18:30　　歩行時間　３時間　２０分		
ﾙｰﾄ状況	・危険なところは特になし 分岐点などは標識がしっかりしていて見逃さなければ迷うことはない ・山頂直下は急坂がある		
参加者	齊田(L)　外崎(SL)　箕輪完　矢野貞 瀬田　中村育　矢澤 男２名　女５名 計７名		

概念図



＜８３４＞

鶴島御前山～高柄山
（484m）　（733m）

坂巻　明

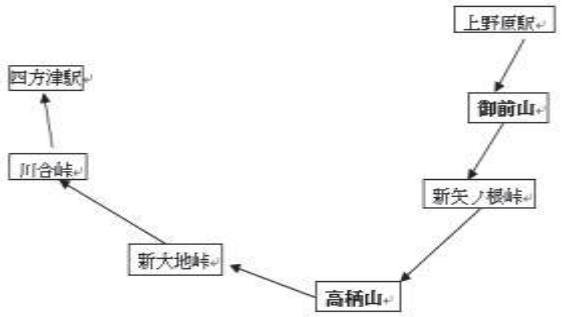
落ち葉踏みしめ　最高の気分

高柄山山頂で

山行の日はいつも４時過ぎには起きる。あたりはまだ真っ暗である。
休日おでかけパスを購入して集合場所へ行く。集合時間より１５分前だが、もう、皆さん集まっている。今日は１１人の山行である。一行が新松戸で武蔵野線に乗り換え、いく駅か過ぎたあたりで明るくなり始めた。電車の中での話題はもっぱら高尾山の混雑ぶりである。昨日行ってきた人、先週行ってきた人がいて話は盛り上がる。紅葉シーズンになるとミシュラン三ツ星の高尾山の頂上はイモ洗い状態になるらしい。私たちはそれを横目に一路目的地に向かう。予定通り上野原駅に到着した。天気は快晴で絶好の山行日よりである。駅前の食堂の一角を拝借し、大畠リーダー挨拶のあと、ラジオ体操と柔軟体操で入念にウォームアップをした。
いざ出発である。山々の景色を見ながら桂川を渡り、民家のならびを抜け、お墓を過ぎて登山口に着く。ここから御前山頂上まで一気に登る。汗が噴き出てくる。かなりの急登である。途中、景色はほとんどないが、振り返ると上野原の街並みが、北側の山並みをバックにきれいに広がっている。空は真っ青、風はほとんどなく、爽やかでとても気持ちいい。
頂上で一服した後、高柄山へ向かった。目指す

山はそこに見える。黄色く色づいた木々の間を縫いながらアップダウンを繰り返す。見える山に近付かない、なんか変だと思っていたら、ピークを二つ登ったところでコースを間違えたことに気付いた。予定コースにもどり、山行を続ける。大よそ、一時間半のロスとなってしまった。
気を取り直して登りだす。途中、新矢ノ根峠で昼食をとった。頂上付近になると、木々の葉は黄色に赤色もまざって華やかさを増す。日差しが葉のコントラストを作りだし、美しいハーモニーを奏でる。落ち葉を踏みしめながら最高の気分をあじわう。
高柄山頂上に着くと景色はパっと開け、沿線の山並みがはっきりと映し出される。
記念写真をとり、景色を楽しんだあと予定コースを進む。千束経由のエスケープルートを検討したがリスク回避した。
新大地峠付近の登山道では林道が並行して走り、コースの一部をカットすることができた。道路わきにベンチとテーブルあり、そこで休憩をとった。ちょっとした茶話会になるところを辞めて歩きだす。御座の松で初めて富士山を見ることができた。富士山が頭を出したのはこれ一回きりでした。
ここからは、下り道だけである。皆の足は速くなり始める、なんとか明るいうちにつければと気持ちがはやる。事故のないように注意して四方津駅を目指した。
１１人の大メンバーでありましたが、怪我もなく、無事、ゴールインできました。
反省会は我孫子駅もどり、コ・ビアンでやりました。ついでに私の誕生日を祝ってもらいまして有難うございます。プレゼントのカスタードプリンを美味しく頂きました。
天候に恵まれ、メンバーに恵まれ、ハプニングありと楽しい一日でした。お疲れ様でした。

<u>概念図</u>



紅葉に包まれて

概　要

山名	鶴島御前山 ～ 高柄山		
月日	平成２５年 11 月 24 日(日)		
山域	中央沿線	地形図	1/25000 上野原
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	紅葉と展望		
費用	約 2,600 円	交通機関	ＪＲ
日程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:46/5:50→西国分寺 6:47/6:55 → 高 尾 7:22/7:26 → 上 野 原 駅 7:55/8:13⇒登山口 8:43/8:47⇒鶴島御前山頂 9:20/9:27⇒栃穴御前 10:10/10:21⇒矢の根峠方面への分岐 11:05⇒休憩 11:11/11:16⇒休憩 11:56/12:00⇒新矢ノ根峠（昼食）12:05/12:30⇒高柄山頂 13:30/13:45⇒休憩 14:10/14:15⇒大丸（林道出合）14:30⇒休憩 14:35/14:45⇒四方津駅 16:10/16:36→神田→上野 18:13/18:23→我孫子駅 19:00(反省会） 解散 20:00 ＜行動時間 約８時間＞		
ﾙｰﾄ状況	・鶴島御前山は登山口からいきなりの急登で途中岩混じりの急登になりロープが張られている。 ・鶴島御前山から高柄山への分岐に標識はない。分岐は双子岩の手前を左折するが一見登山道とは思えない急な足場の悪い斜面をジグザクに下る。注意が必要。 ・急なアップダウンの多い山。		
参加者	大畠(L) 桐生(SL) 矢野貞(SL) 箕輪カ 本田 中村育 新谷 坂巻 郷田 矢澤 石塚 女８ 名 男３名 計 11 名		

＜８３５＞忘年山行

伊予ケ岳
（336m）

やまたんより転載

スリルある山　懇親会　たっぷり遊んだ！
伊予ヶ岳から大房岬自然公園へ

ガレ場

GM　矢野　貞子

総会資料を見て自分が忘年山行の担当になっていて気が重くなった。しかしながら山が決まっていたので、宴会場を探せば良いのだと思い気が楽になった。下見については桐生さんが気楽に OK してくれたので安心。一人では気づかない所もチェックしてくれ、一人で来なくて良かったとおもった。

当日は本当に良い天気に恵まれ、山も宴会もばっちり。雨だったらどうしょうと考えていたこともうそのよう。また、食坦の４期生が用意してくれたきのこ汁がとてもおいしかった。

レクレーションに用意したじゃんけんゲームもみなが楽しんでくれたようでほっとした。

様々なところで、皆に助けられ無事、任務を遂行できた。皆様ありがとうございました。

さるチーム

忘年山行に参加して

L　坂巻　明

以前は大型バスを仕立てて出かけたもんだが、最近は会員数の減少によりマイクロバスが定番になっているのは少し寂しい。房総館山方面は高速道路の延長で大変便利になった。目的地の富浦まで２時間で行けるのはうれしい。

ラジオ体操のあと登山開始した。途中、急斜面の岩場ではちょっとしたスリルを味わった。

天候に恵まれ、伊予ヶ岳頂上からは雪をかぶった富士山や、大島がはっきりと見えた。３６０度の視界である。東京湾は広くて、なだらかな海を行き交う大型船が止まっているように見えた。風もなく冬晴れの中で景色を堪能した。

お猿さんチームはゆっくりペースを意識して歩いたので行動時間はいつもの２倍をかけた勘定だ。

下山後、大房岬国定公園に行き、キャンプ場で宴会となった。ゲームでおおいに盛り上がった。我チームの成績は最下位だ。ゲームの成績はともかく、事故もなく無事帰途につけて良いの一日を過ごせた。任務完了！！

お疲れさまでした。

ツワブキ

トベラ

山頂から見た富士山

たぬきチーム

忘年山行　感想

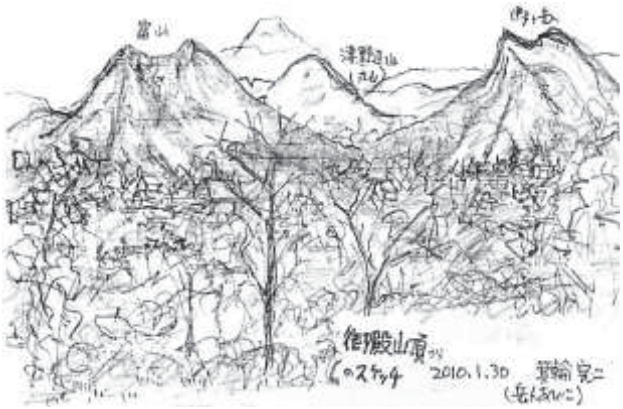
L　箕輪完二

忘年山行に、地元でもあり温暖な房総の山を選んだことは良い企画だと思いました。天気にも恵まれ矢野貞子さんはじめ実行委員の方々の熱意を感じます。内容も食担の４期生（５名）の皆さんを中心に美味しい料理をとり揃えていただきました。特に薄味で鶏のダシが効いたキノコ汁はおいしく大き目の食器におかわりをしました。４期生の団結力をみました。房総の紅葉も見ごろで山頂では皆さん声を大にして称えていました。

但し下山途中、たぬきチームの出し物（替え歌）の能書きを考えるあまり、坂道の曲がるべきコーナーを真っ直ぐ行ってしまい、少しオーバーランしてしまいました。昨年の忘年山行の教訓が生きていないようです。行事山行の余興は、あらかじめ実行委員会で準備して当日、実施する単純明快なゲーム・歌等を考えるべきだと考えます。

今年１年を振り返るにふさわしい山行になったと思います。ありがとうございました。

この感想を書く中で数年前に県連の房総ロングハイクでのスケッチ原画を見つけました。御殿山からの富山、伊予ヶ岳、富士山がばっちり描かれており改めて感動しました。



きつねチーム

忘年山行　感想

L　中村育子

伊予ケ岳の頂上に着いてみると、素晴らしい景色が広がっていた。先ず青い海が目に飛び込んできた。そして房総の山々、右に富士山、伊豆大島、眼下には紅葉した森と農村の風景。あちらこちらから細い煙が立ち昇っている。うっとりするような景色を眺めて、ぼーっとしていられたのは何と幸せなことだったかと思う。

わがきつね班は、頂上までの道のりは最後を行くことにして、のんびり歩いた。しばらく歩く

と、休憩しましょう、と誰かから声がかかる。ロープのところでは、「足の置き場を前の人が教えてあげて」と誰かがアドバイスしてくれる。何とも有り難い掛け声だった。そして、サブリーダーの郷田さんはどんとしんがりを守ってくれていた。少し遅れて小川さんと郷田さんが頂上に到着したとき、思わずみなさんから拍手が沸き起こった。小川さんへの暖かい拍手だったが、感動の拍手でもあったと思う。

下山後の懇親会では野菜たっぷりの鍋料理と沢山の差し入れが振舞われた。誰もいないキャンプ場は太陽の光を受けてのどか。しばらくおいしい料理に舌鼓をうった。

きつね班の余興は、外崎さんが考えてくれた。二人一組になり、後ろの人が、前の人に物を食べさせる。後ろの人は羽織で顔を覆っているので前の人の顔は見えない。後ろの人は、前の人の口の検討をつけて、後ろから手をのばしてお茶を飲ませバナナを食べさせる。お茶はこぼす、バナナはとんちんかん。うまくいかないので受けた。リーダーが考えるはずの余興であった。

一日たっぷり遊んだ。矢野貞子さんや食担の方々をはじめ、色々な仕事を担当された皆様、とても楽しい一日を有難うございました。

概念図

概　要

山名	伊予ヶ岳		
月日	平成 25 年 12 月 1 日（日）		
山域	房総	地形図	1/25000　金束
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ｂ
目的	房総の紅葉(忘年山行)		
費用	3,500 円	交通機関	バス
日程	我孫子駅北口 5:30→発 5:38→北千葉ＩＣ 6:25→鋸南宮里ＩＣ7:40→道の駅富楽里とみやま 7:25/7:40→天神社登山口駐車場着 7:50　平群神社境内(準備体操) 登山開始 8:10⇒展望台 8:48⇒伊予ヶ岳南峰(H336,6m)着 9:25⇒北峰着 9:30⇒南峰発 9:50⇒平群神社境内全員下山 10:55 登山は班毎＜行動時間２時間 45 分＞ 駐車場バス発 11:10→大房岬自然公園駐車場着 11:15⇒第一キャンプ場着 11:40 懇親会とゲーム 12:10/14:15　集合写真 14:40　駐車場バス発 15:15→房総の蔵お百姓市場 15:20/15:48→富浦ＩＣ15:52→市原ＰＡ16:37/16:50→千葉北ＩＣ17:55→我孫子駅北口着 18:55　(解散)		
ﾙｰﾄ状況	頂上直下のガレバはロープもあり、朝が早かったためすれ違う人も少なく、問題はなかった。		
参加者	たぬきＣ；箕輪完(L)、武内、飯沼、桐生、品田、中村隆、本田、矢野貞（GM） きつねＣ；中村育(L)、郷田、小川、外崎、矢澤、箕輪カ、田村、矢野裕 さ　るＣ；坂巻(L)、村松、大畠、瀬田、高橋英、清家、末永、原田 男 10 名　女 14 名　計 24 名		

＜８３６＞クリーンハイク

手賀沼一周

瀬田　映子

美しい自然と文学の道を歩く

滝下公園、ご苦労様でした

毎年実施される恒例の手賀沼一周クリーンハイクも今年で７回目。ゴミ袋・軍手・火バサミを持ち歩行距離約 23 キロゴミを拾いながら手賀沼湖畔を歩きます。初冬の手賀沼はことしも快晴です。Ａグループ１２名は水の館に８時集合、準備体操後出発しました。前半は神社や城跡・手賀沼を愛した白樺派の文人等の史跡に立ち寄っての活動です。最初に湖畔から少し離れた子の神神社・ツツジが満開の志賀直哉邸跡、杉村楚人冠邸跡と公園を歩きました。途中アビスタ玄関前に待つＢグループの２名と合流し参加者全員１４名がそろいました。初めて参加をするというＭさんはＮさんと「僕の方が上等だ！！」「私の方が上等よ」と火バサミの「みせっこ」をしています・・・「沢山ゴミを拾った方が上等よ」・私の一人言。　　手賀沼北川を西へ進み船戸城址へ向かっている途中我孫子で生まれ我孫子で育ったという散歩中の小父さん（我々より年配にみえたが）に出会った。歩きながらこの付近の昔～今日までの事を色々と話してくれた。が中身はあまり覚えていない。Ｂｕｔ、「生まれも育ちも死ぬまで我孫子よ」と言って我々の前から去っていった事だけは覚えている。我孫子の愉快な小父さんまたどこかで会いましょう！！

船戸の森の入口に沢山の実をつけた柿の木があった。甘柿か？シブ柿か・・・木の周りに沢山落ちていた熟柿をＨさん・Ｙさんと３人で食べた。「ウーン甘い！！」

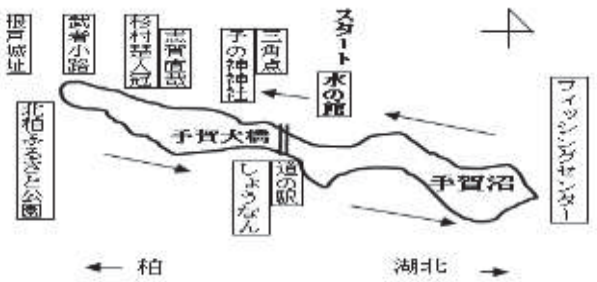
船戸の森を抜けると武者小路実篤邸跡がありました。今回は運良く中に入れ、手入れの行きとどいた庭を散策しながら紅葉を楽しむ事が出来ました。毎年参加しているのですが我孫子に住みながらゆっくり見ることのない邸内や公園を散策できるのはこの時ぐらいです。

森を下り１５分程行くと小高い丘の上に根戸城跡がありました。ここで記念撮影。昨年よりもかなり整備されているようです。

　北柏ふるさと公園で一休み。それぞれのビニール袋には空き缶・空きビン・たばこの吸殻等がかなり入っています。大堀川の橋を渡り手賀沼マラソンスタート地点に着くと広場では大勢の家族連れが遊んでいました。土手沿いの道はゴミが少なく歩くペースが早くなります。道の駅で昼食となりＫさんが下山しました。後半はフイッシングセンターまでの長い道のりを歩きます。野鳥の会の人・ジョギングの人・散歩の人等沢山の人に出会いました。前をハイペースで歩いている仲間に、初めて参加したＭさん「ゴミ拾っているのかな！！」。フイッシングセンター前で休憩。これからまたひと歩きして滝の前団地の東屋に到着。藤棚下でＴさんの持参した計りで回収したゴミを計る。ビン 650g 缶 1.551g　　ペットボトル 960g　　燃えるゴミ 5260g 以前と比べるとゴミはかなり減っているようだ。しかし、毎年思うのだがフイッシングセンターの周りはゴミがイヤと言うほど沢山ある。沼南の土手沿いはゴミが少ない。我孫子市と柏市の違い？？今年も遊歩道で寒桜をみつけました。

　今回も地元に美しい自然や素晴らしい文学の道があることを確認したり、再発見をしたりしながら、手賀沼をきれいにする一役を無事終了しました。

概念図



ランナーも自転車も　↑

柿　甘かった　→

概　要

山名	手賀沼一周		
月日	平成２５年１２月８日(日)		
山域	我孫子市　柏市	地形図	1/25000 取手
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A
目的	手賀沼を一周歩き、ふるさとの自然を見直す。足慣らしと親睦。 手賀沼周辺をきれいにするため、ごみを拾って歩くクリーンハイク。		
費用	なし	交通機関	集合から解散まで徒歩
日程	A グループ；手賀沼畔の「水の館」駐車場 08:00 集合、準備体操、08:05 出発⇒手賀沼北側道路を西へ⇒子の神神社にて三等三角点(三等)を確認 08:25⇒志賀直哉邸跡 08:40⇒杉村楚人冠公園 08:50⇒手賀沼公園（アビスタ玄関前）にて B グループと合流 09:00/09:10⇒手賀沼北側の道（自動車道路と平行の北側の道）を西へ⇒船戸城址（船戸の森）09:25⇒武者小路実篤邸跡 09:35⇒根戸城址 10:10⇒北柏ふるさと公園 10:30/10:40⇒北柏ふるさと大橋を北から南へ渡る⇒手賀沼南側の遊歩道を東へ⇒道の駅「沼南」にて昼食休憩 11:55/12:30⇒手賀沼大橋は渡らず、手賀沼南側遊歩道を東へ⇒フィッシングセンター13:40/13:45⇒手賀沼北側遊歩道を西へ⇒滝下公園にてゴミ集約・計測 14:35/14:45⇒水の館駐車場 15:05 手賀沼大橋北側の「COCOS」にて反省会。15:10/16:30 解散。		
ﾙｰﾄ状況	・手賀沼の南側は遊歩道で、自転車とコースが分けられているので安全であるが、北側は一般道なので、自転車や自動車に要注意。互いに声を掛け合って安全に注意した。 ・ゴミ収集結果；合計 8,411g		
参加者	小川　外崎　高橋英　清家　村松　本田　菊地　箕輪カ　箕輪完　瀬田　中村育　矢野裕　矢澤　石塚 男性６名　女性８名　計 14 名		

＜３８７＞

高川山
(970m)

中村　育子

雪煙舞う富士

空気が澄んで、素晴らしい登山日和りだった。登高中は落葉した木々の間からずっと富士山を見続けた。よい山である。

高川山には富士急線禾生駅で下車した。山は駅を挟んで九鬼山と対照的な位置にある。桂川を超えて１０分ぐらい歩くと浄泉寺に着く。その境内で坂巻さん指導の体操をした後、参加者 17 名は 3 班に分かれて出発した。沢沿いの林道を上り下りすること４０分。シラノサワと古宿コース分岐に着く。

ここからは急坂である。沢から離れてジグザグの道を登りかけた時、先を行く班から「花だ！花！」という歓声が聞こえてきた。冬の、日陰になった所に花なんか咲いているのだろうか。私たちの班はその後から小首をかしげながら登った。辿りついてみると、霜柱が白い花のひと群れのようになっているのだった。真綿のような白い「花」は、ぜんまいの様に丸くなっている。自然の不思議な現象だった。

尾根に上がると富士山が見えはじめた。木の葉の茂る時期には見えないが、葉を落とした木立の間からは、はじめ左前方に、そのうちずっと左手に見えるようになった。半分以上登ったころから富士山は絶えず見の前に見えた。強風に煽られた雪煙が、富士の左側から、晴れ渡った空に舞い上がっている。冬晴れの空に富士はそびえて立ち、ああ、きれいだとみんなため息をつく。

頂上直下は危険な箇所だと事前にリーダーが言っていた。長い一枚岩が続き、鎖とロープを頼りに登る。全員登りきるのに少し時間を要したが、その間、リーダーは上から声をかけ続けてくれた。岩を登りきるとそこは頂上で、抜群の眺望が開けていた。視界 360 度。富士山がすぐ目の前に見える。その手前に御正体山、倉見山、眼前に九鬼山。方位盤によれば、東に陣馬山、西に南アルプス、北に雁ガ腹摺山、遠くに丹沢。狭い頂上は大勢の人で賑わっていた。私たちも食事にする。風は冷たいが昼の太陽に背

中をぽかぽかと照らされて、差し入れの果物や漬物をいただきながら至福の時を過ごす。2 時間も歩けばこんなに素晴らしい山に登れるのだ。隣に座っていた女性は柏の方だった。
帰りは田野倉駅に向かう。登山道は木の葉で埋まっていた。枯葉を歩くのは気分が良いが、滑りやすくもあって、木の根が枯葉の中に埋もれてつまづきそうになる。用心、用心、と声をかけあいながら下りる。
途中馬頭観音があった。同行のｋさんの顔は観音様に似ているので、そこに並んで立ってみて、というとｋさんはにっこり微笑んだ。
麓に近づいたころ、リニアモーターカーの線路が見え出した。九鬼山から高川山の真下を「リニア」の実験線が貫通している。山から見下ろす線路はかなり興ざめだ。
大月駅で反省会をする。立ち寄った店のセットメニューは安くておいしく、みんな満足した。初リーダーの瀬田さん、同行の皆さん、楽しい山行を有難うございました。

高川山山頂

強風に雪が舞う→

概　要

山名	高川山		
月日	平成２５年１２月１５日(日)		
山域	富士急沿線	地形図	1/25000 大月・都留
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	富士山の眺望を楽しむ		
費用	３１００円	交通機関	ＪＲ・富士急行
日程	我孫子駅（千代田線５両目）5;50→松戸→西国分寺→高尾 7:４5/7:46→大月 8:34→禾生駅 8:44⇒登山口（身支度･体操）9:15⇒古宿 9:40⇒シラノサワ・古宿コース分岐 10:00/10:05⇒高川山 11:10/11:45⇒松葉コース・馬頭観音 12:35/12:40⇒稲村神社 13:00 田野倉駅 13:25/14:19→大月 14:30 反省会→大月 15:47→高尾 16;36/16:53→西国分寺 17:26→我孫子 18:41 ＜歩行時間３時間２５分＞		
ﾙｰﾄ状況	・山と高原地図には「シラノサワ・古宿コース」は記載されていないが新しい山と高原地図には記載されている。 ・林道を２５分程歩いていくと「シラノサワ・古宿コース」分岐点の標識がある。シラノサワコースを進みますが、ここからやっと山道となる。 ・シラノサワコースは一部道が荒れていて狭いところがあるが全体は整備されている。 ・急斜面の九十九折りが続きやがて尾根沿いにでる。南側に富士山・北側の眼下にはリニア実験線や町並みが見える。 ・山頂手前の尾根は多少のアップダウンがある。山頂直下の岩登りは三点確保が難しく、鎖を使って腕の力で登った。 ・山頂は岩が多く平ではないが十分な広さがある。 ・下山道はほとんど岩交じりの道。登山口から田野倉駅までは２０分程の車道を歩く。		
参加者	ﾅﾃﾞｼｺ班瀬田（L）･箕輪完（SL）、ｱﾂﾓﾘ班桐生（L）･坂巻（SL）、ｺﾏｸｻ班斎田（L）・ 大畠（SL）、矢野裕・中村育・村越・矢沢・品田・本田・矢野貞・高橋英・外崎・原田・箕輪カ 男子５名　女子１２名　計１７名		

霜柱の花

＜８３８＞クリスマス山行

笠取山
（1953m）

北川　勝久

クリスマスソングとワインの雪の夜

小屋での XMAS

平成 25 年 12 月 21 日（土）
7:26 分高尾発小淵沢行の電車で待ち合わせ、今回のクリスマス山行参加者全員が無事に集合。8:44 分塩山に到着。天気は申し分のない快晴である。
塩山では、リーダーお知り合いの佐野さんと挨拶を交わし、佐野さんからは甲州ワイン「KIZAN」1.5L をいただき参加者全員大喜びである。今晩の宴会がますます楽しみになる。
登山口まではタクシーで向かう。山道を 1 時間程走って、一之瀬集落まで乗せてもらう。
道々雪があり、タクシーで登れるのもここまでであった。
ここから林道を歩いて、作場平の登山口へ向かう。1 時間程で到着。まずは腹ごしらえである。完全な雪道である。実はこんなに雪があるとは思っていなかった。膝下ぐらいまではあるだろうか。先行者が何名かいるようでトレースもついているのでとりあえずは一安心である。ラッセルの苦労はせずにある程度までは登れそうである。食事を済ませて歩き始める。緩やかな登りであるが、登り始めは慣れるまではいつもしんどいものである。トレースはついているものの、結構雪が深くてところどころある小さな橋を渡るには少々気を使う。
橋にはこんもりと雪が積もっており、慎重になる。12:30 頃に一休坂の分岐に到着。休憩を取って再び歩き始める。相変わらず緩やかな登りである。途中 2 名の男性と親子と男女のカップルが下山してきた。山頂まで行けずに降りてきたとのこと。笠取小屋から先はまだ誰も歩いていないのでラッセルがキツイだろうとの情報である。14:30 頃にやっとヤブ沢峠に到着。ここから 1 時間程で小屋に着くことを頼りに笠取小屋を目指す。相変わらず緩やかな登りである。15:30 頃にやっと笠取小屋に到着する。少々雲もでてきて寒い。
夕方になるとやはり冷え込んでくるのである。テントは持ってきたが期間外解放の小屋が「利用できそうなので利用させてもらうこととする。小屋には毛布と布団がたくさんあるのでこれを利用すれば何とか寒さも耐えられそうである。笠取小屋の諸施設は個人所有のものなのでありがたく使わせてもらう。荷物の整理などしてから机など出して宴会の用意をする。宴会ではクリスマス山行にふさわしい演出があり、クリスマスソングが流れる中、まずはビールで乾杯、ケーキにロウソクをのせてクリスマスの雰囲気を盛り上げる。続いて佐野さんからいただいた甲州ワインを飲み始める。食事はクリスマスらしくクリームシチューである。うまいのである。部屋全体が寒気に包まれる中で食べるあったかいクリームシチューは最高。面白かったのはクリスマスソングは流れているのだが、寒さのため電池の消耗が激しいのかテープの回転速度が一定ではなく、音痴なクリスマスソングが気持ちを和やかにさせてくれたのである。満足のいく食事をして、20:30 頃就寝。部屋が広くて寒いので、みんなシュラフの上から毛布や布団を気の済むまで掛けて寝る。
12 月 22 日（日）
5:00 起床。布団をたくさんかけて寝たおかげでまったく寒さは感じなかった。
朝食は昨日のクリームシチューの残りと各自持参したもので済ます。
まだこの時間、外は真っ暗で星がきれいに瞬いている。今日も天気が良さそうである。食事を済ませ各自サブザックに荷物を詰めて笠取山を目指して 7:20 頃出発。まだ誰も歩いていない雪の中トレースをつけながら歩いて行く。膝ぐらいまでのラッセルを交代しながら進んで行く。新雪の中を我々だけで静かに歩いていくのも気持ちのいいものである。（体はきついけど。）

天気は素晴らしい快晴。言うことなしである。目指す山頂が目の前にあるので気を引き締めて登りにかかる。
結構な急坂であるので慎重にステップを切りながら登って行く。苦労しながら登っていき9:30頃ようやく笠取山山頂に到着。最高の天気で風もなく穏やかな感じである。富士山がクッキリと素晴らしい。写真を撮ったり食事をしたりして下山をする。小屋から約2時間。雪道の場合は標準タイムの倍はかかることがあらためてわかった。1時間程かけて小屋まで戻る。荷物の整理とパッキングを済ませて11:00頃小屋を出る。ヤブ沢峠、一休坂分岐を経て作場平登山口、一之瀬集落まで歩いて行く。タクシーに迎えに来てもらい14:30頃ほぼ時間通りに一之瀬の集落で落ち合うことができた。タクシーで塩山駅近くの温泉で汗を流し、中華料理屋で打ち上げを行い、無事下山となる。今回の山行はほんとに天候に恵まれ気持ちの良い山行であったと思う。

笠取山山頂

快晴の中、新雪を楽しむ

私がつけた道

概念図

概　要

山名	笠取山		
月日	平成25年12月21日(土)～12月22日(日)		
山域	奥秩父	地形図	1/25000 雁坂峠、柳沢峠
形式	テント泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｃ
目的	１．ホワイトクリスマスをテントの中で迎えよう。 ２．１年の山行の締めを奥秩父の原生林の中で。		
費用	約13,000円	交通機関	ＪＲ，ﾀｸｼｰ

日程	1日目	我孫子駅発 5:33→新松戸駅→西国分寺駅→高尾駅 7:26→塩山駅 8:44(タクシー)→一ノ瀬部落 10:05/10:25⇒中川橋 11:05⇒作場平橋登山口 11:25/11:45⇒一休坂分岐 12:35/12:45⇒ヤブ沢峠 14:40⇒笠取小屋（避難小屋）15:30 泊り 晴時々曇後雪　　歩行時間:4 時間 25 分
	2日目	笠取避難小屋発 7:20⇒雁峠分岐 7:50⇒笠取山 9:25/9:50⇒笠取小屋 10:55/11:35⇒一休坂分岐 12:55/13:10⇒作場平ら橋登山口 13:30/13:35⇒中川橋 14:25⇒一ノ瀬部落 14:30→塩山駅前 15:40(入浴と反省会)塩山駅発 17:51→高尾駅 19:10→西国分寺経由→我孫子駅 21:08 晴　　歩行時間:6 時間 35 分
ルート状況		・塩山駅から作場平橋登山口迄はバス、その他、公共交通機関はなくタクシーないしは車を利用する以外方法はない。（タクシー料金 9,800 円、乗車時間は約 1 時間） ・深い雪のためタクシーは予定の作場平橋登山口迄行けず、約 1 時間手前の一ノ瀬部落から歩く。 ・作場平橋登山口（トイレ有り）からは先行の登山者がいたため、トレースはついていた。それでも雪の中での歩行は無雪期に比べると相当アルバイトを強いられる。この辺で積雪量は 30～40ｃｍ。 ・山頂へのルートは幾つかあるが、我々はヤブ沢ルートを選択する。要所、要所に道標が有り、天候の悪い時以外は迷う心配はない。但し、多摩川の源流と思われる小さな沢を何回か渡る時、木道が凍っていたり、雪で足元が分かりにくいので注意が必要だ。 ・避難小屋が使用可能なため、テント泊は止めて避難小屋に泊る。。清潔な小屋で古い毛布、薄い布団など有る。小屋の外にはトイレが有る。 ・翌日、小屋から山頂まではトレースはなく、１ｍ近い積雪量のラッセルが続く。昨日、先行した登山者は笠取小屋まで来て山頂迄行かず引き返したようだ。 ・山頂直下の急登は登下降共、充分注意が必要。 ・下山は雁峠から亀田林業林道を経て新地平に降りる予定だったが深い雪とトレースがないとの理由で往路を戻った。 ・帰りの立ち寄り湯は塩山駅近くの宏池荘が便利。入浴料 400 円
参加者		村松（L）、外崎、武内、北川、郷田 男4名　女1名　計5名

＜８３９＞新年山行

大菩薩嶺～小金沢連嶺
（2057m）

田村　光子

白銀の峰　大パノラマ

聖・赤石・荒川三山

白峰三山

1 日目（1 月 11 日）晴れ

この冬一番の寒波到来で、本当に寒い中暗いうちに家を出る。塩山からタクシーで丸川峠登山口まで入る。駐車場は雪が凍り着いていて、タクシーもスリップしたりして滑りやすい状態であった。出発して直ぐに雪道の下りで凍っていた為アイゼンを装着する。沢沿いの林道を歩いて尾根に取りつくと、日の当たり具合で登山道が乾いていたり、雪道だったりを繰り返しながら登って行ったが、途中でアイゼンを外した。リーダーが凍っている所をピッケルで砕いてくれていたが、1450m 辺りから雪が多くなり、又アイゼンを装着する。

その時Ｙさんのリュックからアイゼンが崖下に落ちてしまったが、幸い 5mほど下で止まりロープを下ろし無事回収することが出来ました。丸川峠までは結構な登りで、うっすら汗をかいてしまいました。峠は雪に覆われていたが、風もなく富士山を眺めながら丸川荘前でゆっ

くり昼食を取ることが出来ました。丸川峠からは雪が深くなったが初めは傾斜もゆるく、景色と雪を楽しみながら登っていったが、山頂近くになるにしたがい傾斜が厳しくなり、やっとの思いで山頂に着くことが出来ました。山頂は展望もなく、思ったより時間が掛かってしまったので、写真を撮って直ぐに大菩薩峠に向かう。峠に向かう稜線は展望が開け、富士山・南アルプスを眺めながら歩くことができた。介山荘には4時過ぎに到着する。介山荘はきれいで、中に入った途端温かく、冷えた体には本当にありがたかった。
小屋には飲み水以外なく、お手洗い後のウエットティシュが用意されていた。又お酒とワインの差し入れがあり、快適な小屋でした。

2日目（1月12日）晴れ

朝食の時に御主人が「今日の朝の気温は－13℃で、去年は－3℃だった」との事、この時期にしては 30 年ぶりの大雪だそうです。大菩薩峠で御来迎を見て、記念写真を撮り7時に今年の山小金沢山（2014m）を目指し出発する。雪が深く、トレースも薄く、熊沢山までの登りに思ったより時間が掛かってしまい、参加者が多かったこともあり、小金沢山は断念し、石丸峠から裂石に下山することとなる。少し時間が出来た為、目の前の狼平まで行くことになった。狼平からの展望はすばらしく、甲斐駒・仙丈・北岳・間ノ岳・農鳥岳・荒川三山・赤石岳・聖岳・白銀の嶺が大パノラマとなって目の前に広がっていた。いつまで見ていても飽きない景色であったが、小金沢山をバックに写真を撮り、石丸峠に引き返した。峠から裂石までの下山路も積雪があり、何回も林道・道路を横切り、アイゼンも最後までつけて下った。峠から裂石までの下山も雪があったため思っていたより時間がかかり、大菩薩の湯に着いた時にはほっとしました。温泉で体を温め、塩山の駅前で反省会をして帰路につきました。久しぶりの雪山でしたが、2 日間とも天候に恵まれ、楽しく雪山を堪能することができ、ありがとうございました。

概　要

山名	大菩薩嶺～小金沢連嶺		
月日	平成２６年１月１１日(土)～１２日(日)		
山域	秩父大菩薩連嶺	地形図	1/25000 大菩薩峠
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	①新年山行　②富士山・南アルプスの展望を楽しみながら歩く		
費用	約 12.500 円	交通機関	ＪＲ、タクシー
日程 1日目	我孫子 5:33→新松戸→西国分寺→高尾→塩山 8:44/8:50(タクシー)→丸川峠分岐 9:25⇒丸川峠 12:15/12:40⇒大菩薩嶺 14:45⇒大菩薩峠介山荘 16:05(泊) ＜行動時間 6 時間 40 分＞		
日程 2日目	大菩薩峠介山荘 7:00⇒石丸峠 7:45⇒狼平 8:15⇒石丸峠 8:35/8:45⇒車道 9:35/9:45⇒上日川峠 10:40/11:00⇒裂石・大菩薩の湯 12:50/14:00（タクシー）→塩山駅前菊亭 14:15（反省会）→塩山 15:34→大月→西国分寺→新松戸→我孫子 ＜行動時間　5 時間 50 分＞		
ﾙｰﾄ状況	・丸川峠までの日当たりのよい稜線には雪の無い箇所もあったが、標高 1,450mを超える辺りからは雪が凍結、アイゼンは必須。岩場もあり結構きつい登り。 ・丸川峠を過ぎると雪は深くなったが傾斜は緩くなる。コメツガの美林の中の道は楽しい。 ・大菩薩嶺～大菩薩峠は展望が開け、富士山・南アルプスを眺めながらの稜線歩きが楽しい。 ・大菩薩峠～熊沢山の登りは雪が深く結構厳しかった。熊沢山からの富士山は素晴らしい。 ・石丸峠～裂石は、林道・道路を何回も横切る。石丸峠から最初の林道を横切る箇所は、地図とは異なり、実際は林道を 50m程下ったところで登山道に入る（道標あり）		
参加者	武内(L)、村松、外崎、高橋芳、矢野貞、矢野裕、北川、田村、桐生、本田、齋田、郷田、矢澤、石塚 男５名　女９名　計１４名		

嶺まで
あとひと息

ご来光の後、中里介山荘前にて　↑

2014mの小金沢山をバックに

概念図

＜８４０＞

シダンゴ山～宮地山

（758.m）　　（512m）

本田　愛子

山頂から駿河湾、大島、丹沢、箱根の山

ここ数日寒い朝が続き今朝は暗いうちに雪が降ったらしく畑が白くなっていた。
駅のホームに立っていると風が冷たく顔を刺す。今日の山行は丹沢山塊の近くシダンゴ（震旦郷）山の震旦とは、現在の中国を指す呼び名といわれる山(758.1m)で頂は雪になっているか、道が凍っているだろうと、この時期は低い山でも軽アイゼンを持参していく。
小田急新松田駅(8:00)で北川さんと待ち合わせ 9 名。寄（やどりき）行きバスで 20 分程山間に上がっていく。寄自然休養村管理センター終点で下車。バス中の広告に昨日からロウバイ花祭りをやっていて昨日の NHK で紹介されたとか周りで言っていた。
身支度をして登山開始(9:00)。すぐに大寺橋を渡るが、橋のたもとに道祖神が祀られていた。欄干を叩くと童謡のお馬のメロディが鳴る。集落を抜け、茶畑が点在する急な農道を登っていくと猪防護柵が現れる。防護柵の扉を通ると杉林に囲まれた急な山道へと変わる。すぐ後から 14～5 名の団体と女性 3 名が登ってきていた。しばらく進むと林道の終点に合流し、水場があるが涸れている。しばらくして道はつづら折りになり（シダンゴ山頂 20 分）の道標を見る。ジグザグ登って左へ曲がっていくと、まっすぐな道が上へ延びている。ひと登りしてアセビの植林に変わると山頂だった。(10:20)アセビの低木に囲まれた広い原っぱの山頂は、展望が素晴らしく、南は駿河湾や遠く大島が見え、東から北は大山や丹沢山塊、西は富士山や箱根の山々としばらく景色を楽しんだ。山頂は風が強く寒かったが雪がなく陽だまりで、リーダーがおしるこの準備をしてくれてお餅も入ったおしるこをたっぷりご馳走になった。山頂でゆっくり休憩して(11:20)道標に従って秦野峠方面に下りていくと、道が二つに分かれて立ち止まって地図を確認、左のほうへ下って暫く行くと分岐があり、道標に秦野方面と宮地山に分かれ

左の宮地山の方へ進む。送電線鉄塔を過ぎて急登をいくと 588m のピークがタコチバ山だった。(12:00)地図には記されてないため宮地山かと思ったが、少し下ったところに宮地山分岐があった。防護柵があり直登できず道を周り少し登ったところが宮地山山頂だった。(12:20)展望は南側だけ北側は防護柵で入れない。後から団体さんもきて賑やかにひと休みして先ほどの分岐に戻る。下りは 30 分ほどで大寺橋の手前に下りてきた。(13:00)早い下山だったのでロウバイ祭りを見に行くことになり、橋を渡り祭りの会場まで急な坂道を 10 分程上がって 200 円払って梅林の中を歩いたが数本だけ咲いているのを見て少しがっかりした。しかし、冬の陽だまりでお茶を飲んでのんびりするのも貴重なひと時だった。(14:40)バスで新松田駅に戻り村松さんのお薦めのお店で美味しいお酒とお料理を食べて、ゆっくり反省会をして帰る。今回は陽だまりでおしるこを作って下山してろうばいを愉しんでの、のんびり山行でした。

概念図

下山後の寄自然休暇村でロウバイ祭

宮地山

概　要

山名	シダンゴ山～宮地山		
月日	平成 26 年 1 月 19 日（日）		
山域	丹沢	地形図	1/25000 秦野・山北
形式	日帰り	グレード	１Ａ
目的	丹沢の山並みと富士を眺めながら、陽だまりをのんびり歩く		
費用	3,780 円	交通機関	電車・バス
日程	我孫子駅 5:33（常磐線各駅停車）→代々木上原駅 6:41/6:44（小田急線）→新松田駅 8:00/8:25（富士急湘南バス）→寄自然休養村管理センター（バス終点）8:50/9:00⇒大寺橋⇒水場 9:35⇒シダンゴ山 10:20/11:20（お汁粉タイム）⇒送電線鉄塔 11:45⇒588ｍピーク 12:00⇒宮地山分岐 12:10⇒宮地山 12:20/12:30⇒宮地山分岐 12:35⇒寄自然休養村管理センター13:00（ロウバイ祭り観賞）/14:40（バス）→新松田駅 15:10（打上げ）/17:34（小田急線）→代々木上原駅 18:55/19:05（千代田線）→我孫子駅 20:12 着　＜歩行時間：2 時間 50 分＞		
ルート状況	・シダンゴ山～宮地山の登山道は、寄自然休養村が開かれたとき、散策コースの一環として整備されたといわれる。そのためか地形図では登山道が分かりにくく、ガイドブックとネット検索でおおよその見当をつけた。 ・大寺橋を渡ったら右手へ曲がり、集落を抜けて農道の突端にある防護柵から登山道に入る。実際、山に入ると、要所要所に道標が設けられて迷うことはない。 ・宮地山へは、588ｍピークから下った三叉路から右手へ、いったん坂道を下り気味に巻いていき、明るく開けた斜面を登る。 ・寄自然休養村管理センターに戻るには、宮地山から三叉路に戻って右手の道へ。防護柵から農道に出て、今朝とは反対側から大寺橋のたもとに着く。		
参加者	外崎（L）、箕輪完（SL）、村松、北川、本田、矢野裕、矢澤、村越、大山 男性５名　女性４名　計９名		

＜８４１＞県連房総ロングハイク

嵯峨山・石尊山～烏帽子山
（315m）　（347m）　（277m）

武内　勇二

嵯峨山頂にて

（1 日目）水仙の花咲く里山を登る

小保田でバスを下車、水仙畑が点在する下貫沢に沿った車道を遡る。小さく開けた広場から嵯峨山登山が始まる。雑木とカヤが混在する斜面の所々に水仙が群生している。道端の花を手に取ってほのかな香りを楽しむ。小さな沢を横切り、途中鋸山への分岐を左に分けると程なく嵯峨山と書かれた小さな標識のある分岐に出た。直進すれば釜ノ台林道に出るが、嵯峨山へはここで右折し急坂を登る。アップダウンを何回か繰り返して嵯峨山の頂上にでた。小さな山の割には大きな標識が架けられていた。樹幹のため展望はない。陽射しを求めて小さく下ったところで昼食を取った。

釜ノ台林道の斜面には夏みかんが陽光を浴びて輝いていた。疎らに建物があるが、人の気配はあまり感じられなかった。暫く林道を下り、左手に小保田と書かれた道標に導かれて再び山道に入った。七曲りのジグザグ道を登ると、先ほどの嵯峨山への分岐に出た。ここからは往路を戻ることになる。小保田でバスに乗り、七里川温泉に向かった。

（2 日目）巨木・巨岩の原生林を歩く

今回の県連ロングハイクの参加は１２年ぶり２度目、前回（２００２年）は内浦県民の森に宿泊して伊予ヶ岳～冨山のコースだったので、石尊山～麻綿原～烏帽子山は全く初めてのコースである。１０年前新ハイククラブの道迷い騒ぎが大きく報道されたため房総の山は迷いやすいとの先入観があり、現に前回の参加時に、内浦県民の森内のピクニックで苦い思いも経験しているので余計その思いが強い。しかし県連はこの１０年七里川温泉を起点としたハイキングコースを歩いており、今回のコースは昨年に続いて２度目とのことである。房総の山を熟知している人にリードして貰えば迷う心配もない。労山に留まってよかったと改めて思う。

未明の雨で当初予定より３０分遅れの出発となったが、お蔭で出発時には雨がすっかり上がっていた。風があり少々肌寒いが、真冬ということを考えれば上々のコンディションである。当会の小川さんを始めとして全体で８名のリタイァー者が出たとのことで、総勢４２名が山歩きに出発した。リーダーは松戸山の会の桑原さん（県連ハイキング委員長）、多少ゆっくりではあるが、歩き振りは年齢を感じさせない。

石尊山頂上苔むした石の祠にお参りした後、電波塔を横切り麻綿原への尾根歩きが始まった。コース全体原生林の尾根道で展望は殆んどないが、歩きだし直後に遠くの山のテッペンにパルテノン神殿を思わせる形に切り揃えられた木々のかたまりが見えた。

常緑広葉樹の中の道は冬でも緑の森林浴が楽しめ、房総はさすが南国と思わせる。崖下のイイギリ（飯桐＝葉っぱで飯を包んだ）の赤い実が木々の緑に変化を付ける。右に曲がり左に曲がったりしながら小さなアップダウンを何度も繰り返す。行けども行けども景色は変わらない。さすがに森林浴も飽きた頃、看板がぶら下げられているモミの巨木があった。「ぼく清澄山のもみ太郎です　みなさん迷い込みけがなど気つけてね・・・」ここから麻綿原までほぼ１時間の行程とのことである。もみ太郎から３０分ほどで分岐はうっかりすれば直進しそうな道がついているが、今はロープが張ってあった。麻綿原へは左方面へと導く道標があった。遭難騒ぎが起きた地点とのことである。

樹林を抜け明るく開けた斜面に出た。ようやく麻綿原に到着した。初日山天拝園の標識付近で、妙法生寺を眼下に見下ろし外房の海の展望を楽しみながら、斜面に腰を下ろして昼食を取った。昼食後、妙法生寺前から道路を下り、ゲートをくぐって東大演習林内の林道を行くと程なく目印となる「ツクバネ樫」前に出た。ここから林道に別れを告げ薄くなった踏み跡に分け入った。一般の人は東大の許可が無ければ

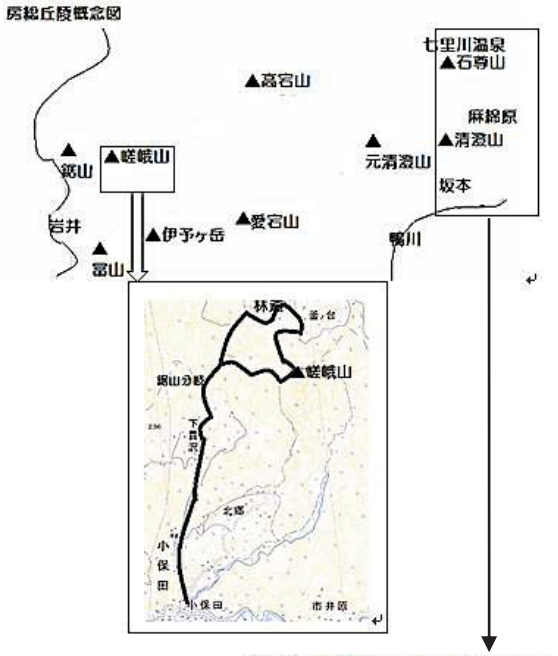
踏み入ることのできない領域である。深い樹林に覆われ全く展望がないので、地図での現在地確認は難しい。難所にさしかかるとリーダーは、後続と無線で連絡を取りながら隊列が延びすぎないよう気を使っていた。小高いピーク頂上に烏帽子山と刻まれた石柱が立っているが、地形図には記載がない。標高は 277m とのことである。

岩が鏡餅のように折り重なった奇岩、大きな岩を抱きかかえているような巨木、根っこが岩に細かく網の目状に張り付いている木等自然林の美しさに目を奪われながら歩く。硯石を過ぎ、約１時間でニタ間川沿いの林道に降り立った。ここからバス待ち合わせの坂本までほぼ 20 分の行程である。

七里川温泉から延々約８時間余りかけて歩いてきたが、途中人と行きかうこともなく大いなる自然に癒され、楽しい山行が経験できた一日でした。

概　要

山名		嵯峨山・石尊山～烏帽子山		
月日		平成２５年１月２５日(土)～２６日(日)		
山域		南房総	地形図	1/25000 大多喜
形式		山麓 泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
目的		自然を学び労山千葉県連仲間との親睦を図る。		
費用		１０，０００円	交通機関	ﾊﾞｽ
日程	1日目	我孫子駅北口 7:10→鎌ヶ谷市役所 7:55→花輪IC→幕張SA→君津PA→鋸南保田IC→小保田バス停 10:30/10:40 ⇒下貫沢出合嵯峨山登山口 10:55⇒ 鋸山分岐 11:20 ⇒ 嵯峨山分岐 11:30 ⇒嵯峨山（昼食）12:00/12:30 ⇒ 釜ノ台 12:45⇒涸れ沢分岐 13:00⇒嵯峨山分岐 13:20⇒下貫沢出合嵯峨山登山口 13:35 ⇒小保田バス停 13:50→道の港まるたけ(干物購入)⇒ 七里川温泉 16:00 （泊）晴れのち曇り ＜行動時間 3 時間 10 分＞		
	2日目	七里川温泉 6:40 ⇒石尊山 7:15 ⇒モミ太郎 9:40⇒ 新ハイ道迷い地点 10:20⇒麻綿原（初日山天拝園・昼食）10:45/11:30 ⇒ 東大演習林入口ゲート 11:40 ⇒ツクバネ樫（目印）11:45⇒大平歩道 12:25⇒烏帽子山 277m12:50⇒硯石 14:10⇒本沢林道 14:35⇒ゲート⇒坂本（国道交差点）15:00/15:15→道の港まるたけ→コンビニ→君津ＩＣ→市原 SA→鎌ヶ谷市役所→我孫子 19:20 曇り ＜行動時間８時間 20 分＞		
ルート状況		・七里川温泉～麻綿原間は、ポイント地点で道標があるので問題ない。 ・東大演習林内は展望のない樹林の中で、ルート図もないので案内がなければ歩行は難しい。		
参加者		小川誠（CL）、武内（SL）、高橋芳、田村 男２名　女２名　計４名		



水仙

＜寄稿＞

カナダディアンロッキーハイキング

矢野　貞子

瀬田　映子

黄色カタクリを見に行く

矢野　貞子

レイクオハラにて

平成２５年７月５日から１４日でカナダアンロッキーハイキングにいきました。

きっかけは会員の T さんに写真を見せて頂いたことでした。行きたいなとつぶやいたら「行きたいと」と４名の賛同者を得て５名でツアーを組み出かけました。条件は「お花がみたい」と「ロッジに泊まりたい」と希望をしました。雪が解けて花畑になる７月初旬と定め、３月ごろより動き始めました。この年カナダのバンフでは洪水があったそうで入山できないコースがありましたが充分楽しむことが出来ました。

１日目はカルガリーへ飛びバンフへ。

２日目はレイクオハラへ。当初はサンシャインメドウもしくはヒーリーパスへいく予定でしたが、手に入れることが難しいと言われるバスの乗車券（１日６０名のみ）があると聞いたからでした。レイクオハラは徹底した入山人数制限と自然保護、予約がとれないプレミアなバス乗車券、豊富なコース数、行き届いたコース整備、他を圧倒する景観の素晴らしさと表現されています。同行したガイドも今年初で、毎年数回しか機会がないそうです。この日は雨もようで雷や雹にもあいましたが晴れ間に見る景色は最高でした。バンフに戻りレイクオハラに行ってきたと話すと、ツアー会社が頑張ったねとの答えが返ってきました。カナダのことを何も知識のなかった私達は少し鼻高々でした。

レイクオハラ

３日目はヨーホー国立公園です。カナダ第二のタカカウ滝の麓から反対側の山に登り、滝と源流の氷河を眺め、中腹のヨーホーレイクで昼食し戻ってくるコースです。途中には唐松草や黄色いオダマキなどいろいろな花が咲いて、その度に大騒ぎして名前を憶え喚起して登る私達。追い越して行く他国の旅行者は不思議そうな顔をしていました。彼らは反対側に見えるタカカウ滝の全貌が目的だったようです。ここで目的のグレーシャーリリーの花畑を楽しみました。この夜は特別希望のエメラルドレイク湖畔に立つロッジです。山の中なので夕食はロッジのレストランのみなので、英語がほとんど話せない私達に日本語が分からないボーイさんの組み合わせで互いに汗をかきながら３時間もかけて夕食を終えました。お互いにホッ！この湖畔で黄色のアツモリソウや利尻草を見ることができました。景色と大変な夕食で思い出たくさんのエメラルドレイクでした。

４日目、レイクルーズからアイスフィールドパークウエイで２３０Ｋ北のジャスパーを目指しました。途中ボウレイクなどいくつかの氷河湖とコロンビア大氷原を見て、エディスキャンベルとエンジェル氷河までハイキングしてジャスパーへいきました。カナダ最高峰のマウントロブソンをみるためです。夕食は、近くのスーパーマーケットで冷凍ピザやハムや野菜、ビールを手に入れコンドミニアムで調理、ワイワイガヤガヤと楽しい夕べを過ごしました。

５日目、ガイドお奨めのパンやで昼食のサン

ドをそれぞれ買い出発。マウントロブソンの麓にあるキニーレイクまでハイキングです。生憎マウントロブソンの頂上は雲に隠れてみることはできませんでしたが天気が良くハイキング日和でした。ひっそりと咲いているいちやく草や鍬形草に夢中になりました。

６日目、ヘレンレイクへのハイキング。１時間ほど登ると視界が開け、大きな山と氷河が現れました。山々を眺めながらウエスタンアネモネやフラワードアネモネなどのお花畑の中を歩いていくと、飛び越えられず小川を渡渉する場面もありました。とても青い小さな湖畔で昼食をした後、来た道を戻り、レイクルーズに戻りました。

７日目、レイクルーズ湖を見下ろすリトルビーハイブからビックビーハイブへのハイキングを楽しみました。当初はリトルのみかビックビーのみと話していたガイドが健脚の私達につられ、両方案内してくれました。両方登ったので途中レイクアグネスの畔に立つ茶屋が閉まってしまいティータイムできなかったことは残念でした。

ビックビーバイブ山頂にて

８日目、モレーンレイク～ランチバレー
カナダのお札の絵柄にもなったテンピークスの山々と望むモレーンレイクからセンチネルパスまでのハイキングです。ジグザグに少し登ると荒々しい山々の山容が眺められましたが、私が体調を崩しセンチネルパスまで行きつくことが出来ませんでした。みなさんに荷物を持ってもらってなんとか途中の見晴の良い所まで行ってきました。

テンピークスとモレーンレイク

９日目、朝レイクルーズを出てカルガリーへ翌日成田に帰ってきました。カナダではたくさんのお花や動物を見ることができました。ブラックベア、地リス、コヨーテ、マウンテンゴートなどなどです。花は少し大振りでしたが、日本ではなかなか見ることが出来ない小さなお花がたくさんありました。カナダの代表的な花はインディアンペイントブラシです。ブラシの様な花ですが様々な色が自然に咲いているのは驚きでした。また、山火事によって森が再生できるため人工的に山火事を起こさせる場合もあると聞き、自然の懐の大きさを感じました。

同行して頂いた皆さんに感謝して、またいつか行ってみたいと思っています。（矢野）

ヘレンレイクへの道

カナディアンロッキーの花

瀬田　映子

今回撮った花をいくつか紹介します。

ウエスタンアネモネ

キンポウゲ科に属しています。葉・茎は毛に覆われています。チングルマの花は、花が終わると羽毛状になり、風車のようになりますが、ウエスタンアネモネの花も終わると羽毛状になり、老人の頭のようになります。触ってみるととても柔らかかったです。

黄色カタクリ

グレイシャーリリー・・・・日本名はカタクリの花です。日本のカタクリの花は青紫色ですが、カナディアンロッキーのカタクリは黄色でした。特にパンフ国立公園にあるヒーリーメドウの黄色いカタクリの群落は見事でした

リシリソウ

日本では北海道の礼文島と利尻山に生えているそうです。ユリ科で、クリーム色をした花です。拡大して中を見ると、花の中に絵を描いたようなとてもきれいな花です。すべての部分に毒があり、注意が必要だそうです。

イチゲイチヤクソウ

日本では北海道の亜高山帯針葉樹林の中針葉樹林の中に生えているそうです。花を下に向けて咲いているので、花の中を下からのぞいてみるととてもきれいです。

インディアン　・　ペイントブラシ

カナディアンロッキーを代表する花です。直訳すると先住民族の絵筆。名前の通り絵筆が野に散らばって咲いているように見えます。北米だけでも１５０～２００種類、カナディアンロッキーだけでも１０種類以上あるそうです。私達は、赤、黄色、ピンクの３種類しか見つけることができませんでした。(写真の花は、黄色)

オダマキ

日本では青紫のオダマキはみかけますが、赤いオダマキ、黄色いオダマキは初めてみました。

(写真の花は、黄色)

イエローレディススリッパ

和名は「アツモリソウ」。袋状の唇弁を、平敦盛の背負ったほろに見立ててつけられたそうです。英名はイエローレディススリッパ。直訳すると「黄色い女性用のスリッパ」。花の形が履物の形に似ているため、この名前がついたそうです。

平成２６年度

平成２６年３月～平成２７年２月

＜８４２＞

岳ノ山～大鳥屋山
（704m）　（692m）

新谷 直恵

遅く降った山の雪も溶けて春の息吹に満ちた春分の日、栃木の百名山、岳の山、大鳥屋山へと向う山行参加者は総勢２０名。そのため貸切バスを利用することになった。また人数が多いため１０人ずつ２つのパーティに分かれ、それぞれ今年リーダーになったばかりの矢野裕子さんと、本田愛子さんが先頭を歩くことになった。

バスが佐野沼田インターから里山へと分け入ると、大きな倒木が道を塞ぎ、目的地市営駐車場手前でバスを降りる。「１３時過ぎには戻るよ」と、村松リーダーは運転手さんに声をかけて出発したが、行き先には思いがけない状況が展開していて、下山は予定の時間を大幅に遅れることとなった。というのも、林道に入ってまもなく雪のためか、強風のためか、山道のあちらこちらで倒木が道を塞いでいたからだ。しかも五丈の滝以外、道標がまったくない。ときどき思い出したように木に巻かれた赤いテープが目に入ると、その都度倒木のために迂回した道の方角を確認することになった。

林道から程なくして五丈の滝の案内板があったが、展望台へ行く道も半ば崩壊している。滝の水量が少なく、山道を上に登りながら見おろすと、細く流れているのが眼下に覗き見えた。道は沢沿いに谷間を進むが、まもなく数本の杉の大木が道を塞いでいる。たくさん実をつけた枝はまだ青々としているため、倒れてからあまり時間は経っていないらしい。上を見上げると、立ったまま真っ二つに割れた杉の真っ白い肌も痛々しい。倒木の下をくぐるには狭いし、しかも跨ぐには高すぎる。したがって上下に通り抜けられる道を探しながら進むしかない。なかにはかなりの大回りを要する箇所もあり、倒木のあまりの多さに驚き、山歩きというよりは障害物レースの感すらある。

天気予報が各地で強風注意報を発令していたこともあり、頭上の山の上をゴーゴーとうなるように吹き渡る風の音が響く。途中誰にも会わず、踏み跡もまったくないため、この道を歩いた人の形跡は見当たらない。インターネットにこうした状況は伝えられていたようだ。山頂にわずか日が当たっているが、谷筋の道はどこまでも暗い。

予定より大幅に遅れて１１時過ぎに岳の山山頂に到着。まずは不動明王の祠に無事登らせていただいお礼を申し上げる。風を避けて山の斜面側に腰を下ろし昼食をとる。ホッとしながら遠く冠雪した男体山など日光の山並みを見渡す。山頂から大鳥屋山へと進む道は、前方ではなく後方に直角に曲がるため、地図を出してコンパスを当てながら確認をする。やがて岩場の急降下。ストックを収め三点確保しながら次々慎重に降りる。間もなく広い尾根に出ると、前を歩いていたＡチームの姿が見えない。最後尾を歩いていた郷田さんがひとり立ち止まって道を確認している。みんな立ち止まって地図を出し、こっちかあっちかと喧々諤々。結果、ここもまた直進ではなく左の尾根に曲がるのが正解だった。ほどなくして直進していたＡチームが間違いに気づいて合流。今回の山行は地図とコンパスが手離せない。ここからＢチームが先頭を行くことになる。登っては下り、また登る道が続くが、山には春の気配がわずか漂っている。

山道を歩きながら思ったのは、石を積み上げた炭焼き跡や石碑や石仏が点在するこの山は、かつては里山として親しまれていたに違いないが、この荒涼とした風景を目にすると、いかに人々が山の生活から遠ざかっているかということだった。大鳥屋山山頂に向かう道は途中からピストンになるので、リュックを置いて身軽になって登る。頂上付近はまるで山門のように立木が道をあけて両側に聳え立つ。しかもその背丈の高いこと。

大鳥山山頂にて集合

信仰の山とされているが恐らく古くから親しまれた山だったのだろう。頂上には御嶽山と銘の入った石碑があり、遠く御嶽山をここから偲んだのだろうか。その横にある一等三角点にみんな次々とタッチ。静かに開けた頂上では記念撮影としばらく歓談。

帰りは遅れた分を取り戻そうと黙々とひたすら歩く。そのせいか思ったより早く駐車場まで辿りついた。帰りのバスは途中コンビニに寄って飲みものや食べものをそれぞれが仕入れて反省会をかね自己紹介や歌などで盛り上がった。今回はかつての山行副部長柴さんがゲストとして参加されていたため、大いに盛り上がったことはいうまでもない。

障害物が多く、まるで障害物リレーのよう

概念図

概　　要

山名	岳ノ山～大鳥屋山		
月日	平成 26 年 3 月 21 日（金）		
山域	足利山塊	地形図	1/25000　千波
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	春の息吹を求めて信仰の山へ。水量豊かな五丈ノ滝から、数少ない１等三角点の山へ		
費用	3500 円	交通機関	マイクロバス
日程	我孫子北口ふれあい広場発 5:40→柏 IC→佐野沼田 IC→五丈の滝駐車場 8:20/8:30⇒観瀑台 9:10⇒滝見の松 9:20⇒岳ノ山 11:15/11:45⇒624ｍピーク 12:15⇒下山路の分岐 12:50⇒大鳥屋山 13:10/13:20⇒下山路の分岐 13:30⇒下山口・駐車場 14:40/14:45→やすらぎの湯 15:26/16:30→蓮田 SA→東北道→我孫子着 19:30		
ルート状況	・このルートは道標は全くないため（有るのは、五丈の滝の所のみ）地図とコンパスは必携。 ・市営駐車場出発した後の最初の分岐は右の車乗り入れ禁止の看板のある、林道に入る。 ・五丈の滝の展望台へは下部で道が崩壊しているため通行不能。 ・登山道は沢沿いに延びているが激しい倒木のために大変な時間と労力が掛かる。充分な時間の余裕が必要です。 ・岳ノ山、山頂から大鳥屋山へ向かうには山頂から直角に曲がり南方に向かう。（北西方向に行きそうになった） ・直ぐに狭い岩場混じりの急下降になるが、慎重に下れば問題ない。 ・624 峰を過ぎて間もなく広い尾根に出る。そこは直進せず左の尾根に曲がる。（直進しやすい） ・大鳥屋山へ向かう中途にある下山口には多数のテープ類が有り注意すれば間違う事はない。		
参加者	村松(CL)、A 班（L）矢野（裕）、外崎、箕輪カ、田村、瀬田、斎田、郷田、宮野、柴 B 班（L）本田、品田、武内、箕輪、新谷、中村、末永、矢澤、村越、岩村 男性８名　女性１２名　計２０名		

＜８４３＞

大小山～大坊山
（314m）（285m）

末永　三江子

電車の乗り継ぎで佐野駅の脇の庭（庭園）に２分弱程咲く桜の花見をした。仲間同士ワイワイ、ガヤガヤ、今日の山行も楽しくなりそうだ。

富田駅から登山口まで結構歩いて、クタクタのような気になっていた。大小山登山口から出発。穏やかな登山日和。足も爽快だ（さっきまでの脱力感は、なんだったんだろう）来て良かったわ。

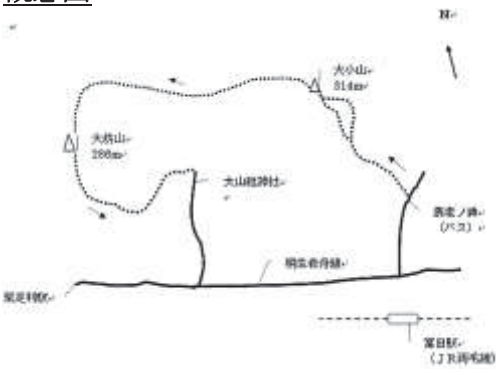
歩きやすい枯れた落ち葉道を歩いていると、突然ロープと岩が、目の前に。岩が大きく足がとどかない。それでも皆、慎重に（先輩からのアドバイス）無事難関を超えた。

その後、ロープワークの研修となった。ロープの結びかたを覚えたと思ったが、再度行うも出来ない自分がいた。それでも、ワイワイ、ガヤガヤ楽しい研修。

下山するとタクシーで足利市駅へ向かう途中に美味しいうどん屋さんに寄り、反省会。そこでも、ワイワイ、ガヤガヤ、もうひと騒ぎの楽しい一日でした。皆さん、ありがとうございました。

上に立つ

概念図



概　　要

山名	大小山～大坊山		
日時	平成 26 年 3 月 29 日（土）		
山域	足利・桐生	地形図	1/25000 足利、佐野
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	花の時期、一年前に新人歓迎をした山を縦走する		
費用	4000 円	交通機関	JR、東武電車、タクシー
日程	我孫子駅北口 5:31→北千住 5:53/6:03→佐野 7:32/7:57 富田 8:02⇒大小山登山口 8:40/8:55⇒大小山 9:30⇒妙義山 9:45⇒番小屋（昼食休憩）11:30/12:00⇒大坊山（ロープワーク）12:35/13:15⇒大山祇神社広場 13:3514:00→足利市駅 15:33→我孫子駅 17:45 ＜歩行時間３時間２０分＞		
ﾙｰﾄ状況	・大小山～大坊山は９つぐらいのピークを超えながらその尾根を馬蹄形に縦走するものであり、多くの人が展望を楽しみながら山行できるコースである。 ・２カ所ほどロープが設置してあり、注意を要する場所や岩場があった。 ・天候は晴れのち曇りだったので、ルートは比較的、安定していた。		
参加者	箕輪（Ｌ）、村松、箕輪カ、桐生、本田、新谷、末永、岩村 男性３名　女性５名　計８名		

最後の頂上、大坊山

＜８４４＞新人歓迎山行

宝篋山
（481m）

飯沼トミ子

やまたんより転載

春爛漫の新人歓迎
山頂にて全員合流

↑　主役のふたり

筑波山をバックに記念写真

桜やコブシが目の前に

飯沼トミ子

春先の天気の変わり易い中、前夜は強い雨でしたが当日は快方に向かい、バスは時間通りに我孫子を出発した。流石、岳人のメンバーの中に「晴れ女」？「晴れ男」？が居るのでしょう。晴れ間の中をバスは一路小田休憩所に着く。

たぬきチーム、キツネチーム、サルチームに分かれ各々準備体操で身体をほぐし出発した。私達はゆっくりしたペースで歩き始めたところ、前方には満開の桜が見え私達を迎えてくれた様であった。この瞬間、昔の小学校への入学式を思い出した次第。岳人の新メンバーを迎えるに相応しい美しい桜の花であった。

私達の登山コースは、「極楽寺コース」を登ることになったが、皆で極楽へ行かれますようにと念じながら脚を進めたのでした。山桜やこぶしの花が目の前に、そして足元にはエイザンすみれ、にりん草が私達の目を楽しませ、正に新人歓迎山行にピッタリの登山道路であった。口の動きも活発、いつの間にか新しいメンバーも一緒におしゃべりに夢中。沢沿いには滝が数か所に見られ、そしてそれらがロマンチックで素敵な名前でまるでおとぎの國の滝の名のようだ。慈悲の滝、五丈の滝、こころの滝、白滝、とか。この山を選択して下さった方に感謝！

山頂に到達すると、また絶景が待っている。東は霞が浦の太陽に輝く水面、西は筑波山（少々雲に隠れていたが）、南は雄大な関東平野の米どころ。全員で集合写真を撮影。

別行動を登られた人たちも足取りは軽やかでホットしました。下山は軽やかなルンルン足取りで、目前には何が待っているのでしょうか？新人歓迎つくばオートキャンプ場での」バーベキュー。食担の腕の見せどころ。新人の方々も長年私達の山の会にいるような和やかな雰囲気で自然に溶け込んでいました。リーダーはじめ先輩の優しい思いやりに感動しました。食後のゲームもチーム単位で童心に返り楽しんで本当に新人歓迎の最高の一日でした。

龍星の滝

<やまたんのメモより>

ゲームで新人うちとける

総合リーダー　坂巻明

一週間前の天気予報は晴れであったが、変わりやすい春先の天気である。昨夜はかなりの量が降ったようだ。朝も少し残ったが、出発して間もなくすると晴れ間がでてきた。
中型バスはゆったりしていて乗り心地が良い。しかし、バスを楽しむ間もなく目的地である。トイレ休憩に北条大池の筑波総合体育館に寄ってから登山口行った。
今回、小川氏と武内氏は下山道から登り始めて途中で落ち合うこととなった。
私たちは三グループに分かれて行動を開始した。いくつかの滝を眺めながら登ってゆくとやがて視界が開けてくる。木々は淡い色に変わり、みつ婆ツツジ、コブシ、いろいろな草花が咲きだしていた。幸いにも、逆コース組と山頂で落ち合うことができ、全員で記念写真をとった。宝篋山山頂はパノラマに景色を見ることができ、素晴らしかった。
下山口の大池公園では、池の周りの満開の桜に大勢の花見客が押し寄せていました。
下山後は３０分ほど移動して、つくばねオートキャンプ場でＢＢＱをしながら懇親会をした。食事のあとは、斎田さんのアイディアでゲームを楽しんだ。チームごとの競争や男女別にわかれてのモグラたたきをやって和やかにひとときを過ごした。新人のメンバーも打ち解けてくれたようだ。
帰路、野菜直売所のみずほ市場に寄って新鮮野菜を購入した。
皆様ご協力有難うございました。お疲れ様です。

乾杯

さくら　北条池から筑波山を望む

BBQ会場にて

たぬきチーム

一年で最も華やかな自然の宴の中を歩く

リーダー　村松敏彦

名前に相応しくない、たぬきチーム（兎がぴったり？）の８名は準備体操をした後、ゆっくりしたペースで歩きだす。山里は春の訪れを告げる桜が満開に咲いて迎えてくれた。入学式、卒業式等一年の節目を告げるときには桜の華やかな色は良く似合う。この山行も新人歓迎とい

う当会にとっては大きな節目の一つだ。主なルートとして6コース有るうちの登りは極楽寺コースを行く(何とも有難い名のコースだ)山桜、コブシ，ヤブ椿の樹々、登山道脇に咲くエイザンスミレ、ニリンソウなど可憐な花々がもう春ですよと迎えてくれる。一年で最も華やかな自然の宴の中を人もお喋りに夢中になる。この沢沿いのルートには慈悲の滝、五丈の滝、こころの滝、白滝等、可愛い名の小さな滝が次々に現れる。
最後のあおいの滝から大岩群を過ぎ、コブシの森の大きなコブシの樹を仰ぎ見、バイオトイレのある広場に着くと山頂はすぐそこだ。山頂にはこの山の由来である宝篋印塔と３等三角点が置かれてあり、又、この山の特長の一つとして上げられる山頂からの展望は素晴らしい。西に山頂の一部分が雲に覆われた筑波山、南面は広い関東平野、東には霞ヶ浦の水面が太陽に照らされてきらきら輝いている。下山ルートは長いが傾斜の緩い山口コースをルンルン気分で降りる。万葉の森での淡いピンクのミツバツツジの群落が自然豊かな山のフィナーレを飾ってくれた。「たぬき」チームの皆様お疲れ様でした。

きつねチーム

沢の水とウグイスの声に誘われる

リーダー　高橋英雄

昭和 26 年 4 月 6 日（日）新人歓迎山行が日帰りで行われ 4，5 日前までは天気が良いはずであったが、当日は不安定な天気の予報少し心配したが山に着いて登りはじめる頃は心配するほどでもない、沢の水とウグイスの啼き声に誘われて登る、多分 6 箇所位の滝を見ることが出来た、最後の滝から沢と別れ尾根を登って山頂に到着、きつねチームは一番のり 360 度の展望が出来た、軽い食事を取り集合写真撮つてから下山、筑波総合体育館でバスに乗りつくばねオートチャンプ場に着く、さっそく 3 班に分かれてバーベキューお酒もはいった頃からゲームが始める、ムードは最高潮でさぞかし新人の 2 名方は満足したのではないでしょうか。お酒とゲームを惜しみつつバスに乗り一路我孫子駅へ車内は歌あり和やかなムードであった。新人の２名にはこれから多いに活躍してもらいたい。ＧＭ、食担、会計本当に有り難うございました。

具材盛りだくさん

さるチーム

エイザンスミレ

ニリン草

小川さんと２人　山頂めざす
全員でうれしい集合写真！

リーダー　武内勇二

・山口（大池公園駐車場）7:30⇒宝篋名水 8:55 ⇒宝篋山頂 9:50/10:00⇒山口 11:30

・我孫子出発時は黒い雲に覆われていた空も、筑波路を行くにつれ青空が垣間見えるようになり、バスが大池公園前の駐車場に付くころには明るい陽射しに溢れていた。ここで極楽寺コースより宝篋山山頂を目指す他のメンバーと別れ、小川さんと二人で山口コース（１）経由山頂を目指す。他のメンバーとは山頂にはこだわらず途中で落ち合う予定としているので急くことはない。

・車道を離れても広めの遊歩道がつけられているので危なくはないが、展望もない杉木立の単調な道が続く。只々静寂でひんやりとした空気が心を和ませてくれた。休み休みのぼり、１時間半ほどで宝篋名水（標高２５５m）の道標があった。あと山頂まで１時間ほどだろうか。

・山腹を巻くＶ字状の道の途中から筑波の街並みを展望できるビューポイントを過ぎて程なくベンチがしつらえてあった。小川さんはこのあたりで皆と落ち合う心積もりだった由。行けるところまで行こうと歩を運ぶ。万博記念の森辺りで稜線にでた。宝篋山頂の電波塔が眼前に見える。あと 500m 位、うまく行けば山頂での合流も可能と思えた。

・「おーい」「ヤッホー」の呼びかけにも反応はなく「まだ山頂にはついていないのかな」と思っていたとき携帯が鳴った。「山頂目前。あと １０分以内」と応答、皆に出迎えられて宝篋山山頂に着いた。山頂での合流は必ずしも予期していたわけではなかっただけに、山頂で全員の記念撮影ができてとてもよかった。

キブシ

アセビ

概念図

概　　要

山名	宝篋山		
月日	平成２６年４月６日(日)		
山域	茨城県南	地形図 1/25000	筑波・上郷・柿岡・常陸藤沢
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄ	１Ａ
目的	新人歓迎、及び会員の懇親		
費用	約４，５００円(	交通機関	中型バス
日程	我孫子駅北口 6:10→つくば→宝篋山小田休憩所 7:35/7:50⇒五輪塔⇒五条の滝 8:20⇒宝篋山 9:40/10:00⇒北条大池 11:30 筑波総合体育館 11:40→つくばねオートキャンプ場 12:10 つくばねオートキャンプ場 15:00→みずほの村市場→我孫子駅北口 17:00 解散　＜行動時間　３時間半＞		
ﾙｰﾄ状況	・登山道には道標があり、道に迷うことはありません。 ・登山道は急斜面等、危険な個所はありません。 ・昨日降った雨で、沢から水があふれ出して登山道が川の状態になっている所がありました。		
参加者	**たぬきチーム** 村松，箕輪完，飯沼，矢野貞，石塚，村越，田村，中尾 **きつねチーム** 高橋英，中村隆，外崎，本田，宮野，末永，小川 **さるチーム** 武内，矢沢，坂巻，瀬田，中村育，斎田，岩村 女子１１名　男子１１名　計２２名		

＜８４５＞

岩殿山
（634m）

末永　三江子

新年度２度目の山に参加。大月駅に近づくにつけて靄がかかり天候が心配される。駅から登山口へ向かうと、山の中腹にさくらが満開に見える。見とれていると、そこからが登山口となっていた。

満開のさくらの中を抜けると急な坂道で息が切れ始めた。行き交う人に励まされて山頂を目指す。左手に富士山が姿が見せた。それ以降富士山は姿を消してしまった。

息が切れて胸が苦しく限界を、感じ始めた時、カタクリの花がホットさせてくれそうかな？と沢山あることを期待したら、数える程の数でした。その先に、平らな頂上があった。

一息ついて稚子落としへ向かう途中に、ミツバツツジの鮮やかな薄紫の花が美しい。春の山は薄い虹色でほんとうに美しい。岩殿山から離れていき、後ろを振り返ると山が頭となってミツバツツジの薄紫の花がかんざしに見えた。

息が上がり体力も限界かなと思ったその時昼食となり、エネルギーチャージした。お腹も膨れたので、出発。１０分程歩くと、だんがん絶壁の岩肌が見えてきた。「ここは、山のドーバー海峡か？」と思える程の迫力。

下を覗けば身が縮む。その名のとおりなんと恐ろしいところなのでしょう（その時代の身勝手さの怨念が残り私の足を掴み引きずられそう）触らぬ神に祟りなし。退散、退散。
後は大月駅に向かい下山。山里は花の真っ盛り。青空と爽やかな風、空気と花彩に癒された一日でした。ありがとうございました。

概念図

概　　要

山名	岩殿山		
月日	平成 26 年 4 月 13 日　（日）		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000　大月
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１B
目的	春の花を求めて		
費用	3500 円	交通機関	JR
日程	我孫子 6:10→新松戸 6:28→西国分寺 7:38→高尾　8:01→大月　8:45/9:00⇒丸山公園 9:20/9:35⇒岩殿城 8 番山頂 9:55/10:00 築坂峠 10:40⇒天神山（昼食）11:35/12:15⇒稚児落とし 12:30⇒下山口 13:10⇒大月駅 13:50/15:21　　大月始発快速乗車 ＜歩行時間約 4 時間＞		
ルート状況	・岩殿山から稚児落としまでの下りは、傾斜が急でざれた道が続き慎重に歩く。 ・何か所かクサリ場があったが足場はしっかりしていたし、のぼりに使ったので問題なかった。一番長いクサリ場は林間コースを行きたいと申し出があり、サブリーダーについてもらい２名林間コースを行ってもらった。		
参加者	桐生（L）、高橋芳、大畠（SL）、高橋英、斉田、箕輪カ、矢野貞、本田、村越、末永、大山、岩村　男性 3 名　女性 9 名　合計 12 名		

＜８４６＞

長者ヶ岳～天子ヶ岳

（1336m）　　（1330 m）

外崎　蓮

西側からの富士を見に…

長者ヶ岳～天使ヶ岳は、富士山の西側に連なる天子山塊のほぼ中央部にある。当会の創立 5 周年記念山行の際、富士山の周りを東西南北に分け、雨ヶ岳や思親山と共に西側の山の一つに選ばれた思い出深い山である。もう一度歩きたくなって参加した。

大月駅前からレンタカー3 台に分乗し、高速道を 15 分ほど走って河口湖 IC から一般道におりる。IC 内の空き地には、未だ溶けない雪の小山が目を引いた。この冬は雪が多かったので、高速道を除雪したものであろうか。青木ヶ原の密集林を抜け、国道 139 号線を南下し始めた頃から白い靄が立ち込めてきた。時おり擦れ違う車のライトも、近づかないと見えない程だ。成程ここは、その名も朝霧高原だという。「ただ一面に立ち込めた、牧場の朝の霧の家…」の唱歌のモデルは、もしやここでは？

灌漑用の人造湖だという田貫湖畔に車を止め、バンガローの点在する坂道を登っていく。丸太の階段を避けて脇道を拾いながら 15 分も登ると、湖畔入口からの登山道に合流する。5 周年山行のとき、入口からの登山口が見つからず、ウロウロ探し回ったことを思い出した。分岐から左に折れ、広い登山道を登って行く。この尾根道は長者ヶ岳と天使ヶ岳との鞍部まで東海自然歩道と重なっている。奥多摩の山などでもよく見かける光景だが、登山道を挟んでヒノキの植林と雑木林とがくっきりと左右に分かれている。汗をかきながら黙々と坂道を登っていくと、沿道の何本かのマメザクラが頭上から出迎えてくれた。小さな花弁をつぼめたような花が下向きに咲くのが特徴だ。お出迎えありがとう。

田貫湖へ下る 2 つ目の分岐で一息入れる。ベンチがあり、明るい休み場所だ。再び林の中の坂道を一気に登って長者ヶ岳の山頂に着く。富士山が展望できる範囲のみ木立が切り開かれているが、残念なことに濃い靄に覆われていた。晴れていれば正面に大沢崩れが見えるのだが。

概念図

その代わり、男性陣 3 人による、あまり見たくもない「人間富士」を披露してくれた。お心づかいに感謝。山頂からは、天子山塊の最高峰である毛無山方面への尾根道がのびている。

昼食中に靄はいつしか霧雨になり、雨具を着て隣の天子ヶ岳に向かう。芽吹き間近のブナとダケカンバの林床には、葉を折りたたんだコバイケイソウが、ぴょこぴょこ頭を持ち上げていた。長者ヶ岳と天子ヶ岳との鞍部は分岐になっていて、思親山・上佐野方面へ通じている。東海自然歩道とはここでお別れだ。

鞍部から天子ヶ岳までの 100m余りを、何を思ったかリーダーは先頭を切って駆けあがって行く。「オイオイ、トレイルランレースじゃないんだから…」それでも時々立ち止まっては一行を待ち、それを何度か繰り返して天子ヶ岳北峰に到着。そのまま直進すると南峰だが、三角点はどちらにも置かれていない。林に囲まれた手前の北峰で記念写真を撮り、今来た道を戻った。雨が上がり、空が少し明るくなったが、富士山は依然隠れたままだった。ベンチのある分岐から田貫湖西岸に向かって尾根を下る。登山道はつづらおりになっているので、朝登ったバンガローからのコースよりも登り易いような気がした。出来れば湖畔のキャンプ場にテントを張って、ここを拠点に付近の山を散策できたらいいだろうなー。

また 3 台の車に分乗し、静かな湖畔を後にする。このあと富士急ハイランドに寄り、二人の元気なメンバーを降ろした。彼女たちは、明日の金時山の山行に参加するため、バスで御殿場に向かうという。大月駅前の食堂に入り、得をしたようなメニューで乾杯して、郷田リーダーを労った。

長者ヶ岳山頂

概要

山名	長者ヶ岳～天子ヶ岳		
月日	平成成 26 年 4 月 18 日(土)		
山域	富士周辺	地形図	1/25000
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
目的	雪の富士の眺望を楽しむ		
費用	約 5240 円	交通機関	電車、レンタカー
日程	我孫子駅（常盤線）5:33→新松戸 5:46/5:50→西国分寺 6:47/6:55→高尾 7:22/7:26→大月 8:14/8:30（RC）→河口湖 IC→富士休暇村（Ｐ） 10:00/10:10 ⇒ 休暇村分岐 11:00/11:05⇒長者ヶ岳 11:50/12:25⇒天子ヶ岳 13:00/13:10⇒長者ヶ岳 13:45⇒休暇村分岐 14:30/14:40⇒休暇村 15:20（RC）→河口湖 IC→大月 17:20（JR）→我孫子 21:10 ＜歩行時間 4 時間＞		
ルート状況	・東海自然歩道で良く整備された広い登山道。途中ベンチが何箇所かあり、展望が楽しめる。木の階段があり歩きやすい。 ・長者ケ岳～天子ヶ岳間は、少し岩等あり転倒等留意が必要である。		
参加者	郷田(CL)、村松、外崎、大畠、矢野裕、斎田、末永、村越、岩村、矢野貞、瀬田 男 3 名、女 8 名　計 11 名		

天子ヶ岳山頂

＜８４７＞

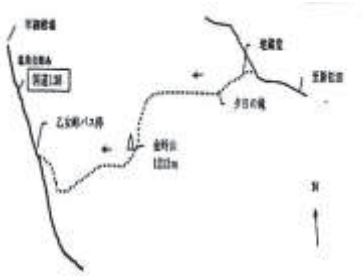
金時山
（1213m）

石塚　あさ子

お花に迎えられた楽しい山行

しばらく良い天気が続いたのですが、山行当日の予報は数日前までは雨マーク。当然中止かなと思っていたのですが、前日の予報で曇りマークになり「待望の山行に行けるぞー」ということで出発です。
新松田よりジャンボタクシーで曇り空を気にしながらも夕日の滝へ。さくらもまだ名残惜しそうに残っていて綺麗。末永さんの指導で体操をしてまず夕日の滝を見に行きました。
落差も大きく見事な滝、金太郎が産湯を使った滝とか、又は夕日に映える美しさから名付けられた滝とか。引き返し改めて登山開始です。
一時間ばかり登った所で渓流沿いとの分岐で箕輪さんが地図読みの講習をしてくださいました。ここで、予定の渓流沿いのコースでなく、山側のコースへ変更。道々小さなスミレ、やまつつじ、みつばつつじ、まめ桜等が迎えてくれます。この天気では富士山は望めそうもないのが残念ですが、まめ桜のトンネルをくぐりながら頂上をめざし展望台まで来ました。やはり残念。富士山は見えません。目の前のまめ桜、山桜がきれいです。頂上近くになりかなりの急登です、鎖、鉄の階段がいくつもあって息が切れます。緊張の連続です。
そんな中、上からパラパラと音を立てて時々何かが落ちてきました。氷です。昨晩の寒さで霧氷になっていた様です。
いよいよ頂上に着きました。頂上は沢山の人でした。やはり目の前に見えるはずの富士山は見えません。下の芦ノ湖や演習場は見えているのに。周りの木々は霧氷で白い花が咲いたようでこれも又綺麗です。頂上には 2 件の茶屋があります。私は金時娘？のいる金時茶屋で味噌汁をいただきました。寒いので身体が暖まりました。15 分程で乙女峠の方へ下山しました。
お花に迎えられた楽しい山行でした。

概念図



金太郎の道標

金時山山頂にて

夕日の滝

豆桜　満開

概　　要

山名	金時山		
月日	平成 26 年 4 月 20 日(日)		
山域	箱根	地形図	1/25000 御殿場・関本
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A
目的	春の富士山と箱根		
費用	約 6000 円	交通機関	ＪＲ・小田急線・タクシー・バス
日程	我孫子 5:33→代々木上原 6:41/6:44→新松田 8:00/8:15→タクシー→夕日の滝駐車場 8:30/8:50⇒夕日の滝 9:10⇒分岐 9:30/9:40⇒林道 10:30/10:40⇒富士山の展望所 10:55/11:00⇒山頂 11:45/12:15⇒乙女峠 13:10⇒乙女峠バス停 13:40/13:46→温泉会館 13:51/16:00→御殿場駅 16:21/16:26 →松田駅 16:51⇒新松田駅 17:17→代々木上原→我孫子駅 19:35 ＜歩行時間 3 時間 45 分＞		
ルート状況	・昨夜の雨で地面が濡れていたので、分岐から渓流沿いを行くコースだったが、何度か石の上や古い丸木橋を渡るのは危険なので、山側から登り足柄からの林道に合流するコースに変えた。 ・夕日の滝付近の桜の大木が折れていた。倒木が下の方で見かけたが登山道には影響はない。		
参加者	本田(L)、箕輪完(SL)、髙橋英、箕輪カ、田村、末永、村越、石塚 男 2 名　女 6 名　計 8 名		

＜８４８＞

四阿屋山・両神山
（77２m）（1723m）

村越　百々代

念願の両神山へ登る

以前、学童の子どもたちを連れて両神キャンプ場で２年続けてキャンプをしたことがありました。両神山に登ろうか…という声もプログラムを考える中で出てきましたが、調べてみたら随分と時間がかかることがわかり、この時は登山をあきらめて近くの丸神の滝までみんなで歩きました。そんなこともあって「両神山にはぜひ登ってみたい」と、かねてから思っていました。

５月９日（金）この日は四阿屋山に登ります。我孫子を出発して、池袋からは特急のレッドアロー号に乗り西武秩父駅まで快適な時間を過ごしました。西武秩父から薬師の湯までは町営バス。このバスの運転手さんがとても親切で「四阿屋山ハイキングマップ」を一人一人にくれ、また、バス停から登山口までの行き方も教えてくれました。このマップを見ながら新緑の綺麗なハイキングコースを歩きました。道はとてもよく整備されていて歩きやすく、気持ちが良かったです。途中、急な坂もありましたが両神神社奥社あたりまでは歩きやすい道が続きました。

奥社を超えたあたりからいよいよ鎖場の続く急な道が始まり、垂直に近い崖にある階段状に足場のある道を登っていきました。ツツジ新道（上級者コース）とぶつかる地点には初級者通行止めという看板もありそちらのコースをのぞいてみると、みるからにすごい道がつづいているのがわかりました。ハイキングコースとはずいぶん違います。私たちは山頂に向けてさらに急坂を登りました。鎖場も続き、スリルがあってなかなか楽しい登りでした。そして、いきなり山頂についた。…そんな感じがしました。

山頂はとても狭く感じましたが眺めは素晴らしい。正面には、明日登る両神山とそれに続く二子山があり、以前登った秩父御岳山や武甲山などが見え、とても爽快でした。下山は鳥居山コースを下りました。途中に蕨がたくさん生えていて、急遽、蕨採りも楽しみました。下山後は薬師の湯で汗を流し、両神山登山口にある今日の宿、両神山荘へ向かいました。

５月 10 日（土）宿の人の好意で朝食の時間を早くしてもらい、予定時間より 15 分早く出発です。両神山荘脇の畑の間に山道がありそこを行くとすぐに鳥居がありました。両神山は古くからの信仰の山で歩いている間にも石仏や石碑がいくつもあり、それを見ながら歩きました。新緑がきれいでエイザンスミレをたくさん見つけました。花の色が白かったり、ピンクがかっていたり…と違いもあり、興味深く感じました。ニリンソウやネコノメソウ、ハシリドコロ、コバイケイソウなども見つけることができ、楽しく歩くことができます。途中まではハイキングのような道でしたが会所を過ぎて川を渡り、歩き始めてから２時間ぐらい過ぎると急な登り坂になってきました。登るにつれて木々の色がだんだん薄くなり、冬景色のようになっていきます。道は狭いので登山者とのすれ違いでは、声を掛け合って端に寄るようにしました。

そして葉のない木々の間にピンクのアカヤシオが見えてくるようになりました。アカヤシオの花びらは丸みがかかり、ふくよかな花だと思いました。急な岩場を登っていくと二階建てログハウスの清滝小屋につきました。小屋の前にはシャクナゲが咲いていたので、シャッターを切りました。小休止した後は最後の登りです。岩場を登り、鎖場も続きます。滑らないように慎重に登っていくと両神神社につきました。鳥居の前に鎮座する狛犬はオオカミでした。きっと昔はこの地にもオオカミがいたのでしょう。

さらに登っていくといよいよ山頂です。澄み切った青空の下、山頂にはアカヤシオが見事に咲いていました。みんなで記念写真を撮り、山並みを眺め、満足して下山しました。
登山口は標高 670m だったので標高差 1053m。登りも時間がかかりましたが下りもきつく感じました。「無事にみんなで降りてこられてよかった!!」と思いました。

両神山荘で置いてあった荷物を受け取り、バスの時間まで間があったのでビールを頼み、みんなで乾杯しました。宿の方のご厚意で山菜や漬物なども出していただき、楽しく反省会を行うことができました。

念願だった山に登ることができて大満足。リーダーの矢野貞子さん、参加者の皆さん、ありがとうございました。

概念図　　四阿屋山

両神山　↓

四阿屋山山頂　↑

両神山山頂

概　　要

山名	四阿屋山・両神山		
月日	平成 26 年 5 月 9 日(金)～10 日(土)		
山域	奥秩父	地形図	1/25000
形式	民宿泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ
目的	アカヤシオヲを求めて		
費用	13,340 円	交通機関	ＪＲ・西武線・小鹿野町バス
日程 1日目	我孫子駅 5:31→池袋 6:　/6:50→西武秩父 8:12/8:33→薬師の湯 9:30/945⇒両神神社奥社 11:00/11:05⇒四阿屋山頂 11:30/12:00⇒薬師の湯 14:10/16:40→日向大谷口 17:20 両神山荘泊　＜歩行時間 3 時 30 分＞		
日程 2日目	日向大谷口（両神山荘）5:45⇒会所 6:30⇒弘法之井戸 7:35/740⇒清滝小屋 8:10/8:25⇒両神神社奥社 9:25/9:30⇒両神山頂上 10:10/10:20⇒両神神社奥社 11:00/11:20⇒清滝小屋 12:07/12:15⇒会所 13:15⇒両神山荘 14:30/15:10→薬師の湯 15:55/15:45→西武秩父 16:44/16:51→池袋 18：35→日暮里→我孫子 19:30　＜歩行時間：8 時間＞		
ルート状況	**四阿屋山** ・この山はルートがたくさんある。白井差よりに岩場のルートがあるが今回はハイキングルートを行き鳥居山コースを下りた。 ・上部１０分程がきつい登りである。頂上から両神山、二子山が良く見えた。 ・下山の途中蕨がたくさん生えている所があり、一時蕨取りに夢中になってしまった。 **両神山** ・5 時半朝食が 10 分頃には食べられ予定より早く出発できた。 ・登山道は特に危険なところはなかった。頂上直下の岩場も問題なし。 ・奥社から清滝小屋までの下り、登って来る人が多数ありすれ違いに気をつけた。 ・清滝小屋まで緑がすがすがしかった。小屋から上部にヤシオツツジが咲いていた。とくに頂上付近にはたくさんのヤシオツツジが７分咲き位でとても綺麗だった。 ・下山、後半に足の不調者があり、沢渡渉付近からかなりゆっくり下山した。		
参加者	矢野（Ｌ）、箕輪（ＳＬ）、高橋芳、矢澤、石塚、村越、郷田 男性３名　女性４名　計７名		

清滝小屋前

＜８４９＞

本社ヶ丸～鶴ガ鳥屋山

（1631m）　（1374m）

大山　冬臣

晴天のもと大パノラマに感激

私は中央沿線の山、奥多摩、奥秩父、道志山塊の山は無縁でした。登る山が不明瞭、良く判らない、というのが理由でした。登った山といえば三つ峠くらいで、昨年の会山行では初めて道志山塊の今倉山、二十六夜山に登りました。

本社ヶ丸、鶴ヶ鳥屋山という山名も初めて聴く名前で、その読み方も判りません。地図を見るとかなりの標高差と急勾配、残雪を纏った富士山、南アルプスや八ヶ岳の大展望が期待できそう。同行して下さる皆さんは全員女性で、男性は私だけ。皆さんは、ビシッと登山専門の服装で決めているのに、あり合わせの服装で参加している身としてはチョット恥ずかしい。

中央本線大月駅で下車、Ｊタクシーで登山口の東山梨変電所に向かう。天気も良く、中央沿線の車窓から富士山もよく見え、何と云っても鮮やかな新緑に紫色の藤の花が彩りを添えて今日の山行に期待感が盛り上がって来る。

田村Ｌの話では大月の駅から登山口の東山梨変電所まで歩く人もいて１時間以上を要しているという。タクシーの利用は一人で登っていた頃には頭にも浮かばず、更に人数によってＪタクシーを利用出来、待ち時間も節約できるし、バスと違って寄り道なしなので大幅に時間短縮出来るのは有難い。

登山口から暫くは植林地の急傾斜の林道を歩くが、樹林帯に入ると久し振りに堪能する新緑に覆われた森のオゾンに急傾斜も気にならなくなって来た。素晴らしい新緑のお陰で、全く展望がないのも気にならない。所々にミツバツツジが彩りを添えて呉れている。標高差８００米だと今の私だと３時間弱くらいかな？皆さんが私に気遣って下さり、声をかけて呉れるのが嬉しい。私のバテ具合がリーダーに届くようで、私に丁度好いペースで登って呉れているのが判る。歩き始めて３０分程で衣類調整休憩。短時間に調整と休憩をとり、深呼吸を繰り返して呼吸を整える。「どうですか？」簡単な一言だが効く。そしてニコッと笑って飴が差し出された。自分が一員になっていると思えて嬉しくなる。適当な間隔で小休止を取って呉れるのも有難い。清八峠の分岐に着いた。清八山に向かう。「休まずに足を前に出す」、という登山の原則の通りで、登山口から２時間足らずで清八山1,593m に着くことが出来た。かなり佳いペースだ。

素晴らしい残雪の富士山が目の前に飛び込んで来た！南アルプスの白根三山から赤石岳へ続く真っ白な銀屏風が圧倒的な迫力。八ヶ岳は雪が疎らだ。そしてその背後に槍穂高の真っ白な北アルプスがウッスラと見えていた！奥秩父は五丈石のある金峰山は判るのだが・・・。もう、気持ちは充分に満足してしまった。今日は、かなりの歩行時間が予測されるので余りゆっくりは出来ない。記念写真を撮り、早々に次の本社ヶ丸 1,631m を目指す。樹林限界を抜け、快晴に恵まれ、素晴らしいパノラマの尾根歩きに加えて眼下の新緑が眩しく輝いている。私でも判る山が富士山の前にある鉄塔のある三つ峠だ。ここまで登るともう大きなアップダウンがないのが私には救いだ。本社ヶ丸へは景色を堪能しているうちに着いてしまった。富士山が心なしか三ツ峠山の真後ろに移動したかな？ランチだ。また、皆さんから果物だのお菓子の差入れが廻ってきた。私は昼食のパンの他には非常食用に持ってきている裂きイカとピーナッツくらいしかない。荷物を減らすことしか考えないで準備してきたが、こうして用意して下さるのは本当に感謝。体力があるから出来ることだ。見習わなくては・・・。

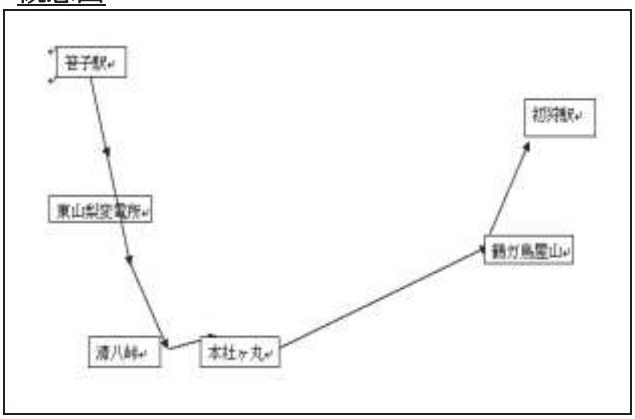
この尾根の最高峰が本社ヶ丸なので此処からは多少のアップダウンを繰り返しながら角研山 1,377m への急激な下りになる。３００ｍ下ることになるが、鞍部まで下ってからの登り直しがあるから実際は４００ｍ位の下りと１００ｍ位の登り直しになるのできつい。だから縦走は苦手だ、と愚痴が出てしまう。標高が下

三ツ峠山右手の稜線上の富士山

芽吹き始めた山桜

がり、樹林帯に入った。ミネザクラ？の大木が青空一杯に満開の枝を伸ばしている。素晴らしい！足下にも枯葉を押しのけるようにしてエイザンスミレやイワカガミ、キジムシロが咲いていた。私は高山植物はさっぱり判らないので先輩の皆さんに訊くと即座に名前が返って来た。見習わなくっちゃ！忘れないようにメモを取る。下り道が判らなくなったときには直ぐにリーダー、SL を筆頭にベテランの皆さんが集って地図と磁石を使って道を探す。落葉で道が判りづらくなっているので先行者の皆さんも迷って降りた道が踏み跡になっているようで間違いやすい。私もリボンの存在や標識探しを手伝う。踏み跡らしきものを辿ってチョット降りてはXを確認、登り返してくる。漸く正しい踏み跡を確認、鶴ヶ鳥屋山を目指す。この慎重さを学ばなくてはならない。漸く鶴ヶ鳥屋山に着いた。三つ峠山を中心にしてグルッと回っているようで富士山が、清八山では三つ峠の右側に見えていたのが今は左側に見えている。かなりの距離を歩いた証しだ。急激な下りが始まった。ヒョッと樹林がなくなり、鉄塔の下に出た。此処から見える新緑は将に春紅葉といわれる赤みがかった芽吹いたばかりの新緑が展開していた。これが最後の休憩で何処まで降りるのか？と思うほどひたすらガンガンと急坂を下って、荒れた林道に飛び出した。小川沿いの林道を暫く歩くと近ヶ板橋で、舗装された一般道を延々と初狩の駅を目指した。里の道は判りづらいので畑を耕している地元の方に教えて戴く。地元の方の「直ぐ」は信じてはいけない、本日の教訓でした。

概念図



概　　要

山名	本社ヶ丸～鶴ガ鳥屋山		
月日	平成２６年５月１１日（日）		
山域	中央本線沿線の山	地形図	1/25000 笹子・河口湖東部
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B
目的	新緑を楽しむ		
費用	4000 円	交通機関	JR、タクシー
日程	我孫子駅 5:33→新松戸駅→西国分寺駅→大月駅 8:14/8:20→東山梨変電所→登山口 8:45/8:55⇒清八峠 10:32⇒清八山 10:45/10:55⇒本社ヶ丸 11:38/12:05⇒角研山 13:25/13:30⇒鶴ガ鳥屋山 14:40/14:50⇒近ヶ坂橋 16:30⇒初狩駅 17:10/17:42→立川駅→我孫子駅 20:35　＜歩行時間 7 時間＞		
ルート状況	・登山口には車を止めるスペースがある。 ・笹子駅から変電所まで歩くと１時間以上かかるのでタクシーを利用する方がよいように思う。 ・登山道は整備されていてわかりやすく、岩稜帯もしっかりしていて、危ない箇所はない。 ・鶴ガ鳥屋山からの下山は急で、特に注意して下りた。		
参加者	田村（L）、外崎、大畠、品田、矢野裕、中村、大山 男性１名　女性６名　計７名		

＜８５０＞

乾徳山
（2031m）

中村　育子

塩山駅に着いてみると、驚いたことに、川下さんがニコニコしながらプラットホームに立っていたのだった。印西のご実家に帰る前に私たちを出迎えてくださったのである。「やまたん」で郷田さんが来るのが分かっていたので待っていたという。感激しながら、私達は改札口に向かい、川下さんは手を振って上り線のホームをかけあがってゆかれた。

この日は上天気で、素晴らしい日だった。知り合いのＳさん運転のタクシーは林道の最奥まで行ってくれた。参加者は４人。私以外は「少数精鋭」だ。リーダーの郷田さんは私の足どりに合わせてゆっくり歩き、休憩もしっかり取ってくれた。はじめ林の中の急坂が続いた。いくつか林道を横切り、錦晶水を過ぎると、やがて国師ガ原の広々とした高原に出る。シラカバの葉がきらめいていた。そこを緩やかに登ってゆくと扇平に到着。

ここからの眺めの、なんと素晴らしかったことか。富士は眼前に見えて、裾野まで雄大に広がっている。行く手には三角形の乾徳山が見え、眼下には甲府盆地。草原の見晴らしのよい所に、三々五々、登山者が気持ちよさそうに休憩している。私たちも腰を下ろした。昼食だ。

そこから頂上までは北西の方向に向かって、木の根の絡まる道を登る。途中の鎖場２箇所は難なく登った。問題は最後であった。頂上直下の大きな一枚岩の鎖場には、若者ばかり 20 人ぐらい並んでいた。この山は若者に人気があり、彼らは岩登りに来ているのだった。20 分ほど行列して待っていると私たちの番がきた。郷田さんは難なく登った。次は私の番。前の大学生グループの足取りを見ていたので、カンタンかな、と思っていたら、とんでもない、待っているうちに冷えてしまい、岩に一足かけた途端、足がつってしまった。北川さん、武内さんも簡単に登った。私だけが迂回路から登ることになった。３人は頂上で待っていてくれた。

頂上も絶景だった。富士、大菩薩嶺、奥秩父、南アルプス、ぐるりと見える。頂上は大きな岩だらけで狭い。記念写真を撮って他のグループに譲った。

乾徳山山頂　↑

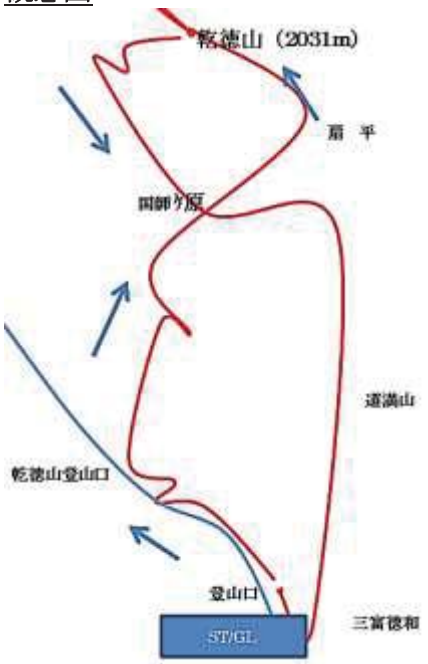
鎖場に挑戦　↑

岩峰

下山は時間を節約し、扇平から大平高原に向かった。林道のショートカット道をいくつか下った。しばらくゆくと地図に無い新しい林道があり、近道が分からなくなった。やむなく、くねくね大きくカーブする林道をくたびれながら忠実に下った。扇平から１時間余りで大平高原に着くと、Ｓさんのタクシーが待っていてくれた。途中ズミが満開に咲いている。山は初夏らしい木の葉に彩られて、山々が柔らかく美しい。

下山後ゆっくり温泉に入り、菊亭の餃子とビールで満喫した山行を祝した。リーダーの郷田さん、参加者のみなさん、沢山ご配慮いただき、楽しい山行を有難うございました。

概念図



概　　要

山名	乾徳山		
月日	平成 26 年 5 月 24 日(土)		
山域	奥秩父前衛	地形図	1/25000　川浦
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B
目的	新録と岩峰（岩登り）と展望を楽しむ		
費用	5370 円	交通機関	電車、タクシー
日程	我孫子駅（常盤線） 5:33→新松戸(5:46/5:50)→西国分寺(6:47/6:55)→高尾(7:22/7:26)→塩(8:44/9:00)→乾徳山登山口乾徳山(9:20/9:25)⇒オソバ沢乾徳山登山口（9:40）⇒銀晶水(10:03)⇒錦晶水(10:55)⇒国師ケ原(小休止(11:07)⇒扇平（昼食）（11;25/11:50）⇒乾徳山山頂(12:20/12:30) ⇒ 扇平（小休止(14:10/14:20)⇒大平荘着(15:35)タクシー⇒ 塩山駅着（16:10-18:30）（日帰り入浴＆反省会）⇒我孫子着(20:50 頃)		
ﾙｰﾄ状況	オソバ沢登山口～国師ケ原～扇台：ゆっくりした登り、良く整備されていて歩きやすい。 扇台～山頂：鎖場が 2 箇所、それぞれかなりの渋滞、若者が多い理由が解る。迂回路もあり。山頂～大平牧場：右手に富士を眺めながらの快適な下山路、山頂までの最短コースのため、ツアー客に多く使用される。		
参加者	郷田（L）、武内、中村育、村松、北川　男性３名　女性１名　計４名		

＜８５１＞

半月山
（1753m）

矢野　裕子

湖望む絶景

久しぶりの日光。人気リーダーと名山の魅力で 12 名の参加。私は額縁の絵のような眺望を見たくて、らんぼうさんの新聞記事を大切にファイルしていました。

東武日光線は途中で車両が切り離されるので、北千住では気をつけて列に並ぶこと。電車内でカオルさんが、ヤシオツツジと新緑を求めて、というテーマの資料を下さった。これを熟読しツツジ談議に花が咲き、一段と充実の山行になりました。

満員の電車とバスを乗り継いで、登山口「中宮祠阿世潟峠線歩道」の標識から登り始める。直ぐにたっぷり汗をかいた。時おり樹林を抜けてくる冷たい風が、たまらなく心地よい。しばらく登ると唐突に大きく開けた。茶の木平。目の前にそびえる男体山のどっしりした佇まいに圧倒された。冠雪の日光白根も美しい。この先はクマザサの明るい平坦道をてくてく楽しむ。やがて下って大きな車道にぶつかり、また上り。1622mのピーク。この辺りからちらちらヤシオツツジの明るい色が見えて元気を持ち直す。リーダーが、ファイト！もう少しよ！って気合を入れる。やがて大きな駐車場の展望台に着いた。目の前の眺望は素晴しい。静かな中禅寺湖のぐるりを新緑の木々と日光連山が囲む。これを眺めながらゆっくりとランチタイム。

いよいよ本日の山頂へ。1753mだけど出発が1270mだから丁度良いくらい。だんだんとヤシオツツジも多くなり新緑が眩しい。カラマツの芽吹き、カエデの柔らかい若芽。半月山山頂三角点の少し先に、デッキで作られた展望台があった。見下ろした八丁出島の新緑の濃淡に、私は見入ってしまった。行く手に尖がった社山の山容も面白い。

この後は半月峠を折れて、木陰に入りぐんぐんと下った。水音が聞こえてきて車道に着いた。この辺りも新緑に輝き、日光は本当にみんなに愛されるわけだなあと思う。イタリア大使館跡の公園、歌ヶ浜湖畔を気持ちよく歩いて今日の

行程を終えた。

十分すぎるくらいに満足の一日だったのに、私は手にした日光フリー切符が４日間有効なのが、少々残念に思った。このままここに居たい…と未練を残しつつ帰路へ。最終快速電車で座席を確保して乾杯。お勧めのゆばちらし寿司がとても美味しい。本当に幸せな一日でした。

半月山山頂

明るい尾根を展望台へ

アカヤシオ

概念図

概　　要

山名	半月山		
月日	平成 14 年 5 月 26 日（土）		
山域	奥日光	地形図	1/25000 中禅寺湖北岸
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
目的	ヤシオツツジ・新緑を求めて		
費用	約 5460 円	交通機関	ＪＲ・バス
日程	我孫子駅5:33（常磐線6両目）→北千住5:53/6:31日光行き快速（1番線5両目）→東武日光駅8:25/8:38禅寺温泉行バス（2Ｂ乗り場）→中禅寺温泉下車9:20/9:40　登山準備・出発⇒茶の木平10:45/10:55⇒第一駐車場12:05/12:30（昼食）⇒半月山13:25/13:35⇒半月山展望台13:48/14:00⇒半月峠14:20/14:25⇒狸窪3:10/15:20 ⇒中禅寺温泉バス停16:20/16:25→東武日光駅17:02/17:39→北千住19:53/20:01　我孫子20:28　＜歩行　5時間28分＞		
ﾙｰﾄ状況	・登山道は特にキケンなところはなく、ルートもしっかりしていて迷うことはない。 ・第一駐車場にはトイレが無い。 ・日没が遅くなったので下山のコースを半月山から阿世潟峠に変更する予定だったが快速最終電車に間に合うように当初の計画で下山した。		
参加者	Ａ班　瀬田(L)、矢野貞(SL)、本田、末永 箕輪カ、　内田 Ｂ班　箕輪完(L)、桐生(SL)、矢野裕、 斉田、石塚、　中尾 男３名　女９名　計 12 名		

湖の畔を歌ヶ浜へ

シロヤシオ

茶ノ木平　正面に男体山

＜８５２＞市民山行

浅間山（前掛山）
(2524m)

市民山行特集号より転載

雨止み　姿を現した荒々しい山容
　　みずみずしい新緑　可憐な花

浅間山火山館前

山頂まであと少し

前掛山山頂

A班

前掛山山頂

雨のち笑顔、意気揚々と山頂へ

A班リーダー　村松敏彦

今年は例年に比べて梅雨がずいぶん早く来たようだ、毎年、市民登山は 6 月の第 1 週か、２週の日曜日と決まっていて、過去、雨で中止ないしは変更になった事はない(19 回) しかし、今年は 2，3 日前から豪雨が日本列島を襲い、各地に被害をもたらし、報道機関は警戒のアナウスを繰り返し報じていた。当日も出発時点では雨がコンクリートの道路を濡らしていた。救いは低気圧も前線も太平洋岸に腰を落ち着かせている事だ。登山口の天狗温泉(浅間山荘)に着いた時も雨は小降りになってきたが、雨具を着て、雲に覆われて低くなった空をうらめしく眺めながら出発する。但し、雨でも良い事はある。寒い冬から芽をさましたシラビソ、カラマツの若葉の新緑が雨に洗われて何とも美しい。信仰の山らしく 1 の鳥居、2 の鳥居と足並みが揃い、時々見せるミネザクラ、ヤシオツツジの美しさと可憐さに励まされ火山館に着く。ここにはトイレ、水場があり、緊急時及び休憩には最適の場所だ。火山館を過ぎて湯の平の平坦な場所に着くと今までと林層も変わり樹々の背が低くなり、変わりにハクサンイチゲ、イワカガミ、ショジョバカマが可憐な花が姿を見せている。賽の河原を過ぎると雨も止み突然、前掛山が姿を現す。左に第１外輪山の黒斑山、蛇骨岳の荒々しい山容も現れてきた。標高は 2,100 mを越えている。森林限界を過ぎた登山道は火山灰に混じり急登になって今までと変わって活火山特有の殺伐とした景色に変わってきた。息も絶え絶えに標識のある地点に着く。(前掛山まで片道 20 分の地点) 此処で待機する人、山頂まで行く人を募集すると、ほとんどが山頂行きを選び、意気ようようと山頂に向けて出発

した。ここから見る、第２外輪山の光景はすざましい、緑は絶無で大きな火口がすっぽり口を開けて噴火の大きさを物語っている。

下山に掛かり火山館を過ぎるとまたもや雨が降り出して来た。しかし、この天候の中で山頂まで行けた満足感で足取りも軽く、雨なんて何にも感じ無い様な晴れやかな顔をしていました。そして、温泉に入り、ビールでも飲みましょう。と云いながらバスの待っている、登山口に向かった。ＳＬの高橋芳恵さん、メンバーの皆さん協力有難うございました。

吹き飛ばす石も浅間の野分かな　松尾芭蕉

印象に残った　新緑と会長さんの言葉

Ａ班　　室崎育美

恐るべし岳人あびこ、雨雲を押しやって浅間山登山を決行。６月８日の市民登山に加えていただき、時折の小雨の中、浅間山に登ってきました。この登山道には３つの様相がありました。登山口からしばらくは木立の新緑、昼食場所の火山館を過ぎてからは丈の低い木々と地に張りついた高山植物、そして最後は「あそこが頂上か」と何度も稜線を見上げた火山がれきの道。やっと着いた頂上近くでは何と青い空が迎えてくれました。何日かぶりに見る青空でした。

この登山で耳に残ったもの。会長さんの「登山を楽しむには３つ必要なものがある。家族と自分の健康、家族の理解、そして少しばかりのお金」という言葉です。今、自分にはそれがあることを感謝しなくてはと改めて思いました。目に残ったもの。帰り道の新緑。登り始めに見たものと同じなのに登り終えた達成感からか、雨にぬれた緑がより柔らかく鮮やかでした。心に残ったもの。岳人あびこの方々の初心者への気遣い。歩くペースはもとより、慣れない雨具の扱いも教えていただきました。本当にありがとうございました。長野県にも「あそこに登ったよ」と言える山ができました。

Ｂ班

故郷の山に登れて望外の喜び

Ｂ班リーダー　　箕輪完二

Ｂ班は会員５名、市民６名（夫婦１組）、合計 11 名の編成となった。バスの中で、会員と市民が隣合わせとなっていたので、歩く順序も座席の隣同士の会員と市民がその前後を歩くことにした。11 名全員がその時だけ晴間の出た前掛山の頂上に立てたことはこの上なく嬉しいことであった。

心配していた空模様は天気予報どおりの曇り一時雨となり、我孫子から雨具をつけてのスタートとなった。登山口である天狗温泉駐車場からは本格的に雨対策をして、とりあえず火山館まで登ることになった。ゆっくりとしたペースで歩く。山麓には緑の林もあるし小川もある。高山植物も豊富なようだ。途中で少し疲れた市民の方を歩く順番を工夫などして火山館までほぼコースタイムでたどり着けたと思う。そこで昼食休憩となった。火山館の中では 30 名くらいは入れただろうか。なんとか昼食をとることができた。

休憩の後、全体で記念写真を撮り、又とりあえず、賽の河原を経て前掛山の稜線まで登ることになった。林が無くなり荒涼とした火山道となる。30 分ぐらいに一度の休憩をとりまた登る。2 時間ほどでその稜線にたどり着く。この時、一時的に天候が好転し青い空が見えてきた。稜線に沿って頂上が見える。コースタイムを見るとあと 20 分ほどだ。希望をとると全員が登るという。気合を入れ直して一気に前掛山の頂上にのぼった。11 名全員が記念撮影に笑顔でおさまった。下山して浅間山を振り返るとかすかに噴煙をあげていた。

「浅間火山ガイド」によると、太古の昔、黒斑山の火山活動の最後に山頂部が大崩壊を起こし溶岩流が小諸方向に流れ下ったとある。そこにできた崖は、黒斑山のトーミの頭と牙山になって残っているという。そして長い年月をかけ河川や山林ができ、その脇に山道ができる。浅間山荘（天狗温泉）から火山館を通って前掛山に向かうコースはまさにこの山道なのであった。

全員無事下山することができ、小諸の新しい温泉にも浸かり、露天風呂では今登ってきた浅間も見えた。近よりがたく思っていたふるさとの山、浅間山にこのような形で前掛山まで登れ

たことは望外の喜びである。実行委員会をはじめ、共に参加した皆さんに感謝。

Ｂ班　全員登頂

集中して楽しめた

Ｂ班　秋山順子

初めての市民登山の参加でした。3 人の友達との参加で、班を一緒にして頂きありがとうございました。私達も、年に何回か近くの山で登山を楽しんでいますが、私達友達同志の山登りは限界がありまして、変わり映えもしませんが登山の好きな仲間ですので、たまには本格的な登りと思い参加しました。

スタッフの皆さんの念入りな計画、みなさんの健脚、みなさんのやさしさ、登山に詳しい事驚きました。山行も無理なく、班行動も皆さん慣れていて、テキパキとこなしていて、山登りに集中出来て、楽しめました。そして、なによりもこの時期、お天気に恵まれた事に感謝です。帰りの温泉、サイコーでした！！

Ｃ班

浅間山の懐の深さ実感

Ｃ班リーダー　高橋英雄

平成 26 年 6 月 8 日（日）市民登山が浅間山で行われました。

梅雨時の山行ではあるが朝から雨。今回から集合場所を我孫子南口に変更、北柏南口と雨の中一路浅間山に向う。高速道路を乗り継いで行く車の中で、多分小諸懐古園か市内探索をしてあぐりの湯に入って帰るコースかな？と思っているうちに小諸ＩＣ。チエリーパークラインの浅間登山入口、天狗温泉に着いた時には小雨で、各班に別れてカッパ等をつけ登山開始。

この調子だとどの辺まで行けるか。希望としては火山館までは行きたい。雨が降ったり止んだりの所を登っているうちに火山館に到着。昼食をとり、チーフリーダー先頭に歩き始める。賽の河原迄か？着いたころは雨も止み、休憩して登頂をめざす。ここからはきつい登り、Ｃ班のメンバー大丈夫かと、元気付けながら登る。前掛山の分岐まで着き、ここで前掛山に登る人と残る人と聞いたところ、全員登ることになった。チーフリーダーと１人位残り、登った方を待つことになった。頂上では晴れで浅間山の深い懐を見たような気がした。我が班の１人が涙を流して喜んでいたのが印象的だった。

下山に入り、注意を呼びかけながら火山館に着き、集合写真を撮り一路天狗温泉めざす。バスに乗り小諸あぐりの湯へ。風呂の時間は少なかったがとてもいい風呂だった。帰りのバスの中で自分なりに思ったことは、まず安全で怪我がなかったこと、皆さんが登れて喜んでくれたこと、こんな気候の中で登れる判断が良かったこと、又、我が班をうまくサポートしてくれたＳＬにもお礼を言いたい、など等思っているうちに我孫子に到着、大成功とは言いがたいが成功したのではないでしょうか。

有難うございました。

Ｃ班　登頂！

思い出に残る山行に感謝

Ｃ班　小比類巻浩子

雨模様の山行で役員の皆様は気を揉まれた事でしょう。諦めかけていた浅間山に登れたのは本当に幸せでした。

少々の雨も苦にならず、会員の皆様のサポート、励ましのおかげで安心して頂上まで頑張れ

ました。沢山の樹木、高山植物に巡りあえた事、カラマツの新緑に包まれて下山した事等が心に残りました。

計画、登山コースの説明、装備、時間配分、役員さんの気配り、帰りのバス中のイベント等々、完璧で感心しました。「岳人あびこ」はすばらしい山岳会だと思いました。思い出に残る山行の一日をありがとうございました！！

D 班

青空広がり、素晴らしい展望

D 班リーダー：郷田進

天候が心配されての出発、雨天時は小諸市内観光＆温泉、できれば途中まででもの思い。登山口にたつと、それまでの豪雨が嘘のように小降りとなり風もなく、自己紹介及び準備体操後途中の火山館を目指し出発する。本市民登山に数回参加者も複数いて、皆かなりの経験者の印象、確実な足取りで火山館に到着、全員で昼食をとる。天候も回復傾向山頂を目指すこととなる。長い岩場の登りを全員必死についてくる。山頂では、霧もはれ、青空が広がる素晴らしい展望、帰りのバスの中で皆の感想を聞く。「楽しかった、また参加したい」の声に、企画委員としてもこのイベントに参加でき良かったとの思い。田村 SL を始め各人の積極的な協力に本当に感謝します。

ハクサンイチゲ

想像以上　山の景観

D 班　平柳美智子

岳人あびこ会員の皆様　先日は大変御世話に成りました。

梅雨入りし前日の雨で市民登山は中止になるかと心配しましたが、予定通り実施になりました。浅間山荘駐車場到着後大粒の雨が降り、レインコートを着て班毎の出発です。雨は降ったりやんだりの繰り返しで、その間に衣類調整、水分や食べ物を補給し順調に登山。登山中にはサブリーダーが可愛い植物や木々の名前を教えて下さりほっと癒される瞬間でした。

火山館での昼食は食べ終わる間もなく出発になってしまい、もう少し休息が欲しかったです。食後気力を取戻し、体力を挽回したかと思いましたが、分岐まであと１０分の所で、もう足が上がらなく成り、残念でしたが下山を決断致しました。サブリーダーさんには引率をして戴き感謝の気持ちでいっぱいです。

途中頂上を見上げると青空が見え登頂の皆さんは素敵な眺望を満喫したことと思います。想像以上に景観の素敵な山でしたので、もう少し体力を付けて紅葉の秋には、再挑戦したいと思います。会員の皆様有り難う御座いました。

迷惑かけぬよう　筑波山で訓練

D 班　大井誠

いざ山へ浅間山へ、登山の説明会に参加し会費を納め本気で山に行く覚悟が出来た。浅間は高い又、久し振りの登山であるため訓練を、一緒に登る皆さんに会の役員に迷惑を掛けられない。目標を「筑波山」３回から４回登る事とした。初回 5 月 28 日(水)3 時水５ℓ入りのリックを持ち、自家用車で筑波神社Ｐからケーブル脇 4 時半登山開始、男山を登り 8 時頃自宅に戻った。何とか予定をクリアし 2 回目は日曜日、3 回目は水曜日に登った。1 週間の間に 3 回、足に多少の自信もつき浅間山に行く日を待った。

登山日 5 時半我孫子駅南口発、車中にて山の説明。天気の状況良くない、最悪の場合は登山中止の場合あり、小諸の城・街の散策などの場合もとの説明あり、行ける所迄行くとの方針。バスは浅間山荘に到着、雨具など準備を調え 9 時半出発。第 1 目標を火山館とし早目の昼食天気によっては頂上へ。

小さな木の橋を２度渡り滝と川を右手に見ながら薄暗い木立の中をカッパを着たり脱い

だり上って行く。比較的歩きやすい良く整備された登山道である。木が低木になり更に小岩だらけになってきた。尾根に出た。浅間山がまじかにみえてきた。と同時に雲が切れてきた日が差し始めた、絶好の日和になってきた。リックを置き浅間の雄姿を見ながら前掛山山頂を目指す。山頂の標識に触りながら全員集合の撮影会。よかった。ヤッター、１日楽しい山旅でありました。岳人あびこの皆様有難うございました。チャンスがあれば又是非参加したいです。

E 班

火山館にて全員集合

砂山の山頂へ瓦礫の道登る

E 班リーダー　　武内勇二

・バスが我孫子を出発するときは土砂降り、この段階では登山か小諸散策となるかは判断が付きかねたが、関越道を北に進むにつれ多少なりとも空に明るさが見えた。小雨がバスのフロントガラスに散ってゆくのに気を揉みながら、とりあえず火山館ないしはその先の賽の河原付近までは危険個所がないから登れるだけ登ってみようと CL（総合リーダー）と相談しながらチェリーパークラインに入った。

・天狗温泉（浅間山荘）でバスを降りる頃には雨は小降りとなり、木陰、小屋の軒先で雨具を付けられるほどまで天気は回復していた。軽く準備体操をして A 班を先頭に五月雨式に出発。大鳥居を潜り広いなだらかな道を行き、一の鳥居直前で衣服調整を兼ねて休憩を取った。ここからルートは二俣に別れ、右ルートをとって不動滝を目指した。

・不動滝を右に見て急斜面をジグザグに登り詰めると二の鳥居で、ここで一の鳥居からの左ルートと合流する。カラマツ林の長い坂道をのぼり、右手に牙山（きっぱやま）を臨めるようになると、縮まった沢には赤茶けた水が流れ、登山道脇に蒸気が噴出していた名残の硫黄のかたまりが点在していた。ここまで来れば、取り敢えずの目標である火山館に近い。

・火山館で昼食を取りながら、天気の様子を見る。幸いにも雨は小康状態が続いているので、CL 率いる A 班を先頭に賽の河原に向けて出発。浅間神社の脇を抜けると登山道脇にイワカガミやハクサンイチゲの小さな群落があった。

・湯の平高原は明るい草地で黒斑山の山稜を仰ぐことが出来る気分の良いところである。岩峰と草原の風景はアルプスを思い起こさせる。

・賽の河原分岐辺りでカラマツの低木越しに丸い砂山のような前掛山が見えた。ここで前掛山登頂を断念した市民参加者２名に会員１名を付け火山館で待つよう指示して降ろし、砂礫の道を前掛山への登りにかかる。噴火による植生はまだ回復していないので先を行く A～D 班のパーティがすっかり見渡すことが出来た。空はやや明るくなり展望もある。心配していた稜線の風も穏やかで、この分では前掛山頂上まで行けそうとの期待が高まる。

・第二外輪山の一角で直角に右に折れ、外輪山の稜線を行く。２０分ほどで頂上に着いた。頂上に立つ皆の顔は登頂の喜びに溢れていた。柏・我孫子を出発した時点では、まさか頂上に立てるとは予想だにしていなかったので感激もひとしお。時間が押しているので頂上では余りゆっくり出来なかったが、登れただけで幸せ気分いっぱい。外輪山からの下山途次、小雨がぱらついたがパーティの足取りも軽く、火山館と二の鳥居で小休止を取っただけで、天狗温泉に降り立った。

登れてよかった

旧噴火口の荒々しさ！

E 班　小野泰子

（前略）岳人あびこのリーダーの適切な判断、会員の皆様の細やかなサポート、参加者の「頂に到達したい。」の思いが寄せ合わさって雲に隙間を開けたように思われる。

浅間山初登山の私にとって印象に残ったこと。

１．ホトトギス、カッコウ、ウグイスの鳴き声と山頂付近を舞っていたツバメの飛翔。

１．火山を実感。山道途中の硫化水素の腐卵臭、

硫黄の黄色。山頂に近づくにつれての外輪山の姿、旧噴火口の荒々しい様子。すごい！

１．植物の山登りが良くわかる。噴出物で大地がリセットされたところに、たくましい種類の植物が芽生え根を下ろし、少しずつ仲間を増やし、草本、木本と次第に森林を作りながら山頂へ登っていく様子がとてもよくわかった。木本のパイオニア，カラマツはたくましい！噴火がなければ、百年、千年、万年後には、植物も山頂に到達しているはず。

１．出会えた花々、ズミ・タチツボスミレ・イワカガミ・ハクサンイチゲ・ショウジョバカマ・ミネズオウ・マイズルソウ・コメバツガザクラ･スズラン･オオカメノキ･サクラ･･。

岳人あびこの皆様、お世話になりました。有難うございました。

慎重に

２０回目の市民登山を迎えて

責任の重さと出会いの喜びと

チーフリーダー村松敏彦

地元に根付いた山岳会として、又、市民の皆様に自然の美しさ、登山の楽しさを体験して頂きたいと云う願いから市民の皆様と一緒に登山を楽しむ事を目的した山行も今年で２０回目を迎えることになった。過去、無事故で多くの市民の方から喜びと感謝の気持ちを伝え聞き、責任の重さと市民の皆様に会える喜びが交差して複雑な気持ちで本年２月から計画に入った。

まず、どの山に登るか、から始まります。条件は柏、我孫子から日帰り出来る場所、山の会が主催する山として（歩こう会、ハイキングクラブ等で実施出来ない山)、単なる仲良し山行でなく、少しは厳しさの伴う登山が可能な山として、日本百名山であり、花の百名山でもある、「浅間山」に３月の総会に於いて決定すると同時に実行委員７名が選出され具体的に動き出しました。

まず浅間山に関する資料集めから始めました。数年前までは噴火の可能性があるため立入禁止になっており、黒斑山を暫定浅間山としていた経由もあり、心配したが山頂直下の前掛山まで登れる事が判明して、現在はこの前掛山を暫定的に浅間山と見なしているようだ。（警戒レベル１）ＰＲ活動としては柏、我孫子市の広報への掲載、又、各近隣センター、スポーツ店、への募集ポスター依頼、ホームページ等原稿の作成、過去、何回かこの行事に参加された方への葉書による参加通知等、実行委員、会員の協力のもと実行されました。

今回は予想以上に人気（？）が高く多くの参加希望者が有り、(10 名近く遠慮して頂いた）参加説明会のお知らせ、会場設定（今回、初めて我孫子、柏の２会場）資料作成等多くの作業が必要でした。又、山行及び行程がスムースにかつ安全に行われるためにも下見が絶対条件でした。

危険個所の確認、時間配分、下山後の入浴場所での調査、雨天時のための見学場所等実行委員５名の参加で綿密に行われました。市民参加者への説明会が終わると班編成、バス会社との打合せ（例年と違って乗降場所を我孫子駅、北柏駅南口になったため)、座席表、名札の作成等雑用が次から次へと出てきました。これらを実行委員及び会員協力のもと成し遂げる事が出来ました。

当日は、我孫子駅、北柏駅南口から市民 28 名（急用のため直前２名辞退)、会員 25 名、合計 53 名の参加者が土砂降りの雨の中を集まり一路、浅間山に取りあえず出発した。（気圧の谷が太平洋岸にあり、又、寒気が東北方面にあるため、内陸に向かう我々に少しは良くなるだろうと云う一条の望みを抱きながら）登山口でも雨具を着用して、行ける所までと云う条件で出発する。幸いの事に賽ノ河原を過ぎた時点で雲が切れ、前掛山の全貌が現れ、歓声が上がる。無事山頂を踏んだ後の下山では雨が再び降ってきた。但し、本来の目的の帰りのバスの中で「今日は楽しかったね」と云う会話が多くの人から聞く事が出来、目的は達した事と思う。

ツアー会社でもなく、旅行社でもない、趣味で集まった山の会がこの様な行事を 20 回も続けていくためには献身的な報仕の精神と多くの人達の協力が無くては実現しません。参加される市民の方たちも単なる同行者でなく、メン

バーの一人であると云う自覚を持って積極的に行動して頂きたいと切に願うものです。傍観者であってはこの行事は実現しません。

平成 26 年度市民登山(浅間山)実行委員

村松敏彦　武内勇二　高橋英雄　本田愛子
箕輪カオル　新谷直恵　郷田進

概念図

浅間山の火口（写真：東京大学地震研究所　２００４年）

概　　要

山名	浅間山（前掛山）		
月日	平成 26 年 6 月 8 日(日)		
山域	浅間連峰	地形図 1/25000	車坂峠、浅間山
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄ	２Ｂ
目的	市民と新緑の山に登り、親睦を深める。		

費用	7,000 円（交通費、入浴、保険込）	交通機関	貸し切りバス
日程	我孫子駅南口発（大型バス）5:35→北柏駅南口発 5:50→上里ＳＡ経由→天狗温泉駐車場（浅間山荘）9:10/9:30 火山館コース⇒一の鳥居 10:00/10:10⇒二の鳥居 10:30/10:35⇒火山館(昼食)11:30/12:07⇒賽の河原 12:40⇒立ち入禁止表示板 13:40⇒浅間山（前掛山）2,524ｍ14:05⇒立入禁止表示板 14:25⇒火山館 15:30/15:40⇒天狗温泉(浅間山荘)17:05/17:20→小諸あぐりの湯(入浴)→17:50/18:30→横川ＳＡ→三芳ＳＡ経由→北柏駅南口→我孫子駅南口着		
コース状況	・磨き抜かれた端正な姿・日本百名山、花の百名山に登る。 ・現在、浅間山は黒斑山（表コース）コースと火山館コースのみ許可されている。そのため今年の市民登山は浅間山の火山館コースから前掛山に向かった。 ・コース：天狗温泉(浅間山荘)駐車場⇒整備された登山道を左に沢の水音を聞きながら一の鳥居に向かう(約 30 分)⇒不動滝を見て、稜線に出ると二の鳥居は近い⇒新緑の樹々の中を火山館に到着 ・此処にはトイレ、水、等あり ・休憩に絶好の場所(昼食)(約 1 時間 50 分～2 時間)⇒賽の河原迄平坦な高山植物の豊富な場所⇒小石・砂交じりの急登(ルート中最も厳しい)を終えると立入禁止板に着く(約 1 時間 20 分)⇒瓦礫の稜線を辿って山頂へ(約 25 分)お疲れ様でした。		
参加者	【A 班】村松（CL)、高橋芳（SL)、箕輪カ、矢野裕、宮野　（一般）北田、室崎宏、室崎育、桝谷、大平 【B 班】箕輪完（L)、外崎（SL)、中村育、大山、岩村　（一般）早川、数江、秋山、栗城静、栗城玲、末光 【C 班】高橋英（L)、矢野貞（SL)、末永、新谷、中尾　（一般）小板橋、平井幸、平井和、吉田、小比類巻 【D 班】郷田(L)，田村(SL)、斎田、村越、矢澤　（一般）高橋冨、平柳勉、平柳美、大井、篠原直、牧野真 【E 班】武内(L)、桐生(SL)、本田、北川、内田　（一般)、藪中、向治、向智、林、小野、岡 会員参加者 25 名：男性 12 名　女性 13 名 市民参加者 28 名：男性 12 名、女正 16 名 計 53 名		

＜８５３＞

雲取山～和名倉山～笠取山～雁坂峠
（2017m）（2036m）（1953m）（2082m）

矢野　貞子
高橋　芳恵

４日間の奥秩父主脈縦走の旅

飛龍山のシャクナゲ

矢野　貞子

昨年甲武信岳に行ったとき次は雲取山から雁坂峠まで繋げると山で話した事が実現した。若いころから地図を見て歩いてみたいと思っていたが計画するなら参加したいとの声に励まされ実現した。４０ｋ近い道のりを女子隊で実現できたことが嬉しいし参加してくださった大畠、田村、高橋芳、瀬田、中村育さん、皆さんに感謝します。山の仲間って素晴らしいと思いました。

１日目(6 月 12 日木)

天気予報のとおり朝起きたら大雨。こんな大雨の中、山に出かける自分が馬鹿に思えたが、駅で仲間に会うとこれからの山に力が出てきた。池袋駅でレッドアロウー号に乗り西武秩父駅に行き予約していたタクシーに乗り込む。タクシーの運転手が「今日は中止だと思っていた。確認したら実施するとのことであわてて来た。屈強な男性だと思っていたがこんな、か弱き女性達だったとは驚きです」との返答に気を良くした私たちだった。

三峰山のビジターセンターの大駐車場でタクシーを下車。トイレを済ませ近くにある一畳程の観光パンフレット置場で雨支度をして出発。杉やヒノキの大木の杉が横殴りの雨をさえぎってくれる。１時間半程歩くと秩父宮様のレリーフがある霧藻ガ峰の頂上お休み処に着いた。清潔な小屋で雨宿りしながら昼食を取ることができた。雨が小降りになってきている。霧藻ガ峰から下りお清平へ。前白岩山への急登を１時間半程登り続けると前白岩山。少し行くと廃屋となっている白岩小屋は到着。この頃には雨が上がってきた。さらに３０分程進むと白岩山に到着。さらに芋の木ドッケの分岐、大ダワの苦しい登りを我慢して行くと家が見えてくる。今は使用していない小屋だ。そこから少し登ると雲取山荘小屋だ。若いお兄さんが私達を迎えてくれた。今夜は私達のパーテーだけだとのこと。お炬燵のある２部屋を案内される。ストーブを焚いてくれたので、濡れた衣服やザックなどを乾燥する。

２日目(6 月 13 日金)

雲取山頂上

天気は晴れ。山荘の裏手から雲取山頂上を目指す。原生林の尾根道がきつい。
２０１８ｍの頂上からは富士山を眺めることが出来た。昨日の雨で洗われた空気や景色が美しい。頂上から南に行き避難小屋の前過ぎ富士山を眺めながら歩く。急下降すると三条の湯への道への分岐の三条ダルミだ。さらに進むと笹の平な狼平抜け三ツ山下で地図読みをして現在地を確認する。北天のタルを過ぎ、丹波への分岐の飛竜権現に着く。４０数年前の飛竜山で石楠花のトンネルがあったことが忘れられなくて飛龍山の頂を踏みたいと同行者にお願いする。小休止後、荷物をデポし頂上を目指す。１０分程登り詰めると石楠花がちらほらと見え出す。そこからは両側に石楠花の園と表現できるほどの花、花。特に北斜面に一面の石楠花。石楠花トンネルもあるし花びらのじゅうたんもある。満開の石楠花だ。さらに進むと花はな

くなり飛竜山頂上。見晴らしも利かない為一休みし引き返す。往復１時間程の道草だったが行って良かったと思った。皆も喜んでくれた。

飛竜権現から少行くと岩を乗越す、「左へ少し行くと見晴らしが良いよ」とすれ違った登山者に教えてもらう。１，２分行くと見晴らしの良い岩場にでた。この道で唯一見晴らしの利く禿岩だ。大学生だという若者２人にあう。写真を撮りあう。左側が深く切れ込んだ谷沿いで幅が狭く気の抜けないアップダウンの繰り返す長い水源の道に飽きる。途中鹿の死骸が階段の塞いでいるところもあった。次の角の先で終わりか？次か次かと歩く。

将監小屋への分岐から青い屋根を目指す下りはジグザグの急斜面で木に捕まりながら慎重に下りる。峠まで尾根を歩き峠から下った方が良かったかもと後悔した。

将監小屋の夕食はカレーが定番だが連泊する私達のためにきのこごはんを用意してくれたおやじさん、愛想の無い人だがなかなか味のある人であった。

3 日目　（快晴）　　高橋　芳恵

将監小屋の立派なバイオトイレは何故か朝は作動せず、機械を壊してしまったかと心配した。昼頃になれば電気が動き出すとのこと。朝５時半出発。昨日は将監峠の手前で急坂を下ってきたが峠は小屋から少し上がったところで峠から下りたほうが楽だったことがわかった。山の神土で休憩し、仙波のタルの方に道を分けた。しばらくすると尾根筋に出て小ピークをいくつか巻きながら進んだ。昨日越えてきた飛龍山がどんと構えてわれらの歩行距離を教えてくれているかのようだ。奥秩父の山脈の展望を存分に楽しんだ。仙波ノタルからはシャクナゲが現れ、名高いシャクナゲの山としてはシーズンが過ぎ、少し淋しいが盛のころはどれほど美しいかを想像した。気持ち良い尾根歩きは西仙波、東仙波と辿り、焼小屋の頭を上り下りする。このあたりは斜面の岩がザレているが見晴らしはよい。この先を登り、吹き上げの頭を巻きながら尾根道をどんどん進む。カヤト交じりの伐採地を過ぎ平地をしばらく進むと背丈の高い、笹竹が茂る八百平に出た。八百平はとても広くルートがわかりにくいが人の踏み跡を頼りに藪漕ぎに近い状態で進むと川俣分岐に出た。道に沿って直進したあたりから何故か鹿のフンが多量に落ちている。この先に水場があると赤のテープで頻回に示しているのを頼りに水場は確認したが、千代蔵の休み場ではないらしい。ともかく引き戻り間もなく千代蔵の休み場に着いた。二瀬分岐を確認し、ここから先はかなりの倒木をいくつも乗り越え、到着した山頂は展望のない樹林に囲まれた所だった。しばらく皆で地図を確認している間に若き男性登山者が現れ、われら女子隊は拍手でこの好青年を迎えた。迎えられた彼は静謐な山の楽しみが半減したのかもしれない。帰路は千代蔵の休み場で先ほどのルートを検証した。よく見れば往路の水場に進んだ道には倒木を積んで侵入禁止の標があり、付近一帯の倒木と見分けがつかない為、先に進んだことが判明した。また八百平までの道にもよく見るとテープの標が付いており藪漕ぎをしなくてもしっかりしたルートがあることがわかった。和名倉山は迷いやすい経験者向きとガイドブックを読んできたものの、人並みの勘違いをしてしまったといえる。「失敗から学ぶ登山学」をしっかり各人が体験することができた。

和名倉山頂上付近

八百平でゆっくりと昼食を楽しみ、往路を引き返した。途中西仙波で山座同定をして地図読み研修にも怠りなかった。和名倉山は地味だが静かで誠に味わい深い良い山だった。

14 時 30 分将監小屋に到着。行動時間９時間

４日目（快晴）

唐松尾山　2109m～雁坂峠 2082m

将監小屋の管理人は昔ながらの山人でなかなか気難しいこともあるが、愛すべき人でもあり、いろいろお世話になった。但し、泊り客に対して公平に接することができないところは問題かなと思った。朝、５時１５分に小屋を出発し、４日間のコース中で一番の長丁場となるのが本日である。昨日の山の神土を和名倉山と

は反対に左に折れ、カラマツの林を快適に歩く。毎日歩いて４日目ともなるとすいすいと足の軽いことに自分でも驚く。毎日山歩きしていれば生涯登山は可能かもしれない。御岩山の展望地には立ち寄らずそのまま進んだが唐松尾山から尾根伝いに素晴らしい富士山を展望個所があった。唐松尾山は狭い山頂ではあるがシャクナゲの花が楽しめた。水干尾根分岐に８時３０分に到着し、ここからはがらりと風景が変わった。カラマツの緑が明るい美しい林を軽快に歩き。多摩川の大河の一滴となる水干を確認し、笠取山を巻きながら分水嶺に到着した。今回は笠取山には上らなかったが急峻な山肌が緑で美しい。水源林のため、大切に保護されている緑の笠取山は何度も訪れたい山の一つである。分水嶺は富士川、荒川、多摩川に分かれる個所であり、美しい緑に守られたおいしい水の源頭であることに感慨ひとしおである。日本の水は急峻な山からの贈り物であることを忘れてはならない。

４日目の朝　雁坂峠に向かう

さらに主脈縦走路を下り、雁峠に出る。雁峠からは登り返し古札山で地図読み研修、巻道はあったものの水晶山にしっかりと登り、雁坂峠に下った。雁坂峠は昨年１０月に訪れ、大弛峠から秩父の主脈がつながったことになる。あとは金峰山と大弛峠をつなげば奥秩父主脈縦走路をすべて歩いたことになる。埼玉県秩父市と山梨県山梨市に接している広くて空が明るい雁坂峠は私の最も好きな場所の一つであり、遠くに見える赤い鉄橋の下のトンネルが下山地であることの距離感を感じることが楽しい。日本三大峠として針の木峠、三伏峠と肩を並べているのも頼もしく、川又までの往還路も歩いてみたい。

３日前の雨の影響もあり、水嵩を増した川の渡渉には十分気を付け慎重に足を運んだ。将監小屋で同宿した登山客の話ほどではなかったが登山路の一部にかなりの水があった。

前回長いと感じた下山路は、１年目との違いを確認する余裕があった。何度が同じ山を歩くことで山をより深く理解することも楽しいことかもしれない。そんな楽しみ方もこれからはしてみたいと考えた。１５時１５分下山、実に１０時間に及ぶ山歩きの一日だったが不思議に疲れは感じなかった。タイミングよくタクシーが到着し塩山温泉の湯で癒され、女子隊の楽しい４日間の主脈縦走の旅を終えた。何にも代えがたい素晴らしい経験とかけがえのない時間を過ごすことができた。矢野貞子リーダー、皆様ありがとうございました。（記　高橋芳恵）

概　　要

山名	雲取山～和名倉山～笠取山～雁坂峠			
月日	平成 26 年 6 月 12 日(木)～6 月 15 日(日)			
山域	奥秩父	地形図 1/25000	三峰・雲取山・武蔵日原・雁坂峠	
形式	山小屋	グレード	３Ｃ	
目的	アズマシャクナゲを見に			
費用	34,150 円（温泉代反省会代含む）	交通機関	ＪＲ・西武線・タクシー	
日程	1日目	我孫子 5:31→池袋 6:50→西武秩父 8:12→(タクシー) 三峰パーキング 9:35⇒霧藻ヶ峰 11:20/11:55 ⇒ お清平 12:05⇒前白岩山 13:35⇒白岩小屋 13:40/50 白岩山 14:15/25 ⇒オオダワ 15:20/25⇒　雲取山荘 16:00(泊) ＜歩行時間 6 時 00 分＞		
	2日目	雲取山荘 5:35⇒雲取山 6:05/20⇒三条ダルミ 7:00⇒三つ山下 8:15/25（地図読み）⇒　北天のタル 9:40⇒飛龍権現 10:40/45 飛龍山 11:10/15⇒飛龍権現 11:45/12:15 ⇒禿岩 12:20/25 ⇒ 将監小屋 15:10（泊） ＜歩行時間 8 時 30 分＞		
	3日目	将監小屋 5:30⇒山の神土 6:00⇒西仙波 7:10 ⇒東仙波 7:30⇒八百平 8:40/50⇒水場確認 9:30⇒二瀬分岐 9:50⇒和名倉山 10:10/20 八百平 11:10/45 ⇒ 地図読み 12:05/15⇒ 東仙波 12:55/13:00⇒ 山の神土 14:05/10 将監小屋 14:30　（泊） ＜歩行時間 8 時間 30 分＞		

	4日目	将監小屋 5:15⇒山の神土 5:45⇒唐松尾山 6:55/7:10 ⇒水干尾根 8:33⇒水干 8:40/45⇒分水嶺 9:05/15⇒雁峠入口 9:25⇒雁峠 10:05/10 ⇒地図読み 古札山 11:10/30 ⇒水晶山 12:00/05⇒雁坂峠 12:35/50⇒雁坂トンネル入り口 15:15（タクシー）→ 塩山温泉 15:45/16:35→塩山 17:53→新松戸 20:42→我孫子 20:55 ＜歩行時間 9 時 30 分＞
ルート状況		・三峰神社駐車場に雨宿りできる所がありそこで身支度ができた。 ・霧藻ヶ峰には清潔なお休み所が、雨宿りしながら昼食が取れた。 ・雲取山から将監小屋までの水源道は片側切れ込の谷沿いで幅は狭く気の抜けないアップダウンの繰り返しでうんざりした。 ・将監小屋への下りは雲取側からの下りは転げ落ちそうな下りだった。将監峠まで行き下った方が良い。 ・和名倉山へは東仙波から八百平までは細いアップダウン 7～8 回繰り返す尾根歩き。また、東仙波、八百平、川又分岐の先の水場への道などで道迷いしやすい。 ・倒木が多かった。 ・雁峠から古礼山への道は明るい開けた道だった。 ・水干から１３８Ｋ先の東京の水になる最初の一滴にふれてきた。 ・雁坂峠の下りの渡渉箇所は昨秋より水嵩があり慎重に渡った。
参加者		矢野（Ｌ）大畠（ＳＬ）高橋芳、田村、中村育、瀬田　　女性６名　　計６名

概念図

水源道のイワカガミ

＜８５４＞

安達太良山
（1699m）

齊田　記代美

日帰りで安達太良山へ

リーダーになって 2 年目、安達太良山山行の担当になりました。

私は、以前から「くろがね小屋」に泊まって源泉かけ流し温泉に入りたい、湯川渓谷に沿って歩きたいと思っていたので、この 2 点の条件をクリアーするように、山の情報、交通手段、登山ルートを調べました。

安達太良山に登るのにはルートがいくつもありますが、どのルートも、柏からの交通の便が悪く、便利なルートは、くろがね小屋に登山口から 2 時間半でついてしまい、泊まるには歩く距離が短くて、費用はかさんでしまいます。先輩たちの山行は冬の山行しかなく参考にならず、なかなかうまくいかなくて悩んでいたら、貸し切りバスを使って、「くろがね小屋」に泊まのを諦め、日帰りはどうかとアドバイスを頂いた。そこで、10 人以上参加者がいること、沢に沿って登るので、雨天中止という計画を立てました。幸い、12 人も参加していただき催行することができました。

塩沢温泉登山口からの山道は整備されていて歩きやすく、そして、登山者に行き交うこともほとんどない静かな山道でした。沢の音が心地よく聞こえ、涼しげで、可愛らしいイワカガミ、ツマトリソウ、マイズルソウ、そしてヤシオツツジなど初夏の花が見られ、足取りは軽やかだった。

三階の滝への下りを見逃さないようにと地図を見ながら歩いていたのだが、案の定通り過ぎてしまった。屏風岩への分岐を右に入ると、右手に登ってくる道があり、三階の滝からの道だと思われた。この時は、自分が今どこを歩いているのか地図上で分かるようになりたいと痛感した。

三階の滝は見逃してしまいましたが、その先の屏風岩や八幡滝の眺めは迫力満点で、いつまでも見ていたい景色でした。秋の紅葉も又素晴らしいだろうと想像をめぐらせた。

何度か繰り返す渡渉も、緊張感を持って楽し

むことが出来た。
くろがね小屋に着き、ここでみんな一列に並んで昼食をとり、山頂をめざした。こちらの斜面は今までと違って、大勢の人で賑わっていた。
突起の山頂からは 360 度のパノラマというほど澄み渡ってはいませんでしたが、安達太良山塊や二本松市街を眺めることが出来、山頂制覇の気分を十分味わうことが出来た。
帰路は一目散に、ゴンドラ山頂駅を目指した。再びかわいい初夏の花を眺めながらですが、下りはかなりきつく、のんびりとはいかず、途中からはゴヨウマツや灌木の中を歩くので、暑く、長い道のりに感じた。全員一致（私の一存か？）で、歩くと一時間のところゴンドラに乗り奥岳登山口に８分で着いてしまい、無事山行を終えることが出来ました。
次回は紅葉の時期に、また先輩たちのように雪の安達太良山にも行って、この時こそは源泉かけ流しの温泉に入りたいものです。

渡渉

屏風岩で

安達太良山頂をのぞむ　↑

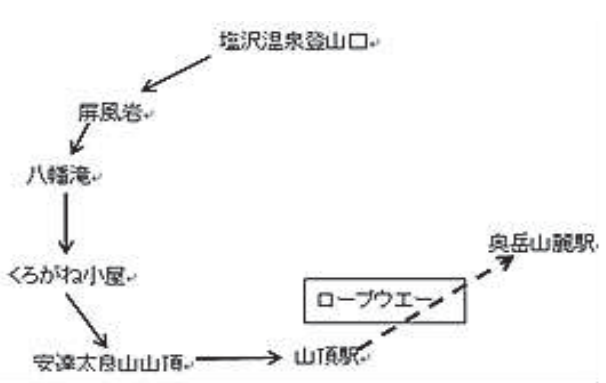
くろがね小屋の前で　↑

安達太良の山頂　↑

概　　要

山名	安達太良山		
月日	平成 26 年 6 月 15 日（日）		
山域	安達太良	地形図	1/25000　磐梯・吾妻・安達太良
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
目的	初夏の花を探しに		
費用	約 9,000 円	交通機関	レンタカー
日程	我孫子駅北口 5:35→（常磐道・磐越道・東北道）→塩沢温泉登山口（755m）9:15/9:30⇒三階滝⇒屏風岩（相恋の滝）10:40⇒八幡滝 11:05⇒天狗岩 11:25⇒荒竜岩 11:45⇒勢至平ルート合流 12:30⇒くろがね小屋（1400m）12:35/13:00⇒峰の辻 13:40⇒安達太良山山頂(1699m)14:25⇒仙女平分岐 15:25⇒ゴンドラ山頂駅 15:55→（ゴンドラ使用、6 人乗り）→山麓駅 16:15/16:25→東北道・磐越道・常磐道→我孫子駅北口 20:45 ＜行動時間　約 5 時間 30 分＞		
ルート状況	・塩沢温泉入口には登山道入り口の標識があり分かり易く、道も整備され緩やかな登りで歩きやすかった。 ・三階の滝入り口は標識が壊れており、道も荒れ入口か判らず通過してしまった。後日問い合わせたところ、下りてみると良かったねと言われた。 ・八幡滝を過ぎると渡渉が始まったが橋や鎖など整備されていた。道標 24 番の箇所のみ橋が水没していて飛び石を渡った。		
参加者	齊田(L)、外崎(SL)、武内、箕輪カ、箕輪完、本田、矢野裕、矢澤、宮野、末永、石塚、室崎 男 5 名、女 7 名、計 12 名		

概念図



＜８５５＞

長七郎山
（1579m）

新谷　直恵

瓦礫の頂上　３６０度の展望

赤城山は標高１３００メートルにある大沼を囲んで黒檜山、駒ヶ岳、薬師岳、地蔵岳、長七郎山などが取り囲んでいる。昭和９年に昭和天皇が行幸されたのを記念して県立公園になっている。坂巻リーダーは初夏に長七郎山、秋には黒檜山に登る計画を立てている。したがって今回は長七郎と地蔵岳を歩く。メンバーが７人とあって、我孫子からレンタカーを利用し、鳥居峠に向かい、おのこ駐車場に車を止める。途中、ビジターセンターに立寄り、資料を入手。

前日まで降っていた雨も今朝はどうにか止み、山を歩く頃には黒雲は去って空は次第に明るくなっていった。覚満淵入口から長七郎山への登山道は突然現われるが、自動車道脇にその標識を見落とさなければ迷うことはない。関東ふれいあいの道ともあって、よく整備され標識も見やすい。

頂上までは小１時間、どこまでも歩きやすい道を行く。途中樹林の向こうに沼が見え隠れし、ツツジの群落も見える。水芭蕉はすでに終わったようだ。小沼と長七郎の分岐を超え山頂に到着。瓦礫の頂上は３６０度の展望。記念撮影をして、少し早いが軽い昼食をとりながらひと休みする。空から黒雲は消え、青空が広がっていた。一服後、小沼湖畔に出る。

山中の沼は静まり返り、神秘的ですらある。風で波立ち、砂の波打際に波が音を立てる。沼の正面に小地蔵岳が見えるが、右か左かどちらまわりで行くか意見が分かれるが、砂浜が続く右へと進むことにする。

やがて右と左が交わる辺りから斜面が続き、地蔵岳登山口に至り、自動車道を超えて進む。見上げると幾つもの電波塔やアンテナが立ち並び、その下の急斜面を登る。長七郎岳より地蔵岳の方が１００メートル高い。頂上からは周囲にいくつかの山が見え、地図を広げて皆で山の名を確認する。秋に登る予定の黒檜山の姿も大沼の向こうに確認できる。ここでゆっくり本日２回目のランチをとる。

大沼への下山道は幾つかあるようだが、選んだのは樹林のなかの急勾配の道。昨日の雨のためか道はところどころぬかるみ滑りやすく、何度か滑って尻餅をつく。ゆっくり進もうとするのだが体が前へ前へとつんのめるため、ついスピードが出てしまう。朝からゆったりと歩いて来たが、ここに来て下るスピードを押さえられない。ここが今日いちばんのスリルある下山道となった。

駐車場に戻ると、一路赤城温泉郷を目指す。予定していたところが休館だったため滝沢温泉の秘湯で名高い滝沢館を訪れ、そこで汗を流す。風情ある川沿いの露天風呂にはなんと蚊帳がかかっていて、アブやブヨを心配することのない心遣いがある。土間から一段高い畳の間には炉が切られ、冷えた薬草茶をご馳走になった。

レンタカーを柏で返却すると、そのまま反省会の店「泰山」に立寄り、今日一日を省みながら生ビールで乾杯。今回は山行というよりはハイキングねと楽しんでいたところ、スリリングな下山道で思わず気が引き締まったこと、また反省会へ向かうコンクリート道で転んで額に出血した人がいて、最後まで気が抜けないことをみんなで笑いながら確認した。

岐路　さて、右に行こうか？左に行こうか？
小沼湖畔にて

カモシカさん

今日の最高峰　地蔵岳頂上にて

概　要

山名	長七郎山		
月日	平成 26 年 6 月 19 日（木）		
山域	赤城・榛名	地形図	1/25000 赤城山
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1B
目的	初夏の草花を鑑賞		
費用	約 4,500 円	交通機関	レンタカー
行程	我孫子駅 5:40→柏ＩＣ→三郷ＩＣ→大泉→前橋ＩＣ→大洞バス亭Ｐ9:00⇒覚満淵⇒鳥居峠⇒長七郎山⇒小沼⇒八兆峠⇒地蔵岳⇒大洞バス亭Ｐ13:30→滝沢温泉 14:00/15:00 伊勢崎ＩＣ→川口ＪＣＴ→三郷ＩＣ→柏ＩＣ→柏駅 18:00 ＜歩行時間 3 時間 30 分＞		
ルート状況	登山というよりハイキングという感じだ。 登山道は良く整備されている。標識もしっかりしていて安心して歩くことができた。 地蔵岳からの下山ルートは急斜面で滑りやすくなっていた。		
参加者	坂巻(L)、本田、外崎、齊田、石塚、新谷、郷田　　男性２名、女性５名　計７名		

概念図

＜８５６＞

乙女高原～小楢山
（1713m ）

中村　育子

満開のツツジ続く道
山頂　眺望なく残念

レンゲツツジの蕾が鮮やかなピンク色をしているのもあった。この日は曇り空。雨に降られなかっただけ「まし」と思ってみたり、眺望がなかったことにがっかりしたりの一日となった。

塩山駅から焼山林道の「乙女高原自然観察路入り口」までタクシーで約 30 分。「登山道は、国土地理院 2.5 万分の１の破線の道と、実際の道は違っている」とブログで指摘されていた通りだったが、山梨市役所が事前に道を整備し、ピンクのテープをつけてくれていたので、道には迷わなかった。時々テープを見失うと、誰かが見つけてくれた。夏は沢山の高原の花が咲くという。この日は、サンニンシズカ、ギンリョウソウなどを見た。クリンソウの群落を見ながら登ってゆくと、あっけなく乙女高原のグリーンロッジについてしまった。高原一帯は、どこもかしこもレンゲツツジのオレンジ色であふれていた。シラカバも目立つ。素晴らしい眺めだった。日が射していたらどんなにきれいだったろう。

一休み後、林道に沿った登山道を下り、焼山峠に向かう。子授け地蔵の脇で昼食。さくらんぼや漬物などのたくさんの差し入れがくるので、のんびりしたかったが雲行きがあやしい。早めに切り上げることにする。

途中、標識のない分岐があった。迷っていると大畠さんがすぐに「右よ」と声をかけてくれた。どうしてわかったのか聞くと、事前にブログでチェックしていたという。入念な下調べにびっくりした。まもなく巨岩の的岩を通る。ヤマトタケルノ命がこの岩を的にして幕岩から矢を射たという。そこから頂上までは満開のツツジが続いた。頂上は甲府盆地がうっすらと見えるだけで、富士も大菩薩嶺も金峰山も見えなかった。がっかりだった。

眺望の無い山頂を切り上げて、母恋いし道を通って下山の途につく。沢筋の道は石がゴロゴロ、湿って滑る。歩きにくい道を１時間余り下ると林道出会いに着いた。林道を下る途中、花房状の白い花をつけた樹と薄紫の花をみた。どちらもきれいな花で人目を引く。その時は名前が分からなかったが、オオバアサガラとコアジサイだと後で教えてもらった。

途中までタクシーが来てくれた。タクシーは林道はＵターンできないからと来るのを嫌がったが、電話でやり取りしているうちに来てくれたのである。おかげで塩山駅で反省会が出来たうえに、１７時５分のホリデイ快速―これは快適だった―に乗ることが出来た。

みんなの足並みがそろって、とても気持ちのよい山行が出来たことに感動している。参加者の皆さん、有難うございました。

概念図

生憎の曇天　富士は見えず（小楢山頂にて）

概　要

山名	乙女高原~小槌山		
月日	平成 26 年 6 月 21 日		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 塩山　川浦
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
目的	レンゲツツジ、ヤマツツジを楽しむ		
費用	5,700 円	交通機関	電車、タクシー
日程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:46/5:50→西国分寺 6:47/6:55→高尾駅 7:22/7:26→塩山駅 8:44/8:50→（焼山林道=タクシー）→乙女高原自然観察路入り口 9:20/9:25⇒休憩 10:05/10:10⇒乙女高原ロッジ 10:47/10:53⇒焼山峠（昼食休憩)11:45/12:10⇒的岩 12:57/13:03⇒一杯水 13:13⇒小槌山山頂 13:27/13:45⇒母恋し道分岐 13:55⇒休憩 14:35/14:40⇒林道と新林道の交差路 14:49/14:54⇒（林道）⇒タクシー乗車 15:35→塩山駅着 16:00 (反省会)　ホリデイ快速新宿行き 17:05 発→新宿駅 18:55/19:00→神田駅→上野駅 19:33→我孫子駅 20:09 解散 ＜歩行時間 5 時間 2 分＞		
ルート状況	・自然観察路は、①. 入り口の大きな看板は古いので撤去され、代わりに小さな看板があるのみ。②. 登山道は、国土地理院の 2.5 万分の 1 の地形図の破線と実際の道は違っている。が、ピンクのテープがあるので迷うことは無い。 ・焼山峠から小槌山までの道もよく整備されていて歩きやすいが、一箇所、巻き道か本道か、標識がなくて判断に迷うところがある。 ・母恋し道は険しい沢筋の道で、石がゴロゴロして滑りやすく、歩きにくい。・		
参加者	中村育（L）　大畠(SL)　品田　桐生　斉田 村越　大山　石塚　　男1名、女7名　計8名		

＜８５７＞

小野岳・二岐山

（1383m）（1544m）

本田　愛子

会津中級山岳の秀峰　小野岳と二岐山

福島県には「日本百名山」吾妻連峰・安達太良山・磐梯山・飯豊山・会津駒ケ岳・燧岳・那須連峰の 7 山がある。その他に「うつくしま百名山」が百山もあるくらい山が多い。
その中で会津中級山岳の秀峰に、小野岳と二岐山がある。

梅雨真っただ中の 6 月下旬、上野駅から(6:25)東北新幹線で新白河駅に(7:45)下りると、ざあざあ降りの雨だった。駅前のレンタカー2 台（9 名）で国道 289 から湯上温泉駅を通って、大内宿を過ぎ林道を少し行くと、小野岳登山口の道標があった。右にデコボコ道を上がっていくと駐車スペースの原っぱに着いた。（9:35）丁度よく雨が止んでいたが、雨支度をして出発(9:45)する。小野岳は熊が多く棲息していると記されているので、鈴を鳴らして歩いた。杉林の中を入って緩く登っていくと、沢の源頭部に最後の水場と書いてある処で早いが(10:05)一息つく。階段状の急登をゆっくり登っていくと高圧線の鉄塔に着く。
そこからブナやミズナラの樹林をいくと、尾根道にぶつかる。右に折れて緩く登っていくとダケカンバが多くなってくる。急登を汗だくで過ぎると其処が山頂だった。(11:50) 雨も小降りからどしゃ降りになり、急いで記念写真を撮って登ってきた道を早々に下山した。

レンゲツツジ

小野岳頂上は雨だった

小野岳山頂からは飯豊連峰、吾妻連峰、磐梯山、大戸岳を望むことができる。
秋の晴天に再度来てみたい味わい深い東北の山を感じた。
駐車スペースに着いた頃には雨が止んで日が差してきた。下山が 13 時で早いので、途中の観光名所で大内宿に寄った。日曜日で人が多く賑やかだった。
そこから二岐温泉は 30 分程で山と二俣川添いの静かな温泉地で、私達は柏屋旅館で地元の料理を堪能して、野天風呂に入り、明日に備えて早めに休んだ。

旅館の下に流れる渓流の音で目を覚ました。朝 7 時に車 2 台で二岐登山口がある御鍋神社入り口まで林道を登ってきた。今日のルートは男岳から女岳へ地獄坂を経て女岳登山口へ下るため、車 1 台を下山口に置きに行った。御鍋神社は少し下った淋しい所にあった。平家の落人が煮炊きをしたという大鍋が吊るしてあった。駐車した神社入り口から 5 分位歩いた先に二岐山登山口がある。(8:10) 右に入ってまもなく八丁坂という急坂になった。

ミズナラとあすなろの樹林の中を登っていくと、ブナの木が多くなって、ブナ平という台地の尾根にでる。緩やかな台地を少しいくと、男岳への急登になる。30 分ほど頑張って登っていくと男岳山頂(10:10)についた。360 度の展望で磐梯山、吾妻連峰、安達太良山、昨日登った小野岳が見えて最高の眺望だった。ひと休みして次の女岳へと向かう。
少し下りて鞍部から登り返すと女岳山頂は狭く展望は望めない処で、先に進むと記念樹がある。最近結婚したカップルの名前が記されていた。少し行くと、地獄坂の看板がある。
地獄坂という名のとおり、ここから急に狭い下山路でロープや鎖を頼って気持ちを集中して下りていった。緊張が暫く続きやがて平坦な道になり、青葉の気持ち良い、ミズナラとブナの樹林帯を通って、女岳登山口の林道に出た(12:15)。男岳登山口に止めた車を取りに行き、二岐温泉に戻ってきた。大丸あすなろ荘という秘湯の宿で入浴して、帰る頃にまた雨が降ってきた。(14:20)

梅雨の最中で、二山とも登頂できた今回の山行は幸運だった。そして、福島の「うつくしの山々」の小野岳・二岐山の良さを味わえた。
羽鳥湖畔を通って、新白河駅に戻り、ゆっくり帰ってきた。我孫子(20:00)着

村松さん、箕輪さん運転お疲れ様でした。

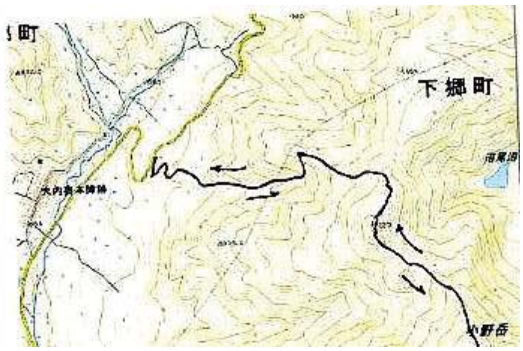
大内宿で一休み

シャクナゲ

概念図

二岐山

小野岳



概要

	小野岳・二岐山		
月日	平成 24 年 6 月 29 日(土)～ 6 月 30 日(日)		
山域	阿武隈山地	地形図	1/25000 湯野上、甲子山
形式	旅館泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
目的	1．うつくしま百名山（小野岳）、と日本三百名山（二岐山）に登る。 2．秘湯中の秘湯に宿泊して精神も身体も健康になる。		
費用	25,000 円	交通機関	JR、レンタカー

日程	1日目	我孫子駅発 5:31→上野駅 6:05/6:25（東北新幹線やまびこ）→新白河駅 7:43/8:00（レンタカー)→国道 289 号→大内宿小野岳登山口 9:35/9:45⇒小野の泉⇒小野岳 11:50/11:55⇒分岐昼食 12:35/12:45⇒小野岳登山口 13:30→大内宿散策 13:5０/14:30→二岐温泉柏屋旅館 15:10（泊り） ＜歩行時間 4 時間 10 分＞
	2日目	柏屋旅館発（レンタカー）7:00→二岐山登山口 8:10⇒あすなろ坂 8:45⇒ブナ平 9:00/9:10⇒10:10/10:30⇒男岳 10:10/10:30⇒笹平 10:45⇒女岳 10:55⇒地獄坂 11:05⇒女坂登山口 12:15→二岐温泉あすなろの湯 13:20/14:20→新白河駅 17:51 上野駅経由我孫子駅着 20:01 ＜歩行時間 3 時間 15 分＞
ルート状況		<u>小野岳</u>： ・公共交通機関がないか、不便のため 2 台のレンタカーでそのハンデを補った。（新白河駅より）熊の名所のため熊よけ鈴を必携する事。 ・小野岳大内宿登山口には 10 台駐車可能。 ・登山口より、20 分位の所に小野の泉と云う水場がある。 ・稜線に出たら登山道を右に行く。（左にもはっきりした道がある） <u>二岐山</u>： ・御鍋林道の二岐山男岳登山口には 10 台程度の駐車可。 ・八丁坂ではルートが所々解りにくいが赤布を目安に登れば問題ない。 ・女岳からの急坂（別名、地獄坂と云う恐ろしい名が付いている）は慎重にロープ等便りに降りたい。 ・2 山とも割合、登山道ははっきりしている。
参加者		村松(L)、品田(SL)、大畠、箕輪カ、田村、箕輪完、本田、斎田(SL)、石塚、 男 2 名　女 7 名　計 9 名

笑顔で二岐山の頂上に立つ

＜８５８＞

子持山・小野子山

（1296m）（1208m）

箕輪カオル

テント泊まりを楽しむ

一日目（７月１２日曇りのち晴れ）子持山

我孫子駅前５時半過ぎに、３台の乗用車に分乗して出発。渋川伊香保ＩＣ、国道 17 号、一般道、子持神社奥の院を目指す。7 号橋駐車場に駐車して、８号登山口より沢沿いの道を行く。簡易トイレが置かれている。沢水の音が気持ちよい。昨夜の雨で木々も登山道も湿りがあって、やわらかな歩きやすい道である。山あじさいのゆるやかな坂が続く。１時間ほどで大ダルミに到着。岩場ではないが急登である。３０分ほどで柳木ヶ峯に登り切った時の苦しかったこと。少し休憩して、次の急登は岩場である。子持山は狭い山頂ではあったが赤城山、日光連山、上越の山々が眺望できた。一等三角点、方位盤に触れながら昼食タイムを過ごす。

十二神と書かれた石碑が目を引いた。十二様といって一年に十二人の子を産むという女神になぞらえたものかと思っている。故に子持山なのかとも。大きな秋田犬も懸命に登頂していた。蜻蛉や蝶も山頂の賑わいとなっていた。

下りは獅子岩（大黒岩）を通り、（獅子岩にも登り口がある）屏風岩に向う。下山道の木々には地元の小中学生が描いたと思われる、鳥の絵が描かれた板切れが吊るしてあった。見落としてしまいそうな板切れではあったが、子どもたちもこの子持山に関心持っていることが伝わってきた。頂上から１時間ほどで屏風岩に到着。柱状節理が見事に屏風となった岩である。（この岩にも経験者向きの登山口があるようだ。）

赤城山と榛名山の両雄にはさまれた一等三角点の山、子持山は古い火山でマグマが上昇したまま固まり、周辺が風化して露出した獅子岩、屏風岩をはじめ岩肌が随所に見られる名山でもある。山の特徴を改めて振り返ってみた。みどりのキャンプ場に荷物を置いて、近くの高山温泉「ふれあいプラザ」で汗を流す。ここでは地元の農産物を販売しており、今旬のブルベリーが人気を呼んでいた。キャンプ場では手際よ

いテント設営、食卓の準備等、さすがに岳人のみなさんだ。さらに食材も豊富なこと、卓上コンロで焼くはたはたや鰯の干物は大人気。焼き立て熱々が苦手な様子の村松さん。実は猫舌だった。山の達人にも弱点があったのだ。村松さん指南のご飯の炊き方も的確でおいしく炊き上がった。本格的にテーブルも設営されて、テント生活に手慣れた武内リーダーの機転である。飛び入りの西瓜あり、山ならではのカレーライスにも大満足の宴会だ。歌集による歌なども出て、みんなの気持ちの若さを感じた。ここのキャンプ村にはもうカナカナが鳴いていた。

二日目(１３日曇りのち雨) 小野子山～十二ヶ岳

４時起床の筈が３時半にはもう起きている。カレーうどんの朝食だ。５時５０分に出発して牧場内の遊歩道を通り、展望台、登山口へと進む。赤芝登山口までの長い舗装道路を１５分程歩く。山は今にも雨が降りそうに霧が巻いている。風があり、涼しさもあって嬉しい。トリアシショマ、ホタルブクロの花が多かった。天然記念物の姉妹ゴヨウツツジの大樹があるというので、その巻道を行く。姉妹の１本はすでに枯れ木となっていた。緩やかなアップダウンを繰り返し、８時ごろ小野子山頂上にたどり着く。霧のため展望は良くない。目指すは十二ヶ岳ではあるが、下ってくだってまた下る。空模様も怪しくなってくる。十二ヶ岳までは、中岳を越えないと行けないとのこと。行きはよいが帰りはほとほと疲れそう。武内リーダーの「戻ろう！」の声に誰もが納得である。下った分の登りは少々きつかったが、しばし安堵感した。

１０時過ぎにはキャンプ場に戻った。昨日の入った温泉にゆっくり体を休め、軽い食事とともに無事山行を終えた喜びに乾杯をして温泉を後にする。いつのまにか雨になって十二ヶ岳までの登頂は叶わなかったが、結果的にはよかったと思う。武内リーダーの適切な判断に、また運転されたみなさんに、そして参加したみなさんに感謝です。本当に楽しいキャンプと山行でした。

ヤマボウシの咲く小野子山山頂

概念図

概　　要

山名		子持山・小野子山		
月日		平成 26 年 7 月 12 日(土)～ 7 月 13 日(日)		
山域		上州	地形図	1/25000 上野中山
形式		テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1B
目的		テント泊まりを楽しむ		
費用		8000 円	交通機関	自家用車
日程	1日目	我孫子駅 5:40→柏 IC→渋川伊香保 IC→子持神社奥の院（7 号橋駐車場）8:30/8:40⇒8 号橋登山口 8:45⇒休憩 9:18/9:25⇒大タルミ 9:45/9:50⇒柳木ヶ峯 10:18/10:25⇒子持山山頂 10:45/11:10⇒休憩 12:07/12:15⇒屏風岩 12:50/12:55⇒7 号橋駐車場 13:00/13:10→みどりの村キャンプ場→高山温泉ふれあいプラザ(入浴)→みどりの村キャンプ場(泊)　＜歩行時間　4 時間＞		
	2日目	みどりの村キャンプ場⇒5:50 牧場天望台 6:00⇒登山口道標 6:20/6:25⇒林道終点（赤芝登山口）6:48⇒ゴヨウツツジ 7:25⇒小野子山山頂 7:50/8:00⇒中岳手前 8:20⇒小野子山山頂 8:42/8:50⇒林道終点（赤芝登山口）9:35⇒みどりの村キャンプ場 10:15⇒高山温泉（入浴）→渋川伊香保 IC→柏 IC→我孫子 16:00　＜歩行時間　4 時間 40 分＞		

ルート状況	**子持山** ・大ダルミ～柳木ヶ峰間は急坂で滑り易いため登りで通過する８号橋からのルートを選択 ・柳木ヶ峰～子持山間の山頂直下付近の岩場の危険個所にはロープあり。 **小野子山**　（赤芝登山口） ・牧場遊歩道から林道に出て一旦山道に入った後、再び舗装された林道歩きを強いられる。 **小野子山～中岳～十二ヶ岳** ・滑り易い急坂のアップダウンの繰り返し、林間ルートで展望も期待できない模様。今回は降雨が予想されたため、小野子山登頂後中岳へ向かう途中で山行打ち止めとした。 みどりの村キャンプ場（フリーサイト） テント１張 2,000 円。入場料１人 300 円 ・林間のテント場。炊事場、トイレ、ごみ収集所。
参加者	武内（L）、村松、箕輪完 、大平、室崎、箕輪カ、桐生、齋田、本田、矢野裕、村越、石塚　　男　５名　女　７名　計１２名

屏風岩：柱状節理の見事な安山岩の一枚岩

テントを張り終えお疲れさま

＜８５９＞

西吾妻山～東大嶺
（2035m）

北川　勝久

楽々　リフトで雲上の楽園へ

清々しい高層湿原

西吾妻山頂にて

平成 26 年 7 月 20 日（日）
山形新幹線で米沢まで向かう。8：20 米沢駅に到着。ここからジャンボタクシーで白布温泉まで向かう。米沢駅では米沢牛の弁当を購入された方も。
10 分程で白布温泉湯元駅に到着。ここからはリフトを 3 回乗り継いで天元台高原駅に。ずいぶん楽をして高度をかせぐことができた。他の登山者もそれほどいない模様。静かな山歩きとなりそうであるが天気があまり芳しくないのが

多少気になる。
リフトの終点で準備をしていよいよ登山の開始。それほどキツイ登りでもなく整備された登山道を登って行く。多少ぬかるみ等があり嫌な感じではあるが順調に登って行く。50 分程歩いて人形石に到着。ここは広い広場のようなところで展望もある程度は望むことができた。シャクナゲも多少咲いていた。また、福島からの登山者が大人数で休憩をしており、登山グループの市民登山とのこと。ここから本日の宿泊場所の避難小屋（名月荘）を目指す。2 時間程アップダウンを繰り返しようやく名月荘に到着。湿原の中にあるなかなか良い避難小屋である。今日の宿泊者は私たちだけの模様。落ち着いてから、水汲みに全員で行く。小屋からは水場は 15 分程下ったところにあり、非常に冷たくおいしい水である。水汲みの帰り道は木道が濡れていて滑りやすいため要注意であった。小屋に戻ると早速おいしいおつまみのオンパレードで軽く乾杯。毎度のことながらおいしいのです。それから共同の夕食を食べて各自思い思いの場所を確保して就寝となる。

7 月 21 日（月）
今日は、雨も上がって見事な快晴である。やはり山は天気が良くなくては。
共同食のうどんを食べてから登山の支度にかかる。準備を終えて 6：00 前に名月荘を後にする。非常に気持ちがいいのである。木道を 20 分程歩いて東大嶺の分岐に。東大嶺に向かうが木道が途中で切れていたり雨水が登山道を流れていたりしていたので東大嶺はやめることに。なので昨日の道を戻り、2 時間程歩いて人形石に到着。写真を撮ったり休憩をしてから西吾妻山に向かう。天気も良く、高山植物を堪能しながらの登行である。なだらかなアップダウンを木道に沿って歩いて行く。9：20 に大凹の水場に到着し、喉を潤す。ここからは多少きつい登りとなり 10：40 西吾妻山に到着する。あまり展望がきかない山頂ではあるが記念写真を撮ってから西吾妻小屋にとりあえず向かい、11：00 頃に到着する。どんな小屋か中をチラッと見学してから吾妻神社に向かう。20 分程あるいて神社に到着。登山の安全を祈願してから天元台高原のロープウェイ駅に向かう。途中でお天気雨が降ったりしたが 13：20 にロープウェイ駅に到着。ここからはまた、3 回ほどリフトを乗り継いで白布湯本駅まで行く。皆、リフトの乗り降りがうまくなったようである。

白布温泉では、近くの「森の館」というところで汗を流してから再びジャンボタクシーで米沢駅まで行く。米沢駅では軽い打ち上げを行い帰路についた。それ程ハードでなくリフトで手軽に行ける雲上の楽園という山行であった。ただし途中で雨に降られたり不順な天候の時もあるのでやはり登山は準備万端で行きたいものである。

↑　天気、展望　　良し（人形石）

ハクサンイチゲ
の群落

概　　要

山名	西吾妻山～東大巓		
月日	平成 26 年 7 月 20 日（日）～21 日（月）		
山域	吾妻連峰	地形図 1/25000	天元台・吾妻山・白布温泉
形式	避難小屋泊	グレード	1B
目的	湿原とゆるやかな起伏の山歩き　②山行中の食事と水分補給（実技研修）		
費用	約 23000 円	交通機関	JR・ジャンボタクシー・ロープウエイ・リフト
日程　1日目	我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:18（東北新幹線つばさ 121 号）→米沢駅 8:20/8:30（ジャンボタクシー）→白布湯元駅 8:55/9:00（ロープウエイ）→天元台高原駅（リフト）→北望台 10:20/10:30⇒人形石 11:10/11:20⇒藤十郎 12:40⇒明月荘分岐 13:30⇒明月荘着 14:10　（避難小屋泊） ＜歩行時間:3 時間 30 分＞		

	2日目	明月荘 5:45⇒明月荘分岐 6:10/6:15⇒弥兵衛平 7:20⇒藤十郎 7:30⇒人形石 8:30/8:40⇒大凹の水場 9:20⇒梵天岩 9:50/10:10⇒西吾妻山 10:40/10:45⇒西吾妻小屋 11:00/11:10⇒吾妻神社 11:15/11:25⇒梵天岩⇒大凹の水場 12:15⇒人形石との分岐 12:30⇒かもしか展望台 12:45/12:50⇒北望台 13:15/13:20（リフト）→天元台高原駅（ロープウエイ）→白布湯元駅 14:20⇒白布温泉森の館（入浴）14:25/15:30（ジャンボタクシー）→米沢駅 16:00/17:41（東北新幹線つばさ 154 号）→上野駅 19:45→我孫子駅着 20:20 ＜歩行時間 6:20 分＞
ルート状況		・全般的に登山道はよく整備されている。湿原が多いためか、稜線上には分厚い木道が敷かれ、木道が乾いていれば非常に歩きやすい。ただし、日陰の部分はヌメって滑りやすく慎重を要する。 ・大凹の水場から梵天岩の見える湿原までの急坂は、コース中、一番の悪路。泥にまみれた大岩が重なりあい、段差がきつい。 ・人形石付近は広い瓦礫の平坦地。鉄柱に目印の赤い紐が結びつけられてある。ガスの濃いときは方向を間違えないように。 ・避難小屋明月荘は、一切経山方面への縦走路の分岐（東大巓の手前）を左手に折れる。 小屋までの距離が思いのほか、遠くに感じられる。 ・水場（金名水）は避難小屋から滑川温泉方面に向かい、往復 30 分のところ。
参加者		外崎（L）、箕輪完（SL）、北川、内田、本田、村越、石塚 男性 3 名　女性 4 名　計 7 名

概念図

＜８６０＞

甲斐駒ケ岳～仙丈ケ岳

（2967m）　（3033m）

矢澤　節雄

黒戸尾根の岩場延々　面白い！

黒戸尾根の長い梯子　↑

甲斐駒ケ岳山頂にて

山登りの楽しみ方にはいろいろあると思っている。どの山に登るかを思案することを初めとして、眺望を、花を、紅葉を、温泉を、・・・を楽しむなどなどである。そして、長い急登を喘ぎながら登り、岩場を緊張して攀じ登る、この挑戦もまた面白く、止められない。
今回の山行は、それを満足させてくれると確信しての参加である。

深田久弥は著書「日本百名山」の中で、日本十名山でも甲斐駒ケ岳を選ぶと「ベタ褒め」である。仙丈ケ岳については、その容姿をいろいろと褒めているが、甲斐駒ケ岳ほどでの褒めではない。しかし、花の百名山に仙丈ケ岳（シナノナデシコ）は選ばれているが、甲斐駒ケ岳は選ばれていない。いずれにしても、わたくしにとって両山とも何辺も登りたくなる素晴らし

い山である。

2006年7月のＮＨＫ放送「日本の名峰～発表おすすめの山50～」の番組で、残念ながら仙丈ケ岳は選外であったが、甲斐駒ケ岳が 30 位に選ばれた。番組の中で山好きな女優の市毛良枝さんが盛んに黒戸尾根から苦労して登ってみたいのだと熱く語っていた。また国井雅比古ＮＨＫアナウンサーが、小さな旅「山の歌」の旅人として黒戸尾根を登れたことを大変喜んでいたことが強く印象に残っている。そして自分もいつかは黒戸尾根を登りたいと強く願っていた。

1964年（昭和39年東京オリンピックの年）9月下旬、大学院の指導教官に誘われて研究室の仲間たちと麦藁帽子に布製キャラバンシューズで重いテントを担ぎ、塩見岳から北岳を縦走したとき、美しい姿の山を指して、教官からあれが仙丈ケ岳だと教えてもらった記憶がある。辛い縦走中に、初めて見る仙丈ケ岳を、美しい！と思った。その想い出ゆえ、塩見岳から仙塩尾根を縦走しての仙丈ケ岳を制覇したい強い願望を持っている。この願望が達成できれば、平成 24 年 8 月岳友菊地功さんと二人で三伏峠から荒川三山・赤石岳を経て聖岳まで縦走したことを合わせると、仙丈ケ岳から聖岳までの踏破した稜線が繋がることになるのだが、今回は北沢峠からのピストンである。北沢峠～仙丈ケ岳～塩見岳も考えられるが、仙丈ケ岳を目指す縦走をしたい。塩見岳からの縦走は次回の楽しみにしよう。その前に光岳から茶臼岳・聖平までを繋げるつもりである。故に私は今後も山登りを続けたい。

兎に角、黒戸尾根を計画していただいた大山リーダーに大変感謝している。大山リーダーのお陰で今年の北海道山行も大成功であった。大山様々である。感謝！感謝！

竹宇駒ケ岳神社から夜明け前に出発。評判の急登を覚悟していたためか、一週間前までの北海道山行で体が山に慣れていたのか、十二曲がりや八丁登りも特別に苦にならなかった。刃渡りの岩場で大山リーダーが「ここは私が先頭で行きます」よと、ひょいひょいと登っていき、途中で平気で後ろを振り向いて「大丈夫ですよ。」と促す。さすがに岩場のプロである。こちらはそうは出来ない。鎖があるから怖くはなかったが、ゆっくりと渡った。ここから刀利天狗・五合小屋跡を経て、七丈小屋まで鎖、梯子や三点確保の岩場で約三時間半延々と攀じ登った。面白い。

小屋着は 12 時である。夕食門限（16 時）に余裕の到着なのに、小屋主から「食材がないから夕食は出せません。」「お湯とカップラーメンありますよ」。え！私はビールが飲めるからいいが、リーダーお気の毒様です。リーダーお茶とコーヒーをどうぞ。

小屋の午後が長い。他の登山客と自然に楽しい会話が弾む。日本百名山目指す九州の夫婦から「自分たちが所属している山の会で、85 歳で不帰の剣越えで白馬に登った会員がいる。」と聞き、私にもまだまだ山に行く時間がありそうかな？どうしよう引退後のための鉄道模型が無駄になる。

翌日、七丈小屋を 5 時前に出発。頂上まで随所に岩登りのある登山道を懸命に攀じ登る。天気は良く、快適である。山道からの展望も利き、甲斐駒の姿が美しい。白い花崗岩の頂上にある石祠が立派に見え、アテネのアクロポリスの丘に建つパルテノン神殿を思わせる神神々しい美しさを感じた。行ったことはないが、ここはギリシャか。

頂上直下も岩登りで駒津峰からのアタックと異なる上りである。頂上では、明日登る仙丈ケ岳に見惚れ、360 度の眺望を満喫した。頂上からの下りは滑りやすい花崗岩のザレ道であることは記憶していたが、北沢長衛小屋手前のゴーロ状の道は何故か記憶になく、異様な景観とその広さと延々と続く道のりの長さに驚かされた。

翌日も暗いうちから仙丈ケ岳を目指して出発した。昨日までの登山の疲れはない。ガスの中を自分としては快調に登っている。途中、七丈小屋で談話した九州の夫婦が下山してくるのに出遭った。二人とも健脚である。残念ながら、頂上の見晴らしはなかったとのこと。頂上に、ほぼコースタイムで到着。甲斐駒は見えない。諦めて下山開始。途中道端で雷鳥が土砂かぶりをして遊んでいる。われわれが近づいても逃げない。雷鳥の仕草をしばし眺め、動画を撮って楽しむ。仙丈ケ岳は雷鳥が多いのか、前回の仙丈ケ岳登山でも雷鳥の写真を撮っていた。花の写真も撮ったが、残念ながらシナノナデシコには遇えなかった。小仙丈ケ岳辺りからガスが消え、仙丈ケ岳・鳳凰三山を観ることが出来た。甲斐駒ケ岳もと期待して、途中二度ほど長い休憩を取ったが、ついに頂上の雲は取れそうで取れなかった。でも満足である。

北沢峠から広河原までの車窓からの初めての眺めは素晴らしかったが、奈良田から富士川

沿いに甲府までが遠く、ビールのない２時間半のバス旅行には閉口した。

達成感と、全員が笑顔の楽しい山行に大変満足した。大山さん、田村さん、大畠さん、岩村さん全員にいろいろ助けていただいて感謝します。有難う。

甲斐駒ケ岳～仙丈ヶ岳

概念図

概　　要

山名	黒戸尾根甲斐駒ヶ岳～仙丈ヶ岳			
月日	平成２６年７月２１日（月）～２４日（木）			
山域	南アルプス北部	1/25,000 地形図	長坂上条、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳	
形式	BH１泊、山小屋２泊	グレード	３Ｃ	
目的	①日本三大急登黒戸尾根を登る ②コメツガの原生林と高山植物の美しい南アルプスの女王仙丈ヶ岳に登る ③北沢峠～広河原~奈良田の大景観の広がる林道を走る			
費用	約３４，０００円	交通機関	JR、ﾀｸｼｰ、ｽｰﾊﾟｰ林道ﾊﾞｽ	
日程 1日目	我孫子駅15:52→快速→日暮里駅16:22/16:27→新宿駅16:49/17:00→〔あずさ２５号〕→韮崎駅〔夕食〕18:43/19:30⇒R/Iｺｰﾄ韮崎泊			
2日目	R/Iｺｰﾄ韮崎3:00→Jﾀｸｼｰ→竹宇駒ヶ岳神社3:20/3:30⇒休憩4:00/4:05⇒横手白州分岐5:40/5:50⇒休憩6:50/7:00⇒休憩7:45/8:00⇒刃渡り8:15/8:25⇒刀利天狗8:50/9:00⇒五合小屋跡10:05/10:25⇒休憩11:25/11:30⇒七丈小屋12:05泊 ＜歩行/行動時間:7:10/8:35＞			
3日目	七丈小屋4:50⇒八合目御来迎場5:50/5:55⇒休憩6:50/6:55⇒休憩7:40/7:50⇒甲斐駒ヶ岳山頂7:57/8:25⇒六方石9:17/9:25⇒駒津峰10:10/10:20⇒休憩11:11/11:20⇒仙水峠11:53/12:03⇒北沢峠こもれび荘〔旧長衛荘〕13:25泊　＜歩行/行動時間:7:10/8:35＞			
4日目	こもれび荘3:48⇒登山口3:50⇒一合目4:10⇒二合目4:30⇒休憩4:50/5::00⇒三合目5:05⇒四合目5:20⇒5:40大滝頭〔五合目/藪沢小屋分岐〕⇒六合目6:05⇒休憩6:07/6:20⇒小仙丈ヶ岳6:50/7:00⇒八合目7:30⇒仙丈小屋分岐7:50⇒仙丈ヶ岳山頂8:15/8:30⇒仙丈小屋分岐8:48⇒八合目9:03⇒休憩9:15/9:30⇒小仙丈ヶ岳9:50/10:05⇒休憩10:20/10:35⇒六合目10:42⇒大滝頭11:07⇒四合目11:22⇒三合目11:33/11:40二合目11:57⇒一合目12:10登山口12:20/13:30→南ア市営バス→広河原→13:53/14:00→山梨交通→奈良田14:45/14:50→山梨交通→甲府駅17:10/17:27→かいじ120号→新宿駅→神田駅→上野駅→快速→我孫子駅20:10 ＜歩行/行動時間:7:00/8:30＞			
ﾙｰﾄ状況	・南アルプスを代表するコースであるので、コースはしっかり整備されており、途中で一緒になった山口のご夫婦は、九州や中国の山の梯子や鎖は確認しながら利用しないと危険なものが多いと仰っていた ・黒戸尾根はさすがに日本三大急登で、急峻な梯子、鎖が連続しているが、梯子、鎖のない箇所であっても岩登りに近い登り方が必要な箇所〔特に八合目御来迎場から山頂〕もあり、ストックは邪魔になるので格納して登ることをお薦め ・八合目から山頂にかけてもますます急峻になるので最後まで気が抜けない ・今回だけかも知れないが、七丈小屋はへりの都合で食材を運び上げることが出来ない為に夕食、朝食のサービスが受けられず、カップラーメンを購入して〔お湯在り〕代替とする ・刀利天狗から五合目小屋跡まで標高差200m近く下り、七丈小屋への登り返しとなる			
参加者	大山(L)、大畠(SL)、田村、岩村、矢澤 男性３名、女性２名　計５名			

＜８６１＞

霞沢岳～徳本峠～島々宿
（2646m）（2160m）（724m）

矢野　貞子　　高橋　芳恵

昔ながらの峠道辿り
穂高連峰を展望

１日目　（曇り時々晴れのち雨）・・矢野貞子

かねてから歩いてみたかった島々宿から徳本峠への呼びかけに６人もの会員の参加があり、実行できることになった。一昨年、穂高登山の折に見た岳沢からの焼岳、霞沢岳の大きさに今度はこちらと決めた山へと念願でもあった。当日の天気が思わしくない予報であったためルートを上高地から徳本峠に変更した。毎日新聞社からの夜行バスはデラックスではなかったが、乗客が少なく一人２席を占有できたのはラッキーであった。朝の上高地はいつ訪れても清々しく、明神分岐まで快適に歩けたが先頭を行くサブリーダーのテンポが速く感じられたのは「足の具合がイマイチですよ」と自分自身に言い聞かせた。白沢出合からの林道に続き、ジグザグの急登で、木々の合間の穂高連峰の雄大な眺めを楽しみながら、８時３０分徳本峠小屋に着き、荷物をあずけてサブザックで９時霞沢岳に向かった。

２００名山に数えられながらも地味な霞沢岳への登山道は徳本峠小屋の関係者の努力で整備されたと伺った。いったん来た道を 200m 程戻り、道標に沿って曲がると周囲はシラビソ、コメツガの林の中で山を横切るような急な登りとなり、１時間程で木にペンキの赤でジャンクションピークの標を見つけた。目的の霞沢岳はまだ先が遠い。ここからは長い下りとなり、さらに上り下りをくり返し、小さな池のある湿地帯となった。途中斜面に花畑をみて上り詰めると崩壊地に出た。登山者は少なく、北アルプスの山でこれほど、静かで未整備の山があったことに驚いた。さらに続く樹林帯の中に藪漕ぎ個所がある。ここで高橋は朝から不調の股関節の違和感が強くなり、登頂を他のメンバーに委ねてゆっくり続くことにした。（高橋）

「徳本峠から霞沢岳に登り上高地に入る」自分に挑戦できる日が来るとは思いませんでした。上高地をひろめたウエストンが入った島々谷コースを抜けさらに霞沢岳を登るのですから・・・。期待感と歩けるか不安を胸に出発。

当日リーダーからこれからの天候の具合でコースを逆に行くと言われました。

九段下を深夜に発ち早朝、上高地に着いた。深夜バスで眠れた、眠れなかったと話しながら朝食を取り出発。梓川沿いに歩き明神分岐を徳本峠に向かう。黄色の苧環や愛らしい千住ガンビの花を見ながら沢を何本か渡ると、道はぐんぐん高度を上げて振り返ると前穂高岳の展望が開けてきた。８時半に徳本峠小屋に到着。

荷物を小屋にデポしサブザックで９時に出発し霞沢岳に向かう。

最初は緩やかなトラバースぎみの進み、徐々にジグザグの厳しい登りを１時間ほど行くとジャンクションピーク１に着いた。そこから緩やかに下り湿地を過ぎ再び登りＰ2 らしき頂についた。途中下山者２名にあった。これから先の行程はこれまでの登りとは比べられないほど厳しかったと一人が、一人はＫ１で引き返してきたとのことであった。期待と不安が広がる。Ｐ２でリーダーの体調が本調子でなく遅れ気味になり、先に行くように指示があった。後ろ髪を引かれながら先を急ぐ。崩壊している所を避けてダテ樺をやぶ漕ぎ、きぬがさ草の群生地から背の高い草斜面を這い登り霞沢岳への尾根の取りつきで小休止。ここまで藪こぎや木に掴まりながらの登りだったので、取り付きから見るＫ１へはそれ程急斜面には見えなかった。実際には４分の１程右手に回り込み、ザレ場を過ぎ６０度くらいある急斜面を這い登る。後続の仲間が一本の線に見えるほどの急斜面だ。もう足が上がらないと思うほど登ると尾根らしき所に着き、前が開けたのでピークに着いたかと思ったが、まだ厳しいひと登りがあってやっとのことでＫ１に到着した。

遥か彼方にＫ２のピークと霞沢岳が見え穂高岳や乗鞍岳を眺めることが出来た。

ここでＫさんが待っていたいと希望があった。風もなく天気が良い、霞沢岳までの道のりは見えること、Ｋ１から霞沢岳までは１時間余のピストンであることから、Ｋさんには風の来ないところで待って貰うこととしたが、１３時３０分までに頂上に着かなければそこで引き返してくると約束して４人で出発。まずはＫ１からの下り。これまでの道とはがらりと変わり岩稜の下り、そこからアップダウンのある岩の尾根歩きとなった。

２０分程でＫ２に到着。Ｋ２の頂は広くピークかはっきりしない。ここでＯさんが遅れ気味になり先に行ってほしいとのこと。ここでもピストンであることから先を急いだ。岩稜の尾根道は細くガレ場もあることから慎重に進む。お花畑が左手の谷に広がって来たが花の写真を撮る時間も惜しく先を急ぐ。花畑の先の岩をひと登りすると霞沢岳の頂上だった。１３時１５分頂上には小さな標識があるのみで交代で記念写真をとった。振り返ればＫ２の頂上にはＯさんが万歳をしている姿が見えた。帰りにお花畑をゆっくり鑑賞したかったが空模様が怪しくなって来ているし、Ｋ１．Ｋ２で待つ仲間の事を思い急ぐ。Ｋ２でＯさんと合流しＫ１で待つＫさんに合図を送り無事を確かめる。

Ｋ１からの帰りも取り付きまでは慎重に下る。ますます雲行きが怪しくなり、雷鳴が聞える。早く深く樹林帯にもぐりたいと急ぐ。Ｐ２手前の木にリーダーからと思われる先に下っているとのメッセージを受け取り皆が安心した。Ｐ１を過ぎた頃から雨が降り出したのでカッパを着用。上衣だけ羽織歩き出したが１０分程歩き頃には雷と雨、風が激しくなりズボンも着用する。朝ジグザグに登ってきた道は水溜りが出来て川を歩いている状態になってしまった。まだかまだかと小屋の姿を探しながらたどり着いた時は全員がずぶぬれになっていた。

全員で頂上を踏めなかった事が心残りです。リーダー、ＫさんＯさんのお言葉に甘えてしまいました。お蔭様で行かれないと思っていた霞沢岳に登ることができました。
それにしても厳しい山でしたね。再挑戦してみんなで頂上を踏みたいものです。

２日目　（晴れ時々曇り）・・・　高橋芳恵

徳本峠小屋は改築され、寝具は清潔で心地よかった。本日は島々谷へと下る。朝、展望台に登り、穂高連峰の展望を楽しんだ。やはり、穂高は素晴らしい。小屋前で朝のティータイムをして７時に出発。下り道はしっかりと熊笹が刈り込んであり、小屋の関係者やボランティアの皆さんが維持管理してくださっているとか。有難く歩かせていただいた。４０分ほどで力水に出て、おいしい水を補給した。ここからは沢伝いの道となり障子川瀬川、中ノ沢、岩魚留沢の支流を越え丸太橋に十分気をつけながら下った。木々の緑と沢の水音、渓流の素晴らしさに十分堪能したころ、岩魚留小屋に到着した。この付近はいくつもの沢が合流しゴーゴーとした流れとなっており、もう少し下流であったら、観光資源になったであろうと思ったが、歩いてこそ、このような景観に出会えることに感謝した。

かつてウェストンも休んだであろうカツラの大木が印象的であった。岩魚留小屋は草が伸び、さびれているが休日は泊まることもできるのか。軒先を借りて早目の昼食とした。徳本小屋のお弁当は立派でおいしかった。さらに島々谷に沿って切り立った岸壁をへつり、激流にかけられた橋をいくつも渡った。きつい道ではあるが、足元の花々に助けられた。

昭和２年、加藤文太郎は１泊２日で大糸線柏矢駅から常念、大天井、槍ヶ岳を越え、日暮れ時に徳本峠を越えて島々駅に深夜に到着したと遺稿集「単独行」にあるが、提灯を手に脱兎の如く、島々谷を越える文太郎のものすごさに身をもって感じた。12：00 に二股に着き、残りの昼食を終え、ここからは林道を 2 時間歩き、島々宿に至った。同行の皆さんのペースが良かったおかげか 10 分ほどでバスが到着し、今回頑張ったご褒美としてゆったりと過ごすことができる温泉付きペンションに 15：00 到着。ぴったりと予定タイム通りの山行であった。

3 日目

ペンションでゆったりと体を休め、思う存分おしゃべりを楽しみ、おいしい料理を堪能し、ジャンボタクシーで松本駅に到着。予定通りに 14 時我孫子駅に到着し、我孫子の花火を楽しむことができた。

今回の山行は直前にコースを逆にしたが、結果的には島々宿への下りで時間短縮ができ余裕を持って歩けたことが良かったと考えている。それにしても島々谷の素晴らしさは思った以上であり、昔日、この谷を越えて上高地に入るしかなかった時代、登山者たちはさぞ心躍る道であったろうと想像した。できることなら、次回は秋の紅葉を愛でるコースを設定したいと考えている。

キヌガサソウ

概念図

概　　要

山名	霞沢岳～徳本峠～島々宿		
月日	平成 26 年 7 月 30 日(木)～8 月 2 日(土)		
山域	北アルプス	地形図	1/25000　上高地、穂高
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3 C
目的	昔ながらの峠道を辿り、穂高連峰を展望する		
費用	33000 円	交通機関	高速バス、タクシー、JR
日程 1日目	我孫子駅 20:44→竹橋 21:43/22:25（高速バス）→上高地 5:00/5:45⇒明神分岐 6:25/30⇒白沢出合 6:40⇒徳本峠 8:25 ⇒ 徳本小屋 8:30/9:00 ⇒ ジャンクションピーク 10:00/10:10⇒ TP10:55/11:00⇒K1 ピーク取りつき 12:00⇒K1 ピーク 12:40⇒ K2 ピーク 13:00⇒霞沢岳 13:15⇒K2 ピーク 13:40⇒K1 ピーク 14:00/14:10⇒ジャンクションピーク 16:30⇒徳本峠 17:25⇒徳本峠小屋 17:30　＜歩行時間 10 時間 35 分＞		
日程 2日目	徳本峠小屋 7:00⇒力水 7:40/7:45⇒ 岩魚留小屋 9:30/9:50⇒二股 12:05/35⇒島々バス停 13:55→沢渡大橋 14:55　ペンション泊 ＜歩行時間 6 時間＞		
日程 3日目	沢渡大橋 8：45（タクシー）→松本 9:45/9:54→新宿 12:35/12:44→我孫子 13:58		
ルート状況	・霞沢岳は急登の連続で特にK1 への登りがきつい。整備されたトレイルとは違いアップダウンの連続がきつかった。K1 の登り口はザレと藪漕ぎを強いられた。 ・K1 からの展望は素晴らしく、霞沢岳の頂上の花畑は素晴らしい。 ・徳本峠～島々宿はたどる人も少ないが、下草を刈って手入れはされている。 ・岩魚留小屋は戸閉となっており、荒れていた。途中の丸太橋は注意を要する。 ・二股にはトイレが設置されており、安曇村が管理している。 ・林道入り口にはゲートがあり、クマや猿除けの為とのこと。		
参加者	高橋芳(L)、大山(SL)、田村、大畠、矢野貞桐生、中村育 男 1 名　女 6 名　計 7 名		

徳本小屋にて　　↑

霞沢岳山頂　　↑

このような支流を十数本渡ります　　↑

徳本峠からの穂高連峰

＜８６２＞

荒川三山～赤石岳
（3141m）　（3120m）

武内　勇二

南アルプス南部
雄峰の縦走を楽しむ

春先、丹沢や奥秩父から南アルプスを遠望すると、北部の白根三山と共に、ひときわ大きく白く輝いている荒川三山と赤石岳が見える。その山容をゆっくりと歩いてみたいとの思いで、梅雨明けの一番雨が少ないと思われる時期を選んで計画した。出発前の週間天気予報はまずまずで、大きな期待が持てた。前回腰痛のアクシデントで千枚岳で登山を打ち切った村松さんと外崎さんも「今回はなんとか」の意気込みで参加、若手の郷田君、矢野裕子さんも加えて総勢５名のパーティ編成となった。

【初日】静鉄ジャストラインバスの南アルプス線畑薙第一ダム行のバスは、静岡駅北口８番乗り場から出る。静岡駅からは１日１本しかなく、新宿からも１本あることはあるが、この程度で需要を満たしているのだろうか。同じ南アルプスとはいっても芦安～広河原の混雑ぶりに比べ、あまりにも交通アクセスが少ないことに驚かされる。後でわかったことだが、畑薙第一ダム付近に登山者向けに大きな駐車場が設けられており、マイカー登山者が多い模様だ。

静岡駅を出たバスは３時間半かけて畑薙第一ダム夏季臨時駐車場に到着、ここより東海フォレスト運営の山小屋送迎バスに乗り継ぎ、都合５時間余りかけて、南アルプス南部の登山基地椹島ロッジに到着した。昔、林業の拠点だったこの地に、今はリニア新幹線の工事関係者が分宿しているとのこと。

【2 日目】椹島を出て滝見橋より鉄塔横までは急な登り、その後岩尾根を辺つって林道に出た。この林道はこれからも登山道と付かず離れずしながら、最終は千枚小屋近くまで延びている。林道を右にとり急な山道を登ると程なく「2/7 標高 1,500m」の標識があり「もう少しがまんすれば小石下」と書いてあった。南アルプス特有の深い森の中の緩やかな坂道を登る。水場のある清水平も地名ほど平らではなくオオシラビソの森の斜面にあり、数名の登山者が休憩していた。パイプを通じて地中から溢れ出る水はことさら美味しく感じられた。何回もペットボトルに汲んでは飲み干し喉の渇きを潤した。勾配が緩くなったところで、蕨段の標識を見つけた。南アルプスでは急登の途中でぽんと開けた平らな場所を「〇〇段」というそうだが、ここは少し窪地になってはいるものの特に蕨が生えているふうもない。なんでこんな地名になったのだろうか。ダケカンバ混じりのシラビソの樹林が美しい。「5/7 標高 2,100m、樹間から赤石岳や荒川三山がちらっとみえる」の標識を過ぎると見晴台は近い。ルートから右に少し離れた見晴台は、このルート上唯一の展望が楽しめる場所。荒川三山、赤石岳を眼前に望み、これからの登山への期待が膨らむが、惜しむらくは赤石岳頂上付近には雲がかかっていた。

駒鳥池の標識を少し下ったところにある駒鳥池、柔らかい緑に包まれ静まり返っていた。ここまでくれば、千枚小屋まではあとワンピッチなので、ゆっくりと昼食を取った。千枚小屋は 2009 年に焼失後、2012 年に再建されたばかりで新しくて清潔な小屋だ。3 階建ての宿泊場所を挟んで中央に土間の廊下がある。窓から大きく聳える富士山が見えた。

お天気も良く時間もたっぷりあるので、村松さんにロープワークの実践指導をお願いした。小屋から少し歩いてテン場手前の斜面で、滑落した人を助けに行くという想定でマンツーマンの指導を受けた。貴重な時間であった。訓練を終え、小屋の外のテーブルで乾杯、持参のお汁粉で今日一日の頑張りを讃えあった。

【3 日目】4 時半からの朝食を済ませ外に出ると、東の空から朝日がのぼり、半開きの雲の緞帳の下の舞台中央には朝焼けの富士がでんと座っていた。まるで「今日の荒川三山縦走劇の始まり」と口上を述べているようだ。小屋近くのお花畑を抜け、這い松の中を登る。二間小屋からの道と合流すると程なく千枚岳頂上に出た。頂上は板状の岩が折り重なっている中に三角点があった。標高 2880m、富士山はもとより、赤石岳、聖岳、荒川東岳（悪沢岳）等々、展望はすこぶる良い。悪沢岳への稜線を登って行く登山者が見えた。千枚岳の下りはガレ場のお花畑。先週ここを通過した当会に入会されたばかりの大平情報によるとタカネビランジを見かけた由。必死に探す。「あった。」白っぽい花が咲いていた。丸山岳手前のコルの岩場は５m 程と短いが、足の置き場に注意して慎重に下った。

コルから丸山へはお花畑の中の緩やかな登

りから始まる。丸山山頂（3032m）からは荒涼とした岩稜帯に変わり岩だらけの道をひと登りすると今回の山行の最高峰である荒川東岳=悪沢岳（3041m）に到着した。赤石岳（3120m）より少しばかり高い。雲が少し降りてきたようだが展望抜群、北岳・間ノ岳・農鳥岳、塩見岳・仙丈ヶ岳、北アルプス、秩父連山など３６０度の展望を楽しむことが出来た。「楽あれば苦あり」で悪沢岳コルへの下りは今回ルートの最難所。急斜面のザレ場を慎重に下り、コルで一息ついた。振り返れば岩場でサルの一家が動いていた。その身のこなしは実にアッパレ、しばらく見入った。

コルから中岳へ岩場の稜線を登る。南斜面はお花畑で、大きなカールも見下ろせた。雲が降りてきて、前を行く単独行者の姿がぼんやりしてきたと思ったら、中岳避難小屋手前から小雨がぱらついてきた。避難小屋に入り暫くの休憩。小屋はそれほど大きくはないがシーズン中は管理人がいる。管理人はオフシーズン中に、小屋が荒らされると登山者のマナーの悪さを愚痴っていた。

中岳頂上は小屋からすぐのところにある。霧の中で頂上到達の記念写真を撮った。中岳から前岳は至近距離にあり、途中に荒川小屋・赤石岳方面への分岐がある。高低差も差ほどない。雷鳥の親子に出会った。前岳頂上も霧の中だったが、ともかくも荒川三山踏破の証拠写真を撮った。

分岐に戻り荒川小屋を目指す。ザレ場を下ってゆくと広大なお花畑を横切る。鹿の食害から保護するため網で囲ってある。南アルプス有数のお花畑で、晴れていればスケールの大きさが実感できるだろうと思うと雨が恨めしい。黒百合の花を見つけた。「南でも黒百合があったんだぁー」。お花畑を過ぎても荒川小屋はまだ遠い。樹林帯に入り、沢を何回か横切って、１２時に漸く荒川小屋についた。中岳避難小屋からたった１時間半に過ぎないが、やはり雨の中の行動は疲れる。荒川小屋は、外観は千枚小屋とそっくりで、中の造作も良く似ていた。夕食時間までは、食堂が休憩室になる。夕食までゆっくりと楽しんだ。

【４日目】朝から雨、風も吹いている。稜線上の風の具合によっては、赤石岳を断念せざるを得ないかもしれない。小屋から少しの急登の後は、大聖寺平までは緩やかなトラバース道を歩む。大聖寺平の道標を過ぎ、広い斜面をジグザグに登る。一旦、平らなお花畑に出て一息ついたが、すぐに小赤石岳への急登が始まる。雨はたいしたことはないが、相変わらず強い風が吹いている。山頂部の一角に出た。小赤石岳の肩あたりと思うが道標は見当たらない。休憩していた登山者から、「先ほど霧が薄くなったとき、前方に道標らしきものが見えた」と教えられた。そこが小赤石岳と推定し先に進む。小赤石岳の方から赤石岳までは比較的平坦な稜線歩きで晴れていれば展望を楽しみながらの空中散歩ができるが、霧の中では望むべくもない。

赤石小屋への分岐に着いた。歩けないほどの風ではないので、迷うことなく赤石岳山頂を目指した。今回山行の第２の高峰、赤石岳（3120m）でも展望はなく、さしたる感激もないがとにもかくにも頂上を踏んだとの達成感はあった。寒いので頂上より１分先の赤石避難小屋で休憩とした。お汁粉（500 円）を注文し、管理人のちえこさんのハーモニカを聴いて、のんびりした時間を過ごした。小屋で出会った登山者は百間洞に行くという。聖岳、茶臼岳へ登るのだろう。

時刻はまだ９時前、ゆっくり下りても赤石小屋には昼前には着いてしまうだろう。天気予報では明日午前中は傘マークがついていたこともあり、本日予定の赤石小屋泊を止めて椹島まで下りてしまおうと相談した。時間計算では、赤石小屋から椹島までは約４時間とみて、ゆっくり下りても３時半から４時頃までには下りられる計算だった。問題はかなりの標高差（2100m）を下る体力が残されているかだ。最終判断は赤石小屋での状況を見て決めようということで避難小屋を後にした。

分岐に戻り下山を開始した。急降下後、トラバース道に入ったが、岩、木の根が滑りやすい予想外の悪路に悩まされ、小さなアップダウンに辟易しながら漸く富士見平（2700m）に着いた。ここまで来ると雨は止んで少し明るくなってきたが相変わらず山頂付近は霧が渦巻いていた。

赤石小屋も、外観はこれまでの千枚小屋、荒川小屋とよく似ていて新しい。登山道横の林の中に古い小屋が取り壊されずに残っていた。「椹島まで 3 時間 30 分」の標識に励まされて前進開始。赤石小屋からはこれまでの悪路に比べれば比較的歩きやすい。「4/5」、「3/5」と書いた標識があった。椹島から赤石小屋の標高を５等分しているらしい。標高差 300mごとに架けられている計算になる。長いジグザグ道を下る。林道が木々の間に見え隠れするがなかなか

着かない。漸く林道より赤石岳登山口を少し登ったところに「0/5」の標識を見つけ、今日の行程の終わりを間近に感じた。

【５日目】早朝の送迎バスで畑薙第一ダムへ行き、そこから静岡へ予定より早く帰る目算はもろくも崩れた。東海フォレストの送迎バスは１日５本あり、第一便は６時半に出るが、畑薙第一ダム～静岡駅間のバスは１日１便しかなく結局は当初予定通りの時間で行動するしかないことが判明した。そのおかげで第４便の送迎バスの出る午後１時まで、白旗史郎写真館をはじめ椹島界隈をゆっくり散策し、登山の余韻を楽しみながら幸せな時間を過ごすことが出来た。

<u>概念図</u>

概　　要

山名	荒川三山～赤石岳		
月日	平成 26 年 8 月 1 日(金)～8 月 5 日(火)		
山域	南アルプス	地形図	1/25000　赤石岳
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3C
目的	南アルプスの雄峰に登る		
費用	60,000 円	交通機関	JR 新幹線、路線バス、送迎バス
日程 1日目	我孫子 6:51→東京 7:39/8:03（ひかり）→静岡 9:06/9:50(静鉄ジャストラインバス)→横沢 10:55/11:05→井川 12:10/12:20→畑薙第一ダム臨時駐車場 13:20/14:10（東海フォレスト送迎バス）→椹島ロッジ 15:00（泊）　歩行時間なし		
日程 2日目	椹島ロッジ 5:35⇒滝見橋 5:50⇒鉄塔横 7:00⇒林道に出る 7:30/7:40⇒小石下 8:00⇒清水平 9:20/9:30⇒蕨段 10:20/10:25⇒見晴台 10:35/10:45⇒駒鳥池 11:50/12:15⇒千枚小屋 12:55（泊）　＜歩行時間 6 時間 20 分＞		
日程 3日目	千枚小屋 5:10⇒千枚岳 6:10/6:25⇒丸山 7:40/7:50⇒悪沢岳 8:25/8:35⇒中岳避難小屋 10:10/10:25⇒中岳 10:30⇒前岳・荒川小屋分岐 10:35⇒前岳 10:45⇒分岐 11:00⇒荒川小屋 12:00（泊）　＜歩行時間 6 時間＞		
日程 4日目	荒川小屋 5:35⇒大聖寺平 6:05/6:10⇒小赤石岳 7:40/7:45⇒赤石岳・赤石小屋分岐 8:00/8:05⇒赤石岳 8:25/8:30⇒赤石岳避難小屋 8:35/8:55⇒分岐 9:10/9:20⇒富士見平 10:50/11:00⇒赤石小屋 11:30/11:40⇒樺段 13:50/13:55⇒椹島ロッジ 15:25（泊）　＜歩行時間 8 時間 35 分＞		
日程 5日目	午前中は自由行動（散策、白幡史郎写真館見学、等）。椹島ロッジ 13:00（東海フォレスト送迎バス）→畑薙第一ダム 13:45/14:25（静鉄ジャストラインバス）→井川 15:25/15:35→横沢 16:35/16:45→静岡駅 17:40/17:52（こだま）→東京→上野→我孫子 20:14（解散）　歩行時間なし		
ルート状況	・千枚岳西側下りと悪沢岳西側下りのザレ場はスリップ、浮石に注意。 ・赤石岳分岐～富士見平間の斜面トラバース道は岩、木の根が滑りやすい悪路。小さなアップダウンを何回も繰り返す。		
参加者	武内（L）、村松、郷田、外崎、矢野裕　男３名、女２名、計５名		

千枚岳西側の下り

悪沢岳（東岳）頂上にて

タカネビランジ

小赤石岳（右）と赤石岳（中央）左奥は聖岳

朝日に染まる富士山

＜８６３＞

鳥海山
（2236m）

箕輪　カオル

ゆっくりとした日程
山と花を楽しむ

一日目　７日（土）晴れ

早朝、常磐線北千住駅での人身事故のため予定の新幹線に間に合わず、上野発７時６分で新潟駅着９時４分。遊佐駅止まりの電車待ちに３時間以上の待ち時間ができてしまった。新潟市内の観光とはいっても遠くまでは行けないので、駅周辺を散策することになった。新潟駅から歩いてほど近い信濃川畔の萬代橋ビルや朱鷺メッセ館で展望を楽しんだり、お茶をした。

遊佐駅から１時間限定のジャンボタクシーでブルースカイラインを通り、吹浦登山道を確認し、鉾立登山道まで行き太平山荘へ戻ってもらう。太平山荘では入浴もできゆっくりできた。夕食に生牡蠣が出されて一同、珍しいご馳走にびっくりである。遊佐は岩牡蠣の産地で今が旬とのことであった。因みにメニューは、生牡蠣、メンチカツ、焼き豚、刺身、サラダ、ばい貝の味噌汁、フルーツ等盛り沢山であった。

明日、明後日の天気予報は芳しくない。夕食後、みんなで今後の行動について話し合いをする。結果、朝食をしっかりと、とってから出発し、御浜小屋をめざそうと確認をして就寝した。

二日目　８日（日）雨時々曇り

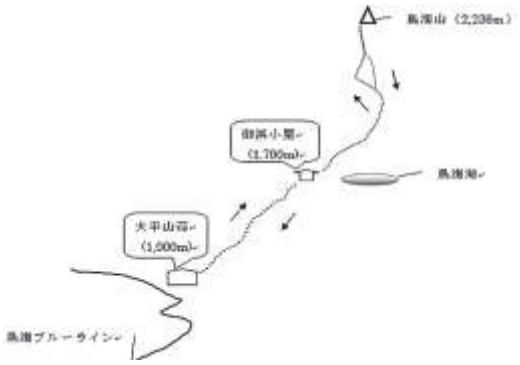
起床してみるとやはり雨だ。しっかり朝食をとって雨対策の身支度で出発。余計な荷物はまとめて山荘に置いてくれることになった。これはありがたい。山荘から吹浦登山口まで約２０分ほど歩く。登山道に入ると伝石坂の急坂は、昨夜からの雨が川となって流れてくる。すべって転ばないように慎重に歩く。一時間ほどで、開けた清水大神を通過。雨はほとんど上がったが、またいつ降るかわからない状況だ。衣服調整をして、湿地の植物に目をやりながら進む。ハクサンフーロ、ベニバナイチゴ、シャジン、チングルマ、イワイチョウ、シオガマ、オトギリソウ、アキノキリンソウ、ウサギギク、チョウカイアザミ、ニッコウキスゲ等が目を楽しませてくれた。河原宿から御浜小屋までは一時間

ほどで到着。霧が濃くなって鳥海湖が見え隠れしてきた。１０分ほど下れば鳥海湖のぼく木道と小屋主人に聞いたので行ってみることにした。しかし、行けど行けど湖に辿れない。やはり、小屋に引き返すことになった。小屋で待っていた矢澤さんが手を振ってくれている方へと行く手を確認した。ちょっと怖い経験をしたかもしれない。それに、黒い蛇に出合ったから尚更かもしれない。
小屋の夕食は、おでんに暖まった。
三日目　９日（月）晴れのち曇り
真夜中に音を立てて降っていた雨が上がっている。早朝、小屋から出てみると、昨日までは見えなかった鳥海湖も日本海も見えている。小屋主人が山の天気は何とも言えないが「早く出て、早く帰ってくるといい。」と言って、５時半からの朝食を５時前に出してくれた。
一時間ほどで、七五三掛分岐に至る。悪天候を想定して外輪山は通らず、雪渓の千蛇谷を選択して、落石等を注意しながら新山へと向かう。この辺りから新山が見えてくる。外輪山を歩く人も良くわかるほどの天候回復となった。御本社に到着するとすぐに岩かげにチョウカイフスマを発見。やはりチョウカイフスマは頂上に来ないと見られない花と確信した。新山へはペンキ矢印が山頂まで導いてくれるが、不揃いな岩の積み重なりなので足もとには十分注意が必要となった。これには私は予想外であり、緊張のあまり泣けてしまった。しかし、登りたいと思ってから数年が経ち、やっとみなさんのお蔭で鳥海山頂に立てたことは嬉しい限りだ。頂上で集合写真を撮った時風も強く、雨も降ってきた。
下山は来た道を引き返すことに。御浜小屋で休憩タイムをとった。５００円のカップラーメンは心身共に温めてくれた。温かくなったところで太平山荘へ向かう。伝石坂の水の流れも無くて良かった。太平山荘では入浴とタクシーを待ちながら簡単な反省会をすることができた。
　天候不順な中での山行であったが、雨も大降りには合わず、予定より時間はかかり最終電車となったが、鳥海山の山頂に立てて本当に良かったと思う。何より、みんなが納得いく話し合いのもとに行動できたように思う。同行のみなさん本当にありがとうございました。

ウサギギク

チョウカイアザミ

概念図



概　　要

山名		鳥海山		
月日		平成 26 年 8 月 7 日(木)～8 月 9 日(土)		
山域		出羽	地形図	1/25000 吹浦、鳥海
形式		山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3B
目的		ゆっくりした日程で山と花を楽しむ。 200 年前に最高峰が誕生した活火山。		
費用		40,000 円	交通機関	電車(JR,新幹線、特急)、タクシー
日程	1日目	我孫子駅北口 5:31→上野 6:20/7:06（新幹線）→新潟(特急)9:04/12:29→遊佐 14:54(タクシー)→大平山荘 15:40 ＜歩行時間なし＞		
	2日目	大平山荘 8:00⇒吹浦登山口 8:30 ⇒河原宿 9:45⇒御浜小屋 11:00（散策） ＜歩行時間 3 時間＞		
	3日目	御浜小屋 5:30⇒七五三掛 6:30 ⇒（千蛇谷）大物忌神社 9:00⇒新山 9:35 七五三掛 10:45⇒御浜小屋 12:05/12:40⇒大平山荘 15:20/17:50(タクシー)→遊佐 17:54→新潟 20:19→上野 22:22→我孫子＜歩行時間 4 時間＞		
ルート状況		・吹浦登山口から急登の山道は前夜の雨で小川のように流れていた所も有った。 ・岩場が多く、濡れて滑りやすく危険だったので出来るだけゆっくり歩いた。 ・千蛇谷は雪渓があり、あちこちに落石も在ったので慎重に歩いた。		
参加者		箕輪完（L）、斎田(SL）、箕輪カ、桐生、本田、石塚、藤倉、矢澤 男２名　女６名　計８名		

＜８６４＞

北穂高岳・奥穂高岳

（3106m）　（3190m）

石塚　あさ子

ダイナミックな景観　思わず涙

鳥海山(新山)の頂上

チョウカイフスマ

ナナカマド

鳥海湖

千蛇谷の雪渓（後方に鳥海山）

↑涸沢谷のモルゲンロート　正面涸沢岳　右北穂高

↓北穂高岳(3108M)登頂

天気予報は、いつ見ても前の方の３日間は雨の予報、夜行バス出発、テント泊３日の山行で、荷物は私にとって今までにない重さです。そんな不安を抱えて 22 時 25 分出発の横 3 列の快適？な夜行バスは５時過ぎ上高地バスターミナルに着きました。さすがに有名な観光地だけあって、又夏休みも重なってか沢山の人です。
朝食を取り、身支度を整えて 6.：00 に出発しました。天気は曇り、雨の心配はなさそうですが、これからテントの拠点となる涸沢まで長い道のりです。まず河童橋で記念の写真を撮り、ビジターセンターを過ぎ梓川の川の流れの音を聞きながら少々のアップダウンを繰り返して明神に着いて一休み。ここから徳沢へ。徳沢には、昔牧場だったそうで、今は芝生の広がるキ

ャンプ場がありカラフルなテントが並んでいました。そして横尾へ、休憩中もツアー人々が沢山やってきます。シンボルの横尾大橋を渡り、樹林の中を進むと木々の間から、屏風岩が見えてきました。さすがの迫力です。ここから屏風岩でクライミングをしている人を見かけるとの事ですが、今日はいませんでした。ブナ林の快適な道を進むと本谷橋に出ました。澄んだながれの音を聞きながら一休み。いよいよ本格的な上りの登山道になります。気を引き締めて出発。徐々に息も上がってきます。重い荷物も肩、背中に食い込んできます。やがて前方に前穂高とその下の方に涸沢小屋が見えてきました。ここまでくれば、又元気が出ます。ななかまどの木々の間を通り涸沢ヒュッテのテント場に午後 1 時 45 分着きました。上高地を出発して約 8 時間。テントの設営、テント場の地面は石があり凸凹なので板を借り、テントの下に敷きました。なかなか快適です。そして夕食です。今日の夕食は、本田さんと考えたさんまのかば焼きごはん。炊いたごはんにさんまのかば焼きの缶詰とミックスビーンズ、小口切りしたきゅうりを混ぜただけですが、なかなか美味しいと評判です. いよいよ明日は北穂高岳です。

朝 4 時半起床、朝食を済ませて 6 時前に出発。涸沢小屋の横を通り岩場の急登をゆっくり登っていきます。いろいろな花に励まされて標高を稼いでいきます。色とりどりの涸沢のテントがだんだん小さくなってきます。登り始めて約 2 時間、大きな岩場に鎖と鉄梯子の所に来ました。これからはストックをしまい慎重に登ります。岩の間には、イワツメクサやイワキキョウ、イワオトギリ、ハクサンフーロ、ウサギキク等本当に沢山のお花です。

9 時半山頂に着きました。感激です。憧れの北穂です。思わず涙腺が緩みます。天気も良く展望も最高です、が槍ヶ岳には雲がかかって見えません。厳しい環境の所に建っている山小屋のテラスで美味しいコーヒーをいただきました。大きな荷物を背負った学生さん等などテラスは賑やかです、霧がかかり始めたので下山する事にしました。やはり山の天気は変わりやすもの。今まで展望がよかったのに、あっというまに北穂の頂上は霧の中になってしまいました。同じ道を涸沢に向かって下山。だんだん色とりどりのテントが大きく見えてきます。その数が増えているようです。途中水場で美味しい水をいただき午後 2 時前に着き、涸沢小屋のテラスで懇親会。ラーメンが美味しかったです。

夜間より雨になり、強い雨音がテントに打ち付けました。出発予定を遅らせ様子を見る事に。諦めて撤去の準備を始めたところ晴れてきたのです。朝日に照らされる穂高の山々輝いています。タイムリミットの時間 8 時少し前に出発できました。涸沢小屋の方より登り始め、ガレ場の斜面を大きく横切りザイデングラードに取りつきました。涸沢のカラフルな色のテントがだんだん小さく見えます。朝方の雨がうその様に天気も良くなり展望も最高です、これからは岩場の多い登山道です。穂高岳山荘までの道のりは、急登で鎖、梯子等慎重に登って行きます。そんな中でも岩場の間に咲く北穂の道のり同様沢山のお花に励まされて、途中岩に（小屋まで 20 分）と書かれた所を超え穂高岳山荘に着きました。とても立派な小屋です。休憩の後いよいよ頂上を目指します。出発するとすぐ直登の梯子です。やはり登山者も多く順番待ちです。梯子、鎖場を超えガラガラの岩場を登り奥穂高岳の頂上に到着です。目の前のジャンダルムはじめ 360°の展望です。感動です。狭い頂上で順番に記念写真を撮り下山です。まだまだ沢山の人が登ってきます。すれ違いと、梯子の順番待ちをして慎重に下って穂高岳山荘で昼食をとり戻って来ました。途中から何か音楽が聞こえてきています。今日は涸沢音楽祭なのだそうです。夕方から涸沢ヒュッテのテラスで演奏会、夜はヒュッテの中でワインの飲み放題付の演奏会です。夜少しだけ演奏を聴きに行きましたが、これを目当てに来ているという方が沢山いるとの事でした。がなぜか今年はいつもの 1/3 だそうです。ちょっと頂いて気持ちいい所で帰って寝る事にしました。

翌朝、起床しテントを撤収し、名残り惜しいですが、早朝よりの音楽隊の演奏に送られで下山の途につきました。

天気にも恵まれ感動、感激の充実した 4 日間、堪能した 4 日間でした。

いろいろお世話になしました。

奥穂高岳（3190m）に立つ

概念図

概要

山名		北穂高岳・奥穂高岳		
月日		平成26年8月21日(木)前夜発～8月24日(日)		
山域		北アルプス南部	地形図	1/25000 穂高岳
形式		テント泊	グレード	３Ｃ
目的		１．登山を目指す人にとって憧れの 2 山に登る。 ２．アルピニストの聖地、涸沢の懐に抱かれて、雄大さを堪能する。		
費用		約 25、000 円	交通機関	バス、JR、
日程	1日目	前夜、我孫子 20:52→竹橋 22:00/22:25 発（毎日アルペン号夜行バス３列シート）上高地着 5:10/6:00⇒明神 6:50/7:00⇒7:50⇒横尾 8:55/9:10⇒本谷橋⇒涸沢着 13:45（テント設営）		
	2日目	涸沢発 5:50→鎖・鉄梯子 7:40⇒北穂高岳・北穂高小屋 9:35/10:20⇒涸沢着 13:40（涸沢小屋テラスで懇親）天候、晴時々曇り		
	3日目	起床 4:30 昨夜からの大雨のため様子見、涸沢発 8:10⇒ザイデングラード⇒穂高岳山荘 10:43/55⇒奥穂高岳 11:47/12:10⇒穂高岳山荘 12:55/13:20⇒涸沢着 15:30 涸沢ヒュッテ、(テラスで夕食、懇親会) 天候朝の内雨後曇り後晴れ		
	4日目	涸沢発 5:30⇒本谷橋 7:00⇒横尾 8:10⇒徳沢（朝食）9:25/9:55⇒明神 10:40⇒上高地立ち寄り湯⇒バスターミナル発 13:20→新島々経由→松本発（特急あずさ）→新宿→我孫子着 20:30		
ルート状況		・穂高岳メインルートのため登山道及び標識等は良く整備されている。但し北穂高岳への南稜の登下降、奥穂高岳へのザイデングラード及び穂高岳山荘以降のルートの落石、滑落には充分注意したい。来期にはヘルメットの装着が義務になるかも知れない。 ・北穂高、奥穂高とも天気の悪い時には山行は危険なため中止した方が良い		
参加者		村松（L)、武内（SL､)、本田、郷田、石塚、大平　　男性４名、女性２名　計６名		

前穂高岳（ゴジラの背中）　↑

ジャンダルム（主峰の前に立つ衛兵）　↑

ザイデングラード（岩稜の支尾根）に挑戦

＜８６５＞ウイズハイク

南山展望台～愛宕山
（382m）　　（306m）

やまたんより転載

楽しかった、また来たい！

１班

外崎　蓮

１班の健脚チームに今年もお馴染みの大林正さん、徳本真理子さん、成嶋共之さん、山本洋子さんの懐かしい顔が揃った。ウイズハイクを始めた年が平成 14 年だから、今年で 13 年目になる。なんと１回目から雨で、房総の鋸山を大洗水族館に変更したが、洋子さんはその時から欠かさずに参加している。また大林さんは見るからに逞しく、以前行った雨引山の坂道ではフーフー歩いている私の手を引っ張り上げてくれた頼もしい青年だ。成嶋さんも班員に溶け込み、歩きも好調でハイキングを心から楽しんでいる様子だった。山歩きが大好きだという徳本さんの足取りは、さすがに軽快そのもの。重いゼリーを背負ってきて、皆さんにご馳走してくれた。

健脚ぞろいの１班はどうしても歩きが早くなり、他の班を待って立ち止まることが多かったが、急な坂道では慎重に歩いてくれた。展望台に着いて草むらにブルーシートを敷くと、それぞれ好きな場所に座ってお弁当を広げた。山の上で食べると殊更に美味しい。利用者さんのお弁当には、家族の愛情がぎっしりと詰まっているのが感じられた。

次は愛宕山へ。「愛宕山に三角点とか標識はあるのですか？」私の愚問に、神社の御札売り場の人が目をパチクリ。つまり、愛宕山イコール愛宕神社だということ。皆さんはお賽銭をあげて神妙な顔つきで手を合わせていた。

帰りは守谷 SA に寄り、トイレと買い物をする。洋子さんは、お母さんのお土産にどら焼きを買った。有花里さんは、漫画のキャラクターの人形と大根を買った。小ぶりのリュックから大根の葉がとび出して、その格好が何とも可愛らしかった。お母さんへのお土産なのであろう。皆さん、楽しい一日をありがとう。また、来年もご一緒して下さい。

２班

武内　勇二

平成 14 年（2002）から毎年実行しているウイズハイク、台風のため 2 回中止した年があったので、今回で 11 回目の開催となった。愛宕山は 4 年前に行ったことのあるコース。当初は房総の富山を予定したが、下見の結果無理と判断。昨年、筑波山の岩の段差を怖がった人もいた経験から、今年は平坦な坂道のコースが選定された。

みずき利用者 12 名のうち半数近くの人とは馴染みがある。毎年この企画を楽しみにしてくれていると思うとやはりうれしい。みずきリーダーの寒竹さんが、バスの中でみずき参加者にインタビューする形で、全員の自己紹介をしてくれた。ハンディキャップを負いながらも菓子作り、農作業、公園清掃の仕事についている。明るく屈託のない受け答えは交感が持てた。

雨の心配をよそに、曇りがちながらも日も射していた。気温はそれほど高くはないが湿気はある。愛宕神社前の駐車場から乗越峠までは舗装した遊歩道、そこから南山展望台までは通常の登山道で登り下りはあるが段差がないので比較的歩きやすい。全体的に林の中の道ということもあって、それほど汗をかくことはなかった。昼食休憩をとった南山展望台付近は林が切れて広場になっているが、風も多少吹いていたのでそれほど暑くなく快適だった。

南山展望台直下の急坂は巻道が整備されて

いた。そこ以外に坂が急になる箇所が３か所あった。粘土質の急坂は、下りは滑ると危ないのでロープを張りサポートした箇所が１か所あった。手を貸したり、更にはシュリンゲで確保しながら、転倒しないよう最大限気を配った。

岳人あびこ会員の献身的なサポートもあり、今年も無事にウイズハイクを終了できた。「楽しかった。また来たい」の声を励みに、ウイズハイクがこれからも続いていくことを願っている。

3 班

齊田記代美

ゆっくりチーム 3 班は、「みずき」でお菓子を作っている班の２人と野菜などをつくっている園芸班１人であわせての３人娘達、支援者の方１人、そして岳人の４人の総勢８人でした。

朝の挨拶からとっても元気で、バスの最後尾に並んで座りお話に余念がありません。でも、ハイキング出発前のラジオ体操では、「いつもやっているよ」「第二体操までできるよ」と元気な返事だったが、いざ輪になって始めると急に照れてモジモジ、ニヤニヤしてしまい最後になってようやくチョットだけ手足が動いたというはにかみ屋さんの３人でもありました。

雨を心配していたのに、天候は好転し汗をかくような一日になりました。

山の中の空気は気持ちよく、ぬかるんだところもなかったので、歩く足取りも軽やかでした。ちょっと急な坂道では、手をつないで歩幅を狭めてゆっくりと慎重に歩き、全員一緒に展望台に到着した。支援者の方との信頼は厚くアドバイスや励ましはとても的確でスムーズな行動を促していただき、班の全員がまとまって歩くことが出来ました。

帰路も初めはとても慎重に、張ってもらったロープは坂道の苦手の一人にはとても安心感を持って、他の２人は楽しんでロープにつかまって歩けました。

愛宕神社へは、１名が岳人一人とバスに乗って先に到着し、歩いて階段を登ったメンバーを迎えて歓声が上がった。

山道を歩き、展望を楽しみ、おいしいお弁当を食べるというシンプルな楽しみを「みずき」の皆さんとともに味わえて私にとって楽しい一日でした。

また来年もいっしょに歩きましょう。

ウイズハイクを終えて

障害福祉サービス事業所みずき　寒竹　誠一

今年度のウイズハイクも岳人あびこの皆さんのおかげで、利用者さん、職員ともども、とても楽しく、また実りの大きい一日になりました。ほんとうにお世話になり、ありがとうございました。今年度は実行委員会の皆さんの下見にも参加させていただき、目的地変更ということもありましたが、その分、準備の段階で、たくさんの意見の交換が出来、かつ、職員の意見も率直に聞いていただいたので、当日は昨年までと比べて、職員もより主体性を持って参加することが出来ました。

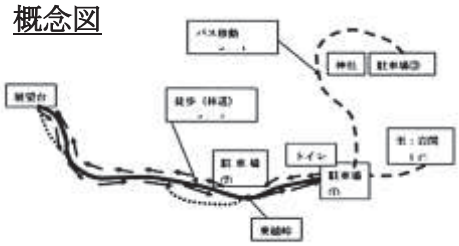
利用者さんたちへの関わりも、職員の方から積極的にご本人たちの特徴や注意点をお伝えできて、また、それを踏まえて、岳人の皆さんが慎重かつ積極的に関わりを持ってくださったので、岳人の皆さん、利用者さんたち、職員が一つにまとまって、和気あいあいとした暖かな雰囲気で一日を過ごすことが出来たと思います。また、急峻な坂道などの少し厳しい道のりへの挑戦にも岳人の皆さんの力強いサポートに安心して身を委ねることが出来て、途中で立ち止まることもなく、全員が最後まで山登りを楽しむことが出来ました。今回の愛宕山のハイキングコースも、参加したすべての利用者さ

んにとって無理がなく進むことが出来た良いコースでした。来年度以降も愛宕山のような、「健脚」「ゆったり」どちらの利用者さんも一緒に楽しめるコースが望ましいと思います。ただ、私自身も今回、下見から参加させていただき、コースの選定や行程を考えることの難しさを痛感し、岳人の皆様が準備の段階から多くのことを考えていただいてるんだなと実感しました。今後も職員の方も責任を持って一緒にウいズハイクという行事を考えて、行なっていかなくてはと思いました。

繰り返しになりますが、今回も本当にお世話になりました。ありがとうございました。利用者さんたちが「また来年！」と岳人の皆さんに挨拶していたのが、今回の成功を表していたと思います。

また来年もよろしくお願いいたします。

概念図



賑やかにお弁当　↑

なんだ坂、こんな坂　↓

概　　要

山名	南山展望台～愛宕山
月日	平成 26 年 9 月 6 日（土）
山域	筑波山塊　地形図　1/25000　岩間
形式	日帰り　ｸﾞﾚｰﾄﾞ　1A
目的	障害福祉サービス事業所の利用者さんとハイキングを楽しむ。
費用	1,000 円　交通機関　我孫子市の福祉バス（大型）
日程	我孫子駅北口ふれあい広場 8:20/8:30→谷和原 IC→美野里 PA9:40/9:55（トイレ休憩）→岩間 IC10:00→フォレストハウス大駐車場 10:10/10:30（トイレ・ラジオ体操）⇒乗越峠 10:40⇒分岐（林道コース）10:55/11:05⇒すすきヶ原 11:30⇒南山展望台 11:35/12:35（昼食）⇒乗越峠 13:25⇒大駐車場 13:30/14:00（トイレ休憩）⇒愛宕山・愛宕神社 14:05/14:20→大駐車場出発 14:40→守谷 SA15:30/16:00（トイレ休憩とお土産の買い物）→我孫子駅北口ふれあい広場着 16:35 ＜歩行時間:約２時間＞
ルート状況	・愛宕神社の石段下の鳥居まで車で上がると、120 台駐車できる大駐車場がある。トイレの他、飲み物などを売っている小さな店が一軒ある。 ・スカイロッジの下の平らな道を行った十字路が乗越峠。ここにも駐車場があるがトイレは無し。 ・十字路を左手に折れ、少し行った先が登山口。右手が林道コースで左手が展望台（途中の休憩地点）コース。展望台コースは急な坂道で滑りやすい。その点林道コースは比較的ゆるやかだが、2 ヶ所ほど急な坂道を登らなければならない。 ・南山展望台は、常磐線の岩間駅と水戸線の福原駅を結ぶ吾国愛宕ハイキングコースの南端にあり、コース上には難台山と吾国山がある。展望台からは笠間の街が美しく見下ろせる。 ・展望台直下の急坂には捕まるためのロープが張られてあるが、ジグザグに巻道もついている。 ・展望台の下は小広い草むらでベンチもあり、お弁当を広げるのにとても良い所。
参加者	**1 班**　外崎(L)、清家(SL)、品田、高橋英、中村隆、(利用者) 大林、徳本、成嶋、山本、(支援員)寒竹　**2 班**　武内(L)、瀬田、郷田、飯沼、石塚　(利用者) 根本、山田、牛尾、石毛、阿部　(支援員)井上、岡野 **3 班**　斉田(L)、村松(SL)、高橋富、室崎、(利用者)及川、加納、楠家　(支援員)谷 岳人あびこ:14 名　みずき:16 名　計 30 名

＜８６６＞

小金沢山
（2014m）

高橋　芳恵

小金沢山頂 2014m！
２０１４年９月　遂にリベンジなる！

今年２月雪の大菩薩山行に参加し、雪の多さに石丸峠から天狗棚山の上で 2014 年にちなんだ2014ｍの小金沢山を眺めて帰ってきた経緯があり、再挑戦の山となった。

甲斐大和駅からタクシーで小屋平まで行き、そこから一挙に石丸峠に登った。1 月にはかなりの積雪の中下山した道を確かめながら登ると、石丸峠がやけに狭く感じられた。背後の大菩薩嶺から連なる熊沢山の斜面が美しい緑の傾斜をなしている。

前回、天狗棚山からは雪の中の富士山や周囲の山々の素晴らしい展望が楽しめたが今回は曇天模様で富士は一向に姿を見せない。吹く風は涼しく登山道のあちこちに秋の野を飾るかのようにウメバチソウが咲いているのがうれしい。私の好きな曇天の山である。オオカミ平の気持ち良い草原、大菩薩特有の緑のビロードのような笹原の美しさを堪能し、滑りやすい湿った岩道を上り下りして 11：50 小金沢山に到着した。10 数年行きたい山として念じていた小金沢山の山頂はさほど広くはないが先着のパーティーが焼肉の料理中でにぎやかに楽しんでいた。山頂で昼食となったが何故かゴミ等の汚れが気になった。この先に天ぷらをした後と思われる油が残されていたことも残念だった。山の上でおいしい料理も良いけれど、持ってきたものは持ち帰ってほしいと参加者それぞれが言い合った。　さらに秀麗富岳 12 景の牛奥ノ雁ヶ腹摺山をめざした。山は秋色めき、登山者にもほとんど会わなくなり、秋風が心地よい。賽の河原、川胡桃沢の頭を越え縦走路を南に向かう。左前方に雁ヶ腹摺山が大きくそびえている。越えてきた牛奥雁が腹摺、笹子雁ヶ腹摺と急登の山を形容する３つ目の雁ヶ腹摺山に「11 月に伺いますからよろしく」とあいさつをした。草原から樹林帯に入り倒木が多くなったころに黒岳の登りとなり 14:15　1987.5m黒岳に予定より 1 時間早く到着した。ここからは 50 分程度で湯ノ沢峠到着となる。やれやれほっと一息と思った先が最も難渋した。白石丸までは滑りやすい粘土質の急傾斜でおまけにその先のザレ場は豪雨のため崩れたため、急ごしらえの竹藪を切った臨時ルートを竹に足を取られながらやっとの思いで湯ノ沢峠下った。峠は 10 年以上前に来た時とは違い立派なトイレが設置され、立派だった避難小屋はかなり古ぼけ、決して泊まりたいとは思えない小屋になっていた。今日の日程から考えて、今年２月の積雪期の大菩薩から小金沢連嶺計画はやはり石丸峠でエスケープしてよかったと私の中で結論づけた。登山後はやまと天目温泉の日本一のアルカリ温泉美人の湯にゆっくりつかり、秋の初めの心地よい幸せな一日を終えることができた。富士にはお目にかかれなかったが実にすばらしい小金沢連嶺であった。

概念図

小金沢山頂 2014m！2014 年 9 月　遂にリベンジなる！

概　　要

山名	小金沢山		
月日	平成 26 年 9 月 13 日(土)		
山域	大菩薩嶺	地形図	1/25000 大菩薩嶺
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
目的	2014 年の山リベンジ		
費用	6,000 円	交通機関	JR・タクシ・バス
日程	我孫子 5:33→新松戸 5:51→西国分寺 6:48/6:51→高尾 7:13/7:26→甲斐大和 8:34 タクシー（小屋平バス停）登山口 9:10⇒石丸峠 10:30/10:35⇒小金沢山 11:50/12:15⇒牛奥ノ雁ヶ腹摺山 12:52/13:00⇒川胡桃沢の頭 13:40⇒黒岳 14:15/14:30⇒湯ノ沢峠 15:25/15:30 タクシー→やまと天目山温泉 15:50/17:00 バス→甲斐大和 17:30→大月 17:48 反省会　　大月発 19:25 高尾行乗車 ＜歩行時間約 5 時間 30 分＞		
ルート状況	・ルートは整備されていて、危険な個所はない。気持ちの良い笹野尾根歩きが続く ・小屋平のバス停からすぐに急登が始まるので、最初はゆっくりと登り始めるようお願いした。 ・小金沢山の登りが岩が多く湿っていた ・白谷丸を過ぎて湯ノ沢峠への下りが、新しい笹を刈った道となり根っこが残っていて滑りやすかった。途中から、本来の登山道と合流していた。 ・携帯は黒岳を過ぎてから、稜線で通じる		
参加者	桐生(L)、斉田(L)、村松、高橋芳、箕輪完、箕輪カ、本田、中村育、村越、石塚、中尾 高橋富、室崎　　男 4 名　女 9 名　計 13 名		

左は大菩薩峠、　右は小金沢山へ向かう石丸峠

ススキの原に爽やかな風

＜８６７＞

雨飾山
（1963m）

室崎　宏治

大展望の名峰と素朴な出で湯

9 月下旬に、雨飾山に登りました。雨の心配が多々ありましたが、祈りが効いたせいか雨で飾られず快晴でした。紅葉も始まり、糸魚川からの雨飾山荘側より登山しました。宿泊客は我々のパーティ 8 名。他に露天風呂も付いた混浴も楽しみを増しました。（ただし男性のみしか入浴してなかった）夕朝の料理もすごく、旅館を思わせる料理内容で海の幸、山の幸等でおなか一杯でした。夜 9 時消灯で電気は自家発電で行っているようです。

お風呂横から登山口に入り、神社にお参りして山頂を目指しました。朝 5：35 スタートのせいか、かなり急な上り坂のように感じた。難所ノゾキ 6：05。樹木の変色やナナカマドの赤い実等が眼目を安らげました。岩場もかなり整備されており、綱縄も適度に配置されていましたので登山の醍醐味を味わいながら登ることが出来ました。池のあたりは（中の池）8：05 フラットで水はさほどはなく自然の山の池を味わうこと出来ました。

そこからまた急になり、雨飾高原キャンプ場からの登山道と合流 9：10 あたりの笹平の眺望に感動し屏風岩を上の頂上をめざしました。映画のロケでもできるような時代劇に持ってこいの場所でした。そこからは 30 分くらい急な岩場を（実質 15 分）上り頂上（1963m）9：45 で写真を撮影。廻りの山の名を確認しながらみかんとコーヒーで休憩、お地蔵さんの向かいの頂上に登り写真撮影。お食事中の男性に写真をお願いしました。その人のリュックサクックが転がり落ちてビックリ。

５m位下の笹のところで止まっていてその人が横から取りに行って、中身（チャック）を確認し、戻ってきた。荷物の置き場所にも注意が必要と思い知らされた。

写真撮影後下山、笹平先で昼食、後はキャンプ場道をめざして下山。ガラ石の多いい急な坂がつづく（荒菅沢）12：30、途中で山の配置を確認、沢に（広河原）着いてわたったところで、

休憩（水がおいしかった）。また昇り、また坂をさがって、なだらかのブナ林 13：10 が続く途中に熊の爪痕があり、熊に注意の表示有。水の豊富な林を抜けキャンプ場（小谷温泉休憩所）14：00 に着いた。

休憩後、雨飾荘（小谷温泉）をめざし車道を歩く。入浴後、白馬駅までジャンボタクシー。すぐに長野行バス、長野駅前で反省会でそば。新幹線で帰る。

早秋の　田んぼを飾る　天日干し
むかしをしのぶ　しんまいの味
詠み人知らず

概念図

概　　要

山名	雨飾山		
月日	平成 26 年 9 月 20 日(土)～9 月 21 日(日)		
山域	頚城山塊の西端	地形図	1/2500 越後大野・雨飾山
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
目的	大展望の名峰と素朴な出で湯		
費用	20,000 円	交通機関	電車、タクシー、バス
日程 1日目	我孫子駅 9:34→上野駅 10:07/10:22（上越新幹線 Max とき 317 号）→越後湯沢駅 11:32/11:40（ほくほく線特急はくたか 8 号）→糸魚川駅 12:55/14:20（昼食）（糸魚川タクシー）→雨飾山荘 14:55 着　（泊） ＜行動時間　5 時間 21 分＞		
日程 2日目	雨飾山荘 5:35⇒難所ノゾキ 6:05/6:10⇒一ぷく処 7:10⇒中ノ池 8:05⇒合流点 9:10⇒笹平⇒雨飾山南峰・北峰 9:45/10:10⇒笹平⇒合流点 10:40⇒1894m地点で昼食 10:45/11:05⇒荒菅沢 12:30/12:40⇒ブナ平 13:10⇒雨飾高原キャンプ場・休憩舎 14:00/14:10⇒小谷温泉奥の湯（雨飾荘）入浴 14:40/15:25（小谷観光タクシー）→白馬駅 15:55/16:00（バス）→長野駅 17:05/18:46（長野新幹線）→上野駅 20:18/20:33→我孫子駅着 21：06 ＜歩行時間　7 時間 30 分＞		
ルート状況	・雨飾山荘へは、北陸本線糸魚川駅から別所行きのバスに乗り、山口で下車。ここから山荘まで 2 時間 20 分程の歩きとなる。そのため、タクシーが便利。 ・山荘裏手の温泉神社から薬師尾根を登る。木の根張りと段差のきつい急坂の連続。 ・中ノ池付近で平坦になり、ホッと一息つける。ここはモリアオガエルの生息地だが、池の水量は少ない。 ・中ノ池から再び急坂を登ると鞍部に着く。左手から小谷温泉コースと合流する。この付近一帯は笹平と呼ばれ、雨飾山の直下まで笹原が広がっている。 ・直下から急斜面をジグザグに登ると頂上。斜度がきつく足場が悪いため、登山者とすれ違うのに時間がかかる。山頂は小さな双耳峰で、北峰に 4 体の石仏と祠があり、南峰に三角点とケルンがある。 ・笹平の合流点から小谷側に向かったピーク 1894m地点からは､急なガレ場の下り。足の運びに慎重を要する。ここから 400 mほど一気に下ると荒菅沢に出る。 ・荒菅沢の上流には雪渓が残り、沢の上部に雨飾山直下の岩峰が荒々しく見える。荒菅沢は思ったより水量が少なく、飛び石伝いに渡ることが出来る。 ・気持ちの良いブナ林を下ると、休憩舎の建つ広い駐車場に出る。ここが下山口。右手高台には雨飾高原キャンプ場がある。 ・バスは、この駐車場から車道を 40 分ほど下った小谷温泉の下から出る。小谷側からバスを利用して登る場合は、休憩舎まで長時間、坂道を歩くことになる。		
参加者	外崎（L）、武内（SL）、高橋英、北川、村越、本田、内田、室崎 男性 5 名　女性名 3　計 8 名		

雨飾山山頂にて　↑

雨飾山山頂近くのお地蔵さんピーク　↑

笹平と雨飾山　↑

鬼ヶ面山（左）と鋸岳

＜８６８＞

火打山～妙高山
（2462m）（2454m）

中尾　雅彦

錦秋に染まる山腹

火打から妙高へ決意と笑顔

妙高高原駅からタクシーで笹ヶ峰登山口に着く。車中で運転手さんが「今年はクーちゃん（熊）が多い」「紅葉にはまだ早い」「妙高山はキツイよ」と言っていたが、最後だけは本当だった。いざ登り始めたら、すぐに赤、黄色のブナ、カエデなどの紅葉が目に飛び込んできた。天気は上々。前日までは雨だったのに２日間とも晴れ予報、ついている。清々しい秋の陽気に気分が弾んだ。

１日目の目標は、頸城３山の１つである火打山。深田久弥が「悠揚とした姿に惚れた」という山だ。２日目に登る越後富士とも称される妙高山は外輪山に囲まれ、どっしりした構えで男性的な趣がある。ともに「日本百名山」に名を連ねる名山。今回の山行計画は、穏やかな形状の火打山から荒々しい妙高山というコース取りが魅力的であり、途中、池塘など湿原も多く、高山植物にも期待が膨らんだ。

火打山登頂を目指し、最初の難所「十二曲り」から尾根に取り付き、胸突き八丁をクリアして富士見平へ。途中で火打山と、水蒸気が立ち昇る焼山が左手に見え、中腹まで紅葉に染まって美しい。高谷池の湿地が見える頃、初日の宿泊先である高谷池ヒュッテの三角屋根が目に飛び込みほっとする。右手側には妙高山が外輪山

とともに聳えている。昼過ぎ、ヒュッテに到着。取りあえずチェックインして、身軽くした上で火打山へのピストン登山となる。ここから木道が長らく続いた。湿地帯が多いので仕方がないのだが、滑り止めの木の幅が歩幅と一致せず、歩きにくいことこの上ない。「天狗ノ庭」などに群生する紅紫の高山植物ハクサンコザクラは時期外れで見られず、残念だった。だが、絨毯を敷き詰めたような山腹の紅葉は実に見事で、目を存分に楽しませてくれた。ダケカンバやシラビソの木々と紅葉とのコントラストが素晴らしかった。

最後、繰り返し急登を経て、午後３時すぎ、ようやく火打山山頂に立つ。山名標識柱と１等三角点の石標がデンと据えられていた。青空だが、眼下に雲海が広がり、山座同定はならず。妙高山と焼山だけがくっきり見えた。Ｓさんからいただいた甘酸っぱいカットパイナップルのあまりのおいしさに思わずホロリとした。日本海側からの風が冷たく、１５分で下山開始。眼前に妙高山の威容を見ながら急ぎ、５時に高谷池ヒュッテに到着した。平日にもかかわらず、ヒュッテはほぼ満員。夕食のカレー、ハヤシライスは好評だった。トイレも清潔感があり女性軍から賛辞も。疲れた体の手入れをして早々と就寝。

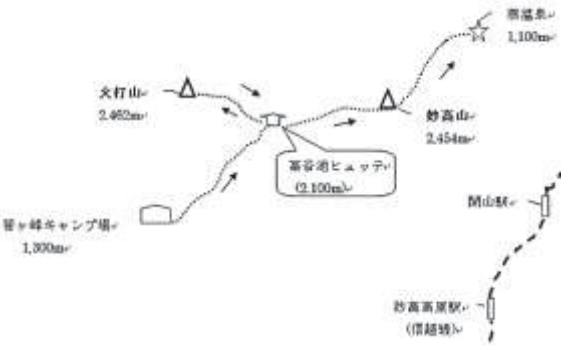
岩の妙高山へ

２日目はいよいよ妙高山アタック。新人の私は、不安と興奮でほとんど眠れなかった。６時の朝食に我が一行は先頭に並び、中華丼を食べて、いざ出発。いきなり岩だらけの険しい登りで、木道が目立った火打山とは趣が違った。ドーム型屋根の黒沢池ヒュッテでトイレ休憩後、本格的な登りとなり、悪戦苦闘が始まる。外輪山の稜線に出る大倉乗越をクリアし、長助池分岐を通過。ここから頂上までの１時間半余りは私にとっては地獄のようなつらい登攀だった。両手足を動員し続け一歩間違えば落命、大けがにつながる。まさに火打山と対照的な「岩の妙高」だった。苔むした滑りやすい石、粘土質の土にしばしばよろける。だが、だれも弱音を吐かず黙々と行く。それを助けたのは、ため息が出るような紅葉の絶景だった。後ろを振り返れば、火打山が錦秋に染まっていた。そして、目の前が急に開けたとたん、山頂「妙高山北峰」に立った。１０時２１分。全員で握手、握手、握手。４時間にわたる苦しみから解放され、登頂の喜びに思わず涙がこぼれた。７０歳にしてこんな感動に浸れるとは思えなかった。全員でなしえた成果に違いない、と。３０人ほどの登山客がいて、眺望は残念ながらガスっていてかなわず。外輪山の向こうに北アルプスや富士が見えるはずだったが。サブリーダーがくれたテルモスのお湯が腹にしみわたり、元気が湧いた。

いよいよ険しい下山。まず近くの「南峰」（２４５４ｍ）へ寄って、妙高大神に無事を祈願した。ごっつい溶岩の急斜面を下り、高さ３０ｍほどのクサリ場も無事通過。土曜とあって登ってくるパーティーも多く、交差に時間がかかった。スリリングな急斜面が続き、昼ごろ、赤倉方面との分岐点・天狗堂に着く。途中、眼前に広がる山裾の彩り鮮やかな紅葉があまりにキレイで、しばしば立ち止まった。女性軍が歓声を上げ、「みんな、目に焼き付けとこうね」と笑った。下山中に真っ赤、真っ黄色な木々を見つけては「ハイ、ポーズ」。燕温泉を目指した我々は北地獄谷の沢沿いの道を下った。リーダーが「温泉までは長いからね」と予告してくれたが、その通りだった。高度がなかなか下がらず、登り返しもあってきつかった。結局、頂上から５時間かかって無事下山となる。「ホテル岩戸屋」で露天風呂に浸かり、ジャンボタクシーで関山駅経由で帰途に就いた。新幹線車中で祝杯、反省会とした。同行の皆さんに感謝します。

妙高山頂（苦闘の末の笑顔）

概念図



天気晴朗なれど風つよし

概　　要

山名	火打山～妙高山		
月日	平成２５年９月２６日(金)～２７日（土）		
山域	頸城山塊	地形図	1/25000 妙高・赤倉
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3B
目的	山と花と紅葉を楽しむ。女性的な火打山・男性的な妙高山を楽しむ。		
費用	約 23,000 円	交通機関	電車（ＪＲ＋新幹線)、タクシー
日程 1日目	我孫子駅北口 5:31→上野駅 6:04/6:30（新幹線）→長野駅 8:03/8:13→ 妙高高原駅 8:54(タクシー)→笹ヶ峰登山口 9:35/9:45⇒十二曲り 10:55⇒富士見平 12:17⇒高谷池ヒュッテ 13:10/13:40（昼食）⇒雷鳥平 14:40⇒火打山 15:20/15:35⇒高谷池ヒュッテ 17:00		
日程 2日目	高谷池ヒュッテ 6:20⇒黒沢池ヒュッテ 7:20⇒大倉乗越 7:55⇒長助池分岐 8:45⇒妙高山頂 10:20/10:35⇒天狗堂 12:25/12:45 ⇒麻平分岐 13:30⇒燕温泉 15:35/16:40（タクシー）→関山駅 17:00/17:20→長野駅 8:12/18:46→上野駅 20:18/20:33→我孫子 21:06		
ﾙｰﾄ状況	・台風１６号が消え温帯低気圧となり、その直後で好天に恵まれ、登山道は比較的良好であった。木道が多く歩きやすく整備されていると思う。 ・しかし岩場も多く濡れていて滑りやすい部分も在ったので慎重に歩いた。 ・妙高から燕温泉までのルートは鎖場、すれ違い等もあり、極めて長く感じた。		
参加者	箕輪完(L)、矢野貞 SL)、箕輪カ、瀬田,村越、中尾、矢野裕 男性２名 女性５名　計７名		

＜８６９＞

鬼怒沼湿原

（2040m）

高橋　富美子

台風一過の秋晴れ　草紅葉を歩く

池に投影する５人娘

10 月 7 日

前日の台風の影響もなく曇り空です。

9 時 45 分：鬼怒川温泉駅より 6 人乗りのタクシーで唐滝・蛇王滝などを見学しながら女夫淵に到着しました。

12 時 00 分：雲も切れ、台風一過の秋晴れの中、鬼怒川沿いの遊歩道に足を踏み入れました。木漏れ日を通して時折涼しい風が汗ばんできた身体の中を通り抜け、とても爽やかで、山へ来た事を実感しました。

遊歩道は、高低差こそ少ないのですが、石がごろごろして歩きにくい道でした。2 時間半程で日光沢温泉に到着しました。そこには柴犬のﾁｬﾝｸﾞ（7 歳）と子供たち（ﾜﾗﾋﾞちゃんとｻﾝﾎﾞ君）が飼われています。看板犬のﾁｬﾝｸﾞは私たち一人ひとりに尾を振り愛想をふりまいてくれました。

まず、温泉につかり、汗を流して乾杯。

宿にはもう一組の銚子より茸取りにきた男性 4 人と一緒でした。

10 月 8 日

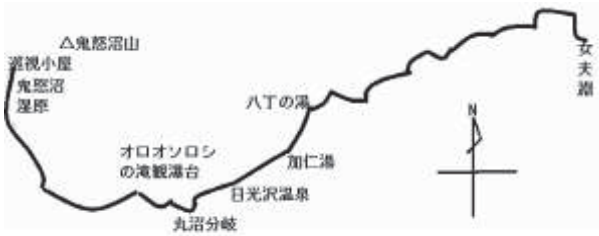
今日は、お天気で気持ちのよい朝です。

7 時 00 分：鬼怒沼に向けて出発。

しばらく行くと、急な登りがずっと続き見晴のよいところで休憩をとりながら進みました。

9 時 25 分：鬼怒沼に到着すると、視界が急に開け、一面の草紅葉。まるでフカフカの絨毯の様でした。鳥の声もなく、ほとんど音が聞こえません。私たちだけです。
前には鬼怒沼山、後ろには日光白根山、沼の標高が高いので山が低く見えました。
リーダーの武内さんが作ってくださったお汁粉は、おもちが２つも入っていて甘くて、器こそマグカップですが、こんなに素敵な甘味処は他にはありません。この時だけは私たちも静かにこの贅沢を楽しみました。
長い休憩が終わり木道を一周、木道は狭いので落ちない様に気を付けて歩きます。
10 時 45 分：沼の入り口にさしかかると、初めて一組のカップルに会いました。
これから下山です。女夫淵で昨日のタクシーと約束しているので、時間までに戻らなくてはなりません。日光沢温泉で預けた荷物を受取り、ピッチを上げて歩きます。
その途中で、頂いた蜂蜜飴と、後ろから聞こえた歌声に励まされ、14 時 25 分、無事に女夫淵に到着、タクシーが待ってくれていました。
途中、開運の湯で汗を流し帰宅しました。

<u>概念図</u>



日光沢温泉

湿原と鬼怒沼山

概　　要

山名		鬼怒沼湿原		
月日		平成２６年１０月７日(火)～８日（水）		
山域		奥日光	地形図	川俣温泉 1/25000
形式		山小屋泊	グレード	２B
目的		湿原の草紅葉		
費用		15,000 円	交通機関	東武、タクシー
日程	1日目	我孫子 6:41→北千住 7:21（東武快速）→鬼怒川温泉 9:31/9:45（タクシー）→川治ダム 10:05→蛇王の滝 10:30→瀬戸合峡 10:50→女夫淵温泉 11:25/12:00⇒休憩 12:50/13:00⇒八丁の湯 13:35/13:45⇒日光沢温泉 14:15 ＜歩行時間　2 時間 5 分＞		
	2日目	日光沢温泉 7:00⇒オロオソロシの滝展望台 7:40/7:50⇒休憩 8:20/8:25⇒鬼怒沼湿原入口 9:25（休憩）/10:00⇒鬼怒沼山分岐 10:15/10:25⇒鬼怒沼湿原入口 10:45⇒休憩 11:30/11:35⇒オロオソロシの滝展望台 12:00⇒丸沼分岐 12:25⇒日光沢温泉 12:40/12:55⇒八丁の湯 13:15⇒女夫淵温泉バス乗り場 14:25/14:30（タクシー）→開運の湯 15:00（入浴）/15:40→鬼怒川温泉駅 16:20/16:45（東武特急）→春日部 18:11/18:21→柏 19:05/19:13→我孫子 ＜歩行時間　6 時間 5 分＞		
ルート状況		・女夫淵温泉ホテルは、温泉が涸れたとのことで廃業しており、建物も撤去されていた。 ・女夫淵からの奥鬼怒遊歩道は、駐車場直ぐの橋を渡り鬼怒川の右岸に出て急峻な階段を登るルートに変わっている。（国土地理院 2.5 万分の１地形図にも記載なし）新ルートは林道のトンネルに出る手前で分岐して川に向かって下り、再び橋を渡って旧ルートに戻る。 ・湿原手前の緩い坂道は、じめじめとして歩き難い。		
参加者		武内(L)、桐生、瀬田、新谷、末永、高橋冨 男性１名　女性５名　計６名		

＜８７０＞

威守松山・巻機山
（1214m）（1967m）

外崎　蓮

のびやかな山上
　草原の草もみじを愛でる

巻機山の展望台・威守松山へ

我孫子を5時台に発つと、巻機山の登山口に9時前には着く。夏場なら帰宅時間が遅くなるが、日帰りも可能だ。でもせっかく行くのだから、麓に泊まってゆっくりと登りたい。そのため、一日目に登る手頃な山を村松さんに相談したところ、巻機山の近くの威守松山を紹介してくれた。何やらいかめしい山名の山だが、巻機山がよく見えるという。

六日町駅からタクシーで、先に今晩の宿「雲天」に向かう。ご主人に威守松山への登山口を聞くと、めずらしい人たちもいるものだという風な顔で説明してくれた。それでも、たまには登る人がいるのか、鳥居の先まで草を刈っておいたという。私たちは余分な荷物を宿に預け、教えられた鳥居に向かった。近くに神社は見当たらず、つづら折りの急斜面を登った林の中に小さな権現神社があった。登山道はこの上部の858ｍピークに立つ鉄塔の巡視路であることがわかった。鉄塔を過ぎると分岐で、柄沢林道からの道と合流した。その先もしっかりした道が続き、きのこ狩りをしている6人パーティを追い越す。やせ尾根の急斜面を登り、そこが山頂かと思いきや、まだ先というのを何度か繰り返して、ようやく明るい広場に着いた。遮るもののない北面には、割引岳、天狗岩、ニセ巻機山、巻機山が肩を並べている。穏やかな日差しを浴びながらお昼を食べていると、さっきの6人連れが上がってきた。柄沢林道から登ってきたという。“いい道だったよ”と白髪のひげ面の男性が言うので、下山は分岐から柄沢川方面に向かった。こちらも巡視路だが、途中から草が生い茂り、ヤブ歩きとなった。何がいい道なものか。頭上を送電線が横切るあたりで林道に出た。出口の木の枝に赤いリボンが結びつけられてあった。鳥居と林道のどちら側から登るにしても看板がなく、ヤブ好きにはたまらない山に違いない。目の前の858mに立つ鉄塔を見上げながら林道を下って清水集落に出た。国道291号を北上して今朝の鳥居に戻ってきた。

民宿「雲天」は六日町の庄屋を移築したといわれ、どっしりとした造りだ。玄関を入った畳敷きの広い居間の真ん中に囲炉裏があり、幾人かの先客がくつろいでいた。お茶もコーヒーも好きなだけ勝手に飲めて、しばらく居間で過ごした。夕食は次の間で。次々に運ばれてくる山菜料理を肴に、「八海山」のはかどること。さらに注文もしないのに、太っ腹のご主人が「八海山」の酒瓶をドンとテーブルに置いていく。このため「雲天」の株もドンと上がった。

山上の草もみじに見とれる…

昨日に引き続き今日もいい天気に恵まれた。昨夜のうちにもらった朝食のおにぎりを部屋の中で食べてから、余分な荷物を預けて出発する。登山口の桜坂まで徒歩だと40分かかるので、車で送ってもらいたいと昨夜のうちにご主人にお願いしておいた。桜坂の駐車場は車であふれていた。駐車場から坂を上がると直ぐに道が分かれ、左手のヌクビ沢をつめて稜線に上がった若い頃が懐かしく思い出された。今日は右手の林道を行き、井戸尾根を登る。桜坂がすでに3合目なので、わけなく5合目の焼松に着いた。ここは猫の額ほどの平坦地で、4年前のクリスマス山行のとき、雪を踏みつけてテントを張った場所だ。眼下には米子沢が見える。昨日出会ったひげ面の男性のグループは、今日はこの沢を登ると話していた。年齢は私たちとどっこいどっこいなのに、昨日のヤブ道といい、今日の沢といい、随分と差をつけてくれる。5合目を登って行くと、目を見張るような端正なブナ林が登場してきた。どの木も枝を空に伸ばして真っ直ぐに立っている。風が当たらないからだろう。6合目は天狗岩とその上の割引岳の展望台で、ダイナミックな景色を見ようと狭い登山道に大勢のハイカーが群がる。眼下の深い谷底には、割引沢とヌクビ沢が寄り沿うように稜線に突き上げている筈だ。7合目付近の潅木帯を抜け出すと、広いガレ場を登るようになる。砂にめりこんだ浅い木の階段をひとしきり登り、雲上の稜線を快適に辿って9合目のニセ巻機山の広場に出た。ここからの眺めはすばらしく、足元の谷を挟んで巻機山の稜線が屏風のごとく迫ってくる。はやる気持ちを抑えて避難小屋に下る。小屋は新しく立て替えられ、自転車を漕ぐバイオのトイレに生まれ変わっていた。昨夜は大変な混みようだったとか。小屋の下の

方にテント場があり、水はさらに奥の沢から汲んでくるようだ。以前、稜線直下の荒れた山肌に草を生えさせようとボランティアを募り、多くの山の会が避難小屋やテント場に泊まって植生作業を行った。が、根付いたのはわずかで、苦労した甲斐もなく古い菰がかけられたままであった。木の階段を登りきったところがお機屋だ。ここに山頂の標識が立っているが、最高点はここから右手に10分行ったところにある。お機屋より 5m高く、ケルンがある。メンバーの一人がケルンの脇に仰向けに寝転んでしまった。いつの間にか1200mも登ってきたのだ。今度はニセ巻機山や避難小屋をこちらから見下ろすかたちになった。たおやかな草原の草もみじに見とれているうちに時間がたってお機屋に戻った。直進すれば容姿端麗な割引岳に行けるが、ここで時間切れ。ということもあったが、全員の持っている水が不足してきたのだ。今朝宿を出るとき、どういうわけか水のことが頭に浮かばなかったのである。みんなでやりくりして、それでも元気に桜坂に下りてきた。駐車場に着くと、昨日のタクシーの運転手が寄ってきて、「他のグループがあなたたちの前に連絡を入れてよこしたが、当人たちが現れないので先に乗せてあげます」と言う。グッドタイミングとばかり、「雲天」に連れて行ってもらった。急いで居間に上がり、水とお茶を何杯もいただいた。

ところが「雲天」では、宿代は下山後に支払ってもらう決まりらしい。無事に下山したか確認のためだという。そのままトンズラする人だっているだろうに。今どき何という心がけの宿屋だろうと感心してしまった。さらに宿の奥さんが運転手に待ったを掛けた。ただ今、サツマイモをふかしているからと。だがこれ以上は待たせられないので、奥さんに懇ろにお礼を述べてタクシーに乗り込んだ。六日町の共同温泉でタクシーを降りるとき、少しばかり料金をはずんだ。後になって、もう少しはずめばよかったと後悔した。今後、巻機山に登る機会があったら、是非とも「雲天」に泊まってほしい。ご主人の男気と奥さんの明るさ・気さくさと山菜料理が美味しいから。

五合目より

概念図

概　　要

山名	威守松山（いもり）・巻機山		
月日	平成 26 年 10 月 11 日(土)～10 月 12 日(日)		
山域	巻機山	地形図	1/25000　巻機山
形式	民宿泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A/2B
目的	のびやかな山上の草原の草もみじを愛でる		
費用	15,000 円	交通機関	電車、タクシー
日程 1日目	我孫子駅 6:18（常磐線快速）→上野駅 6:54/7:06（上越新幹線 Max とき 303 号）→越後湯沢駅 8:11/8:24（北越急行ほくほく線）→六日町駅 8:41/8:50（ジャンボタクシー）→民宿雲天 9:10/9:20→清水バス停 9:25/9:30⇒権現神社 9:45⇒858mピーク・鉄塔 10:15⇒威守松山山頂 11:20/11:45（昼食）⇒柄沢林道方面への分岐 12:30/12:35⇒柄沢林道⇒国道 291⇒民宿雲天 14:00 （泊） ＜歩行時間　4 時間＞		
日程 2日目	民宿雲天 5:35（民宿の車）→桜坂駐車場 5:40（３合目）⇒４合目 6:10⇒５合目焼松 6:40⇒6 合目展望台 7:20/7:30⇒７合目檜穴ノ段 8:00/8:10⇒８合目 8:40/8:45⇒９合目ニセ巻機山 9:00⇒巻機山避難小屋 9:08/9:20⇒お機屋 9:45⇒最高点 9:55/10:20⇒お機屋⇒避難小屋 10:55/11:00⇒ニセ巻機山⇒８合目 11:30⇒５合目 13:00⇒桜坂 14:00（タクシー）→民宿雲天→六日町ゆらりあ 14:45/15:30（入浴）⇒六日町駅 15:40/17:44（ほくほく線）→越後湯沢駅 18:00/18:12（上越新幹線）→上野駅 19:34/19:50→我孫子駅着 20:25 ＜歩行時間　7 時間 10 分＞		

ルート状況	<u>威守松山</u> 巻機山の南側に位置し、短時間で登れる巻機山の絶好の展望台。 ・登山口は二箇所あり、一つは清水集落の清水バス停から。近くの神社の鳥居をくぐって、用水路脇からジグザグの登り。もう一つはバス停の前の国道 291 号（廃道）を南下し、鎖のかかったゲートから左手の林道へ入り、坂道をしばらく登っていく。林道沿いの木に結び付けられたピンクのリボンが目印。鉄塔の巡視路で、案内板はない。道は草が生い茂り、ほとんど歩かれていない。 ・二箇所の登山口から登って行くと、鉄塔のたつ 858mピークの先で合流する。ここから 350mの急登で山頂。 <u>巻機山</u> ・清水集落から３合目登山口の桜坂まで徒歩だと 40 分かかる。 ・桜坂の駐車場から坂を上がると直ぐに沢コースとの分岐で、右の林道沿いに行けば井戸尾根登山口に着く。山頂まで約 1200m以上登る。 ・各合目にしっかりした標識が立っていて励みになる。 ・前巻機山を下った所に、新しい避難小屋がある。室内にバイオのトイレが二つあり、小屋の裏手にもある。 ・小屋の前を下った広場にテント場がある。 ・水場は、テント場から沢に下りたところにある。 ・全体的に登山道はよく整備されているが、お機屋の直下で、階段の両側の斜面は、植生作業の甲斐もなく裸地化したまま。 ・木の階段を登りきったお機屋から右手へ 10 分行った所にケルンがある。ここが巻機山の最高点だが、標柱はお機屋の方に立っている。
参加者	外崎（L）、村松（SL）、矢野貞、斉田、室崎、内田 男性３名　女性３名　計６名

威守松山より巻機山を望む

山頂より

お機屋

ケルンのある最高点

＜８７１＞

七ヶ岳・荒海山

（1636m）（1811 m）

箕輪　完二

錦秋に染まる１等三角点の山へ

10 月 24 日、25 日、秋晴れのもと素晴らしい紅葉の七ヶ岳と荒海山に登ってきました。そして男性３名、女性２名のアットホームなテント山行でもありました。

（１日目）

七ヶ岳は福島県の南西部にある南会津町の中央に位置する。我孫子駅北口からレンタカーでの出発となった。６人用の車だというが、テント山行の荷物を積み込むと５人で一杯となる。東北自動車道を使い西那須野ＩＣでおり、国道 121 号で会津に向う。途中で那須塩原を通過し温泉郷の美しい紅葉をみるとこれからの山行が楽しみになる。どんどん山間に入り桧枝岐分岐を過ぎて登山道入口を探すがなかなか見つからない。地元の人に聞くも要領を得ないようだ。それほどマイナーな山のようだ。やっとのことで七森橋を見つけ、平滑沢登山口へと向かう。車道は思ったより整備されており、数台置ける駐車場もある。平滑沢に入ると前日の雨のせいか水量が多いようだ。ルートも解りづらく沢も滑りやすい、前へうまく進めない。なんとか遡行するが標高 1300m付近でリーダーが撤退を決断。これ以上は下山も含め危険との判断だったと思う。その帰りに気づいたのであるが平滑沢の取り付け箇所に荒縄が数本、木に吊ってあった。この荒縄を靴に巻けば滑り止めに有効とのことだった。下山の途中で見た周辺の山々の紅葉の素晴らしさは格別であった。私にとっては「秋の涸沢」を思い出させてくれる景色だった。

うさぎの森キャンプ場は広く、快適なテント施設だった。比較的時間に余裕もでき、テントを張り、近くの調理場でビールとお茶で乾杯。食事は女性陣の皆さんが心尽くしのキノコ汁をつくってくれ、それを思う存分食べた。さらにテントにランタンを点けて四方山話。アットホームなテント山行となりました。

（２日目）

早朝５時に起き、昨夜のキノコ汁にご飯を入れてのオジヤ。これがなかなかおいしかった。荒海山は福島県と栃木県の県境にあり、日本海側と太平洋側を分ける中央分水嶺に位置するという。南側は太平洋に注ぐ利根川支流鬼怒川水系、北側は日本海に注ぐ阿賀川支流群となっているという。七ヶ岳は火山灰等が溶結した凝灰岩や砂岩を基盤とし、荒海山の東側は砂岩と粘板岩からなっており、西側は花崗岩が露出しているという。いずれも直接の火山ではないが火山灰やマグマが静かに固まり、間接的に関連しているようだ。

地図から見た目以上に長く、特に稜線に出てからの尾根歩きは厳しくアップダウンを繰り返す忍耐のいるコースであった。それだけに４時間の苦闘の末、頂上に着いた時の達成感は大きかった。昼食休憩の後, 山座同定をしてみる。晴れ渡った山頂からは東に那須連山、南に高原山、男体山、日光白根、西に会津駒、北に昨日挑戦した七ヶ岳等がみえる。素晴らしい眺めだ。山頂では思いかけずに労山松戸の皆さん数人と出会う。

今回、必ずしも有名で無くても「紅葉の美しい山」「登り甲斐のある山」を紹介して頂いた。村松リーダーはじめ同行の皆さんに感謝いたします。

荒海山

概念図　　荒川山塊

七ケ岳地図

概　　要

山名	七ヶ岳・荒海山		
月日	平成 26 年 10 月 24 日(金)～10 月 25 日(火)		
山域	南会津	地形図	1/25000 糸沢・荒海山
形式	テント泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	１．錦秋に染まる１等三角点の山へ。 ２．300 名山、2 山の登頂 ３．晩秋のテント生活の体験。		
費用	9,600 円	交通機関	レンタカー
日程 1日目	我孫子駅北口ふれあい広場前 5:30→外環、東北道経由那須塩原ＩＣ着 7:35→道の駅田島 8:55→七ヶ岳、平滑沢コース登山口発 9:20⇒平滑沢取付き 9:50⇒水量及び登山道荒れていた為撤退 11:10⇒下山口着 13:00→うさぎの森キャンプ場 14:10（泊） ＜歩行時間：3 時間 40 分＞		
日程 2日目	テント場発 6:50→荒海山登山口 7:30⇒渡渉地点 8:05⇒稜線分岐（尾根に出る）9:00⇒荒海山山頂 11:30/12:10⇒稜線分岐 14:20⇒渡渉地点 15:00⇒登山口 15:35→夢の湯 15:50/16:40→東北道、外環経由我孫子着 20:50　＜歩行時間：7 時間 25 分＞		
ルート状況	<u>七ヶ岳</u>　平滑沢登山口へは国道 121 号（会津西街道）を桧枝岐分岐を過ぎて直ぐの七森橋から入る。（我々は間違えて通り過ぎた） ・章吾橋登山口までは車道は整備されている。登山口には４～5 台程度は駐車できる。 ・平滑沢に入ると前日の雨のせいか水量が多く、ルート判断とつるつるになっている沢をかすかなエフを頼りに進む。とにかく良く滑る。 ・標高 1,300m付近まで遡行したが、これ以上危険と判断して撤退を決めた。（平滑沢取り付きの所であっと驚く事態があった） ・公営のうさぎの森キャンプ場は広く、施設も立派で快適なテント生活を送る事が出来る。（オートキャンプ場が併設されている） <u>荒海山（太郎岳）</u>　登山口は会津高原駅を桧枝岐方面に向かい袋口から斜め左の林道に入る。登山口には 5～6 台の車が駐車できる。 ・荒海川沿いの登山道は荒れてはいるが、ルートははっきりしている。尾根取り付き直下はロープを何カ所も利用する急登が続く。ブナ、その他、黄色に色ずいた広葉樹林の葉が朝日に輝いていた。 ・尾根取り付き点から山頂までは展望のない、アップダウンの単調な尾根歩きがいやになるほど続く。 ・何カ所かロープを頼りに急坂を登ると待望の山頂に出る事が出来る。 ・登山口から山頂までロープを頼りの急坂は、多分 10 カ所は超えるほどハードなルートです。 ・天気の悪い時はこの急坂は粘土質の土と相まって大変なルートになるだろう。		
参加者	村松（Ｌ）、箕輪完、桐生、本田、郷田 男３名、女２名　計５名		

七ケ岳　↑

全山紅葉　↑

↑　紅葉

きれいな滝も
随所に　→

＜８７２＞

半月山
（1753m）

瀬田　映子

秋の半月山へ

春に初めて半月山に登った際、茶の木平からのコースはアカヤシオが展望コースを見事に飾ってくれていた。秋の紅葉もきっと素晴らしいだろうな！！もう一度紅葉の時期に来てみたと思った。

紅葉の一番見頃の時期を日光観光協会に問い合わせた所、例年１０月半ば～１１月上旬との情報を得た。渋滞を心配し、１０月下旬の平日を選んで実施した。ところが今年は紅葉が１週間～１０日程早くて中禅寺湖畔の紅葉を残して他はほとんど終わっていた。

中禅寺温泉バス停で準備運動をすませた後、日光レークサイドホテル横の登山口へ向かった。登山口から落葉を踏みながら急坂をゆっくり登り茶の木平に着いた。茶の木平では紅葉した唐松が残っていて私達を出迎えてくれた。我々のほかに登山者は誰もいない。茶の木平は広くて静かだ。ここでしばらく休憩し第一駐車場へ向かった。旧中禅寺湖スカイラインを横切って反対側の斜面を登り返すと、紅葉が素晴らしかっただろうと思われる程の沢山のカエデの木があった。もう少し時期が早ければと残念でたまらない。しかし葉の落ちた稜線からは、尾根が開けて春には見ることが出来なかった夕日岳や地蔵岳が眺められた。狸山を越え第一駐車場に着いた。

眼下に中禅寺湖・目の前に男体山・少し後方に女体山・その奥にはチョッピリ雪帽子をかぶった日光白根山々の風景を眺めながらここで昼食をとった。紅葉した唐松の林をぬけると展望のない半月山に到着した。ここでは長居をせずに３００ｍ程下った所にある木製デッキの半月山天望台に向かった。天望台からの展望は、葉が落ちてしまった男体山・女体山・日光白根の山々がシャワーをあびたようにすっきりとしていた。静かに冬を待っているようにみえた。紅葉を少し残した八丁出島も湖面に映えて素晴らしかった。また左前方には戦場ヶ原が眺められた。このダイナミックな風景を満喫した後、

急な下りを１５分程降り半月峠に着いた。
　半月峠から狸窪までは、木々の間から時々見える中禅寺湖を眺めながらの下山となった。
　狸窪からはまだ紅葉の残っている中禅寺湖畔の景観を楽しみながら歩いた。立木観音をへて中禅寺温泉バスターミナルに着いた。帰りはバスの中も道路も込んでいて東武日光駅には１５分程遅れて到着した。　早めに電車に乗り込み場所を確保した後、買い出しをして電車の中で反省会が行われた。（休日おでかけパスは何度も改札口を通れるので凄く便利！！）
　期待した程の紅葉は見られませんでしたが、素晴らしい山の仲間と天候に恵まれ、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

半月山山頂にて

後方は男体山、その右女峰山

静かな陽だまりの中を歩く

ここが山頂？
と思うような山
「ムジナやま」

概念図

概　　要

山名	半月山		
月日	平成 26 年 10 月 29 日（水）		
山域	奥日光	地形図	1/25000 中禅寺湖北岸
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
目的	紅葉を求めて		
費用	約 5,460 円	交通機関	JR・バス
日程	我孫子駅 5:33(常磐線)→北千住 5:53/6:31(日光行き快速)→東武日光駅 8:25/8:38 中禅寺温泉行バス→中禅寺温泉下車 9:20/9:40 登山準備・出発⇒茶の木平 10:35/10:50⇒狸山 11:25/11:35⇒第一駐車場 11:50/12:15(昼食)⇒半月山 13:00/13;05⇒半月山展望台 13:10/13:20⇒半月峠 13:40⇒狸窪 14:20/14:25 ⇒立木観音 14:58⇒中禅寺温泉バス停 15:15/15;20→東武日光駅 16:15/16;31→北千住 18;52→我孫子 19:27 ＜歩行時間 4 時間 25 分＞		
ルート状況	・登山道は特にキケンなところはなく、ルートもしっかりしていて 迷うことはない。 ・第一駐車場にはトイレが無い		
参加者	瀬田(L)、外崎、箕輪カ、中村育、大平 男性１名、女性４名　計５名		

＜８７３＞

黒檜山
（1828m）

品田　千恵子

心温まる山行

朝晩めっきり寒くなってきたが、有り難いことに今回の山行は天気に恵まれた平日のレンタカー移動で渋滞もなくほぼ時間通り県営の無料駐車場に到着した。

ラジオ体操をやり、準備をして出発する。

登山口に向かう途中朱塗りの橋を渡り湖畔の赤城神社で参拝し黒檜山登山口より山道に入った。すっかり落葉した樹林の山腹はガレ場のいきなり長い急登で汗を絞られる。登山道の木々には一枚の葉も残っておらず新な季節の移ろいを感じさせる。尾根道に猫岩があり、ここで水分補給とエネルギー補給をする、眼下には大沼の静かな青い水面がひろがり先ほど参拝した赤城神社も１枚の絵ハガキのように動きが止まって見え美しかった。長七郎山と地蔵岳に挟まれた小さな小沼と富士山も綺麗に遠望できとてもラッキー。

日陰には霜柱が残っており登山道を濡らしており少しヒンヤリとする。やがて稜線に出て左に進むと黒檜山山頂に出る。頂上から５分位のところに展望台があり主に日光の山々が望める場所では先人が昼食をとっていたので少し進み足場の良い陽だまり地
で昼食をとる。卵焼き、おしんこ、手作りハムなどの差し入れを、おいしくご馳走になり小春日和の中、ほのぼのとした昼食時間を楽しんだ。

稜線伝いに落葉した登山道と階段状の道を下り駒ヶ岳山頂に進む。 駒ヶ岳からの下山は鉄製階段が数か所あり滑りやすいので注意しながら下る。先頭かパッチリ！と １ 枚 後からパッチリ！1 枚とお互いの雄姿を撮りあい仲間意識も高まった坂巻班は笑顔で無事下山することができました。

山行目的の「紅葉の散策」は登山道を落葉が覆っている状態で残念でしたが、朝は寒々した紅葉しか見ることができなかったが、帰りのタクシーの車窓からは名残の紅葉が夕日に照らされており「きれい！」「まだまだ見られるね！」と黄色い歓声が上がり晩秋の趣に色を添えて、こうゆうしゃれた紅葉もありですね。安全山行で展望抜群、笑顔あり、美食の差し入れありの満足した山行でした。

往復安全運転してくださった坂巻さん、末永さんには感謝しております。

登山前に赤城神社で安全祈願をする

黒檜山頂で集合写真を撮る

黒檜山から遠景、富士山の雄姿

概念図

＜８７４＞

黒岳～雁ケ腹摺山
（1998m）　（1874m）

林　敏生

五百円札の富士を望む

千葉県勤労者山岳連盟　岳人あびこ　平成 26 年入会ほやほやの新人です。今回の山行は旧 500 円札に採用された富士山を撮影した場所であり、念願の雁が腹摺山です。雨男で通っている私としては私が山行に参加することで他のメンバーの方に迷惑をかけるのではと、山行日が近づくにつれ悩みましたが、なんとなんと快晴。実は一番悩んだのが登れるかどうかでしたが、ちゃんと帰宅して原稿を書いています。また電車の中で、11 月 3 日が 500 円札の写真を撮影した日と聞きその偶然にとても興奮しました。甲斐大和駅よりタクシーで、湯ノ沢峠へ、途中の紅葉は美的センスのない私も感激しましたが文章に表現できないことをご容赦ください。

道は深くえぐれていて歩きづらいですが、登り始めてすぐ、富士山が右手に見え始め早く頂上にとの気持ちを高ぶらせました。残念なことに黒岳山頂は樹木で景観はいまいちでした。次は本日の目的地、雁が腹摺山、ワクワクしながら出発しましたが、大峠への下りは、落葉で先に誰も歩いたことのないかのようなもみじ等の絨毯ができていましたが、下るにつれてほぼ同じ程度これから上ることを考えるといい加減に大峠に着かないかなぁと。大峠で軽く腹ごしらえをして、頂上を目指しました。ちょっとびっくりしたのは頂上で皆さんが自然に握手をされたことです。当然私もその仲間に入れていただきました。富士山は東側 8 合目あたりに雲がかかっていましたが、念願の場所に立てたことは感慨無量でした。

雁が腹摺山から金山鉱泉までは、標高差約 1500m 近くの三時間の下り、時間とともにゴールは近づくと念じながらひたすらに下りましたが、登りが懐かしいぐらいの急な下り続き、生まれて初めて購入したストックがとても役に立ちました。これで雨でぬかるんでいたらどうなることかとゾッとしました。下るにつれて

概　要

山名	黒檜山		
月日	平成 26 年 10 月 30 日（木）		
山域	上州	地形図	1/25000 赤城山
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A
目的	湖畔の風、紅葉の散策		
費用	約 6,000 円 (含反省会費)	交通機関	レンタカー
日程	我孫子駅 5:30→柏ＩＣ→三郷ＩＣ→大泉→渋川･伊香保ＩＣ→大洞バス停Ｐ5:30⇒赤城神社⇒登山口⇒猫岩⇒黒檜山 11:10/11:45⇒駒ケ岳⇒大洞バス停Ｐ13:30→富士見の湯日帰り温泉→高崎ＩＣ→大泉→三郷ＩＣ→柏ＩＣ→我孫子駅 18:10 ＜歩行時間　3 時間 30 分＞		
ルート状況	道標はしっかりしていて道を間違えることはない。 登山道は良く整備されているので安心して歩くことができた。		
参加者	坂巻(L)、本田(SL)、渡辺、齊田、高橋芳、石塚、品田、矢野、末永、菊地 男性２名、女性８名　計 10 名		

女性陣の紅葉に対しての感嘆の声が頻繁に聞こえるようになりましたが、ただ、まだ景色を見る余裕があるんだと感心しました。
最後にリードしていただいた高橋さん、ご一緒させていただいた皆さんありがとうございました。

リーダーからひとこと

１１月３日は天気の特異日で過去の快晴率が 70%となっています。数日前には雨予報だった天気が急速に回復。当日は確率どおりの晴天に「ヤッター！」雁ヶ腹摺山からの富士山や南アルプスの展望は見事でした。雁が腹摺からの下り落ち葉がトレールを隠してしまうほどでしたが、素晴らしい紅葉に体も心も染まりながらの山歩きでした。秋の一日を心楽しい仲間と良い時を過ごせた余韻に幸せを感じました。前日にストックを用意し、翌日には感想文を寄せられた林さんにも感激です。（高橋芳恵　記）

黒岳山頂にて　↑

黒岳山頂にて一休み　↑

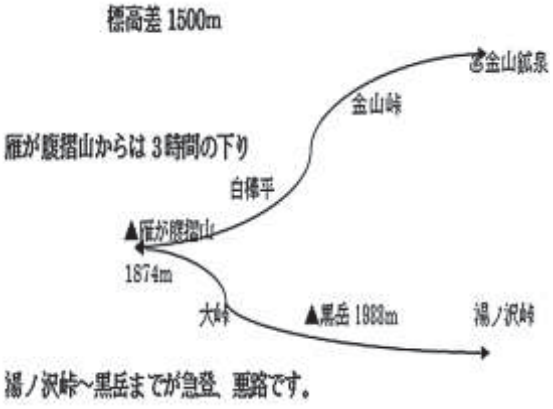
↑　雁ガ腹摺山頂上への草原を行く

雁ガ腹摺山山頂にて　　↑

雁ガ腹摺山からの富士
500円札と比較して下さい

500 円札裏面　雁ガ腹摺山山頂からの富士

概念図



概　　要

山名	黒岳～雁ヶ腹摺山		
月日	平成 26 年 11 月 3 日		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 七保　大月
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
目的	紅葉と富士の展望を楽しむ。 旧 500 円札の山		
費用	約 5,000 円	交通機関	JR,タクシー
日程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:51→西国分寺 6:48/51→高尾 7:20/26→甲斐大和 8:34/40→(ﾀｸｼｰ)湯ノ沢峠 9:13/26⇒白谷ヶ丸 10:12/17⇒黒岳 10:34/40⇒赤岩ヶ丸 11:15⇒大峠 11:38/52⇒雁ヶ腹摺山 12:50/13:05⇒白樺平 13:40/45⇒百閒干場 14:50/55⇒金山峠 15:00/05⇒セーメンバン分岐 15:25/30⇒金山鉱泉 16:30/35(ﾀｸｼｰ)→大月 16:50/17:55→ 西国分寺 19:15/26→新松戸 20:24/29→我孫子 20:40 ＜歩行時間 6 時間＞		
ルート状況	・湯ノ沢峠から黒岳は 9 月に歩いた時より道が乾いていたせいもあり歩きやすかった。 ・白谷ヶ丸からの展望は良く富士山や南アルプスを眺望した。 ・大峠までの下りは急降下であり、大峠には駐車場、トイレ、水場があり、ほとんどの登山者は大峠を利用している。 ・雁ヶ腹摺山からの富士はさすが素晴らしかった。前衛の三つ峠、滝子山も姿がよい。 ・雁ヶ腹摺山からは長く急な下りで落ち葉がトレールを隠していたが、紅葉が見事で身も心も染まって歩いた。 ・金山峠は展望が素晴らしいとあったが臨めなかった。 ・金山峠からは直接金山鉱泉に下る道もあるが破線の道であり、大垰山・セーメンバン分岐の道を選んだほうがよい。		
参加者	高橋芳(L)、大畠(SL)、田村、矢野貞、 武内、郷田、大山林、大平 男性 5 名、女性 4 名　計 9 名		

＜８７５＞

権現山
（1312m）

田村　光子

落ち葉で埋もれている道

体力を目いっぱい使った夏山シーズンも過ぎ、秋は日帰りの山行をゆっくり味わいたい季節、ぴったりの山に行く事にしました。

大月駅から浅川入口までタクシーで入り歩き始める。浅川峠までは少し急登で、歩き始めでしたので疲れました。峠から権現山頂までは落ち葉で登山道が埋もれていて道が解りづらかったが、１１時頃には頂上に着くことが出来ました。残念なことに雲が多く、山頂からは富士山や奥秩父の峰々を見渡す事は出来ませんでした。権現山から用竹まではなだらかな登山道で歩きやすく、落ち葉で埋もれている道をカサコソ音をたてながらのんびり歩くことが出来ました。今年の紅葉は例年より１週間ほどはやく、頂上付近では大半が葉を落としていて初冬の趣でしたが、中腹はまだ残っていて、十分紅葉を楽しむことができました。お昼には美味しい手作りの食べ物をたくさんいただき、幸せな気分になりました天気予報は良くなかったが、午後になって薄日もさし、降られずに下山することが出来ました。

楽しい仲間と穏やかな山行ができ、本当にありがとうございました。

頂上にて

ふわふわの枯葉に座って

概念図

概要

山名	権現山		
月日	平成 26 年 11 月 8 日（土）		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 猪丸･上野原
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
目的	静かな秋の尾根歩き		
費用	約 4,500 円	交通機関	電車、タクシー
日程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:47/5:51→西国分寺 6:46/6:55→高尾駅 7:22/7:26→大月駅 8:14/8:20→（タクシー）→浅川入口 8:35/8:50⇒浅川峠 9:40/9:45⇒権現山 11:00/11:30⇒和見分岐 12:00⇒雨降山 12:10/1215⇒二本杉山 13:10⇒用竹バス停 14:15 → 上野原 16:20 → 高尾 16:40/16:53→我孫子 18:40 ＜歩行時間 4 時間 30 分＞		
ルート状況	・浅川峠から権現山頂まで、登山道は落ち葉で埋もれており、踏み跡がなければ道は分からなかった。目印のテープはほとんどなかった。 ・権現山頂から用竹バス停までは標識がしっかりあり、全く問題はなかった。		
参加者	中村育(L)、田村(SL) 、村松、大畠、箕輪完、桐生、本田、矢野貞、石塚、室崎、室崎育 男性 3 名、女性 8 名　計 11 名		

＜８７６＞

三頭山
(1531m)

渡辺　清子

新入会員のために
企画していただいた三頭山

山行日前日まで天気予報が二転三転、傘マークが出たり引っ込んだり。雨天中止のため、決断するリーダーを悩ませたことと思います。

今山行は「岳人あびこ」に入会して２回目となる。初回山行の時は準備の段階から少々不安があったが、今回は山行の様子も多少分かり、気持ちに余裕が持てて当日を迎えることが出来た。どうにか雨にならない様にと祈りつつ集合場所へ向かう。

参加人数１７名、マイクロバス利用、A と B の二班に分かれての行動となる。定刻５：４０に出発。往きの車中で新人研修が行われた。外崎さんから『山の歩き方』『登山の装備と服装』について、郷田さんから『地図の読み方』について習う。

出発から３時間、バスのフロントガラスが濡れている。まだ紅葉が残る秋川渓谷沿いをバスは走り目的地「檜原都民の森」駐車場に到着。たいした雨ではなかったが雨具を纏う。準備体操の後、郷田さんより『地図とコンパスの使い方』を教わる。

いよいよ登山開始。先頭を行く中村リーダーの後に続くよう指示を受ける。レンガ色に舗装された登り坂をリーダーはゆっくり一歩一歩確実な足取りで進んで行く。きつい勾配を鞘口峠目指して登る。初っ端からこんなにきついとは先が思いやられると心配になる。やっと鞘口峠に着く。５分間の休憩が身体を楽にしてくれた。郷田さんによる『地図とコンパスの使い方』のおさらいをしてから出発。

途中緩やかな登り、ほっと一息つきながら進む。濡れている帽子は雨によるものか霧のためか確かめる余裕なく、ひたすら先行するリーダーの足元のみを捉えて登る。見晴し小屋で小休止後、東峰（１５２７m)、中央峰（１５３１m）へ進んだ。途中木々は既に落葉していたけれど、霧が一面に立ち籠めたブナの木立はなんとも幻想的で神秘的でもあった。木枠の階段を上段

に立つ人のシルエットを見ながら西峰頂上（１５２４m）まで上がる。晴れた日には富士山が望める絶景地点とのこと、何も見えず残念！ムシカリ峠を下り昼食場所の避難小屋へ。立派なログハウスは我々だけの貸切り状態、賑やかなお昼となる。

さていよいよ下山、三頭ノ大滝を目指す。途中、外崎さんによる『身体への負担が少ない歩き方』の実地研修が行われた。歩幅を狭くし足の置き易い所を見つけて進むのが良いと教えていただく。沢に沿ったり、渡ったりの下山道、濡れた石や盛り上がった木の根は滑り易く注意、注意！　いつ頃まで使われていたのだろうか炭窯跡を横目に大滝へと下る。我々とは逆方向から上がって来たハイキング客で賑わう大滝が見えた。落差３３m の美しい滝を吊り橋からしばし眺める。さて、目指す森林館までもう少し。チップを敷き詰めた遊歩道は山頂から下って来た足をやさしく労ってくれる。まだ残っていてくれた赤いもみじに懐かしससえ感じ、森林館の建物が目に入った時の安堵感と達成感。朝登って来たレンガ色の舗装道をバスが待つ駐車場へと下った。皆様のお陰で無事に登山が出来ました。

研修を兼ねた今回の山行、とても貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

枯葉と靄の中にいて

中央峰にて

概念図

概　　要

山名	三頭山		
月日	平成２６年 11 月 11 日（火）		
山域	奥多摩	地形図	1/25000　猪丸
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	１新入会員が山に親しむきっかけをつくる。２ブナの黄葉を楽しむ。３新入会員の親睦をはかる。		
費用	5000 円	交通機関	マイクロバス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場前 5:35/5:40→柏ＩＣ5:56→常磐道→外環→関越→首都中央連絡道→さやまＰＡ6:57/7:10→あきる野ＩＣ7:54→檜原都民の森駐車場 8:26/8:57⇒森林館 9:07⇒鞘口峠 9:17/9:31⇒三頭山見晴らし小屋 10:09/10:18⇒三頭山東峰 10:50/10:55⇒中央峰 10:57/11:00⇒西峰 11:06/11:08⇒三頭山避難小屋⇒11:21（昼食）12:00⇒三頭ノ大滝 12:53/13:00⇒森林館 13:15⇒都民の森駐車場 13:21/13:40→セブンイレブン 14:25/14:40⇒あきるのＩＣ 14:54⇒三芳ＰＡ15:25/15:47⇒柏ＩＣ16:28⇒我孫子駅北口ふれあい広場前 16:55 ＜歩行時間３時間＞		
ﾙｰﾄ状況	道はよく整備されていて、標識がしっかりある。全く問題はなかった。		
参加者	A班：中村育（L）、渡辺、林、大平、齊田、新谷、大山、高橋英、室崎 B班：外崎（L）　、内田、高橋富、須田、瀬田郷田，石塚、中尾 男性8名　女性9名　計17名		

＜８７７＞

岩山

桐生　恭子

岩山トレーニング

　久しぶりの岩山トレーニングに参加した。講師より一段上のクライマーを目指してなどという励ましの言葉をいただいての参加となった。前々日まで天気が思わしくなかったが、当日は本当にトレーニング日和となり、陽だまりでは上着も脱いで寒さを気にすることなく実技研修を受けた。日吉神社で装備確認。ここに来るのは何回目だろうか？
最初は、体が思うように動かなく苦戦した。まず、３点確保での登り、村松さんと、高橋英さんがザイルをセットしてくださり、トレーニング開始。今回新人でただ一人参加の高橋富美子さんも頑張って登っていた。また、懸垂下降は初めての人には少々とまどいがあったようだ。体を岩から離して、足に力を入れて、右手は絶対に離すな！いろいろな指示が飛び大変だ。何度か繰り返すうちに皆、さまになってきた。
昼食の後は、１５メートルの垂直の岩に移動して、クライムアップ、クライムダウンの練習を繰り返し行う。
　今日は一日中みんな上を向いて、大きな声をあげて過ごした。
　村松さんのデモンストレーションでランニングビレイについてやプルージックでの登り方も説明してもらう。
最後に初心者を連れて行った時安全に登るため（危険個所の通過）の支点作りを習った。カラビナが２枚あるとき、一枚しかないとき。うーん。なるほど。
研修内容の濃い充実した一日だった。
　やはり一年に１回は岩に慣れておくことは必要だと思う。今回、新人は高橋富美子さんだけだったが、他の新人の方も機会があればぜひ参加されたら良いと思う。クライマーにならなくても、岩場を安全に通過できる心構えを習得するのも必要だと思った。
　研修終了後はもちろん新鹿沼駅前の「みっちゃん蕎麦」で恒例のニラそば（３日ほど前から新そば）をいただいてきた。

岩登りトレーニング１（3 点確保基礎）

集合写真

岩登りトレーニング2
（懸垂下降）

岩登りトレーニング 3
（ロープによる難所）

概念図

概　　要

山名	岩山		
月日	平成 26 年 11 月 15 日(土)		
山域	前日光	地形図	1/25000 鹿沼
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ｂ
目的	３点確保、ロープワークトレーニング		
費用	約 3,000 円	交通機関	JR・東武
日程	我孫子 6:39（常磐線）→北千住 7:21（東武快速最後部車両）→新鹿沼 8:46⇒日吉神社（トレーニング準備）9:25⇒岩山トレーニング（研修・昼食）10:10/14:30⇒日吉神社装備解除 14:40/45⇒新鹿沼 16:48→春日部 18:08		
ルート状況	新鹿沼駅から徒歩 35 分ほどで日吉神社、神社から岩山まで約 10 分ほど		
参加者	桐生（L）、村松、高橋英、矢野貞、瀬田、坂巻、郷田、高橋富 男性４名、女性４名　計８名		

＜８７８＞

御正体山
（1681m）

大平　太計夫

私は御正体山には過去４回登頂していますが、内３回は３月でアイゼン使用の雪山でした。紅葉も愛でる秋を楽しみたいと参加しました。我孫子駅からの車中では雲が多かったのですが、大月駅に降りると晴れ渡り皆様に笑顔が溢れました。富士急で都留駅まで乗りタクシーの予定を時間や経費効率で大月駅からジャンボタクシーに変更した大畠リーダーの判断は正解で、早目に登山口の三輪神社に着き林道を少し奥まで入って頂けました。

下車後舗装された林道を１５分程歩いた車輌止になってからも急傾斜の林道は延々と続き、低温なのに汗をかかせられました。歩くこと約１時間後からの山道は、ほぼ尾根歩きで樹林帯の急登が続き先頭を歩く矢沢さんに必死で付いて行きました。でも終始良いペースで良かったです。

期待していた紅葉は登りの林道沿いや下山の岩下ノ丸から下には残っていましたが、頂上付近は冬枯れの様相でした。登山道に難所はなく、長いトラロープや痩せ尾根、岩場がありましたが迷い易い個所もなく整備されていました。小さな祠が置かれている峰宮跡で、中腹に雲が覆った富士山が見えました。

道志山系の最高峰で日本二百名山、山梨百名山である御正体山の山頂には、一等三角点と小さなベンチがあり楽しい昼食にしましたが、霧が立ち込め５℃位でとても寒かったです。

道坂トンネル隧道への下降時、随所で丹沢や三つ峠等の山並みが望まれ、隧道への分岐で夕日に照らされた見事な紅葉が見られたので、暫し楽しみました。

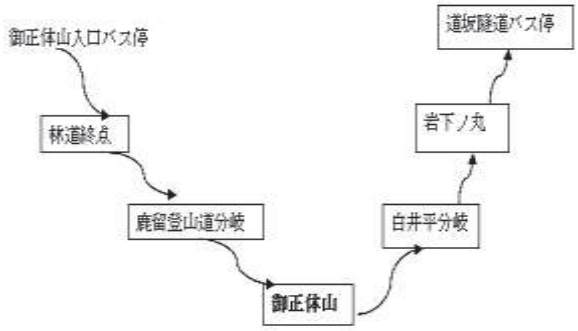
携帯電話で呼んだジャンボタクシーで大月駅まで戻り、駅前で反省会をおこない帰途につきましたが、武蔵野線が運行停止になり神田駅回りで我孫子に戻りました。８名の足並みが揃い晩秋の山歩きを楽しみました。

祠のある山頂　↑

落ち葉のカーペット　↑

みんなで一緒に

概念図



概　　要

山名	御正体山		
月日	平成 26 年 11 月 16 日（日）		
山域	道志山塊	地形図	1/25000　都留 御正体山
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
目的	ブナの紅葉		
費用	4820 円	交通機関	ＪＲ　タクシー
日程	我孫子 5:33 発→新松戸 5:46/5:50→西国分寺 6:49/6:55→高尾 7:22/7:26→大月 8:14 着/（ジャンボタクシー）8:20 発→三輪神社（630m）奥・仙沢橋 8:44 着/8:55 発（林道歩き）⇒ゲート 9:09⇒(林道二股・木道階段登り山道となる)9 : 55/10:05⇒鹿留分岐（峰宮跡 1568m）11:21/11:28⇒御正体山（1681m）12:02（昼食）12:30⇒白井平分岐 13:09/13:15⇒牧ノ沢山 13:47/13:52⇒岩下ノ丸（1303m）14:17/14:25⇒今倉山分岐 15:15/15:25⇒道坂トンネル隧道（1000m）15:40 着（ジャンボタクシー）15:43 発→大月駅 16:16 着（水琴茶堂で反省会）17:34 発→高尾 18:20/18:29→神田 19:35→上野 19:50→我孫子 20:24 着 歩行時間５時間３５分		
ルート状況	・美輪神社から 30 分の仏ヶ沢からの登山道はロープが張られ閉鎖されている。 現在の登山道はそこからさらに新しく舗装された急登の林道を 30 分歩いた先にある。二股に分かれた林道の右を行くと登山口がある。舗装された急登の林道歩きは 1 時間従来の登山道は林道のすぐ右側に付いていたが現在あまり歩かれてない様子。 ・鹿留分岐直下はかなり勾配がきつく長いロープが何本も設置されている。 ・鹿留分岐から山頂までに岩場や痩せ尾根があるが慎重に行けば問題なし。 ・山頂から白井平分岐までの下りは急降下で日陰には霜柱が残っている。注意が必要。 ・白井平分岐から下山口までは多少アップダウンはあるが良く整備された穏やかな道。		
参加者	大畠Ｌ、田村、瀬田、末永、大山、矢澤、石塚、大平 女性５名　男性３名　合計８名		

＜８７９＞

矢倉岳～金時山
(870m)（1213m)

本田　愛子

富士山と紅葉を楽しむ

今年の春に金時山に登った時は、天気が悪く富士山が全然見えなかった。今回は金太郎が遊んだ足柄の山々の矢倉岳から金時山を歩く晴天なら富士山を見ながらの行程　　まだ暗い我孫子駅を出発して小田急線に乗った頃にはだんだん明るくなってきて、日差しが暖かく山日和になった。

新松田で下車してジャンボタクシーと乗用車に 13 名乗る。矢倉沢バス停まで向う途中、足柄の山々がまだ紅葉していた。

矢倉沢の登山口で各自準備や体操を行い 8:50 に出発する。里の畑の中を通ると丸く茶畑のような形に刈られている色とりどりの小菊が所々に見られ癒された。

だんだん山道に入っていくと、急な登りになって汗で衣類が濡れてきたため、上着を脱いだ。予定通り 1 時間半の急坂を登り矢倉岳山頂に着いた。なだらかな頂きで富士山が見えた。記念写真を撮って７～８分いて下山する。急坂を下り 20 分ほどで山伏平に着き、そこからは足柄万葉公園まで山の稜線を巻くような細い道を歩いた。途中立ち止まると矢倉岳を降りてきた稜線が、そして左前方には、明神岳と箱根の稜線が見えた。

矢倉岳から一時間歩いてくると、急に舗装道路が下の方に見えてきた。万葉公園は万葉集の歌碑が所々にある良く整備されていて綺麗な公園だった。

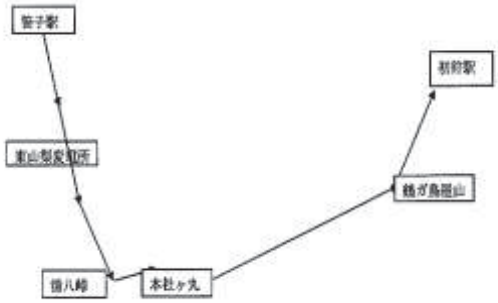
座って休んでいる周りは紅葉が美しくまゆみの木に可愛い実が沢山ついていた。

足柄聖天堂のすぐ上に足柄城跡がある。そこは富士山と裾野と御殿場市街まで見下ろす広い丘で目の前の富士山を見ながらゆっくり昼食を摂った。

まだ先があるので、40 分ほどで次の金時山へ歩き始める。緩い坂の林道を一時間登って行くと、猪鼻砦跡という処が富士山の展望所になっていてベンチがあり休憩するのによい場所だった。小休止して少し行くと、真正面に金時山の

急登が迫ってきた。
かなり歩いてきて疲れた足もこれが最後の登りで、干支のマークがあるスチールの梯子を 12 本昇りきると山頂の金時小屋の前に着いた。
大きな富士山をバックに記念写真を撮る時に、さっきまでずっと見えていた富士山が雲に隠れて真っ白になっていた。暫くすると雲が取れて一瞬姿を見せたとき歓声が沸いた。
金時山は人気があるのか午後でも大勢の人が休んでいた。
小屋から金時娘の息子さんが出て少し立ち話をした。2 年位前まで千葉の柏市に住んでいたと言うので皆驚いた。
秋の日は落ちるのが早いので、早々に下山する。少し風も出てきて寒くなってきた。
仙石原に向かって分岐まで急降下が続いた。金時神社へ下りる分岐を過ぎ明神山への矢倉沢分岐から仙石原方向に下った。もう 4 時近くなっていた。
湯本までのバスが混んでいたが 2 班に分かれて乗った。紅葉の休日なので渋滞で時間がかかり、着いた時は真っ暗になっていた。
それでも、湯本で反省会を美味しいお蕎麦屋でやって、長い道中を我孫子まで帰ってきた。長い一日だったが、紅葉と富士山を充分味わえた山行だった。

概念図



猪鼻砦跡

概　　要

山名	矢倉岳～金時山		
月日	平成 26 年 11 月 24 日(月)		
山域	小田急沿線	地形図	1/25000 関本・御殿場
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
目的	富士山と紅葉を楽しむ		
費用	5,000 円	交通機関	ＪＲ・小田急・ タクシー・バス
日程	我孫子駅 5:33 発→代々木上原 6:42/6:43→新松田 8:00(タクシー)→矢倉沢バス停 8:43/8:50⇒矢倉岳 10:23/10:30⇒山伏平 10:50⇒足柄万葉公園 11:30/11:37⇒足柄峠 11:50⇒足柄聖天堂 11:55/12:03⇒足柄城跡 12:07/12:40(昼食)⇒金時山分岐⇒猪鼻砦跡 1:35/1:45⇒金時山 2:30/2:45⇒公時神社分岐⇒矢倉沢分岐 3:25/3:30⇒仙石原登山口 3:52⇒仙石バス停 4:00⇒仙石原バス停 4:15→湯本 5:40/6:37→小田原駅 6:54/7:00→代々木上原 8:41/8:43→我孫子駅 9:50 歩行時間 5 時間 40 分		
ルート状況	・矢倉沢バス停と足柄関所跡付近にトイレがある。 ・登山道は整備されていてわかりやすく、危ない箇所はない。 ・矢倉岳から金時山登山口までは舗装道路を歩く。 ・金時山の登山道には干支に因んで名づけられた１２個の梯子段がある。 ・金時山の仙石原下山路は急坂を下る。		
参加者	田村(L)、高橋芳(SL)、箕輪カ、箕輪完、本田、中村育、齊田、村越、大山、矢澤、石塚、室崎宏、室崎育（ゲスト） 男４名　女９名　計 13 名		

矢倉岳山頂

＜８８０＞クリーンハイク

手賀沼一周

室崎　宏治

時間と共に変わる沼の色
我孫子の歴史を辿る

子の神神社

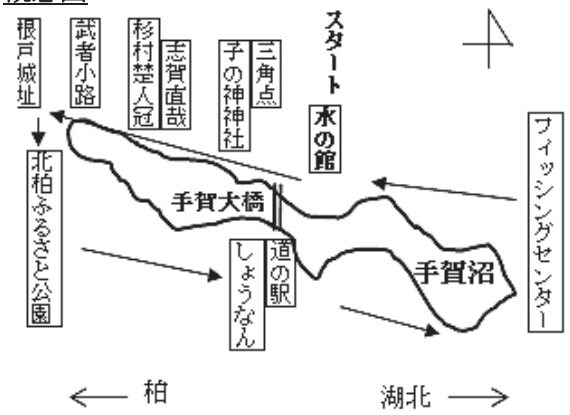
天候曇り。
朝早朝に起きて、さっそく掃除に行く準備をする。昨夜の雨が少し濡れていて、道路も少し濡れ掃除しにくいが、準備体操、注意事項、および地図の読み方、三角点の位置確認等研修をおこなった。水の館をスタート地点にとって、我孫子市内の神社や、旧大正デモクラシー時代の白樺派の文豪志賀直哉旧居、武者小路実篤氏等の旧居跡を訪ね、昔の雰囲気を感じながら紅葉を楽しみ、落ち葉を拾い、ごみ等を拾いながらふるさと公園に出た。少し休憩後、また柏市側から土手沿いを手賀沼大橋に向け歩いた。ゴミというより煙草のフイルター、飴玉を包む袋紙がめだった。たまに空き缶も。手賀沼マラソンのすぐ後ということもあり、マアマアの収穫であった。柏側は風を遮るものがなくすごく寒かった。道の駅近くで昼食後、曙橋（フイッシングセンター）にむけ歩きながら拾った。湖畔は葦の色も枯れていたりであった。また、ハスの群生地枯れて葉がなかった。また、魚釣りたぶんヘラをつっているのだろうがぽつぽつと風情あるみせもののように浮かんでいた。曙橋をすぎると、14 時過ぎになると夕闇のようにうっすら暗い手賀沼が目に焼き付いた。なかなかのものである。また、ビオトープ関連の植物の移設も行われつつあった。かつてのあやめも姿をけしていた。その時を思わせる船着場も作られかかったあともあった。往年の構想が実現できずに、そのあとかただけがすがたを見せているのも、またそれを思った一つの歴史と人間の思いであったろうか。
　拾ったごみの計量を終わり、後かたずけ後に反省会に向かった。充実した１日であった。
夕闇を照らす淡い月光

道の駅沼南

我孫子と手賀沼の地図記号の説明

↑↓　武者小路邸のお庭の中のもみじ

概念図



概　　要

山名	手賀沼一周		
月日	平成２６年１１月３０日（日）		
山域	我孫子市　及び柏市	地形図 1/25000	取手
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄ	２Ａ
目的	①手賀沼一周を歩き、ふるさとの自然を見直す。②足慣らしと親睦。③手賀沼周辺をきれいにするため、ごみを拾って歩く（クリーンハイク）		
費用	なし	交通機関	徒歩
日程	8:00「水の館」駐車場集合、準備体操 8:15 出発⇒子の神神社三等三角点確認 8:31⇒志賀直哉邸跡 8:45⇒杉村楚人冠跡 8:57⇒嘉納治五郎邸 9:08⇒9:14 アビスタ前⇒手賀沼北側（手賀沼通りと並行の細い道）西へ⇒船戸城址 9:45⇒武者小路実篤邸跡 9:40/9:50⇒根戸城址 10:13⇒北柏ふるさと公園 10:25/10:40⇒大橋を渡る⇒手賀沼の南側を東へ⇒道の駅沼南にて昼食 11:40/12:30⇒フィッシングセンター13:40/13:50⇒沼沿いを我孫子側へ⇒滝の下公園 14:20/14:40⇒水の館駐車場 15:00⇒反省会（ココス）16:00 解散		
ﾙｰﾄ状況	大勢の人が歩いたり、自転車に乗ったり、ジョギングしたり賑やかだった。		
参加者	本田(L)、外崎(SL)、高橋英、中村隆、中村八、箕輪完、箕輪カ、中村育、矢澤、石塚、林、室崎、内田 男性７名　女性６名　計 13 名		

手賀沼

＜８８１＞忘年山行

御殿山・愛宕山
（364m）（408m）

やまたんより転載

千葉県最高峰に登る
暖かな房総の一日　満喫

御殿山山頂にて、大樹を背景に

千葉県最高峰、愛宕山頂上

＜リーダーのメモ＞

ご協力と充実の１日に感謝

ＣＬ　中村　育子

・天気が良かったおかげで気持ちのよい山行にな

った。御殿山の下山途中で 43 人のパーティに出会った以外、人のいない、静かな山行をすることが出来た。

・御殿山には、３本の登山ルートがある。今回は山田中からの最短ルートを歩いた。風がなく暖かく晴れた頂上からの展望をたっぷり楽しむことが出来た。東は鴨川・千倉方面。10 キロ先は太平洋。きらきら光っていた。西は伊予が岳、富山。東京湾が船を浮かべ、更に富士山、雪を冠った南アルプスが見えた。水仙や椿がちらほら咲き、たわわに実ったみかんをそこかしこにみて、房総の暖かい自然を実感した。

・愛宕山は山頂まで急勾配の階段ガ続くが、登り切ると三角点のある山頂。その先の展望は素晴らしい。眼下に房総の村里、遠くに雲から頭を出した富士山を見ることが出来た。

・清和県民の森では、予約していたテーブルがペンキが乾いていないというので、傍のテーブルを無料で借りることができ、「お得」な懇親会が出来た。他に誰もいなかったので、我々だけで広い炊事場、テーブル、広場を自由に使うことができた。

・きのこ鍋が大変好評だった。その後、満腹のお腹を抱えてゲームに興じた。

・参加者の協力のおかげで、楽しい一日になった。

菜の花チーム

こんな機会でなければ登れない山

リーダー郷田進

今年の忘年山行は、房総半島最南端そして千葉県最高峰の「愛宕山（408.2m）」とその前につばきで人気の高い「御殿山（363.9m）」である。参加者 20 名貸切バスの旅である。まず御殿山の登る。標高差約 240m 約１時間のゆっくりハイキングを楽しむ。山頂では、東京湾越しに富士山、南アルプスの山々、反対側には太平洋と素晴らしい眺めを堪能。そして本日のメーンイベント愛宕山にバスで向う。愛宕山は、航空自衛隊の基地内にある。隊員の案内で約 20 分程階段を登り山頂へ、記念撮影、場所を移し展望広場へ、大勢の観光客を迎えるのか、出迎えから見送りまで立派なおもてなしの印象。こんな機会でもなければ、登れない山、その後、懇親会場に移動、食担の準備してくれたきのこ汁他を美味しく頂き、ゲーム（頭と体）に興じ、いつもながらの楽しい１日を過ごす。我がチームは、まとまりの良さ？から全員で「おさるのかごや」を特別にさせて頂いた。（エサホイサッサ）

今年も１年、楽しい山行をありがとうございました。

水仙チーム

海の先に富士山と南アルプス

リーダー本田愛子

御殿山の里を登って行くと、富士山と昨年登った伊予ヶ岳や富山と里の景色が一望できる気持ちの良い場所があった。大黒様が祀ってあり里を見下ろして立っていた。山頂は眼下に海が広がり向うに富士山がくっきり見えて、その後ろに白く南アルプスの山並まで見ることができた。皆さん感動して、しばらくは周りの景色を眺めていた。

愛宕山は自衛隊の基地内にあって個人ではなかなか行かれない千葉県の最高峰の山に登れました。何れも房総の里山は、のどかで初冬に登りたい山でした。酪農の里では、初めて白牛を近くで見て、美味しいソフトクリームを頂いた。

余裕を持っての登山だったので、懇親会はゆ

っくりできて、具沢山のキノコ汁を何度もおかわりして満腹の後ゲームが始まり、私達水仙グループは、頭脳ゲームで実力を発揮できなくて最下位になり罰ゲームで歌を披露した。大いに笑って夢中でゲームを楽しんだ。実行委員の方々は山の選択、懇親会の場所と内容、食事等、時間の配分等‥計画から下見、準備と大変なご苦労だったと思います。
素敵な忘年山行ができて感謝します。ありがとうございました。

親睦会・ゲームの罰を楽しむ

きんせんかチーム

愛宕山山頂の展望を楽しむ　↑

御殿山山頂から　↑

御殿山を目指して

新人２人が大活躍

リーダー齊田記代美

入会ほやほやの新人、北田さんを迎えての「きんせんかチーム」は自己紹介から始まりました。新人先輩格の林さんも、他のメンバーの名前を覚えるのに緊張気味。次回から名札を付けてほしいとの迷案も提出されましたが、即「山行に参加しているうちに自然と覚えますよ」と他のメンバーから却下されてしまいました。

歩き始める前に「時間に余裕がたっぷりあるので、のんびり歩きましょうと」いう事でしたが、一生懸命に歩くので、前を歩くチームに追いついてしまって、少々物足りない様子も見られました。しかし、御殿山からの眺望に感動し、また愛宕山登頂も記念になり、大満足しました。

懇親会では、御馳走に舌鼓を打ちながら話も弾みました。また、その後のゲームにも、チームの全員が真剣に取り組みました。「山名探し」の標高の序列を間違えたときの悔しさは大変なものでした。また、このゲームで北田さんの貢献度は素晴らしかったです。新人２名は頼もしきかな！今後の山行での活躍を期待します！

概　要

山名	御殿山　・　愛宕山		
月日	平成２６年１２月７日（日）		
山域	房総	地形図 1/25000	安房古川・金束、愛宕山：金束・鴨川
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	１．千葉県の最高峰に登る。 ２．房総の眺望と遅い紅葉を楽しむ。 ３．今年の反省会を締めくくる。		
費用	６，０００円	交通機関	貸切バス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場前 5:40→北千葉 IC→市原 SA6:45/7:00→鋸南富山 IC→道の駅富楽里とみさと 7:40/7:50→高照禅寺前駐車場 8:05/8:20⇒大黒天 8:55/9:00⇒頂上 9:25/10:00⇒駐車場 10:40/10:50→酪農のさと 11:10/11:40→自衛隊基地 11:50/11:55⇒愛宕山頂上 2:10/12:15⇒基地正門 2:25→清和県民の森 12:50（懇親会）/15:45 発→房総四季の蔵 16:35/16:50→君津 IC→市原 SA17:10/17:20→我孫子駅北口 18:50 ＜歩行時間　　御殿山：1 時間 45 分 愛宕山：25 分＞		
ﾙｰﾄ状況	・御殿山は高照禅寺脇駐車場からの往復コース。道はよく整備され、標識もしっかりしていて、全く問題はなかった。 ・愛宕山は受付から山頂までの往復の間、自衛隊の方２人に案内・説明してもらった。		
参加者	<u>菜の花</u>：郷田(L)、武内(SL)、外崎、矢澤、桐生、須田、中村(CL) <u>水仙</u>：本田(L)、村松(SL)、中村隆、石塚、室崎、瀬田(CL) <u>きんせんか</u>：齊田(L)、高橋英(SL)、矢野貞、箕輪完、末永、林、北田 計２０名　（男性１０名、女性１０名）		

概念図

酪農のさとの牛さん

＜８８２＞

倉岳山
(990m)

村松 敏彦

こんにちは！！富士の山

倉岳山山頂にて

暮も押し迫った 12 月の中旬、中央線の梁川駅に降り立ったのは男女 11 名の会の仲間達だ。目指す山は駅から直接登れる倉岳山（990m）。目的は「本年度の新入会者が早く会の仲間と山に馴染んで頂く」としての第 2 回目としての山行です。第 1 回目は先月（11 月）三頭山、来月は（1 月）高川山の予定だ。

駅で準備運動の後、20 号国道を横断して、直ぐに桂川に架かる梁川大橋を渡る。天気は空気は冷たいが空は青く、前方には目的の倉岳山の鋭鋒が見える。道は所々氷つていて注意が必要だ。トタン橋を渡ると右側に登山口が現れ登山道が伸びている。この登山口には登山者名簿に記帳するボックスと石碑が鎮座していた。その石碑には「**乳房恋ふ母にも似たる倉岳を里の子今日も胸に焼けつけ**」甘利輝、と云う文章が載っていた。里の集落の人達のこの山に思う心情が表現されている様な気がする。コナラ、カエ

デ等の雑木林やスギ林の登山道をゆっくりしたペースで行く。リーダーのすぐ後ろを歩く、ゲストの山中さん（高橋英雄さんの知人）が一生懸命付いてくる。今回が人生、初登山だそうだ。ういういしい姿が印象的だ。

間もなく桂川の支流である月屋根沢に出て沢沿いの道を３～４回、渡り返しながら暗い林の中を高度を上げる。水量は次第に細くなり所謂、水場と云う休憩地に出る。夏場では水が出ているが冬場では涸れているようだ。ここで一休みした後、左の尾根の急登に差し掛かかる。道がジグザグ状になると立野峠は近い。この峠の道標は直進すると秋山部落、左方面は矢平山、右は倉岳山を指している。

太陽に照らされて明るいこの峠は以前、多くの人が交易を目的として往来した面影が残るおもむきのある峠です。（秋山部落から蚕、山菜を中心とした物資を国中へ、又、国中から魚、塩、米等を秋山部落）稜線を右に進む。北面は薄暗いヒノキの林、南面は明るい自然林の中を最初はなだらか、次第に急坂になる。倉岳山へはピークが三つある。四つめのピークが倉岳山でした。

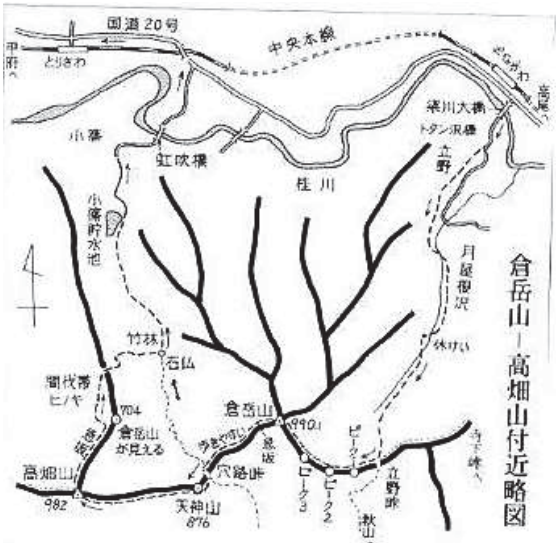
山頂は東西に細長く広い。展望は丹沢の山々を前衛に白い覆いを纏った富士山が美しい。思わず『今日は！』と云いたくなる。北西方向には滝子山、黒岳等の南大菩薩、御正体、杓子山なども大きく眼前に現れている。南アルプスの山も太陽に照らされて白く輝いている。

昼食の後、南に向かって急坂を立ち木につかまりながら下る。下りきると平坦な道になり、明るい気持ちの良い稜線歩きになりゆったりした気分になり、美味しい空気を胸一杯に吸う。下りきった所が穴路峠で直進すると天神山から高畑山へと続く道で、我々は右折して小篠貯水池方面の道に入る。トラバース気味の明るい登山道をルンルン気分で降りてゆく。オシノ沢源流を渡ると沢沿いの道に変わる。左岸沿いの道を水音を聞きながら、岩石まじりの道を下ると小篠貯水池に出た。人家の脇を通り、虹吹橋を渡り、国道 20 号線に出ると鳥澤駅は間もなくだった。新人 2 名を含む 11 名で主に地図読みを研修したが成果はどうだったろうか？何回も何回もする事によって身に着くと思うのだが・・

本年最後の山行のため高尾駅近くの中華店で軽く忘年会を厳粛に行い長い 1 日を終えた。

下山途中の地図読み

概念図



概　　要

山名	倉岳山		
月日	平成 26 年 12 月 13 日（土）		
山域	中央沿線	地形図	1/25000 上野原、大室山
形式	日帰り	グレード	１A
目的	新入会員が早く山と仲間に仲良くなろう。 登山の基礎を学ぶ。		
費用	2,600 円	交通機関	ＪＲ
日程	我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺→高尾駅 7:22/7:26→ 梁 川 駅 8:03/8:45 ⇒ 水 場 9:55/10:05 ⇒ 立 野 峠 10:30 ⇒ 倉 岳 山 11:05/11:30⇒夫婦杉 12:40⇒小篠貯水池 13:15⇒鳥澤駅 13:55/14:22→高尾駅→西国分寺→我孫子駅 18:45		
ルート状況	・登山道も良く整備されて、道標もしっかり付いているので特に問題なし。 ・下山してからの鳥澤駅迄の里での道は分かりにくい。		
参加者	村松（L）、外崎、高橋英、箕輪完、本田、箕輪カ、矢野貞、石塚、室崎、高橋富、山中(ゲスト) 男性 4 名　女性 7 名　計 11 名		

＜８８３＞新年山行

(秋山)二十六夜山～赤鞍ヶ岳
(972m)　　(1299m)

・　今倉山～(道志)二十六夜山
(1470m)　　(1297m)

武内　勇二

昔　村人が月の出を待って拝んだ山

赤岩(松山)山頂　360℃大パノラマ　↑

赤岩(松山)～道志二十六夜山

上野原駅から２台のタクシーに分乗、３０分程くねくねした道を走り尾崎部落に着いた。ここはまだ上野原市でもう少し西に進んで新雛鶴トンネルを越えると都留市となる。今回の山行はまず上野原市の(秋山)二十六夜山に登り、上野原市、都留市と道志村の３市村境の赤鞍ヶ岳を経て道志村大栗にある民宿富士見荘で新年会を楽しむ。翌日、道志村と都留市の２市村境の今倉山に登った後、都留市の(道志)二十六夜山から下山するという２つの二十六夜山を訪ねる山行である。民宿富士見荘は過去にも２度宿泊しており馴染みの民宿である。リーダーの山行計画書には「思い出の民宿に泊まり、新年を祝う」とあった。

さて二十六夜山のこと、尾崎登山口の案内板によれば「二十六夜塔　平安時代から盛んに行われた二十六夜月待ち信仰の遺習で旧正月と７月の二十六夜の夜半、月の出を待って拝むと幸運を得ると謂われた。秋山地区でも昔からこの信仰が盛んで、明治２２年に建立された見事な二十六夜碑が山頂にある。この碑は住民を病気災害から守り養蚕の守護神として崇められている」とあった。

８時３０分尾崎を出て舗装路を行き沢にかかる小さな橋を渡ると二十六夜山登山道入り口となる。鹿止めの柵を潜り、杉林の中を沢沿いに行く。程なく灌木混じりの尾根に出た。尾根を登り浜沢登山口との分岐で左に折れると二十六夜山の頂上に出る。広い山頂の一角に「廿六夜」と刻まれた石碑が立っていた。山頂から一旦、もと来た道に戻り直進するとやがて痩せ尾根になり、１ヶ所岩を抱きかかえるように通過しなければならない箇所を通過し、更に下ると分岐の道標があった。直進が浜沢、右折が赤鞍岳とあった。標識指示に従い、急斜面のけもの道かと紛わんばかりの細いトラバース道を行く。三日月峠の道標のある尾根道に合流した。どうも二十六夜山からの下りで、直接三日月峠に出る道を見落とし、迂回路に入り込んでしまった様である。３０分ほどロスしたことになる。アップダウンを繰り返し、南斜面に植林した木がまだ大きくなっていない明るくて展望も利いた場所で昼食。食事休憩後、棚（たん）の入山までは、更に３０分ほど要した。結構登りがきつく息が切れた。

棚の入山頂上から樹の間越しに目標の赤鞍ヶ岳が垣間見えた。疲れた体には未だ大分遠いように見えた。尾根伝いにアップダウンを繰り返し、ようやく赤鞍ヶ岳に到着。別名朝日岳とも呼ばれ、昭文社の地図や都留市観光協会のガイドマップには朝日岳と記されている。赤鞍ヶ岳の名はここから東にある 1257m 峰（別名ワラビタタキ）にも冠されているので何とも紛らわしい。ともあれここが本日の最高点であとは道志村集落に向かって下るだけだが、この下りがそれほど生易いものではなかった。厳道峠への縦走路と別れてすぐに厳しい下りが始まった。正に真下に転げ落ちそうな急坂で、落ち葉に隠れた石を落してしまう。何度も「ラク」「ラク」の声が上がる。緊張の連続である。長い時間に感じられたが実際は１５分程だっただろうか。やがて急坂も多少は緩くなり入道山を左に巻いて車道に降り立った。ここから富士見荘のある大栗集落までは約３０分。民宿ではお目当ての女将さんは用事で東京に出かけたとのことで、３年前に嫁いできたというお嫁さんが留守

番していた。部屋は寒く客を迎え入れる準備は今一つの状態で、事前の期待が大きかっただけに拍子抜けの感じがした。ともあれ風呂に入り炬燵を囲んでビールで乾杯、持参の日本酒で新年会の幕開けとした。夕食はお肉たっぷり野菜キノコたっぷりの寄せ鍋の豪華版、正月のお餅の食べ過ぎ解消を目指してハラゴナシのために山に来たが、逆にハラゴシラエしてしまったようだ。出かけていた女将さんも帰宅、６年ぶりの再会となった。

翌朝、飲んだビールはタダ、お弁当やLEDライト、タオル、自家製の沢庵、おまんじゅうと山登りにはやや不向きなお土産も有り難く頂いて、宿代は６５００円ぽっきり、これで商売になるんだろうかとちょっと心配になる。勿論、皆は大満足で、「また来たい」ということで意見が一致した。

富士見荘のご主人と女将さんの運転する２台の車で、今倉山登山口のある道坂（どうさか）トンネルの都留市側入り口まで送ってもらった。トンネルの上あたり（道坂峠）で御正体山への道を分け、急だが明るい雑木林の道を登る。途中からは富士山も頭をだし、垣間越しに南アルプス白根三山や荒川・赤石・聖の真っ白な頂も展望できた。トンネルから１時間半ほどの登りで、今倉山山頂に到着。ここから尾根を西へ辿り小さなアップダウンを何度も繰り返しながら１時間ほどで赤岩に着いた。ここからの展望は素晴らしい。空はあくまでも青く澄み渡り、中央線沿線の山は勿論、秩父、八ヶ岳、南アルプス、そして富士山を間近に眺め、他の季節にはない冬の登山の醍醐味を存分に味わった。
赤岩を過ぎても富士山を左に見ながら緩やかなアップダウンを繰り返し、林道を横切って程なく(道志)二十六夜山に着いた。昔、村人が月待ちをしただけあって、素晴らしい眺めが楽しめた。山頂を一寸下ったところに「廿六夜」の石碑があった。「山名は、江戸時代に盛んになった旧暦の正月と７月の二十六日の夜に人々が寄り合い飲食を共にしながら月の出を待つ二十六夜待ちの行事に由来します。この日の夜半の月光に現れる阿弥陀仏、観音菩薩、勢至菩薩の三尊の姿を拝むと平素の願いがかなうと信じられ、かって二十六夜山の山頂で、麓の村人たちによって遠く道志から上がる月を拝む月待ちの行事が行われました」との案内板もあった。お盆とお正月の行事であるが、７月はともかく厳冬期のお正月の夜に山の上で月の出を待つというのは厚い信仰が無ければできることではないと思う。

二十六夜山からは急な斜面のジグザグ道を上戸沢に下り、芭蕉月待ちの湯でひと風呂浴びた。２日間とも冬晴れの下で、山好し、宿好し、お風呂好し、満足感あふれる新年山行でした。リーダーを始め、同行の皆さんに感謝します。

<u>概念図</u>

松山（赤岩）山頂

概　　要

山名		朝日山・今倉山		
月日		平成 27 年 1 月 8 日（木）～9 日（金）		
山域		道志山塊	地形図	1/25000 大室山、都留
形式		山麓泊	グレード	２Ｂ
目的		１．新年山行を思い出の民宿に宿泊して新年を祝う。 ２．道志の名峰から新雪の富士山を見る。		
費用		約 13,000 円	交通機関	ＪＲ、タクシー、バス
日程	1日目	我孫子駅 5:32→新松戸→西国分寺→高尾駅 7:16/7:27→上野原駅 7:51/7:56（タクシー）→下尾崎 8:18/8:30⇒秋山二十六夜山 10:00⇒三日月峠 10:55⇒昼食 11:16/11:35⇒棚ノ入山 12:16⇒朝日山（赤鞍ヶ岳）12:56/13:15⇒国道 14:40⇒富士見荘 15:05（泊）		
	2日目	富士見荘（宿の車）8:04 発→道坂(どうさか)トンネル 8:30⇒御正体山分岐 8:50⇒今倉山東峰 9:48/10:00⇒赤岩（松山）10:51/11:02⇒道志二十六夜山 12:00/12:20⇒仙人水 13:08⇒芭蕉月待ちの湯 14:05/16:00(バス)→富士急都留市駅 16:27/16:47→大月駅→高尾駅→西国分寺駅→我孫子駅 19:52 着		
ルート状況		・この山塊は道標が少ないが、慎重に行動すれば大けがはしない。但し、我々も一寸した油断のせいか結果的には問題なかったが遠回りをした。 場所は秋山二十六夜山から三日月峠に向かう際、直進せず右のルートに入ってしまった。 ・雪はなかったがこの季節、所々凍っていて注意が必要。 ・所々、登山道を枯葉が堆積していて非常に歩きにくい。 ・朝日山（赤鞍ヶ岳）から竹乃本の下山路は直下から転げ落ちるような急坂のため落ち葉に隠れている落石及び歩行に充分注意したい。		
参加者		村松（L）、高橋芳、武内、大平、室崎、北田　　男性５名、女性１名　　計６名		

＜８８４＞

高川山
（977m）

中尾　雅彦

山頭火の句浮かぶ道

山頂での鏡開き（おしるこ完食）

「新会員が山と仲間に親しむ企画第３弾」として計画された中央線沿線の高川山山行は、素晴らしい冬晴れに恵まれた。雲一つない澄み切った青空の下、２時間余りで山頂に立ち、お目当ての雪化粧した富士山をはじめ、３６０度の眺望を心ゆくまで堪能した。高川山は山梨百名山の一つであり、大月市の秀麗富嶽十二景、都留市二十一秀峰にも選定されている。その景観とともに駅からすぐ登山できる山として人気を集めているとか。今回、登ってみて納得。この山行を企画してくれたリーダー武内氏にあらためて感謝します。

当初、登山経験の浅い私は参加にためらいがあった。①冬山であること②膝の故障や風邪を引いて体調が悪かったためだ。悪天候ならばやめるつもりだった。しかし、体調が回復してきて、天気も良さそうとの予報で参加を決断。案ずるより産むが易し、と腹を決めた。軽アイゼンも買って心待ちにした。

そして、迎えた当日。新人３人を含む一行１２人は「松葉コース」登山口のある富士急行・田野倉駅に降り立った。リーダーが「あの山です」と指差す先に、こんもりした高川山が寝そべるように構えていた。体操後、いよいよ出発。

大柄女性のＨさんが先頭、自分が２番手を行くことに。「ゆっくり行こうね」の掛け声で歩き出す。午前８時３５分、気温５度だった。神社手前を右折し、中央道を潜った先の登山口からしばらくして衣服調整。自分は厚着し過ぎて失敗、汗をかいていた。植林された緩い登山道に柔らかな日差しが結構入ってくる。「陽だまり山行」とはこのことかと自覚、幸せな爽快感に浸れた。やがて、リニアモーターカー実験線が眼下に見えた。山並みの間に真っ白な富士の姿も。弁慶石を経て馬頭観音に手を合わせる。可愛い石仏３体が並んでいた。私は歩きながら放浪の俳人、山頭火の一句「越えてゆく、山また山は、冬の山」がなぜか頭に浮かび、ぶつぶつ繰り返した。つらい人生を冬の山になぞらえた山頭火の心境とは合致しないが、風景がマッチしているように思えた。「むすび山」分岐点からはやや急登になった。大きな岩や木の根が入り組んで息がはずむ。小ピークから尾根道をたどり、登り返しを経て１０時４２分、山頂に到着した。

頂上は、まばらに樹木もあるが、岩だらけ。あまり広くなくすでに数組の登山者がいた。一行で握手して、まずは記念写真。３６０度の眺望をゆっくり楽しむ。南方に中腹まで雪をかぶった富士山が聳え、手前に三つ峠、周辺の山並みがぐるりと取り巻き、遠くに雪の南アルプスも展望できた。標識に「十二単をまとった富士が見られる」とはうまく表現した。風もほとんどなく、居心地がいいせいか「４０分休憩」の予定が１時間余りになった。リーダーらが持参したガスコンロと新人Ｍさんが運び上げた水３リットルを使って餅入りお汁粉が作られ、皆にふるまわれた。熱々のお汁粉の美味さといったら。五臓六腑にしみわたった。感謝の言葉もない。落ち着いたところで、リーダーによる軽アイゼンの脱着、特徴、歩行技術の指導があり、大変勉強になる。

冷え込み始めて、昼前にＪＲ初狩駅へ向け下山開始。岩だらけの登りと違って笹道から小石や木の根が多い滑りやすい下山道だった。落ち葉が分厚く積もっている所もあり、雨だったら悪路になる道で要注意。トラロープが所々に張ってあるも細くて頼りないものだった。故障を抱えた私の左膝も少し痛みが出始めて、転倒しないよう慎重に下った。途中、「男坂・女坂」分岐点では緩やかな「女坂」を選択。うっかり「女の下り坂」と口を滑らせた私に女性軍からブーイングとともに、「とっくに下り坂よ」と自嘲の声も。和気あいあいとした雰囲気で休憩なしのまま一気に下山し、午後１時前にはこじんまりした初狩駅に無事到着した。大月駅前の食堂で１時間余り反省会をやり、帰途に就いた。

山頂：富士をバックに

概　　要

山名	高川山		
月日	平成２７年１月１２日（祝）		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000　大月、都留
形式	日帰り	グレード	１Ａ
目的	新会員が山を楽しみ仲間に親しむ。富士山を始めとする 360 度の展望		
費用	約３,５００円	交通機関	ＪＲ、富士急
日程	我孫子 5:33→新松戸→西国分寺→高尾→大月 8:14/8:21（富士急）→田野倉駅 8:27/8:35 ⇒松葉登山口 9:00/9:05 ⇒馬頭観音 9:30/9:35⇒高川山 10:40/11:50⇒林道 12:40 ⇒初狩駅 12:55/13:07→大月駅 13:13/14:48→立川駅→西国分寺駅→柏駅 17:20/17:26→我孫子駅着 17:30 ＜行動時間 4 時間 25 分　内、歩行時間 3 時間 20 分＞		
ルート状況	・田野倉（松葉）側登山口からは、馬頭観音から山頂近くにかけて岩のゴロゴロした急坂があるが、登りに使えば怖いと思える箇所なく安心して登れる。 ・初狩側登山口も整備が行き届いており、初心者でも安心して登れる。		
参加者	武内（L）、外崎、高橋芳、箕輪完、矢野貞、本田、石塚、村越、郷田、中尾、室崎、高橋冨　　男５名、女７名、計 12 名		

概念図

＜８８５＞

大霧山
（767m）

矢野　裕子

眼前の眺望　雪景色の中を行く

積雪の中を行く

東武東上線は自然豊かでのどかな趣の町が多く、以前から私の好きな沿線でした。

終点小川町駅からの外秩父七峰縦走コース、その中の大霧山は、展望が良く堂平山・笠山と共に比企三山として親しまれている。今回は日だまり山行を目的としたが、お天気は今一つ。経塚のバス停に降りると、２日前の雪が道路脇に残っていた。ここから直に静かな樹林帯の上りとなり、１時間ほどで旧定峰峠の分岐に到着。まだ柔らかい雪をサクサクと踏み込んで登る。尾根のアップダウンをゆっくりと歩いていくと、直角に折れて明るい展望のある地点に出た。右手には馬蹄形に連なる七峰のうちの笠山や堂平山を見渡すことができる。眼前の斜面も牧場らしい伸びやかな眺望でとても気持ちが良い。今回はそれが雪景色！おまけに上空からもちらほらと雪が舞い降りて風が冷たい。思いがけず近場で、雪山気分を味わった。短い急坂を登りきると、ぱあっと西側の展望が開けて大霧山の山頂に着いた。甲武信岳や両神山が雪を冠って美しい。しかし、北風が強く体温を奪われる。この先にもあまり窪地は無いので、ここで短い昼食時間をとった。その間に下りに備えてアイゼンを着ける人もいた。下りはかなりな急坂なので、慎重に踵を踏みこんで、横歩きで下りてゆく。４０分位で粥仁田峠の大きな車道に出た。まだ歩き足りない感じ。お地蔵さんを拝みながら再び山道に入り、あと一つだけピークを越えた。本来ならこの先の二本木峠までは行きたかったが、今日の尾根歩きは体に感じる横風が強くて冷える。皆さんの同意を得て大きな車道へ抜け、下山開始。

さてそこからは、皆でゲームのように近道を探しながら橋場のバス停を目指した。栗和田の集落は明るくのどかな斜面で、ロウバイも花開き、ゆずの実もたわわな家々の脇道をお邪魔したりして、対岸の峰々を見渡しながらバス停まで歩いた。

今回初めて自分で計画したこの山行では、参加者のお一人お一人がさりげなく手助けしてくださった。バスの回数券を見つけて購入し、役割に無い会計係をこなしてくれたり、下見のときからずっと応援し助言してもらったりした。普段からよく分かり合えている仲間とだからこそ成立する、初リーダー山行。皆様ありがとうございました。

大霧山山頂

↓山頂から武甲山を望む

麓の里の
ロウバイ

＜８８６＞県連房総ロングハイク

大崩（津森山～人骨山）
（336m）　（293m）

・　東大演習林
（石尊山～烏帽子山～鶏毛山）
（348m）　（220m）　（228m）

高橋　芳恵

概　　要

山名	大霧山		
月日	平成２７年１月１７日（土）		
山域	奥武蔵	地形図	1/25000 安戸
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄ	１Ａ
目的	日だまり山行		
費用	約３，８００円	交通機関	ＪＲ、東武東上線、バス
日程	我孫子 6:28→柏 6:32→日暮里→池袋 7:16/7:30→小川町 8:31/9:05→経塚バス停 9:37/9:50⇒旧定峰峠 10:30⇒大霧山 11:50/12:15⇒粥仁田峠 13:00⇒橋場バス停 14:20/14:45→小川町 15:10/15:44→朝霞台、北朝霞(武蔵野線)→新松戸→我孫子 18:00 ＜行動時間 4 時間 30 分　歩行時間 4 時間＞		
ﾙｰﾄ状況	・秩父七峰縦走コースの一部分なので、標示もはっきりしていてわかりやすい。 ・粥仁田峠からは、縦走しても下山しても、車道歩きが大半となる。		
参加者	矢野裕（Ｌ）、中村隆、　高橋英、　田村、瀬田、箕輪完、本田（ＳＬ）、郷田、矢澤、石塚、室崎、林、藪中 男性７名、女性６名、計 13 名		

概念図

緑豊かな房総の森　水仙は花盛り

↑　花盛りの水仙ロードを歩く

水仙満開

1 日目　東葛地区では松戸、柏、我孫子、鎌ケ谷市で 2 日間バスをチャーターし、ロングハイクを前の準備体操のように近くの山里を歩くのを恒例としている。私が最初に参加した 15 年前と同じメンバーが顔を揃えていらっしゃり、息の長い活動である。こうした方々に支えられての 31 回の催しであることに感謝して今年も参加させていただいた。今年の津森山、人骨山は水仙の花盛りで平素は静かな山里と思われる地域もこの時とばかりににぎわっていた。人骨（ヒトホネ）山は意味ありげな名であ

るが、定かではない。ちょうど良いウオーミングアップをした後、今晩の交流会、宿泊会場となる七里川温泉に向かった。

七里川温泉は単純硫黄泉（冷泉）であり、露天風呂も楽しめる千葉県ではめずらしい天然温泉でなかなかなもの。浴後は炭火の囲炉裏で途中の「ばんや」で買った干物を食べるのも楽しみである。手作り干物はさすがにおいしく、ヤナギカレイ、エボタイ、イカと皆で舌鼓を打った。道の駅で買った千葉の酒にぴったり。一緒に囲炉裏を囲んだ柏の会とも話に花が咲いた。その後夕食、交流会を経てもう一度温泉でゆったり、まったり。

2 日目　朝 6 時ライトをつけて出発。石尊山の途中で朝日を拝み、山頂を踏んだ。このあたりは民地と東大演習林とを分けているとのこと。緑豊かなモミの木、榎などの森を歩く。

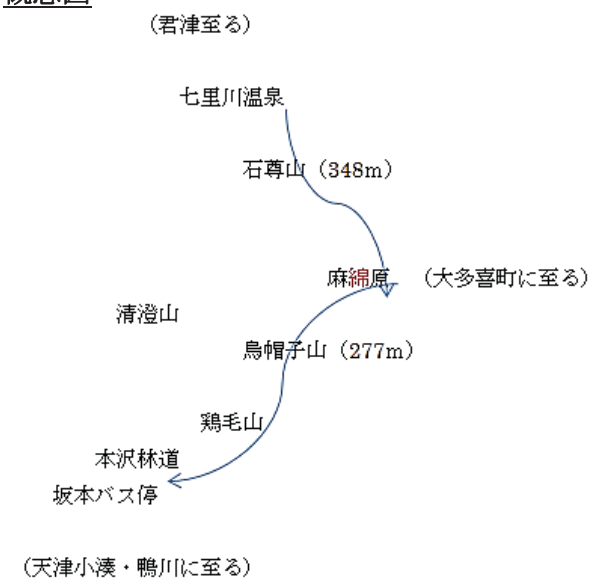
石尊山~麻綿原にかけて昨年は見られなかった道の崩落個所、大木の倒木が数か所あり、腹這いになって通るところも。モミの大木、モミジロウ、モミタロウをはじめ巨木が立ち並び、これが房総の山かと毎回驚く。麻綿原には予定より 1 時間遅れで到着した。昼食後、ツクバネカシを目印に大平歩道を烏帽子山目指して進んだ。木を目印にするなど中原実行委員長なくてはできないコースである。午後のコースには大岩があり、足元も岩に注意して歩く。砂岩が多いのはかつて海の隆起によるものと思われ、大木はそのために倒れやすい地形となって岩をかかえて道を遮っている。このあたりも巨木に覆われ、マテバシイの林が続く気持ちの良い道だ。今年は道路崩壊個所があり、硯石分岐から鶏毛山へと初めてのコースを歩いた。演習林の森はいく筋もの派生した道があり、慣れない登山者では到底歩けないルートであることを痛感した。最後に藪漕ぎをして本沢林道に降り立ち、渓谷の流れに沿って気持ちよく歩くこと 30 分で到着地　坂本バス停に出た。今回は全体で 10 時間の行動時間と大幅に時間を要したが事故なく、全員無事に下山することができた。

何にもまして実行委員長中原氏の日頃の演習林でのボランティア活動で得た信頼とルートを知り尽くした御蔭の上での山行であり、めったに見られない房総の素晴らしい自然を感じた一日であった。またハイキング委員長　桑原氏の下見の実施やその人柄がこのハイキングの魅力につながっているのは私だけではないと思う。地道な各ハイキング委員の活動、参加者の協力が 31 回にもおよび活動を支えていることは言うまでもない。

人骨山山頂　↑

囲炉裏を囲んで至福のひと時

<u>概念図</u>



居眠り地蔵

概　　要

山名		大崩:津森山～人骨山・東大演習林		
月日		平成 27 年 1 月 24 日(土)～25 日(日)		
山域		房総	地形図	1/25000 上総中野　安房小湊
形式		日帰り	ｸﾞﾚｰﾄ	：２Ａ
目的		水仙ロードを歩く　　県連ロングハイクで他の山の会の皆さんと触れ合う		
費用		約 10,000 円	交通機関	貸し切りバス
日程	1日目	新松戸流経大前 6:30→我孫子駅北口 7:10→鎌ヶ谷市役所 8:00→花輪ＩＣ→幕張ＳＡ(トイレ休憩)→鋸南保田ＩＣ10:00→「ばんや」(トイレ買い物) 10:20→大崩ＰＡ10:40　⇒(水仙ロード) ⇒三叉路 11:15→津森山入口 11:45⇒津森山 12:00/20⇒人骨山 13:00⇒大崩ＰＡ14:15⇒君津道の駅 15:10⇒七里川温泉 15:30　着後入浴、休憩 ＜歩行時間 3 時間 35 分　休憩含む＞17:30 オリエンテーション/夕食/交流会　（宿泊）		
	2日目	七里川温泉前出発 6:00⇒石尊山 7:00⇒麻綿原 10:50/11:30⇒分岐⇒烏帽子山 13:00/10⇒鶏毛山⇒坂本駐車場 16:00→(バス)鴨川（買い物）16:30→市原ＳＡ→鎌ヶ谷市役所→我孫子駅北口 19:40→新松戸 ＜歩行時間 10 時間　　休憩含む＞		
ﾙｰﾄ状況		・ルートは整備され問題はなかった。 ・東大演習林内は地図読みが困難な地形で森の中を彷徨する感じであり実行委員長の中原氏の存在なくしては難しいコースである。 ・石尊山から麻面原にかけて道が崩落したり、大木が倒れた個所が多くあり、倒木の下をくぐったりして予定より歩行時間が 1 時間半超過した。すべて自然のままに残されている広大な演習林の貴重さを感じた。 ・麻面原から先は岩や砂岩が多く、午前中の森の様子が異なり変化が楽しめた。最後の藪漕ぎ個所を越えて坂本バス停にたどり着き 10 時間に及ぶロングハイクを終えた。		
参加者		高橋芳（Ｌ）、外崎、矢野貞、郷田 男性１名、女性３名　計４名		

＜８８７＞

北八ヶ岳（東天狗岳）
（2640m）

石塚　あさ子

樹氷　霧氷　青空に輝く

風花の舞う東天狗岳と西天狗岳　　↑

1月28日　東天狗岳を目指す
山頂に至る大斜面　強風で体感温度は
－20～－25℃くらい

本格的な冬山は初めてです。不安と期待の入り混じった気持ちで出発しました。
スーパーあずさで茅野駅に下り立ち、ジャンボタクシーで今回の登山口になる渋温泉へ。約 1 時間の道のりで、雪のない駅前より徐々に雪道になり、周りも一面冬涸れの景色に変わりました。例年より雪が多いとの事。
準備をして、いざ出発です。渋ノ湯の前を通り小さな橋の所の木箱のポストに登山届を入れて登り始めました。アイゼンは履かないで行きましたが、サラサラの粉雪で結構足が取られます。又木々の上に積もった雪がドッと落ちてきて、雪の洗礼を受けてしまいます。約 2 時間で唐沢鉱泉分岐に着き昼食をとりました。雪上ので、立っての食事です。そんな状況でタンネ

の森の中を登り、午後２時頃黒百合ヒュッテに着きました。
とても風情のある山小屋で、内には真ん中に丸いストーブがありそれを囲んで手作りのテーブルが置いてあります。周りに皆で座り一休み、そしてカラビナ、スリング等装備の使い方、冬山での注意点等の話を聞いて４時頃よりヒュッテの前の斜面（結構急勾配）で研修です。服装もフル装備（雨具、スパッツ）で、アイゼンを付け、ピッケルを持って雪の急斜面の登り方です。横歩きで登ります。なかなか難しいです。それから、大山さんと桐生さんがザイルを持って登り上で固定して、他のメンバーは張られているザイルにスリングを巻きつけて身の安全を確保しながら登ります。等。約１時間、普段雪のない所ではとても体験出来ない研修でした。私はピッケルの使い方も知らなかったので、すべてにおいてとてもうれしい研修になりました。
雪のある所でしか出来ない研修に東北の田舎育ちの私には、何かとても懐かしく、楽しい研修になりました。
明日は、いよいよ天狗岳です。
翌朝、天気は快晴、フル装備をして７時前（前日の研修により装備の装着等の時間が短縮された）出発しました。樹林帯の木々は雪が漂着し樹氷となり、いろいろな形で迎えてくれます。登るにつれ葉のない樹木の幹に霧氷が、真っ青な青空と太陽の光にきらきらと輝きとても綺麗です。樹林帯を抜けると前日の風でトレースがなくなって、一面真っ平で凹凸がありません。道がわからなくなっています。良く知っている大山さんが先頭でラッセルして進みます。そのうち後ろから他のグループが追い着いてきました。先に行ってもらい、お蔭でトレースを付けてもらうことが出来ました。さえぎる物が何もなく風も出てきました。振り返れば、青空の向うには、北アルプスの山並、雪を頂いた槍ヶ岳や穂高の山々がクッキリと輝いて見えます。何と幸せな光景でしょう。そして下の方には、虹が出ていました。自然の織り成す不思議な光景です。いよいよ東天狗の直下の急斜面に取りつき、ザイルを使い慎重に安全に登りました。肌に刺すような、厳しい寒さです。冬山の厳しさです。そして、東天狗の頂上に立ちました。ヤッター感激です。赤岳や阿弥陀岳が目の前に現れました。360°の展望です。何という光景でしょう。言葉では言い尽くせない感動です。風も強くなりだし、寒さも厳しいので、下山することにしました。なおさら慎重に下山しました。11 時過ぎ黒百合ヒュッテに戻りました。みんなでラーメンを食べて暖まりました。
1 時頃渋御殿湯に着き、入浴しました。渋温泉は信玄公の隠し湯として有名で、とても風情のある秘湯です。冷えた身体も心も温まりました。そして、帰路に付きました。
今回の山行で沢山の事を学びました。冬山の厳しさはもちろん、雪道の歩き方、ピッケルの使い方、いろいろな状況判断等。雪国育ちの私にとって懐かしく、とても楽しく思い出深い山行になりました。
有難うございました。

朝日に輝く東天狗岳

概　　要

山名	北八ヶ岳（東天狗岳）			
月日	平成２７年１月２７日(火)～２８日(水)			
山域	八ヶ岳連峰	地形図	蓼科、松原湖 1/25,000	
形式	山小屋泊	グレード	２C・３C	
目的	①北八ヶ岳タンネの森の逍遙　②東天狗岳登頂　③雪上訓練			
費用	約２３，０００円	交通機関	ＪＲ、Ｊタクシー	
日程	1日目	我孫子駅 5:42→ 柏駅 5:46→ 日暮里駅 6:11/6:16→新宿駅6:37/7:00→Ｓあずさ１号→茅野駅9:08/9:25→Ｊタクシー→渋御殿湯 10:00/10:10⇒衣服調整10:45/10:50⇒最初の唐沢鉱泉分岐　昼食11:41/12:00⇒二番目の唐沢鉱泉分岐 12:32/12:37 ⇒ 小休止 12:59/13:03⇒黒百合Ｈ14:00 16：00/17：00雪上訓練 ＜歩行時間：３時間２０分＞		
	2日目	黒百合Ｈ6:50⇒中山峠:7:01⇒休憩8:00/8:10⇒東天狗山頂9:15/9:30⇒休憩10:20/10:35⇒黒百合Ｈ〔昼食〕11:05/12:05⇒唐沢鉱泉分岐12:27⇒唐沢鉱泉分岐12:50⇒渋御殿湯〔入浴〕　13:30/14:30→Ｊタクシー→茅野駅〔反省会〕15:15/16:20→あずさ２６号→新宿駅18:36→神田駅→上野駅→柏駅→我孫子駅２０時頃　＜歩行時間：６時間３０分＞		

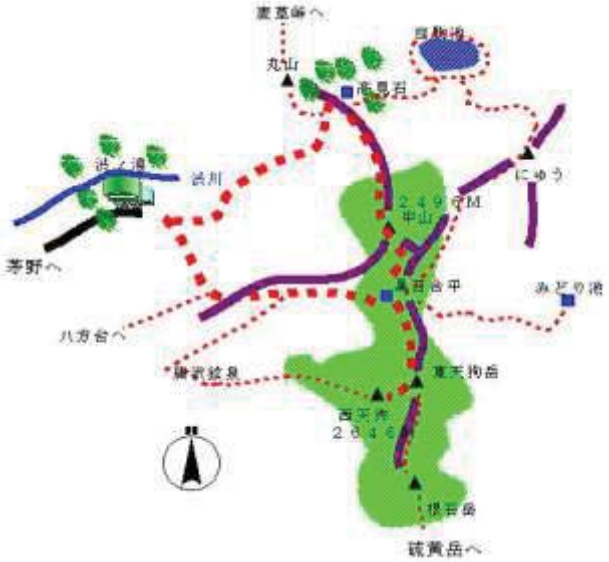
ルート状況	・登山口の渋御殿湯は４０～５０cm程の積雪で、無雪期にはかなり歩きにくい箇所もある黒百合平への道が歩きやすかった ・北八ヶ岳と云えば雪綿帽子を被ったタンネの森なのだが、登山道を歩いていると爆弾のようにその雪綿帽子が落ちてきて皆の頭は真っ白け ・７～８名の先行パーティがいて呉れたお陰でラッセルすることなく登ることが出来、感謝 ・アイゼンを着用せずに登ったので、慣れていない為に急坂になると靴がスリップ、バランスを崩すので、歩き方の練習を行い、こまめに休憩を取った ・深いモミの林なので、上空は雲が舞い、かなりの風が吹いているのが判るが登山道は殆ど無風状態で黒百合平まで登ることが出来た ・黒百合Ｈの正面の小山でラッセル、ロープ、アイゼン、ピッケルワークを行った ・翌日は素晴らしい快晴に恵まれ、アイゼンを着用、樹林帯はストック、樹林限界を超えてからはピッケルに持ち替えて天狗岳に向かった ・先行パーティがなく、１５～20cm程の新雪が積もっていて軽度のラッセルを行いながら登ったが後続のパーティに追い抜かれ、残念ながら快適に登ることが出来た ・高度を上げるに従い岳樺が目立ち始め、その霧氷が真っ白に輝き、北八ヶ岳登山の醍醐味を堪能させて呉れた ・森林限界に出ると、正面に目指す東、西天狗岳が雪煙を上げながら峙ち、遠くに槍穂高連峰の銀屏風が輝いていた ・森林限界からはピッケルに持ち替え、急斜面で足場のカッティング、山側に深く突き刺し込みホールドに利用した ・山頂に至る大斜面では強風で体感温度は－２０～－２５℃くらい、目出帽の効果を実感した ・頂上直下の岩溝に至る急傾斜の斜面では岳樺の巨木を利用してザイルを使った登り方、グリップビレーを練習しながら登り、岩溝を登り切って山頂部の岩場を捲きながら最後の緩やかな稜線を山頂を目指した ・山頂に着くと南八ヶ岳の主峰・赤岳、阿弥陀岳を前面に南アルプスの鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、中央アルプスのパノラマが拡がった ・両SLとの打合せで風速が１０ｍを超える場合は断念と決めていたのと併せて急に霧が舞い始めアッと云う間に視界が奪われる状況等を判断し下山を決意

参加者	大山(L)、高橋芳(SL)、桐生(SL)、本田、石塚、矢澤　　男性２名、女性４名　計６名

東天狗岳山頂からの赤岳、 ↑
阿弥陀岳、南アルプス

東天狗岳山頂にて

<u>概念図</u>



＜８８８＞卒業山行

高水三山
（高水山～岩茸石山～惣岳山）
（759m）　（793m）　（756m）

室﨑　宏治

蠟梅の咲く　雪　氷　岩の山

蠟梅

常福院にて全員で　↑

高水山山門から常福院　↓

岩茸石山山頂にてお汁粉実習

今日は先日来の雪も止んで、久々の登山。今回の山行は、卒業の山行である。それにふさわしき三山の頂と、雪,氷、岩山の登りと、いたれりつくせりであった。

お花は　登山口近くの畑では蝋梅、福寿草が咲いていた。高水山までは、ところどころ残雪とアイスバーン。

お寺へのう回路（車道）もあった。大きな杉2，3本あった門の前では集合写真をとった。

中でも岩茸山山頂での食事に御汁粉、また教育担当の外崎蓮さまの桜色の五目寿司、卒業を祝ってのお寿司を、嬉しくみんなでいただいた。また、中村育子さまの惣岳(ソウガク)山金柑の差し入れ、これで御汁粉の味もすっきりした。教育担当の外崎蓮さま、中村育子さま、また郷田様教育有り難うございました。

郷田さんより、「ただリーダーにつれていってもらうという気持ちではなく自分がリーダーになったつもりで、山行を行ってもらいたい。」いう言葉もあった。非常に自律するということの意味で重要なことばであるように感じた。

またここで、今回は、新人卒業山行であるので、今も一度なぜ山に登るか再考してみたい。ここで少し引用しよう。

マロリーの「何故、山に登るか。何故ならば、そこに山があるから」と言う有名な言葉には山を限定していない。マロリーは、「そこに人のまだ登っていない山があるから」などとはいっていない。そこに山さえあれば、その山は人が何遍登った山であっても初めて人の登る山であっても、そんなことはかまわんのやないかと思うのです。とにかくそこに山があるから登る。それでええのやと思いますね。だから、登山の一般からいいますと、初登の山だから登るというのは、むしろ特殊なケースに属する登山だということになります。これに対する本多勝一氏の考え方をまとめると、以下のようになります。

これが、あの「登山上の正統派なるものは、初登山を求める人たちをおいて、また他にない」と断言して颯爽と岳界をリードした３０才当時の今西氏と同一人物の発言であろうか。「正統派」がいつのまにか「特殊なケース」に変化

した理由も明らかにされていない。何よりも、マロリーが「処女峰としての世界最高峰」に関して語った《名言》が、このように「山さえあれば、人が何遍登った山であっても」の意味だとする解釈は、どういう根拠があってのことか不明だが、こういうことはありえぬだろう。これは推定だが、今西氏は自分が高齢となって激しい登山ができなくなったので、こうであってほしいと言う願望から身勝手な解釈を求めたのかも知れない。同様の誤った解釈（誤訳）は、日本百名山で有名な深田久弥氏も犯している。

本多氏は、かねてから登山（正確にはＡＡＣＫを初めとする京大学士山岳部における登山）とは、初登頂を目的とするパイオニアワークでなければ意味がないとする今西氏の考え方に共感を覚え、それを師事し続けてきたと共に、今日もその考え方に修正を加えるつもりはないとしています。

この言をどうとらえるかは各々の考えがあるであろう。

このことに対して、登山においては、私は「夢」と「現実」の「小さな窓口」でしかなかろうかと思っている。

今後、山に登るとき、フィルッドワークとしての、里山の状況（この山に関係する水、これに関係する人びと等）、山の植物、また昆虫等の生物を観察しながら登りながらいろいろ考えたい。

生涯は文字を書くこと秋の蟬　田中裕明
活断層の上かも知れず蓬摘む　赤尾恵以

興味深い鴨長明の文章で締めたい。

当時京都で暮らしていた鴨長明（１１５５～１２１６）は「山は崩れて、川を埋め」「地が動き、家が壊れる音は雷と同じだ」と方丈記で描写。方丈記では大火事や飢餓などの災厄を取り上げ、人の営みを川面の泡のようだと無常観をつづっているが、地震こそ最も恐れなければならないものだと指摘した。平家物語も「大地さけて水わき出（い）で、盤石われて谷へまろぶ」と記している。

高水山途中、凍結中

御祝の五目寿司

概念図

概　　要

山名	高水三山（ 高水山・岩茸石山・惣岳山）			
月日	平成２６年２月 11 日(水)祝日			
山域	奥多摩　秩父	地形図	1/25000	奥多摩
形式	日帰り	グレード	1A	
目的	入会１年目を終了するに当たり、自分達で山行計画を立て、山行を実施する。			
費用	約 4000,円	交通機関	JR	
日程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:51→西国分寺 6:55→立川 7:05→青梅 7:44→軍畑 7:56 着 8:15 出発⇒8:38 高水山登山口（高源寺）⇒10:14 常福院⇒10:20 高水山⇒10:57 岩茸石山（昼食・煮炊）⇒12:37 惣岳山⇒14:15 御嶽駅 15:23 御嶽駅→青梅→西国分寺 1:25→新松戸 17:30→我孫子 17:35 着			
ルート状況	・軍畑駅より舗装道路を歩き高源寺の脇を通って登山道に入る。 ・登山口より樹林の中に入るが 2～3 日前に降った雪があり慎重に登った。 ・惣岳山までのルートは、雪がある所と全然ない所といろいろで、アイゼンははかないで歩く練習を兼ねた。 ・惣岳山からの下りは凍結と泥んこに緊張した歩みになった。			
参加者	石塚(L)、宮野、大平、林、高橋富、中尾室崎、北田、教育係：郷田、外崎、中村育 男性７名　女性４名　計 11 名			

＜８８９＞

陣馬山～景信山～城山
（855m）（727m）（679m）

北川　勝久

ぽかぽか陽気　富士　丹沢一望

景信山山頂にて

7：26 高尾駅発の電車で山行参加メンバー5 名と無事合流。天気は申し分ない快晴だが結構冷え込んでいる。藤野まで向かいここからバスで 20 分程で陣馬山登山口のある和田まで。和田のバス停留所は氷でガチガチであった。登山の準備を各自行い登山開始。舗装路を少し登って行って登山道に入る。先日の雪のせいで凍っている部分も多々あり、アイゼンをつけるか迷うところではあったが、そのまま慎重に登って行く。それ程急な登りではないので快調に行くことができる。9：50 分に陣馬山に到着。天気が素晴らしく良いので富士山、丹沢山系の山々が一望できた。記念写真を撮ってから次のピークの景信山に向かう。
凍っていた路面も徐々に解け始めてぬかるんでいるところもあり滑らないように汚れないように注意しながら進んで行く。登山道は幅が広くかなり整備されており気持ちよく歩ける。10：40 分に明王峠に到着。少々休憩をしてから景信山に向かう。明王峠から景信山までは 3.8ｋｍの道標。12：00 に景信山に到着。頂上付近はぬかるみ状態。ここで昼食休憩とする。なめこ汁（250 円）と各自持参のおにぎりなどで昼食。関東平野を一望でき、かたや富士山も望める絶景ポイントである。なめこ汁には大ぶりのなめこが 2 個～3 個入っていたが、もう少し入れてほしいところではある。ぽかぽか陽気でもう少しゆっくりしたいところだが、城山に向かうことにする。12：45 出発。30 分程で小仏峠に到着。
ここでは奥多摩や、丹沢の地図が販売されていた。歩いて確かめた地図とのこと。
縮尺 16,500/1 だったか？この地域の山行に使うには詳細地図でもあり便利だと思う。
でもメンバー誰も買わなかったのである。書店でも売っています。ぬかるみのある登りをゆっくりと登って行く。小仏峠から 30 分程で城山に到着。ここでもなめこ汁が売られている。富士山も素晴らしい。少々休憩していく。ここから相模湖駅までは 5.8ｋｍ。もうひと踏ん張り。13：40 出発。変わらず整備された登山道を下って行く。千木良のバス停に 14：30 に到着することができた。バスの時間を見るとなんと 14：45 のバスがありＧｏｏｄタイミングで下山することができた。相模湖駅には 15：00 前に到着。駅近くの蕎麦屋で恒例の楽しい反省会をして、皆ほろ酔い気分で 14：48 発の東京行の電車で帰路についた。
今回の山行はほんとに天気に恵まれた良い山行であった。

大展望の陣馬山

＜８９０＞

長瀞アルプス～宝登山
（497m）

村越　百々代

概　　要

山名	陣馬山～景信山～城山		
月日	平成 27 年 2 月 14 日（土）		
山域	高尾山系（中央沿線）	地形図 1/25000	与瀬、（昭文社）高尾
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄ	１A
目的	１．近くて遠い高尾山系にて展望を楽しむ。 ２．静かな季節、自然の息吹を感じながら。		
費用	約 3，000 円	交通機関	ＪＲ、バス、
日程	我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺→高尾駅 7:22/7:26→藤野駅 7:50/8:00(バス)→和田 8:20/8:25⇒陣馬山 9:50/10:00⇒明王峠 10:40/10:50⇒景信山 12:00/12:40⇒城山 13:30/13:40⇒千木良バス停 14:30/14:45→相模湖駅 16:48→西国分寺駅→我孫子駅 19:40		
ﾙｰﾄ状況	・登山道も良く整備されて、道標もしっかり付いているので特に問題なし。 ・以前、降った雪が所々凍っていて転倒には注意が必要。		
参加者	北川(L)、村松(SL)、外崎、武内、箕輪完、石塚　男性４名　女性２名　計６名		

概念図

早春の尾根歩き　ロウバイを楽しむ

宝の山の名を持つ宝登山は早春のロウバイの名所として名高い。北テレビでも何度か紹介されていて、この日を楽しみにしていた。

秩父鉄道で行く…となるといつもは西武線を利用するが、今回は日帰り休日パスを利用して熊谷まで行き、熊谷～秩父鉄道に乗り換えるというコースだった。
こうすると乗り換えが少なく、歩く距離も短く。9 人の団体で行動するのにはとてもスムーズだった。このコースを選んだリーダーの郷田さんに、まず感謝である。

秩父鉄道　野上駅のホームでは私たちと同じような、見るからに登山を目的とした人たちが多く降りた。駅前で体操をしていよいよ出発。気温は低かったが、日差しがあり、風も少なかった。街並みを歩いて畑や草原の脇を通ると、日に当たっているところは霜が解けているが日陰の草は霜で一面真っ白になっていた。区画整理をされて広い道を少し歩き、昔からの路地を進んで歩くと板塀の立派な家の脇を通る。塀の奥の家は古く大きく趣がある。道をはさんで反対側には医院の看板。「なるほどお医者さんの家なんだなあ」と思いながら道を進んだ。道の曲がり角や信号のある交差点には宝登山へ行く道標があり、わかりやすく、迷うことなく登山口まで進むことができた。

萬福寺の手前を左に曲がり民家の前を進むとすぐに登山口に着いた。なだらかに登っていく道は、両脇を木立に囲まれてとても歩きやすい道だ。冬枯れの木立で桜の木が多かった。「春は桜がきれいだろうね」と話しながら静かな谷沿いの緩やかな上り坂を登って行き、ほどなく「長瀞アルプス」といわれる尾根道に出た。落葉樹が多いので見晴らしがよく、野上の町並みや遠くの山々までよく見える。風はなく、陽だまりに出ると日差しがとても温かく感じられた。日陰の道は霜でがちがちだが日が当たっているところは泥がぬかるんだ状態だった。少し急登なところもあったが尾根伝いに景色を見

ながら快適に歩けた。

ところどころ分岐には必ず道標があり、宝登山への道を地図で確かめながら進んだ。通り過ぎてしまった分岐では「地図でちゃんと確認してくださいよ。」と矢澤さんに指摘されることもあり、地図読みをしながら歩く。小楢の森の中を歩き、氷池分岐、野上峠、小鳥峠と、見晴らしの良い道が続く。小鳥峠を過ぎると林道：本山根線に出て、ここからはアスファルトの静かな道になった。しばらく進むと「毒キノコ注意」の看板があり、その脇を道標に従って登っていく。「200 段の階段を登る」と案内にあり 1 段 1 段数えながら登る。「何段だった？」と数を確かめあうと微妙に違っていたりする。それもまた楽しい。　さすがに石段はきつい。登っていくにつれて上から人の声も聞こえてくる。時々休みながら 200 段を数える前に頂上に着く。

頂上は、大勢の人、そして南から西側の斜面には満開のロウバイ。記念写真を撮ってからロウバイと山並みを眺めながらの昼食タイムとなる。ロウバイの香りが漂って来てとても幸せ。室崎さんのお手製の千枚漬けは、何よりのご馳走だった。ありがとう！！

休憩後、ロウバイ園では、一面のロウバイとともに、紅梅やマンサク、ミツマタ、福寿草といった早春の花々を見つけることができた。下山は宝登山神社に続く道を降りる。車が通れるほどの道で大勢の観光客、登山者とすれ違った。予定より 1 時間以上早く下山できた。満願の湯の迎えの車が来るまで時間があったので、宝登山神社でお参りをし、長瀞の石畳を散策する。お土産も買い長瀞駅に戻り、そこから満願の湯に送迎バスで向かう。帰りは皆野の駅まで送ってもらうが、混んでいて帰りの車の出発時間が 4:30 だったので 2 時間以上時間があった。のんびりとお湯につかり、反省会もゆっくりと行うことができた。

今回の宝登山、お天気に恵まれ、長瀞アルプスからの眺めもすばらしく、このコースを選んで正解だったと思う。早春の花を愛で、ゆっくりと温泉も楽しむことができてとってもラッキーな一日だった。リーダーの郷田さんをはじめ参加者の皆さん、ありがとうございました。

福寿草

概念図

概　　要

山名	長瀞アルプス～宝登山		
月日	平成 27 年 2 月 21 日(土)		
山域	秩父	地形図	1/25000　鬼石
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	蝋梅を楽しむ、早春の尾根歩き		
費用	4,200 円	交通機関	電車
日程	我孫子駅 5:31（常磐線快速）→上野 6:04/6:15（高崎線）→熊谷 07:20/07:41（秩父鉄道）→野上 08:24/08:40⇒野上峠 09:50⇒林道分岐 09:55/10:05→宝登山 10:45/11:25⇒宝登山神社 12:18/12:30→長瀞駅 12:45/13:25（送迎バス利用）→満願の湯 13:45/16:25（送迎バス）→皆野駅（秩父鉄道）16:48→熊谷（JR 高崎線）17:33→上野（JR 常磐線）→我孫子 19:30　＜歩行時間：3 時間 25 分＞		
ルート状況	・登り：野上駅～宝登山　地元山岳会整備による長瀞アルプス（約 2、5 時間）、広い登山道であり、非常に歩きやすい道。 予想に反し、積雪・凍結なし（事前に情報収集済）宝登山口から約 200 段の階段あり。 ・下り：多くの観光客が軽装でのぼる広い登山道		
参加者	郷田(L)、村越(SL)、高橋英、中村隆、矢澤、高橋富、本田、箕輪、室崎 男性 6 名　女性 3 名　計 9 名		

ロウバイ

宝登山頂上　↑

山頂より両神山　↑

満願の湯　最後はやっぱりこれ！

ィ

＜寄稿＞

大雪山・トムラウシ山花紀行

大山　冬臣

広大なお花畑　ぼう然と立ち尽くす

北海岳の道、後方は北鎮岳の白鳥の雪渓

私にとっての大雪山は「あこがれ」そのもので、同期生の矢澤さんと打ち上げの席で北海道の大雪山・トムラウシ山に行こうか？と云う話をしていたら、それが瞬く間に会員の皆さんに拡まり、その場で６名くらいの皆さんから参加の意思表示があり、一気に具体的なラフプランが出来てしまった。更に有難いことに成田空港を拠点とする LCC の Jetstar が札幌便を、JAL や ANA の１／３のキャンペーン価格で発表したタイミングとどんぴしゃりで、直ぐに予約をすることが出来た。

大雪山は無論だがトムラウシ山に登ることも皆さんの大きな目的で、予備日を含めて８日間の大旅行となった。Jetstar が有難いのは私達成田沿線の住民にとっては羽田発は始発便に間に合わない、札幌からの最終便は成田線に接続しないというジレンマがあったが Jetstar はどの便であっても成田線の始発、最終に接続しているので安心して計画を立てることが出来る。

大畠さんは、北海道山行は何度も行っており、大雪山～トムラウシ山は今回で三回目、矢澤さんは二回目、外崎さんは北海道の山は何回か登っているがトムラウシ山は初めてで念願であったと云う。私は旭岳温泉が湧駒別温泉と称していた頃に新雪を求めてロープウエイが完成したばかりの旭岳に登ったくらいなのでお二人のアドバイスは実に有難かった。

我孫子駅発の成田線始発に乗り込むと大畠さん、矢野さんが乗って来た。東我孫子駅からは矢澤さん、湖北駅からは中村育さん、瀬田さんが、新木駅からは外崎さんが、布佐駅からは田村さんが一様にニコニコしながら乗って来た。LCC は徹底的に自動化を進めコスト削減を行い、今回のようなキャンペーン価格が可能になっているので、自宅のパソコンで印刷した「紙」がそのままチケットになってしまうのにはビックリ。

１２～１４kg のザックを背負った山行や、テント泊、残雪歩行など出来る限りの自主トレを各自で確りと行い、今日を迎えたので実に晴れ晴れとしている。

定刻に新千歳空港に到着、レンタカーの手続きも順調。SL の大畠さんに今日は時間的余裕もあるので空港から近い支笏湖畔の複式火山で有名な樽前山に北海道での第一歩を残す提案をしたところ異論なく、皆さんも大盛り上がりで樽前山登山口に向かった。北海道というのにレンタカーのエアコンも殆ど効かない、猛烈な暑さだ。登山口の管理人さん曰く「今日は函館の気温が３５℃の真夏日で参っちゃうよ」であった。樽前山は八合目が登山口で駐車場があるので山頂まで１時間足らずで登ることが出来るが、眼下に北海道を代表する広大な原生林が拡がり、支笏湖も見えている。何と云っても複式火山で今でも噴煙を挙げながら火口の中央のドームが盛り上がり続けているのが凄かった。林道のように幅広い登山道にはムラサキイワブクロが雑草のように咲いている。

レンタカーはナビ任せだが、地名がピンとこないので通り過ぎてしまったり散々迷子になったり遠回りをしながら漸くこの樽前山登山口に辿り着いたが、この調子では先が思いやられる。案の定、高速道路の IC を間違えたり、通行止めの道に入ってしまったりどうにか夕刻、旭岳温泉に到着することが出来。先ずは乾杯！

二日目、目が覚めると素晴らしい快晴だ。はやる気持ちを抑えながら始発のロープウエイで山頂駅の姿見駅に向かう。逆光の旭岳が真っ黒に輝いている。姿見駅からチョット回り道になるが夫婦池経由で姿見池に向かう。どこを見てももう、高山植物の群落があちこちに見られる！この辺りは観光客の皆さんの領域でもあるが私達も観光客の皆さんとあまり変わらないので確り整備されている道は私達にもピッ

タリだ。ピンク色の可愛らしいコケモモの花、秋になれば真っ赤に紅葉し、真っ赤な身をつけるナナカマドが真っ白な花を付けて咲き誇っている。「花博士」を目指す？瀬田さんがネットの北海道の高山植物写真集をプリントアウトして来て呉れ、次々に現れる花と付け合わせて名前を教えて呉れるのは有難い。皆さんが興奮状態で声にならない声を上げているのが手に取るように判る！

イソツツジ　↑

ハクサンイチゲ　↑

チングルマ

キウツギ

旭岳稜線へもうひと息

姿見の池を越える辺りから旭岳の噴煙が凄まじく立ち上る脇を登るが火山性の山肌に変わり、あれだけ私達を歓待してくれた花花花・・・が嘘のように姿を隠してしまった。
ゆっくりと歩を刻み、確りと高度を高めて行くといつしか頂上の稜線の一角を歩くようになり、広大な大雪山系の残雪を纏ったやまなみが一気に拡がってきた。たおやかな雄大なやまなみで、大雪山のいわれが納得出来る。山頂に到着！確りと手を握り合った。もう気持ちは十二分に満足だった。旭岳の北面〔層雲峡側〕は残雪が多く、広大な雪渓にベンガラが撒かれて迷うことはないのは有難い。大雪山系２，０００m の雲上散歩を愉しみながら広大なお鉢平の縁を捲くように今日の予定の黒岳石室を目指す。

噴煙立ち上る旭岳

間宮岳を登った頃、ポツポツと雨が降り出した。北鎮岳を登る予定であったが断念し、這松の海とアップダウンの余りないお花畑の中の道を歩く頃には雨も上がり、北鎮岳の「白鳥の雪渓」がくっきりと見えてきた。自然の造形とは云え、見事な白鳥の雪渓に暫し、見とれてしまった。

お鉢平　↑

エゾノツガザクラとチングルマのお花畑

黒岳石室に着いて空身で黒岳を往復する。石室の前にドイツ人の親子が層雲峡から登って来ていて、石室の支配人の流暢な英語で周辺のお花畑の説明を聞いていた。国際的になっているんだ、と感心してしまう。

三日目、今朝も三時出発だ！曇りがちな天気だが今日はお鉢平へと下り、北海岳と北海道標高第三位の白雲岳へ登り、銀泉台に下る予定だ。お鉢平は大雪の山々の豊富な雪解け水を集め、層雲峡へと流れ落ちるのだが、その川を二本も徒渉しなくてはならない。流れはかなり速い。川の向こう側にはハッキリとした道が見えているので慎重にストックで身体を支えて徒渉した。

お鉢平赤石川渡渉

北海岳を登り、白雲岳避難小屋分岐に荷物をデポして白雲岳を登る・・・、白雲岳はガスの中の登山になって景色は見えなかったが、他では見ることの出来ない懸崖作り？のお花畑が素晴らしかった！お花畑は大雪では緩やかな傾斜地或いは平らな草原にお花畑があるのが一般的であるが白雲岳では山頂近くのロックガーデンのような巨岩の斜面にまるで懸崖作りのように花々が咲き誇っているのは感動であった。

赤岳にて昼食、タクシー会社の担当者が赤岳で場所を選べば通じるので電話を入れて欲しいと云われていたので渉外担当の大畠 SL にお願いする。交渉の仕方がとても上手い！この話し方はいただきだ！直ぐに銀泉台を目指す。途中の駒草平はその名が示すようにコマクサが群落していた。

コマクサはどうしても我々の気持ちをくすぐる独特の魅力を持っているようで、まるで始めてコマクサを見るように全員が大はしゃぎだ。駒草平で食事をしている皆さんが今日初めて逢う人だ。身なりから登山者ではなさそうで、食事も大きな弁当箱に入っているし、靴は長靴だし？？？早速大畠さんが銀泉台への道をあのにこやかな笑顔で訊いて呉れた。地元の営林署の方であった。「雪渓を何本か超えると道も確りしているので大丈夫ですよ」とのことであった。お礼を云って我々は出発。全員がこの道は始めてでチョット不安があったがいくらか気が楽になった。彼らがマジマジと我々の顔を見ていたのが気になったが先は見えて来た。直ぐに大きな急な部分的に凍った雪渓が現れた。この雪渓にはベンガラも撒かれてなく、トレースも不明確だが下に登山道が見えているのでそこを目指して降りた。樹林帯に入ると再び小さな雪渓が現れたがこれはトラバースするように雪渓が切られていたのでこの道を矢澤さんに先頭で渡るようお願いした。この雪渓で駒草平で一緒になった営林署の皆さんが我々を追い抜き、ツルハシで雪渓を更に歩きやすいように切って呉れた。彼らが軽い足取りで先に行きそうになったとき、矢澤さんが信じられないスピードで彼らのあとに付いて歩き出した。彼らも振り返り、私達がぴったりついて歩いているのを見て少しスピードを落として呉れた。なにやら仲間同士で話していたが一人を残して他の皆さんは先に降りて行った。どうやら残った方に我々を見守るように云って呉れたようだ。登山道そのものははっきりしていたが雪解け水で川のようになり良い状態とは云えない。またしても雪渓が続けて二本現れた。ツルハシで確りとトラバースの道を切って呉れて我々を誘導してくれた。振り返って「これで雪渓も終わりなので道沿いに降りれば直ぐ銀泉台ですよ」と云い残すとアッと云う間に我々の視界から消えてしまった。我々の年齢を診て不安になったようで、ガイドしてくれたようだ。それにしても全く登ってくる登山者もない・・・。ナナカマドと岳樺の素晴らしい樹林帯の中の急な道を感じとしてはかなりの距離を下った。

ヒョコッと大きな駐車場に出た。営林署の事務所があった。私達をガイド？して呉れた皆さんの顔があった。我々の顔をみて彼ら
の顔も笑顔になった。本当に心配してくれたようだ。地元の皆さんのスピードは我々の感覚とはかなり違う。

キバナシャクナゲ　↑

メアカンキンバイ　↑

コマクサ

エゾコザクラ

今日は旭岳温泉まで行き、旭岳温泉に泊めておいたレンタカーで天人峡温泉へ向かう。紅葉の頃には一般車の乗り入れが禁止され、層雲峡からシャトルバスが運行されるそうだがナナカマドを始めとした見事な紅葉が期待出来そうな樹林帯だった。層雲峡で銀河、流星の滝を見学して旭岳温泉に向かった。

旭岳温泉に着くとナンと、レンタカーのタイヤの内側に隠しておいたガスが盗まれていた！８本置いておいたうちの４本がなくなっていた。当面はナンとかやりくり出来そうだが旭川のモンベルで観光の時に購入するしかない。犯人は登山者？それにしてもこんな所で盗まれるのは残念だ。

レンタカーに乗り換え、天人峡温泉に向かった。長い一日が終わ　った。天人峡温泉は好いお湯だ。

四日目は曇りだった。皆さんの好意で天人峡温泉の宿泊は私と矢澤さんの二人部屋を用意していただいたのが失敗だった。３時起床、３時半出発予定が二人とも寝坊してしまい、SL の大畠さんからの携帯で起こされる始末で大慌てで飛び起き、ザックを担いで飛び出した。今日の予定は、化雲岳へ標高差１，３００ｍを登り、ヒサゴ沼の避難小屋に泊まる予定だ。雨の降らないことを祈った。

天人峡温泉駐車場の直ぐ上に登山口があり、登山届を記入するようになっていた。天人峡温泉から標高差３００ｍ登った滝見台は立山連峰の称名の滝に次いで日本第二位の羽衣の滝がよく見えるポイントで期待していたが、残念ながら霧が立ちこめ何も見えなかった。深い樹林帯の道をひたすら登った。樹林帯が針葉樹林帯に変わって来ると所々に湿原が現れてきた。湿原は古い木道を撤去した跡が残り、新しく敷設された木道を歩くようになる。針葉樹が疎らになり、樹林帯の背が低くなってきた頃、青空が見え始め一昨日に登った旭岳が見えてきた。

天人峡温泉からの道は標高差はあるが、滝見台までがジグザグの急坂だがあとは緩やかな登りだ。高山の象徴である這松が現れると再びガスの中を登るようになった、湿原の中を登る。コザクラソウの咲く小沼〔ポン沼〕の畔を歩くようになり、化雲岳近し。広大なお花畑が霧の中に浮かび上がってきた！化雲岳のお花畑だ。旭岳のお花畑も素晴らしかったが、スケールが違う。呆然と立ち尽くしてしまった。
このお花畑を見る為に遙々とやってきたのだ。大雪山のお花畑が年々、花が少なくなり、規模が縮小していると聴いていたがそんな話を吹き飛ばして呉れる素晴らしさであった。三回目の大畠 SL はやはり以前に来たときとは規模が違っていると小声で話してくれた。でも、私達には十分な見事さだ。残念なのは青空の下で見ることが出来なかったことだが・・・、今はこの素晴らしい化雲岳に続く湿原を覆い尽くすようなお花畑に自分たちがいることが感激だ。素晴らしかった。

岩塔が聳える化雲岳に着いた。お花畑の道をヒサゴ沼避難小屋に向かった。昭文社の 1/50,000 大雪山地図には「迷」マーク、迷いやすいと記載されているが、膨大な残雪に登山道が覆われ、その残雪にはベンガラも撒かれておらずトレースも雨によって流されてしまったのか判明せず、地図と、辛うじて一瞬見えたヒサゴ沼に向かって雪渓を慎重に降り、湖畔の遊歩道に辿り着き、ヒサゴ沼に着くことが出来た。

夜中に強い雨が屋根を叩く音が聞こえた。

五日目、今日はもうひとつの大きな目的であるトムラウシ山登頂の予定だ。ナキウサギに逢えるかな？

三時出発も身体が慣れてきて違和感を感じなくなって来てしまった。先ずは軽アイゼンを装着し、一面のガスの中を昨日下った雪渓を登る。縦走路の方角を磁石で固定し、大畠 SL が私が方位をずらしていないかチェックして呉れているのでその指示に従って雪渓を登る。

銘々に行動すると視界も悪く、厄介なことになりかねないので外崎さんに頼んで全員が一箇所に纏まって待つように依頼、縦走路を探すと緩やかな尾根上に道を発見、次いで標識を探すと直ぐに見つけることが出来、全員に合図、登って来て貰った。これで実質的な一日が始まることになる。トムラウシ山遭難事件のことが全

ヒサゴ沼湖畔の雪渓を登る

員の頭にあるので今日一日の行程は慎重になる。

登山道があって、標識があると気持ちは楽になる。登山道もなく、標識もなく地図もなく、ガイドブックもない時代に登山をしていた皆さんの苦労が一瞬ではあったが偲ばれた。

日本庭園？チョットした湿原があったがよく判らないままに通り過ぎてしまった。

遭難の現場となった天沼は雪解け水が多く流れ込み道も徒渉するような箇所があった。ロックガーデンは巨大な石積みの間を縫うように登り、急ぐと体力を消耗する。今日は決して良好な気象状況ではないが、嵐のような風速の下で全身がびしょ濡れ、そして天沼の増水で道も不明確、成す術もなく気持ちが混乱し、低体温症によって遭難された皆さんの冥福を祈った。我々に出来ることは膨大な遭難資料分析を確りと学び、同じ轍を決して踏まないことしかない。北沼の分岐を過ぎ、トムラウシ山は目前だ。ゆっくりと体力の消耗を極力避けながら一歩一歩足を確りと足を前に出した。標高差で云えば決して辛い山ではない筈なのだが苦しかった。遂に山頂に着いた。ヒサゴ沼からは我々しか登って来なかったが下山予定のトムラウシ温泉側から登って来た皆さんが数組山頂にいた。確りと一人ひとりと握手を交わした。外崎さんは涙ぐんでいた。色々な気持ちが去来し、その気持ちは充分に理解出来た。

登りも苦しかったが、下山路のトムラウシ短縮コースもなかなか難敵で、コマドリ沢の雪渓がかなり下まで伸びていて、尾根への分岐が判りずらかった。リボンを目印に尾根に取り付くのだがこの尾根の登りが長く感じ、苦しい。駐車場までの道も長く実に長く感じた。

トムラウシ山頂　　↑

前トマムを行く

長い長い一日が満足感に満たされて終わろうとしていた。一人ひとりの皆さんに心から感謝、有り難うございました。

今宵は、白金温泉の国設白金野営場のキャビン〔バンガロー〕にチェックイン。近くの憧れの白金温泉のお湯に入るのにも、夕食を摂る食堂が皆終わっていたり一日の締めくくりがチョット旨く行かなかったかな？満点星空の下に化雲岳のお花畑とトムラウシ山の夢を見ながらお休みなさい。

＜山行日＞
平成２６年７月８日〔火〕～１５日〔火〕

＜参加者＞
大畠 清江、田村 光子、外崎 蓮、矢野 貞子、中村 育子、瀬田 映子、矢澤 節雄、大山 冬臣
女性６名、男性２名　計８名

＜寄稿＞

岩木山・白神岳
（1625m）　（1232m）

高橋　芳恵

私の「お岩木山」
百名山登攀　目標 達成！

岩木山山頂

8月25日　東北新幹線新青森駅からはやぶさに乗り換え弘前駅に着いたのは10：24。弘前の街からずっと立派な岩木山が見え、ひたすら恋する「お岩木山」を目指した。岩木神社は8月23日からの大祭の終了日であり、神社はにぎわいの後の名残を残していた。明日はここから百沢コースから岩木山をめざすため、しっかりお参りした。百沢温泉の湯はかなりの高温であるが、源泉かけ流し。大した料理はないが素朴なおかみさんのもてなしがうれしかった。

岩木山神社

「目標の深田100名山達成とミチノクコザクラ」

8月26日　5：45　岩木神社からの15分程で桜林公園に出た。別荘地でもあり広い公園、キャンプ場、スキー場にもなっており、桜の名所とのこと。車ならここまで入れる。ここから山道は狭くなり、七曲をジグザグとひたすら登って行く。カラスの休み場、鼻コクリとユーモラスな標識も楽しい。1時間程でしめ縄の張られた姥石。さらに1時間で焼止りヒュッテに着く。避難小屋は修験者の山だけに清潔に保たれている。小屋からは難所でもある大沢の核心部に入り沢沿いに滑床や谷底に足を滑らせながら何度も繰り返し登って行く。三つの滝を左右に巻きながらかなり慎重に行動した。下りにこのコースを使うことは危険かと思った。谷底から次第に空が広がった所が錫杖清水であり、滔々と流れる清水は冷たくおいしかった。今までの難路の緊張をほぐすように一休みしていると近くにミチノクコザクラを見つけた。

注連縄の張られた姥石

ミチノクコザクラ

季節は7月の雪解けに咲く花と諦めていたが、この先にまとまって咲いており、うれしくて歓声を上げた。火山の山だけありゴロゴロした石に足をとられながら鋭く尖った大倉石を目標にひたすら登った。斜面が緩やかになった所に小さな池があり、地元の方がいろいろ案内してくれたが残念ながら東北言葉で半分ほどしか理解できなかった。ここからひと登りすると鳳鳴ヒュッテに出た。バスが登ってくる八合目と

合流するため突然人が多くなり、無風流にヒュッテ前にある鐘をガンガン鳴らす人がいて「やめてよ」と思った。ここからの登りがかなりきつく、ざらざらと落石の危険を感じながら道を選び、最後の登りでガラガラした岩のある山頂にたどり着いた。1600mの山とは思えないほどの登りごたえだった。この山で私の長期目標であった深田 100 名山は達成し「万歳！」をすると近くにいた登山者が拍手で祝ってくれた。帰路は八合目まで急坂を下り、八合目からは嶽温泉までの下山道をひたすら下る。ほとんどの人がバスを使うがその意味が分かった。

嶽温泉に着く 30 分ほどの間にとにかく滑りやすい粘土質の登山道にしっかりいじめられスッテン、スッテン滑りまくった。これ以後 1 か月ほど臀部に痛みが続いた。この日は嶽温泉泊まり。やはり素晴らしい温泉とおいしい「嶽きみ」というトウモロコシを何本もいただいた。本当においしい日本一のトウモロコシであり、岩木山も東北一の山だと思った。

白神岳のブナ林

「世界自然遺産　白神山地　白神岳」

8 月 27 日　嶽温泉を 3 時半に出発し、日本海に沿って白神岳登山口Ｐに 6：15 着。ここから白神岳を目指す。8 月 9 日の豪雨でこのあたりは被害があり五能線も復旧していない為か、登山者は少なく、ビジターセンターも閉じていた。おかげでトイレも使用できない。

二股コースは入山できないとのことで地元警察が大勢出て説明していたが、登山者より警察官の数の方が多い状態。おかげで世界遺産の白神岳をほぼ貸し切りで登山することになった。最初広い歩きやすい道あったが二俣分岐からロープが張ってある急坂のジグザグ道になりしばらくしてブナ林の心地よいブナの木平で休憩した。最後の水場と書かれた水場を通りマテ山分岐からはブナ林の緩やかなコースを心地よく歩いた。海を見ながら歩くことの気持ちよさにすっかり白神岳の虜になった。急坂を登り大峰分岐からは山頂の小屋が見えもうすぐだと思いながらも最後のぬかるみに足をとられなかなかたどり着かない。山頂には清潔そうな避難小屋とトイレ棟があり、ここに泊まれば十二湖へのトレールも選べる。山頂からは昨日登った岩木山がしっかり迎えてくれていた。青く光る日本海と広く樹海に覆われた世界遺産核心部の風景を見渡しながら極上の時を過ごすことができた。

白神岳山頂にて極上のひと時

下りは来た道を選び、再度白神岳の素晴らしさをかみしめるように味わった。それにしても登りごたえのある山だった。その日のアオーネの宿も貸し切りで地元のおかみさんたちの地産の手作りを味わうことができた最上の宿であり、誠に青森は素晴らしい地であった。

＜コースタイム＞

平成 26 年 8 月 25 日（月）～29 日（金）

岩木山

岩木神社 5:45→桜林公園 6:00→七曲 6:25→姥石 7:20→焼け止り避難小屋 8:20→錫杖清水 9:35→岩木山山頂 11:00→八合目 12:35→嶽温泉 15:00

行動時間 9 時間 15 分　　歩行時間　8 時間

白神岳

登山口Ｐ 6:15/35→ 二俣分岐 7:35→水場 8:15→マテ山分岐 8:55→白神岳 11:10/45→ マテ山分岐 13:35→水場 2:15→二俣分岐 15:00→登山口Ｐ 15:45

行動時間 9 時間 10 分　　歩行時間 8 時間 15 分

＜寄稿＞

槍ヶ岳・大キレット・北穂高縦走

文・写真　大山　冬臣

写真説明　大畠　清江

岩稜鋭い大キレット　いつの間にか通過

東北の大朝日岳山行で、槍ヶ岳・大キレット・北穂高山行に大畠さん、田村さんから誘われた。岳人あびこを代表するタフなお二人についてゆけるかどうかが一番の心配であったが、半世紀ぶりの懐かしいコースに誘って戴き感謝。

あずさ１号で松本駅まで行き、大糸線に乗り換え穂高駅で下車、タクシーで一気に標高１，６００ｍの中房温泉迄登る。中房温泉の周辺は既に紅葉が始まり、周囲の山々は緑と黄の素晴らしいコントラストに山肌が染まっている。これから登る合戦尾根は、ガイドブックによっては日本三急登に数えられているが剱の早月尾根、甲斐駒ヶ岳の黒戸尾根、高瀬ダム～烏帽子岳のブナ立て尾根、鹿島槍ヶ岳の冷池乗越に突き上げる赤岩尾根、谷川岳の西黒尾根も日本三急登に数えられていると云うことは、その地域、個人的思考によって使い分けられているに違いない。名誉ある？日本三急登にノミネートされているだけにキッとかなりの急坂に違いない、と気を引き締める。登山届を、温泉を愉しむ浴衣客の歩く登山口の前のポストに入れていよいよ出発。最近はどんな山に登っても悪戦苦闘で、どんな山もみんな日本三急登じゃないかと思えてしまう。

合戦尾根は北アルプスを代表する人気コースなので急登と云われる割には確りと道が手入れされていて、更に３０～４０分毎にベンチがあるのでついつい小休止を取ってしまい、日本三急登と云われる割には好いペースで登れる。樹幹越しに空を見上げても雲ばかりで、今日は雨に降られなければ大成功！と気楽な気持ちで登るが、上から降りてくる皆さんの表情は暗く、「上は如何ですか？」と訊くと首を横に振ってあまり天気が良くない、と意思表示だ。急ぐ旅？でもないので小休止の予定が段々と時間が延びても誰も何も云わず・・・・。休憩場所のベンチを四つ越してきたのでそろそろ合戦小屋も近いかな？針葉樹林に混じってナナカマドやウルシの真っ赤な紅葉が現れる。ヒョコッと合戦小屋に到着した。宿泊は出来ず、売店と食堂で、トイレ、水場もあり、夏は暴利？でも飛ぶように売れるスイカ販売で大人気の合戦小屋。旨い商売を考えたと感心してしまう。山上のオアシス！私だって夏に登ったら真っ先にあのスイカを一つと云わず二つ三つ買ってしまうに違いない。中房温泉からボッカを使わずに、荷揚げ用のリフトを設置し、あの重いスイカをスイスイと需要に応じていくらでも運び上げてしまう、これは私達も学ばなくては・・・。

合戦小屋まで登ると樹林限界も間もないようで、低木が多くなって来た。合戦小屋へ降りてくる皆さんの表情は先ほどの皆さんと違って明るく笑顔だ。思わず上を指さして「どうですか？」と訊くと、彼らはニコッと笑って「凄いですよ！最高！」の返事。合戦小屋からは見える空は真っ白けで雲以外は何も見えないが、これはもう、上空は晴れ上がり、雲海になっていると云っているに違いないと勝手に判断してしまったが、大畠さん、田村さんの顔を見ると好天を確信してＶサインを出してくれていた。やった！現金なもので急に元気になって足取りも軽く早足になってしまう。・・・これが間違いだったかな？漸く雲の上に出た！このガスの巻き方と夕陽の照り方だと、ブロッケン現象が見えるかも？大畠さんが急に右足を引きずり出して顔を歪めた。大畠さんは、足が攣る前兆が来てしまったと云っている。今までの経験で山行の初日に痛みが来ると足が攣ってしまうようだ。後から来る皆さんの邪魔にならないように道脇に避けて大畠さんに休んで貰う。それでも気丈で、足を騙し騙しゆっくりと登る。目線の高さに雲海が激しく波立つように巻き上がって凄い景色なのだがそれどころではない。少しずつゆっくりゆっくり歩いていると今日の山小屋・燕山荘が山の上に見えて来た。ホッとする。それにしても我慢強い。樹林限界を超えると燕山荘も間近に見えて来た。燕山荘前の広場に着くと正面に真っ黒なシルエットの槍ヶ岳が小槍を右肩に乗せ、急峻で長大な北鎌尾根が一気に高瀬渓谷へと落ちるように伸びていた。これこそ北アルプスを代表する景観だ！

テーブルに坐り、大畠さんに休んで戴く。「暫く休めば大丈夫ですから、受付の手続きも済ませておきますので二人で燕岳に登ってきて下さい」私が逆の立場だったらこんなに気丈でいられるだろうか？頭が下がる。花崗岩の砕けた

白い砂と岩塔の間の道を、こんなに早く歩いたことはないくらいのスピードで、燕岳の山頂を目指した。私がいくらスピードを上げても田村さんはピタッと殆ど息を乱すことなく追いて来る。もう私は心臓はバクバクで限界？だったが必死で頑張った。大畠さんには申し訳なかったが燕岳の山頂のお尻がスポッと旨い具合に入ってしまうように作られた花崗岩の椅子？に腰掛けて息を整えながら立山から後立山連峰の山々のパノラマを大急ぎで記憶の中にしまい込んだ。・・・？剱岳がよく判らなかった？そして目前の小槍をチョコッと右肩に乗せ、急峻で長大な北鎌尾根を従えた槍ヶ岳の豪快なシルエットを右手に、波立つように逆巻く激しい雲海とその雲海に浮かぶ今までに見たこともない程に鮮明なブロッケン現象を左手に眺めながら燕山荘を目指した。田村さんは雲に映るご自分の姿に嬉しそうに手を振っていた。

10/7 燕山荘前より暮れなずむ槍ヶ岳、寄りそう小槍。大山さん曰く
“これこそ北アルプスを代表する景観だ！”
明日はあのテッペンに！あぁ、遠いなあ。

燕山荘に着くと、大畠さんはもうスッカリ元気を回復して山荘の周囲を散策していた。指さす方向に雷鳥の一家がいると云うので表敬訪問をする。今年は雷鳥には縁があって多くの山々で逢うことが出来た。槍ヶ岳の方向にゆっくりと陽が沈み始めた。明日、登る予定のコースを三人で確認してルートを追う。喜作新道から東鎌尾根は終点の槍ヶ岳まで、あまりにも長く、延々と続いていた。正直な気持ちとして、このロングコースを歩ききれるか？自信がなくなってしまう。

燕山荘の部屋は大部屋でなく、六畳ではあったが、個室を用意して呉れてあった。これは渉外名人の大畠さんのお陰？私にはオフシーズンという意識は全くなかったが、山荘としてはオフシーズンの予約客に対するサービスの一環のようだ。私の小学校時代の女友達がこの燕山荘に勤めていてクラス会の席で、燕山荘をとても自慢していたことを思い出した。いわゆる山小屋とひと味違った「おもてなし」の気持ちが伝わってくる山小屋であった。

夜、あまりに十三夜が見事なので表に出て見ると、安曇野の夜景が輝いていた。霜が降りていて胴震いがするような寒さに長居も出来ず、直ぐに部屋に帰った。お休みなさい。

快晴の朝だ。大畠さんはいつもと変わらぬ好調さのようで、昨日のあの足攣りはナンだったんだ！今日の行動時間は約１０時間の予定なので薄暗いうちに出発。北海道山行の時は殆ど毎朝が３時出発だったのであまり気にならない。

陽が昇り始めると槍ヶ岳が赤く染まり始めた。安曇野の方向から陽がゆっくりと登り、北アルプスの３，０００ｍの山々を一瞬ではあるが赤く染め上げた。

今日の難関は、水俣乗越で一気に４００ｍ程下り、此処から東鎌尾根の岩稜を槍ヶ岳に登る標高差約８００ｍの登りだ。喜作新道は比較的なだらかで道幅もゆったりしているが、東鎌尾根になると左手は上高地の梓川から槍沢へと続く深い谷が、右手は紅葉のメッカ高瀬渓谷から槍ヶ岳北鎌尾根を削り取るように突き上げる天上沢によって鋭い岩稜となり、アップダウンも多い。キツい一日になりそう。女性お二人はそんなことよりもこの素晴らしい景観を楽しんでいる。右手の高瀬渓谷と左手の梓川／槍沢に展開する百万ドルの紅葉の素晴らしさは声も出ない位だ。今日はこの快晴の下、一日中この素晴らしい紅葉と槍ヶ岳と北鎌尾根のパノラマを愉しめるのだ。頑張るぞ！大天井の分

岐を過ぎて暫くで大天井ヒュッテに到着。畳を上げて干していたり、既に小屋仕舞いの準備をしている感じ。確かに今日も殆ど登山者とすれ違うこともなく、１０月中旬に北アルプスの山小屋が閉じてしまうのも納得。今日の最難関の水俣乗越の道の状況を支配人に訊くと、「山小屋の皆さんの協力で補強すべきところはすべて補強してありますので、あとは登山者の皆さん次第ですね」、仰るとおりで逆にホッとする。その通りだ。この大天井ヒュッテも燕山荘グループの一員で応対の仕方がチョット違った暖かさを感じる。水俣乗越は槍沢経由で北鎌尾根への取付最短コースとして利用され、アルピニストには良く知られているルートで表銀座コースの横尾、上高地方面へのエスケープルートとして有用だ。遠くに明日向かう予定の大キレットから北穂高の稜線も見える。山小屋の皆さんにお礼を云って出発。鎖、梯子に掴まりながら一気に高度を下げ、あれだけ苦労して抜けた樹林帯に逆戻り。私と殆ど同年配の先行のパーティの方の一人が水俣乗越で休んでいたが、調子が悪く、此処から槍沢に下ると云われて降り始めた。槍沢ロッジまで２時間から２．５時間は懸かるので降りるのも辛い選択だと思う。さあ、此処から槍ヶ岳まで岩稜帯を８００ｍの登りを頑張らなくっちゃ！大きなザックを背負った若者を抜いたり抜かれたりしながら登ることになった。若者は強い！私達も昔はキッとあのくらいの強さがあったと思う。今日は大畠さんと田村さんが絶好調、私がチョット息が上がり気味。槍ヶ岳が目前にぐんぐん高く高く聳えて来ている。嬉しい標識が現れた。リボンマークで「あと８００ｍ」、暫く歩くと「あと６００ｍ」・・・、嬉しいね！その〇〇ｍが確実に少しずつ減って来ている。どこまでが〇〇ｍなのか判らないが、キッと標識のこの優しさは同じ燕山荘グループのヒュッテ大槍かな？目安があると元気づけられてしまう。真っ赤な屋根のヒュッテ大槍に着いた。感謝！高瀬渓谷の紅葉の森の上に「影槍ヶ岳」が見事に映っていた。自然は素晴らしい！一歩、又一歩、休まずどんなに苦しくても前に足を出すしかない。苦しかったけれど今宵の宿となる槍ヶ岳山荘に着いた。受付を済ませ、荷物をテーブルの上に置いて今日の最終目標である槍ヶ岳に向かった。陽は笠ヶ岳の方向に傾いていた。

槍ヶ岳は以前は梯子、鎖に掴まりながら登った記憶があったが今日のコースは梯子も鎖も余りなく、途中から外人さんのカップル？がフル装備で下山してきた。そのカップルを追うように４～５名の本当のフル装備の皆さんが降りて来た。「北鎌から？」と訊くと頷きながら「もう、二度と登りたくないです！」と云い残して降りて行った。槍ヶ岳の山頂からは３６０度の大パノラマが展開していた。明日の予定の北穂高も滝谷の大岩壁を従えて聳えていた。

爆発して多くの方が亡くなった御嶽山が噴煙を挙げていた。三人で合掌。

10/8　どこまでも青い空、北アルプス随一の人気コース表銀座を行く。終始槍ヶ岳を眺めながら。10 月の表銀座、静かな静かな稜線漫歩。 燕山荘を出発して 10 時間、槍ヶ岳山荘にザックを下ろし早速槍のテッペンに。真っ青な空に 360 度の大パノラマ、一気に疲れも吹っ飛んだ瞬間だった。ふと見ると大山さんが手を合わせている、その先に御嶽山が‥ 3 人で合掌。

今日も快晴。大喰岳、中岳、南岳３，０００ｍの稜線を進むに従ってガスが湧いてくる。南岳に着くと完全に霧の中に入ってしまった。岐阜県側から風が吹き付けてくる。天気が西から崩れるのが良く理解出来た。風も出てきたので暫く様子を見ることにした。昨日、すれ違った外人さんカップル、北鎌尾根Ｇも南岳小屋で様子を見ていたが北鎌尾根Ｇが先ず出発、私達は南岳小屋の寒暖計で温度と体感風速をチェック、気温は思ったよりも高く十度で、体感風速は約１０ｍあるかなしなので最悪で体感温度

０度なのでＧＯ！出発体制を整えて大キレットの一歩を踏み出す。緊張。お二人は始めてのヘルメット着用山行だ。大キレットの最低鞍部へ一気に３００ｍを慎重に下降する。始めはゴロゴロしたザレ場で落石を気をつけながら降りる。難コースと云うこともあり、岩壁にはペンキで確りと矢印が描かれ、鉄梯子も鎖も頑丈で確りと取り付けられて一安心だ。濃いガスが巻き、殆ど視界は利かないがそれが良かったのかも知れない。高度感にハラハラすることもなく、素手ではかなり寒いので手袋をする。大キレットは横尾本谷左俣上部を行くので最悪は横尾谷の支沢を降りることが出来るのでエスケープルートに活用出来る。大キレットはその名の通り段々と鋭い岩稜に変わり、飛騨側からの強烈な風に体温が奪われるが此処が頑張りどころで最難関の飛騨乗越？はホールドスタンスが離れていて思いっきり手足を伸ばさなくてはならないところもあるが、新しいスタンスが壁に打ち込まれているのでこれを掴み、足を乗せてナンとかクリアーすることが出来た。這松の生えている広い、風の来ない台地状のところでエネルギーの補給とひと休み。相変わらず何も見えない。此処で外人カップルが私達を追い抜いて行った。大畠さんの「Have a Nice Day」の一言に外人さんも思わずニッコリ。最難関は突破したようで大キレットの最低鞍部の比較的緩やかな道を行くとペンキで「α沢のコル」と書かれてあった。目の前は北穂高への急峻なガレ状の登りが壁状に峙ち、外人さんカップルが取り付いているのが見えた。北穂高から私達とは逆コースで大キレットの鞍部に着いた単独の方も此処でひと休み。思わず「最難関は終わったみたいね」と云ったらその方がぼそっと「此処から上も手強いですよ」と云って呉れた。こうした油断しそうになると戒めがあるのは嬉しい。素直にその方に感謝する。実際に北穂高のこの道は、滝谷の一部と考えても好いくらいで、滝谷の一番外れと思って登ることにする。約４００ｍの北穂高への登り？ガスの切れ間に横尾左俣カールが見えた。小さな三つの池・北穂の池だ。真っ黒い鋭い岩稜が北穂高に向かって伸びているのが桐生さんが挑戦中の北穂の東稜だ。ガラガラのザレ場でどこでも登れそうで、足場が不安定なので一旦、間違えるとかなり苦労するのは間違いない。ペンキで確りと矢印が描かれ、大助かりで必死に登って行くと遙か頭上になにやら建物が現れて来た。北穂高小屋に違いない。未だ握手は早い、気を引き締め直して、一歩一歩慎重に登った。

今までが嘘のような銀座並みの人出？の北穂高小屋に着いた！確りと握手を何回も交わした。なかなか姿をみせなかった槍ヶ岳が夕刻になって漸く霧の中にその姿を現してくれた！ガスが去来する大キレットは鋭い稜線でこのルートを登って来たのが信じられないような気持ちになる。お二人にはブレーキになって迷惑をかけてしまったがフォローして下さり、感謝の気持ちで一杯、有難かった。

洩れ伝わってくる情報では、涸沢が超満員で一畳に三人、土間まで使う状況の影響で北穂高小屋も今日は満員とのこと。でも、涸沢のような混雑は此処にはなかったが三交代制の食堂はギュウギュウで一番端の大畠さんは肘が使えず苦労していた。

10/9　まさに第１歩を踏み出そうとしたときこの看板が目に飛び込んできた。

これより先の大キレットでは、重大事故が頻発しています。日本屈指のハードなルートが続きます。いま一度、天候、体調、装備などを確認の上事故のないように気を引き締めて！無事に通過されることを願います。

南岳小屋

今回の山行の大きな目的の大キレット。否応なしに身が引き締った。写真の長谷川ピーク、このルートの難所の１つ。なんどもシュミレーションして来た。が、思いがけず、いつの間にか通過、振り返って、えっ、あれがそうじゃない！3 人絶句。無事到着の北穂高小屋でお茶を何杯もお代りして祝杯を上げた。

今日も快晴のモルゲンロートの夜明けだ。北穂高南陵を涸沢に向かってゆっくりと慎重に下る。途中、長い鎖のスラブ状の岩があったが此

処も慎重に降りた。もう、何も急かされることはないのでゆっくり、ゆっくり降りて行くと、上から大声で何やら叫んでいるのに気がついた。どうもルート外を降りていた人が滑落してその助けを呼んでいるようだ。私達はどうすることも出来ないので早く小屋に降りて連絡することにする。私達が小屋に着いたときは既に無線連絡が入ったようで、救助隊の出動態勢が取られていた。

北穂高岳を後に南稜を下る。満足感をかみしめながら。心に残る思い出深い山行になった。幸せいっぱい、胸一杯に満たされていた。そんな私たちを朝日に染まる前穂高岳、奥穂高岳が見送ってくれた。良き仲間に感謝。

紅葉の涸沢の人気は凄いもので、今年は９月下旬から１０月初旬でもう、終わっていたものの予定を立てるとなかなか中止出来ずに次から次へとひっきりなしにツアー客から一般の皆さんも、もしかしたら涸沢の紅葉が少しは見れるのではないかと微かな期待を抱いて登って来ているに違いない。今日は土曜日なので、今日、明日の混雑は今年の涸沢のピークのようだ。

もの凄い数の登りの登山客を右に左に避けながら紅葉の涸沢谷を横尾から徳沢まで下り、徳沢で昼食、徳沢から上高地へはひとっ飛び。

丁度、焼岳に中村育子さんが登っている筈なので手を振ったけれど見えた？

＜コースタイム＞

１０月７日〔火〕　曇り後晴
我孫子駅 5:31→日暮里駅 6:01/6:05→新宿駅 6:26/7:00→あずさ１号→松本駅 9:43/9:56→大糸線→穂高駅 1:24/10:32→南安タクシー→中房温泉登山口〔1,600m〕11:10/11:26⇒第一ベンチ 12:02⇒第二ベンチ〔1,820m〕12:30/12:42⇒第三ベンチ 13:10/13:15⇒富士見ベンチ 13:47/14:00⇒合戦小屋 14:45/15:00⇒燕山荘 16:25/16:30⇒燕岳 2,763m16:50/16:55⇒燕山荘 17:05
１０月８日〔水〕　快晴
燕山荘 5:25⇒蛙岩 5:35⇒大下りの頭 6:12⇒休憩 6:30/6:50⇒大天井分岐 7:50⇒大天井Ｈ 8:35/8:45⇒休憩 9:40/9:45⇒西岳Ｈ 11:10/11:15⇒水俣乗越 12:15/12:35⇒休憩 13:05/13:10⇒休憩 13:40/13:45⇒Ｈ大槍 14:35/14:45⇒槍ヶ岳山荘 15:50/16:00⇒槍ヶ岳 16:25/16:35⇒槍ヶ岳山荘 16:55
１０月９日〔木〕　晴後霧、強風
槍ヶ岳山荘 6:00⇒大喰岳 6:30/6:35⇒中岳 7:05⇒休憩 7:25/7:30⇒南岳小屋 8:20/9:00⇒大切戸最低鞍部 9:40⇒ヤリ・キタホペンキ印 10:04/10:15⇒Ａ沢のコル 11:00/11:10⇒北穂高小屋 13:10
１０月１０日〔金〕　快晴
北穂高小屋 5:45⇒北穂高山頂 5:50/6:00⇒涸沢小屋 8:00/8:25⇒本谷橋 10:00/10:10⇒横尾 11:10/11:20⇒徳沢 12:10/12:50⇒上高地バスターミナル 14:10/15:15→アルピコバス→新島々駅 16:20/16:45→松本駅 17:13/18:35→あずさ３２号→新宿駅 21:06/21/11→神田駅 21:2221:26→上野駅 21:32/21:40→我孫子駅 22:13

資　料

山行一覧表（2013 年 3 月～2015 年 2 月）

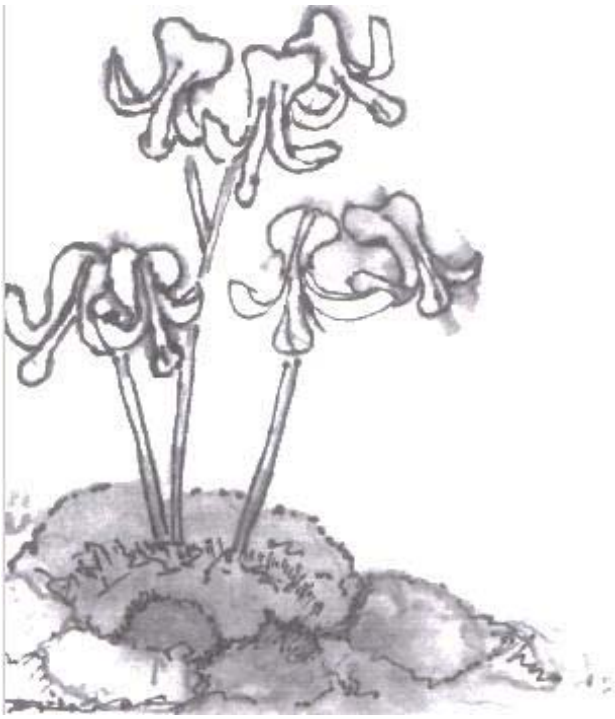
活動の記録(2009 年度～2014 年度)

山行(山名)索引（1996 年～2015 年 2 月）

平成２５年度　　（２０１３年３月～２０１４年２月）

No.	山　　名	山域	月　日	山行形式	G	リーダー	参　加　者	会員	一般
810	大小山・大坊山	足利・桐生	4/6	日帰り	1A	箕輪完二	A班　中村八(L)、原田(SL)、矢野裕、小川、桐生、箕輪完(CL)、外崎(総Ｌ) Ｂ班　品田(L)、中村隆(SL)、本田、村松、郷田、新谷、門松 Ｃ班　高橋芳(L)、清家(SL)、末永、坂巻、矢澤、村越、宮野 Ｄ班　箕輪カ(L)、高橋英(SL)、矢野貞、武内、斎田、石塚	27	
811	浅間嶺	奥多摩	4/13	日帰り	1A	齊田記代美	齊田（L）　高橋芳(SL)　原田　箕輪カ　瀬田　本田　中村育　村越　矢澤　外崎	10	
812	茅ケ岳～金ケ岳	中央線沿線	4/27	日帰り	2A	郷田進	郷田（L）、矢野貞、大畠、瀬田、大山、矢澤	6	
813	今倉山～道志二十六夜山	道志山塊	5/6	日帰り	1A	大畠清江	A班　高橋芳(L)、高橋英、箕輪カ、田村、村越、坂巻、郷田　B班　矢野貞(L)、原田、箕輪完、新谷、大山、矢澤、大畠(CL)	14	
814	弥三郎岳(羅漢寺山)	甲府北部	5/12	日帰り	2B	坂巻明	坂巻(L)　外崎(SL)　大畠　品田　村越　矢野裕　石塚　瀬田　末永　本田　宮野　矢野貞　田村	13	
815	川苔山	奥多摩	5/26	日帰り	2B	田村光子	田村(L)、大畠(SL)、矢野貞、斉田、村越、郷田　矢沢	7	
816	荒船山	西上州	6/2	日帰り	1A	村松敏彦	【Ａ班】村松(CL)、桐生(SL)、品田、原田、（一般）川端、吉田、馬越、佐藤、加藤寿、加藤富 【Ｂ班】箕輪完(L)、北川(SL)、瀬田、中村育、門松、（一般）牧野直、牧野国、古屋、増沢、高橋富、塩沢 【Ｃ班】外崎(L)、矢野貞(SL)、箕輪カ、新谷、矢澤、（一般）関根、加藤淳、石川、加藤文、湯原清、湯原八 【Ｄ班】郷田(L)、斎田(SL)、飯沼、中村隆、（一般）岡沢、綿引、大久保、桝谷、横山 【Ｅ班】武内(L)、高橋芳(SL)、本田、矢野裕、宮野、（一般）岡地、高田、林、角田、遠藤、小板橋	23	29
817	瑞牆山～金峰山	奥秩父	6/7-8	山小屋	2B・3B	高橋芳恵	高橋芳(CL)　大畠(L)　田村(L)　品田　箕輪完　矢野貞　村越　郷田　矢澤　藤倉	10	
818	甘利山～千頭星山	中央線沿線	6/16	日帰り	1A	中村育子	A班中村育(L)、大畠(SL)、本田、新谷、斎田、矢野貞、村越、大山、　B班郷田(L)、外崎(SL)、田村、矢野裕、桐生、瀬田、矢澤	15	
819	戦場ヶ原・太郎山	日光	6/22-23	テント	2B	武内勇二	武内（L），箕輪完(SL)、外崎、矢澤、村松、郷田、矢野貞、齋田、新谷	9	
820	高峰山～篭ノ登山～三方ケ峰	浅間連峰	7/7	日帰り	2B	村松敏彦	村松（L）、外崎（SL）、高橋英、武内、飯沼、箕輪カ、箕輪完、本田、矢野裕、郷田、大山、矢澤、坂巻、宮野	14	
821	猫魔ヶ岳・磐梯山	会津地方	7/20-21	テント	2B	外崎蓮	外崎（L）、村松（SL）、北川、武内、郷田、村越、矢澤、石塚、飯合	9	
822	高松岳・焼石岳	東北	7/28-30	避難小屋	3B	武内勇二	武内（L）　村松（SL）　外崎　矢野裕　齋田　本田	6	
823	月山・蔵王（熊野岳～刈田岳）	東北	7/31-8/2	山麓泊	2A	高橋芳恵	高橋芳(L)、矢野貞(SL)、品田、箕輪カ、箕輪完、瀬田、中村育、矢澤、藤倉	9	
824	加賀白山	北陸	8/7-10	テント	3B	村松敏彦	村松（L）、外崎（ＳＬ）、斎田、矢野裕、大山、矢澤	6	
825	南岳～槍ケ岳	北アルプス	8/22-25	テント	4C	武内勇二	武内（L）、坂巻、矢澤、郷田	4	
826	鳳凰三山（薬師岳～観音岳～地蔵岳）	南アルプス北部	8/30-31	山小屋・テント	3B	郷田進	郷田(L)、矢澤、武内、宮野、矢野裕、矢野貞、中村、新谷、桐生、斎田	10	
827	筑波山	筑波山塊	9/7	日帰り	1A	外崎蓮	１班：外崎(L)、宮野(SL)、石塚、中村隆、利用者：大林、徳本、成嶋、支援員：寒竹、金子、松丸、小学生：松丸 ２班：郷田(L)、中村育(SL)、瀬田、本田、原田、利用者：勝代、山本、楠家、支援員：小野、清野 ３班：斉田(L)、飯沼(SL)、清家、武内、利用者：中村、及川、支援員：田中、三嶋 ４班：桐生(L)、高橋英(SL)、品田、箕輪完、利用者：根本、加納、支援員：吉水、渡邊	17	20

828	笠ケ岳～至仏山	尾瀬	9/27-28	山小屋	3B	箕輪完二	箕輪完(L)、郷田(SL)、高橋英、本田、斎田、新谷、村越、矢澤	8	
829	甲武信ヶ岳	奥秩父	10/10-12	山小屋	2B	矢野貞子	矢野貞(L)、大畠(SL)、高橋芳、田村、中村育、村松、郷田	7	
830	燧ケ岳	尾瀬	10/12-13	山小屋	2B	外崎蓮	外崎（L）、武内（ＳＬ）、北川、品田、石塚、宮野	6	
831	倉見山	富士急沿線	11/2	日帰り	1A	桐生恭子	桐生（L）、高橋芳・大畠（SL）、箕輪完、矢澤、新谷、矢野裕、石塚	8	
832	大持山～子持山～武甲山	奥武蔵・秩父	11/9	日帰り	2B	田村光子	田村(L)、村松、高橋芳(SL)、大畠、矢野裕、郷田、矢澤、石塚	8	
833	九鬼山	富士急沿線	11/17	日帰り	1A	齊田記代美	齊田(L)　外崎(SL)　箕輪完　矢野貞　瀬田　中村育　矢澤	7	
834	鶴島御前山～高柄山	中央線沿線	11/24	日帰り	2B	大畠清江	大畠(L)　桐生(SL)　矢野貞(SL)　箕輪カ　本田　中村育　新谷　坂巻　郷田　矢澤　石塚	11	
835	伊予ケ岳	房総	12/1	日帰り	1B	矢野貞子	たぬきC；箕輪完(L)、武内、飯沼、桐生、品田、中村隆、本田、矢野貞（GM） きつねC；中村育(L)、郷田、小川、外崎、矢澤、箕輪カ、田村、矢野裕 さ　るC；坂巻(L)、村松、大畠、瀬田、高橋英、清家、末永、原田	24	
836	手賀沼一周	我孫子市・柏市	12/8	日帰り	1A	小川誠二郎	小川(L)　外崎　高橋英　清家　村松　本田　菊地　箕輪カ　箕輪完　瀬田　中村育　矢野裕　矢澤　石塚	14	
837	高川山	富士急沿線	12/15	日帰り	1A	瀬田映子	ﾅﾃﾞｼｺ班瀬田（L）･箕輪完（SL）、ｱﾂﾓﾘ班桐生（L）･坂巻（SL）、ｺﾏｸｻ班斎田（L）・　大畠（SL）、矢野裕・中村育・村越・矢沢・品田・本田・矢野貞・高橋英・外崎・原田・箕輪カ	17	
838	笠取山	奥秩父	12/21-22	テント	3C	村松敏彦	村松（L）、外崎、武内、北川、郷田	5	
839	大菩薩嶺～小金沢連峰	秩父大菩薩連嶺	1/11-12	山小屋	2B	武内勇二	武内(CL)、村松、外崎、高橋芳、矢野貞、矢野裕、北川、田村、桐生、本田、齋田、郷田、矢澤、石塚	14	
840	シダンゴ山～宮地山	丹沢	1/19	日帰り	1A	外崎蓮	外崎（L）、箕輪完（SL）、村松、北川、本田、矢野裕、矢澤、村越、大山	9	
841	嵯峨山・石尊山～烏帽子山	房総	1/25-26	山麓泊	2A	小川誠二郎	小川誠（L）、武内（SL）、高橋芳、田村	4	
合計（山行数32）								351	49



箕輪完二氏　透明水彩スケッチ「コマクサ」

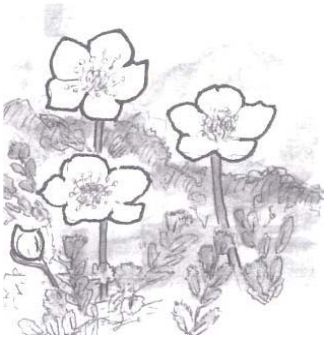
山行一覧表　その１

平成２６年度　　（２０１４年３月～２０１５年２月）

No.	山　　名	山域	月　日	山行形式	G	リーダー	参　加　者	会員	一般
842	岳ノ山～大鳥屋山	足利山塊	3/21	日帰り	1A	村松敏彦	村松(CL)、A班矢野裕(L)、外崎、箕輪カ、田村、瀬田、齊田、郷田、宮野、柴 B班本田(L)、品田、武内、箕輪完、新谷、中村育、末永、矢澤、村越、岩村	20	
843	大小山～大坊山	足利・桐生	3/29	日帰り	1A	箕輪完二	箕輪（L）、村松、箕輪カ、桐生、本田、新谷、末永、岩村	8	
844	宝篋山	茨城県南	4/6	日帰り	1A	坂巻・齊田	**たぬきチーム：**村松，箕輪完，飯沼，矢野貞，石塚，村越，田村，中尾　**きつねチーム：**高橋英，中村隆，外崎，本田，宮野，末永，小川　**さるチーム：**武内，矢沢，坂巻，瀬田，中村育，齊田，岩村	22	
845	岩殿山	中央線沿線	4/13	日帰り	1B	桐生恭子	桐生（L）、高橋芳、大畠（SL）、高橋英、齊田、箕輪カ、矢野貞、本田、村越、末永、大山、岩村	12	
846	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	4/18	日帰り	2A	郷田進	郷田(L)、村松、外崎、大畠、矢野裕、齊田、末永、村越、岩村、矢野貞、瀬田	11	
847	金時山	箱根	4/20	日帰り	1A	本田愛子	本田(L)、箕輪完(SL)、高橋英、箕輪カ、田村、末永、村越、石塚	8	
848	四阿屋山・両神山	奥秩父	5/9-10	山麓泊	3B	矢野貞子	矢野(L)、箕輪(SL)、高橋芳、矢澤、石塚、村越、郷田	7	
849	本社ヶ丸～鶴ヵ鳥屋山	中央線沿線	5/11	日帰り	2B	田村光子	田村(L)、外崎、大畠、品田、矢野裕、中村、大山	7	
850	乾徳山	奥秩父前衛	5/24	日帰り	2B	郷田進	郷田（L）、武内、中村育、北川	4	
851	半月山	奥日光	5/24	日帰り	2A	瀬田映子	**A班：**瀬田(L)、矢野貞(SL)、本田、末永、箕輪カ、内田 **B班：**箕輪完(L)、桐生(SL)、矢野裕、齊田、石塚、中尾	12	
852	浅間山（前掛山）	浅間連峰	6/8	日帰り	2B	村松敏彦	**【A班】**村松（CL）、高橋芳（SL）、箕輪カ、矢野裕、宮野　（一般）北田、室崎宏、室崎育、桝谷、大平**【B班】**箕輪完（L）、外崎（SL）、中村育、大山、岩村（一般）早川、数江、秋山、栗城静、栗城玲、末光**【C班】**高橋英（L）、矢野貞（SL）、末永、新谷、中尾　（一般）小板橋、平井幸、平井和、吉田、小比類巻、**【D班】**郷田(L),田村(SL)、齊田、村越、矢澤　（一般）高橋冨、平柳勉、平柳美、大井、篠原直、牧野真、**【E班】**武内(L)、桐生(SL)、本田、北川、内田　（一般）、藪中、向治、向智、林、小野、岡	25	28
853	雲取山～和名倉山～笠取山～雁坂峠	奥秩父	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	矢野（L）大畠（ＳＬ）高橋芳、田村、中村育、瀬田	6	
854	安達太良山	安達太良	6/15	日帰り	2A	齊田記代美	齊田(L)、外崎(SL)、武内、箕輪カ、箕輪完、本田、矢野裕、矢澤、宮野、末永、石塚、室崎	12	
855	長七郎山	赤城・榛名	6/19	日帰り	1B	坂巻明	坂巻(L)、本田、外崎、齊田、石塚、新谷、郷田	7	
856	乙女高原～小檜山	中央線沿線	6/21	日帰り	2A	中村育子	中村育(L) 大畠(SL) 品田 桐生 齊田 村越 大山 石塚	8	
857	小野岳・二岐山	阿武隈山地	6/29-30	山麓泊	2B	村松敏彦	村松(L)、品田(SL)、大畠、箕輪カ、田村、箕輪完、本田、斎田(SL)、石塚、	9	
858	子持山・小野子山	上州	7/12-13	テント	1B	武内勇二	武内（L）、村松、箕輪完 、大平、室崎、箕輪カ、桐生、齊田、本田、矢野裕、村越、石塚	12	
859	西吾妻山～東大嶺	吾妻連峰	7/20-21	避難小屋	1B	外崎蓮	外崎（L）、箕輪完（SL）、北川、内田、本田、村越、石塚	7	
860	甲斐駒ケ岳～仙丈ケ岳	南アルプス	7/21-24	山小屋	3C	大山冬臣	大山(L)、大畠(SL)、田村、岩村、矢澤	5	
861	霞沢岳～徳本峠～島々宿	北アルプス	7/30-8/2	山小屋	3C	高橋芳恵	高橋芳(L)、大山(SL)、田村、大畠、矢野貞、桐生、中村育	7	
862	荒川三山～赤石岳	南アルプス	8/1-5	山小屋	3C	武内勇二	武内(L)、村松、郷田、外崎、矢野裕	5	
863	鳥海山	出羽	8/7-9	山小屋	3B	箕輪完二	箕輪完(L)、齊田(SL)、箕輪カ、桐生、本田、石塚、藤倉、矢澤	8	
864	北穂高岳・奥穂高岳	北アルプス南部	8/21-24	テント	3C	村松敏彦	村松(L)、武内(SL)、本田、郷田、石塚、大平	6	
865	南山展望台～愛宕山	筑波山塊	9/6	日帰り	1A	齊田・外崎	**1班：**外崎(L)、清家(SL)、品田、高橋英、中村隆、（利用者）大林、徳本、成嶋、山本、　（支援員）寒竹　**2班：**武内(L)、瀬田、郷田、飯沼、石塚（利用者）根本、山田、牛尾、石毛、阿部、（支援員）井上、岡野　**3班：**斉田(L)、村松(SL)、高橋富、室崎　（利用者）及川、加納、楠家　（支援員）谷	14	16
866	小金沢山	大菩薩嶺	9/13	日帰り	2A	桐生・齊田	桐生(L)、斉田(L)、村松、高橋芳、箕輪完、箕輪カ、本田、中村育、村越、石塚、中尾、高橋富、室崎	13	

山行一覧表　その2

867	雨飾山	頸城山塊の西端	9/20-21	山小屋	2B	外崎蓮	外崎(L)、武内(SL)、高橋英、北川、村越、本田、内田、室崎	8	
868	火打山～妙高山	頸城山塊	9/26-27	山小屋	3B	箕輪完二	箕輪完(L)、矢野貞SL)、箕輪カ、瀬田、村越、中尾、矢野裕	7	
869	鬼怒沼湿原	奥日光	10/7-８	山小屋	2B	武内勇二	武内(L)、桐生、瀬田、新谷、末永、高橋富	6	
870	威守松山・巻機山	南魚沼	10/11-12	山麓泊	1A･2B	外崎蓮	外崎（L）、村松（SL）、矢野貞、齊田、室崎、内田	6	
871	七ヶ岳・荒海山	南会津	10/24-25	テント	2B	村松敏彦	村松（L）、箕輪完、桐生、本田、郷田	5	
872	半月山	奥日光	10/29	日帰り	2A	瀬田映子	瀬田(L)、外崎、箕輪カ、中村育、大平	5	
873	黒檜山	上州	10/30	日帰り	1A	坂巻明	坂巻(L)、本田(SL)、渡辺、齊田、高橋芳、石塚、品田、矢野貞、末永、菊地	10	
874	黒岳～雁ヶ腹摺山	中央線沿線	11/3	日帰り	2B	高橋芳恵	高橋芳(L)、大畠(SL)、田村、矢野貞、武内、郷田、大山林、大平	9	
875	権現山	中央線沿線	11/8	日帰り	2A	中村育子	中村育(L)、田村(SL)、村松、大畠、箕輪完、桐生、本田、矢野貞、石塚、室崎、室崎育(ゲスト)	10	1
876	三頭山	奥多摩	11/11	日帰り	1A	中村育子	**A班**:中村育(L)、渡辺、林、大平、齊田、新谷、大山、高橋英、室崎、**B班**:外崎(L)、内田、高橋富、須田、瀬田、郷田, 石塚、中尾	17	
877	岩山	前日光	11/15	日帰り	1B	桐生恭子	桐生（L）、村松、高橋英、矢野貞、瀬田、坂巻、郷田、高橋富	8	
878	御正体山	道志山塊	11/16	日帰り	2A	大畠清江	大畠(L)、田村、瀬田、末永、大山、矢澤、石塚、大平	8	
879	矢倉岳～金時山	小田急沿線	11/24	日帰り	2A	田村光子	田村(L)、高橋芳(SL)、箕輪カ、箕輪完、本田、中村育、齊田、村越、大山、矢澤、石塚、室崎宏、室崎育（ゲスト）	12	1
880	手賀沼一周	我孫子市・柏市	11/30	日帰り	2A	本田愛子	本田(L)、外崎(SL)、高橋英、中村隆、中村八、箕輪完、箕輪カ,矢澤、石塚、林、室崎、内田	13	
881	御殿山・愛宕山	房総	12/7	日帰り	1A	瀬田・中村育	**菜の花C**：郷田(L)、武内(SL)、外崎、矢澤、桐生、須田、中村(CL)、**水仙C**：本田(L)、村松(SL)、中村隆、石塚、室崎、瀬田(CL)、**きんせんかC**：齊田(L)、高橋英(SL)、矢野貞、箕輪完、末永、林、北田	20	
882	倉岳山	中央線沿線	12/13	日帰り	1A	村松敏彦	村松(L)、外崎、高橋英、箕輪完、本田、箕輪カ、矢野貞、石塚、室崎、高橋富、山中(ゲスト)	10	1
883	（秋山）二十六夜山～赤鞍ヶ岳・今倉山～（道志）二十六夜山	道志山塊	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	村松(L)、高橋芳、武内、大平、室崎、北田	6	
884	高川山	中央線沿線	1/12	日帰り	1A	武内勇二	武内(L)、外崎、高橋芳、箕輪完、矢野貞、本田、石塚、村越、郷田、中尾、室崎、高橋富	12	
885	大霧山	奥武蔵	1/17	日帰り	1A	矢野裕子	矢野裕（Ｌ）、中村隆、高橋英、　田村、瀬田、箕輪完、本田（ＳＬ）、郷田、矢澤、石塚、室崎、林、藪中（ゲスト）	12	1
886	大崩（津森山～人骨山）・東大演習林	房総	1/24-25	山麓泊	2A	高橋芳恵	高橋芳(L)、外崎、矢野貞、郷田	4	
887	北八ヶ岳（東天狗岳）	八ヶ岳連峰	1/27-28	山小屋	2C/3C	大山冬臣	大山(L)、高橋芳(SL)、桐生(SL)、本田、石塚、矢澤	6	
888	高水三山（高水山～岩茸石山～惣岳山）	奥多摩・秩父	2/11	日帰り	1A	石塚あさ子	石塚(L)、宮野、大平、林、高橋富、中尾、室崎、北田、教育係：郷田、外崎、中村育	11	
889	陣馬山～景信山～城山	高尾山系	2/14	日帰り	1A	北川勝久	北川(L)、村松(SL)、外崎、武内、箕輪完、石塚	6	
890	長瀞アルプス～宝登山	秩父	2/21	日帰り	1A	郷田進	郷田(L)、村越(SL)、高橋英、中村隆、矢澤、高橋富、本田、箕輪、室崎	9	
合計（山行数49）								475	48



箕輪完二氏　透明水彩

活動の記録

年	月	日	行　　事	場　所	備　　考
１９９６年	10	12－13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
平成８年	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

会の創立から平成21年（2009）2月までの活動の記録はやまなみ第１０号に記載

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

年	月	定例集会		運営委員会・山行部会議		備　　考
第１４期	3	8	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	10	市民プラザ	
２００９年	4	8	アビスタ	14	市民プラザ	
平成２１年	5	13	アビスタ	19	市民プラザ	
	6	4	湖北近隣センター	16	市民プラザ	
	7	8	アビスタ	14	市民プラザ	
	8	5	アビスタ	18	市民プラザ	
	9	9	湖北近隣センター	15	市民プラザ	
	10	4	アビスタ	13	市民プラザ	
	11	4	アビスタ	10	市民プラザ	
	12	6	湖北近隣センター	15	アビスタ	
２０１０年	1	6	アビスタ	12	アビスタ	
平成２２年	2	3	アビスタ	9	市民プラザ	
	2			14	久寺家会館	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　所	内　　容
２００９年	3	8	第14回総会	湖北台近隣センター	
平成２１年	3	29	新人歓迎山行	元清澄山	
	5	23	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	6－7	市民登山	湯の丸山・四阿山	一般7名、会員30名、計37名
	7	8	山行文集「やまなみ」第10号発行		平成20年3月～平成21年2月
	8	1	「やまたん坂口よし江さん追悼号」発行		
	9	5	ウィズハイク	雨引山	一般19名、会員26名、計45名
	10	4	岳人祭	五本松公園	
	12	6	忘年山行	雪入山	
２０１０年	2	14	入会説明会	市民プラザ	

教育研修	月	机上研修	実技研修	
２００９年	3	オリエンテーション	新人歓迎山行	山のマナー、山の歩き方など
平成２１年	4	山歩きの装備と衣服	天狗岳（北八ヶ岳）	春山のステップアップ（残雪の山）
	5	地形図の読み方（磁北線の引き方）	石割山	地形図を見ながら歩く
	6		流石山～大倉山	地形図を見ながら歩く
	7		水根沢谷	沢の基礎
	7	夏山に向けての注意事項	木曽駒～三の沢岳	高所登山での体調管理と注意点
	8	生き生きシニアの栄養	越後駒ヶ岳	豪雪地の山の花と写真を撮ろう
	9		岩山（鹿沼）	岩場の3点確保の訓練（初級）
	10	ザイルを使って斜面の登下降の練習	大菩薩嶺	個人装備と山小屋の生活
	11	山行計画の立て方		
	12	山の気象（気象遭難を起こさないために）	忘年山行	行事山行時の食事の作り方
２０１０年	1	地形図の読み方（記号、等高線など）	吾妻耶山・今倉山	冬山の基礎とテント生活
平成２２年	2	坂口さんの遭難時の気象について	鍋割山～丹沢山	冬山の初級
	2		伊豆ヶ岳	新人による山行計画の作成と実行

年	月	定例集会		運営委員会・山行部会議		備　　考
第１５期	3	14	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	16	市民プラザ	
２０１０年	4	7	アビスタ	13	市民プラザ	
平成２２年	5	12	アビスタ	21	市民プラザ	
	6	10	湖北近隣センター	15	市民プラザ	
	7	7	アビスタ	13	市民プラザ	
	8	4	アビスタ	17	市民プラザ	
	9	9	湖北近隣センター	14	市民プラザ	
	10	3	五本松公園	14	市民プラザ	
	11	10	アビスタ	19	市民プラザ	

活動の記録

	12	2	湖北近隣センター	14	市民プラザ	
２０１１年	1	12	アビスタ	18	市民プラザ	
平成２３年	2	2	アビスタ	8	市民プラザ	
	2			13	市民プラザ	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１０年	3	６～７	市民活動フェアーin我孫子	アビスタ	当会活動の紹介（写真展示他）
平成２２年	3	14	第15回総会	湖北台近隣センター	
	4	4	新人歓迎山行	高鈴山	
	5	23	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	5-6	市民登山	茶臼山～三本槍岳～朝日岳	一般１３名、会員２４名、計３７名
	7	7	山行文集「やまなみ」第１１号発行		平成21年3月～平成22年2月
	9	4	ウィズハイク	雨引山	一般19名、会員26名、計45名
	10	3	岳人祭	五本松公園	
	12	5	忘年山行	御前山	
２０１１年	2	13	入会説明会	市民プラザ	

教育研修	月	机上研修	実技研修	
２０１０年	4	新人のオリエンテーション	新人歓迎山行	山のマナー、三点確保の練習
平成２２年	4	山歩きの衣服	アモウ沢・滝子	山菜と調理とキャンプ体験
	5	地図の読み方・コンパスの使い方	唐松岳	春山のテント生活と雪上歩行
	6	山の歩き方とストックの使い方	鶏頂山	地形図を見ながら歩いてみる
	7	山で事故にあった時の対処法	御岳山～日の出	夏場の低山歩き
	7		白砂山・八間山	ブナの持つ働きを知ろう
	7		八ヶ岳	八ヶ岳の魅力を味わう
	8	山行中の食事摂取と水分補給	常念岳～槍ヶ岳	山行中の食事と水分補給の実践
	9	山歩きの体力とトレーニング		
	10	ザイルを使って斜面の登下降の練習と担架の	天狗角力取山	避難小屋に泊ってみよう
	11	天気図の基礎と天気予報の見方	手賀沼一周	手賀沼のゴミを拾い、景観を大事にしよう
	12	雪山の装備と歩き方	忘年山行	行事山行時の食事の作り方
２０１１年	1	ストレッチングで体を柔らかく		
平成２３年	2	三角点について知ろう		
	3		新人卒業山行	15期生による山行計画の企画と山行

年	月	定例集会		運営委員会・山行部会議		備　　考
第１６期	3	13	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	15	市民プラザ	
２０１１年	4	3	市民プラザ	12	市民プラザ	
平成２３年	5	11	アビスタ	17	市民プラザ	
	6	9	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	14	市民プラザ	
	7	6	アビスタ	12	市民プラザ	
	8	3	アビスタ	9	市民プラザ	
	9	8	湖北近隣センター	13	市民プラザ	15周年記念山行の延期決定
	10	5	アビスタ	11	市民プラザ	
	11	9	アビスタ	15	市民プラザ	
	12	8	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	13	市民プラザ	
２０１２年	1	11	アビスタ	17	市民プラザ	
平成２４年	2	1	アビスタ	12	市民プラザ	
	2			13	久寺家通り会館	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１１年	3	13	第16回総会	湖北台近隣センター	
平成２３年	4	3	東日本大震災義捐金		5月に30,000円を労山に送金
	4	10	新人歓迎山行	赤雪山	
	5	11	山行文集「やまなみ」第１２号発行		平成22年3月～平成23年2月

活動の記録

	5	22	市民登山説明会	アビスタ	
	6	5	市民登山	榛名山	一般29名、会員25名、計54名
	6	19－20	我孫子市民フェアーに参加	アビスタ	山の写真展示
	6	19－20	我孫子市民フェアーに参加	アビスタ	山の写真展示
	6	17－19	県連の東日本大震災石巻支援に参加		会員２＋家族１
	7	15－18	県連の東日本大震災石巻支援に参加		会員２
	10	5	15周年記念T-シャーッ配布		
	10	5	やまたん　青山寿子さん追悼号発行		
	12	5	忘年山行	達澤山	
２０１２年	2	13	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月	机上研修		実技研修	
２０１１年	3	新人のオリエンテーション			
平成２３年	4	BOM研修　登山計画書作成		BOM　滝子山南稜	行動中の注意、山での歩き方
	5	BOM　地図の読み方・テント泊装備			
	5	地図の読み方		黒金山	地図を見ながら歩く
	6			BOM　瑞牆山	地図読み山行、テント泊
	7	BOM　装備と服装			
	7			岩木山・白神山	無雪期の危険
	7			岩手山・八幡平	避難小屋に泊る
	7			甲斐駒ヶ岳	地図を見ながら歩く
	8	装備・ﾛｰﾌﾟ ワーク		常念岳～蝶ヶ岳	無雪期の危険
	8			雲の平～高天原	北アルプスに遊ぶ（黒部源流と花）
	8			BOM　葛葉川本谷	沢登りを楽しむ
	10	ホームページ・やまたんなどのメディア			
	10			BOM　岩山	岩登り体験
	10			横隈山	リーダーの役割・取るべき行動
	10			羽黒山	観天望気
	11	山行グレード判定基準			
	11	BOM　山行中のアクシデント対応			
	12	BOM　雪山の技術			
	12	山行中のアクシデント、応急手当			
	1			BOM　高山	雪山の体験
	1	雪中の技術		大蔵高山	
	2	山のアンダーウエア			積雪期の危険
	2				卒業検定（山行計画と実行）

年	月		定例集会		運営委員会・山行部会議	備　　考
第１７期	3	11	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	13	市民プラザ	
２０１２年	4	4	アビスタ	10	市民プラザ	
平成２４年	5	9	アビスタ	15	市民プラザ	
	6	7	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	12	市民プラザ	
	7	4	アビスタ	10	市民プラザ	
	8	1	アビスタ	7	市民プラザ	
	9	6	湖北近隣センター	11	市民プラザ	
	10	3	アビスタ	9	市民プラザ	
	11	7	アビスタ	13	市民プラザ	
	12	6	アビスタ	11	市民プラザ	
２０１３年	1	9	アビスタ	15	市民プラザ	
平成２５年	2	6	アビスタ	12	市民プラザ	
	2			17	市民プラザ	（拡大委員会）
年	月	日	行　　事		場　所	内　　容
２０１２年	3	13	第17回総会		湖北台近隣センター	
平成２４年	4	8	新人歓迎山行		物語山	
	5	27	市民登山説明会		アビスタ	
	6		PDF配信開始			

活動の記録

	6	10	市民登山	浅間隠山	一般19名、会員19名、計38名
	7		山行文集「やまなみ」第１3号発行		平成23年3月～平成24年2月
	8	19	青山さん追悼山行	三ノ木戸山	
	9	1	ウイズハイク	御前山	一般20名　会員19名　計39名
	10	5	15周年記念山行	**谷川岳**	
	10	11	15周年記念行事	清澄山（東大演習林）	
	12	2	忘年山行	八溝山	
２０１３年	2	17	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月	机上研修		実技研修	
２０１２年	3	新人会員のオリエンテーション			
平成２４年	4	疲れない歩き方・休憩のとり方		仏果山～経ケ岳	疲れない歩き方・休憩のとり方の実践
	5	山での食事（日帰りとテント泊）			
	5			守門岳･浅草岳⇒鋸岳	山での食事作り（テント泊の場合）
	6	地図の読み方・コンパスの使い方			
	7	雷から身を守るには？			
	8	低体温症について			
	8			立山～奥大日岳	高山植物を楽しむ。種類と特徴
	8			仙丈ケ岳	地図の読み方
	9	山の成り立ち（地震と火山にも関連して）			
	9	ウイズハイク		御前山	施設通所者と一日を過ごそう
	9	谷川岳集中登山		谷川岳	15周年記念登山を成功させよう
	10	山の成り立ち（地震と火山にも関連して）			
	10			鼻曲山	山名の由来
	11	①山の成り立ち　②鼻曲山の山の由来			
	11			手賀沼一周	ゴミを拾って美しい故郷をいつまでも
	12	人が転落した！まず何をすべきか			
	12			甲武信ヶ岳	冬山のテントでクリスマスを祝う
２０１３年	1	雪山登山の危険　大蔵高丸山行を振り返って			
平成２５年	1			三ツ峠山	風景写真を写そう（富士山）
	2	日本百名山のよもやま話			
	2			宝篋山	新人による山行計画の作成と山行
	2			甲東三山	地図で進行方向を確認しながら歩こう

年	月	日	定例集会		場　所	内　容
第１８期	3	3	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	12	市民プラザ	
２０１３年	4	3	アビスタ	9	市民プラザ	
平成２５年	5	8	アビスタ	14	市民プラザ	
	6	6	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	11	市民プラザ	
	7	3	アビスタ	9	市民プラザ	
	8	7	アビスタ	20	市民プラザ	
	9	5	湖北近隣センター	10	市民プラザ	
	10	5	湖北近隣センター	8	市民プラザ	
	11	6	アビスタ	12	市民プラザ	
	12	5	湖北近隣センター	10	市民プラザ	
２０１４年	1	8	アビスタ	14	市民プラザ	
平成２６年	2	5	アビスタ	11	市民プラザ	
	2			15	市民プラザ	（拡大委員会）

活動の記録

年	月	日	行　　事	場　所	内　　容
２０１３年	3	3	第18回総会	湖北台近隣センター	
平成２５年	4	7	新人歓迎山行	大小山･大坊山	
	5	19	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	2	市民登山	荒船山	一般29名　会員23名　計52名
	6	6	山行文集「やまなみ」第１４号発行		
	9	7	ウイズハイク	筑波山	一般20名　会員17名　計37名
	10	5	岳人祭	湖北台近隣センター	
	12	1	忘年山行	伊予ケ岳	
	12	5	臨時総会	**湖北台近隣センター**	年会費･入会金の削減について
２０14年	2	15	入会説明会	市民プラザ	

教育研修	月	机上研修	実技研修	
２０１３年	3	新人会員のオリエンテーション		新人の自己紹介・オリエンテーシ
平成２５年	4	登山の計画と計画書の作成		
	4		大小山･大坊山	新人を仲間に迎え、皆で歓迎しよう
	5	富士山と日本の火山		
	5		今倉山・二十六夜	疲れない歩き方・休憩の取り方
	6	地図の読み方・コンパスの使い方		
	6		瑞牆山	瑞牆山の成り立ちと中央構造線
	7	「岳人あびこ」創立時の労山加盟の経過		
	7		月山・蔵王	花の宝庫の山で美しい写真を撮ろう
	8	山行中の怪我と病気の応急手当		
	8		南岳～槍ヶ岳	夏山の危険
	9	瑞牆山の成り立ち、北岳と中央構造線		
	9		至仏山	地図読み
	10	スクワット（岳人祭）		
	10		岳人祭	スクワット（岳人祭実行委員）
	11	会費問題でのアンケート調査		
	12	山でのヒヤリ・ナット		
	12		笠取山	冬山のテントの中でクリスマスを祝う
２０１４年	1	世界の山々とプレート造山運動		
平成２６年	1		大菩薩	冬山の歩き方
	2	行事、山行、その他１年間を振り返って		
	2		臨時研修	ロープワーク

年	月	定例集会		運営委員会・山行部会議		備　　考
第１９期	3	9	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	11	市民プラザ	
２０１４年	4	2	アビスタ	8	市民プラザ	
平成２６年	5	7	アビスタ	13	市民プラザ	
	6	5	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	10	市民プラザ	
	7	2	アビスタ	8	市民プラザ	
	8	6	アビスタ	19	市民プラザ	
	9	4	湖北近隣センター	9	市民プラザ	
	10	4	五本松公園	14	市民プラザ	
	11	5	アビスタ	11	市民プラザ	
	12	4	湖北近隣センター	9	市民プラザ	
２０１５年	1	7	アビスタ	13	市民プラザ	
平成２７年	2	4	アビスタ	10	市民プラザ	
	2			15	市民プラザ	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　所	内　　容
２０１４年	3	9	第19回総会	湖北台近隣センター	
平成２６年	4	6	新人歓迎山行	宝篋山	
	5	25	市民登山説明会	市民プラザ・柏中央公民館	
	6	5	市民登山	浅間山	一般28名　会員25名　計53名

活動の記録

	9	6	ウイズハイク	南山展望台～愛宕山	一般16名　会員14名　計30名
	10	4	岳人祭	五本松公園	
	12	7	忘年山行	御殿山・愛宕山	
２０１５年	2	15	入会説明会	市民プラザ・柏中央公民館	
教育研修	月	机上研修		実技研修	
２０１４年	3	新人会員のオリエンテーション			新人の自己紹介・オリエンテーション
平成２６年	4	高山植物の紹介			
	4			宝篋山	新人を仲間に迎え、皆で歓迎しよう
	5	地図読み			
	5			両神山	山座同定
	6	金時山と箱根火山			
	6			半月山	ヤシオツツジを楽しむ
	7	ヒヤリハット（道迷い）			
	7			西吾妻山	食事と水分補給
	8	事故対応、応急手当（三角巾の使い方）			
	8			北穂高岳～奥穂	夏山の危険
	9	山の気象と観展望			
	9			妙高山	山の成り立ち
	10	ロープワーク（岳人祭）		岳人祭	キャンプファイアのたき方
	11	計画書の作り方			
	11			三頭山	現地での地図読み・歩き方・服装
	11			手賀沼一周	クリーン作戦・地図読み
	12	最近の地震について（山の成り立ち）			
	12			倉岳山	現地での地図読み
２０１５年	1	H２７年度の当会の役割を決める			
平成２７年	1			高川山	アイゼンの装着
	2	会運営その他１年を振り返って			
	2			高水三山	新人による山行計画の作成と山行

室崎宏治氏　透明水彩スケッチ

「山行の帰り道、里の子供がくれた百合の種」

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	リーダー	号	ページ
1	ｱ	**会津朝日岳**　(創立山行)	会津	1996	10/12-13	テント	B	細野省二	1	4
298		**会津朝日岳**	会津	2002	12/21-23	テント	C	川下敬史	4	253
492		**会津朝日岳**	会津	2006	7/1-2	避難小屋	3C	外崎　蓮	8	46
110		**会津駒ヶ岳**	会津	1999	6/26-27	民宿泊り	B	大串秀雄	2	60
269		**会津駒ヶ岳**・平ヶ岳	会津	2002	6/21夜-24	テント	B+	武内勇二	4	161
781		**会津駒ヶ岳**～中門岳	南会津	2012	6/30 - 7/1	山小屋	2B	村松敏彦	14	46
121		荒川三山・**赤石岳**	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
225		**赤石岳**～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
497		荒川三山～**赤石岳**	南ア	2007	8/4-7	山小屋	3C	外崎　蓮	8	61
862		荒川三山～**赤石岳**	南アルプス	2014	8/1-5	山小屋	3C	武内勇二	15	120
258		**赤岩尾根**	西上州	2002	4/20-21	テント	D	柴　勇	4	133
316		**赤岩山**～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴　勇	5	26
445		岩菅山～**赤岩山**	上信	2006	6/25-27	避難小屋	4B	外崎　蓮	7	47
582		**赤岩尾根**・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
789		**赤岩滝**	前日光	2012	8/26	日帰り	1A	原田和昭	14	69
284		烏帽子岳～水晶岳～**赤牛岳**	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
56		**赤城山（黒桧山）**	上州	1998	6/21	日帰り	A	外崎　蓮	1	98
323		**赤城山（黒檜山）**	上州	2003	6/1	日帰り	A	柴　勇	5	42
571		**赤城山（黒檜山）**	上州	2008	1/19-20	テント	3C	高橋　重	9	119
524		朝日山・**赤鞍ヶ岳**	道志	2008	2/3-5	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
883		秋山二十六夜山～**赤鞍ｹ岳**・今倉山～道志二十六夜山	道志山塊	2015	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	15	161
641		編笠山～権現岳～**赤岳**	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
694		硫黄岳～**赤岳**	八ｹ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12	63
560		**赤薙山**（県連平日ハイク）	日光	2007	10/11	日帰り	1A	斎藤清一、県連	9	91
378		**赤ぼっこ**～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
728		**赤雪山**（新人歓迎山行）	足利北部	2011	4/10	日帰り	1A	外崎蓮	13	1
330		**阿寒**・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
174		**秋田駒ヶ岳**	東北	2000	9/16-17	旅館	B	外崎　蓮	3	76
271		**秋田駒ヶ岳**～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
545		**秋田駒ヶ岳**・八幡平・岩手山	奥羽	2007	6/30-7/2	山麓泊	3B	柴　勇	9	52
883		**秋山二十六夜山**～赤鞍ｹ岳・今倉山～道志二十六夜山	道志山塊	2015	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	15	161
483		熊野古道･**悪四郎山**	熊野	2007	5/14-17	山麓泊	3B	細野清子	8	18
153		**浅草岳**･守門岳	会越	2000	5/3-6	テント／民宿	D	村松敏彦	3	20
346		**浅草岳**･守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴　勇	5	130
21		白馬岳～**朝日岳**	北ア	1997	8/7-10	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	細野清子	1	33
22		**朝日岳**・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112		**朝日岳**・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎　蓮	2	63
399		**朝日岳**～白馬岳	北ア	2004	9/16-19	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
524		**朝日山**・赤鞍ヶ岳	道志	2007	2/3-4	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
686		茶臼岳～三本槍岳～**朝日岳**（市民登山）	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
695		白馬岳～**朝日岳**	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎　蓮	12	65
757		**旭山**～達沢山（忘年山行）	中央線沿線	2011	12/4	日帰り	2A	坂巻明	13	87
99		**朝日連峰**（ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸ合宿）	朝日連峰	1999	5/1-4	避難小屋	D	村松敏彦	2	29
165		**朝日連峰**	朝日連峰	2000	7/28-30	テント	C	柴，清家	3	47
500		**朝日連峰**	朝日連峰	2006	9/16-18	避難小屋	3C	千葉有子	8	69
204		鼻曲山～**浅間隠山**	上州	2001	5/12-13	山荘／テント	A+,C	細野清子	4	12
242		**浅間隠山**	上州	2001	11/18	日帰り	A	外崎蓮	4	95
778		**浅間隠山**（市民山行）	上州	2012	6/10	日帰り	1B	石垣吉朗	14	34
852		**浅間山**（市民山行）	浅間連峰	2014	6/8	日帰り	2B	村松敏彦	15	93
644		仙丈ヶ岳～**アサヨ峰**	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	4C	外崎蓮	11	72
411		矢倉岳～**足柄古道**	箱根	2005	11/8	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
2		**愛鷹山連峰**	富士周辺	1996	12/14-15	無人小屋	C	柴　勇	1	5
211		**愛鷹連峰**縦走＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	6/16-17	旅館	C	清家三保子	7	34
355		**足和田山**	富士周辺	2003	12/7	日帰り	1A	斎藤・中村	5	151
660		**足和田山**～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
446		烏帽子・湯ノ丸・**四阿山**・根子岳	上信	2007	6/26-29	山麓泊	5B	高橋　潔	7	49
630		湯の丸山・**四阿山**（市民登山）	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
848		**四阿屋山**・両神山	奥秩父	2014	5/9-10	山麓泊	3B	矢野貞子	15	86

379		畦ガ丸	丹沢	2004	5/29	日帰り	2B	斎藤清一	6	26
727		畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
670		日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
266		阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
29		愛宕山	房総	1997	10/19	日帰り	A	県連、高橋英	1	56
260		愛宕山～吾国山	常陸	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
566		愛宕山・ポンポン山	京都	2007	11/20-22	山麓泊	2A	細野清子	9	105
704		愛宕山（ウイズハイク）	茨城	2010	9/4	日帰り	1A	石垣吉朗	12	95
881		御殿山・愛宕山（忘年山行）	房総	2014	12/7	日帰り	1A	中村育・瀬田	15	157
138		安達太良山	福島	2000	1/15-16	山小屋	C	柴　勇	2	131
267		安達太良山（公開登山）	福島	2002	6/9	日帰り	A	大串秀雄	4	153
359		安達太良山	福島	2004	1/10-11	山小屋	4C	川下敬史	5	162
854		安達太良山	安達太良	2014	6/15	日帰り	2A	斉田記代美	15	103
14		吾妻連峰	吾妻連峰	1997	5/17-18	山小屋	C	柴　勇	1	22
74		一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/	山小屋	B	村松敏彦	1	149
228		吾妻連峰	吾妻連峰	2001	9/15-16	避難小屋	B+	外崎　蓮	4	60
109		湯の丸山・四阿山	上州	2000	6/19-21	民宿泊り	B	外崎　蓮	2	58
512		大峰山～吾妻耶山	谷川	2007	11/6	日帰り	2B	青山寿子	8	104
663		吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋　重	11	120
764		雨ヶ立山・吾妻耶山	上州	2012	3/17-18	山麓泊	3C	高橋重	14	1
213		雨ヶ岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	7/1	日帰り	A	外崎　蓮	7	37
177		雨飾山	頸城	2000	10/8-9	民宿	B	大串秀雄	3	84
559		雨飾山	頸城	2007	10/8-9	山小屋	2B	清家三保子	9	89
867		雨飾山	頚城山塊	2014	9/20-21	山小屋	2B	外崎蓮	15	132
764		雨ヶ立山・吾妻耶山	上州	2012	3/17-18	山麓泊	3C	高橋重	14	1
443		尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2005	6/16	日帰り	2B	斎藤清一	7	41
772		玉原高原～尼ヶ禿山～ブナ平（県連）	上州	2012	5/10	日帰り	1A	小川誠二郎	14	20
97		天城連山	伊豆	1999	4/24-25	民宿	B+	細野清子	2	26
818		甘利山～千頭星山	中央線沿線	2013	6/16	日帰り	1A	中村育子	15	23
337		西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎　蓮	5	93
614		西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎　蓮	10	110
641		編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
405		阿弥陀岳	八ヶ岳	2004	10/11	日帰り	4D	千葉有子	6	93
645		雨引山（ウイズハイク）	茨城	2009	9/5	日帰り	2A	石垣吉朗	11	76
673		アモウ沢～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12	7
871		七ヶ岳・荒海山	南会津	2014	10/24-25	テント	2B	村松敏彦	15	141
32		七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
121		荒川三山～赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
497		荒川三山～赤石岳	南ア	2006	8/4-6	山小屋	3C	外崎　蓮	8	61
862		荒川三山～赤石岳	南アルプス	2014	8/1-5	山小屋	3C	武内勇二	15	120
341		未丈ヶ岳･荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
344		荒島岳･能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
190		荒船山	西上州	2001	2/4	日帰り	A+	川下敬史	3	104
351		荒船山	西上州	2003	11/9	日帰り	1A	榊原文子	5	142
539		荒船山	西上州	2007	6/3	日帰り	1A	武内勇二	9	35
816		荒船山（市民山行）	西上州	2013	6/2	日帰り	1A	村松敏彦	15	13
200		有間山～蕨山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎　蓮	4	5
527		有馬山～蕨山	奥武蔵	2007	4/8	日帰り	3B	青山寿子	9	8
239		安房高山　（ふれあいハイキング）	房総	2001	11/3-4	日帰り	A	県連、外崎	4	90
642		摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	5C	村松敏彦	11	66
292	イ	北信三山（黒姫山、戸隠山、飯縄山）	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329		戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
220		飯豊連峰縦走	飯豊連峰	2001	8/2-5	テント	C+	柴　勇	4	48
554		飯豊連峰縦走（北股岳～大日岳～飯豊山）	飯豊連峰	2007	8/24-27	テント	4C	武内勇二	9	75
45		天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
694		硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12	63
555		五十沢～金城山	上越	2007	9/1-2	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
291		石鎚山	四国	2002	10/25夜-2	民宿	B	斎藤清一	4	235
194		石割山	富士周辺	2001	2/25	日帰り	A	斎藤清一	3	110

627		石割山	道志	2009	5/17	日帰り	2B	外崎　蓮	11	18
55		伊豆ヶ岳　（新人研修）	奥武蔵	1998	6/7	日帰り	A	外崎　蓮	1	97
16		伊豆ヶ岳　（新人研修）	奥武蔵	1997	6/8	日帰り	A	柴、細野清	1	26
619		伊豆ヶ岳東尾根	奥武蔵	2009	2/8	日帰り	1B	堀口昭二	10	125
669		伊豆ヶ岳	奥武蔵	2010	2/28	日帰り	1A	矢野裕子	11	134
327		船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21 - 22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
578		子の権現・伊豆ヶ岳（新人歓迎）	奥武蔵	2008	3/30	日帰り	1A	やまたん	10	6
74		一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/	山小屋	B	村松敏彦	1	149
685		古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ﾛｯｼﾞ泊	1A	柴　勇	12	35
313		稲含山･御荷鉾山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
332		伊吹山･賤ヶ岳	近江	2003	7/25-27	テント	2A	武内勇二	5	77
77		今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
663		吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋重	11	120
813		今倉山～道志二十六夜山	道志	2013	5/6	日帰り	1A	大畠清江	15	8
883		秋山二十六夜山～赤鞍ケ岳・今倉山～道志二十六夜山	道志山塊	2015	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	15	161
870		威守松山・巻機山	南魚沼	2014	10/11-12	山麓泊	1A･2B	外崎蓮	15	138
870		威守松山・巻機山	南魚沼	2014	10/11-12	山麓泊	1A･2B	外崎蓮	15	138
515		伊予ヶ岳・富山（県連４０周年）	房総	2006	11/18-19	テント	1A	高橋英雄	8	112
835		伊予ヶ岳（忘年山行）	房総	2013	12/1	日帰り	1A	矢野貞子	15	58
388		易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎　蓮	6	48
233		祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
340		岩木山･八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
448		岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2005	7/22-24	テント	3D	細野清子	7	56
738		岩木山・白神岳	東北	2011	7/2-7/4	テント	2B	柴　勇	13	34
445		岩菅山～赤岩山	上信	2005	6/25-26	避難小屋	3B	外崎　蓮	7	47
402		岩手山・姫神山	東北	2004	9/18-20	宿	3B	高橋英雄	6	85
545		秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	東北	2009	6/30-7/4	山麓泊	3B	柴　勇	9	52
601		岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
741		岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎　蓮	13	41
237		岩殿山	中央沿線	2001	10/21	日帰り	A	日下芳十	4	86
311		岩殿山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	日下芳十	5	14
417		岩殿山	中央沿線	2004	12/19	日帰り	1A	高橋英雄	6	121
478		宮地山～岩殿山	中央沿線	2007	4/3	日帰り	3B	青山寿子	8	7
845		岩殿山	中央沿線	2014	4/13	日帰り	1B	桐生恭子	15	82
532		岩櫃山	上州	2007	5/3	日帰り	2B	原田和昭	9	17
51		岩山　（リーダー研修）	前日光	1998	5/24	日帰り	B	村松敏彦	1	91
105		岩山　（ﾘｰﾀﾞｰ研修）	前日光	1999	5/30	日帰り	B	村松敏彦	2	47
162		岩山　（新人研修）	前日光	2000	7/2	日帰り	A	高橋英、安田	3	42
202		岩山（新人研修）	前日光	2001	4/29	日帰り	A	細野省二	4	6
307		岩山	前日光	2003	3/16	日帰り	A+	柴　勇	5	1
318		岩山	前日光	2003	5/11	日帰り	A	坂口よし江	5	31
418		岩山(登山教室)	前日光	2004	6/12	日帰り	1B	柴　勇	6	141
429		岩山	前日光	2005	4/3	リーダー研修	1B	村松敏彦	7	10
456		岩山　（登山教室）	前日光	2005	8/28	日帰り	1B	村松敏彦	7	131
531		岩山	前日光	2007	4/29	日帰り	2B	柴　勇	9	15
646		岩山	前日光	2009	9/13	日帰り	1B	高橋英雄	11	80
750		岩山(BOM研修)	前日光	2011	10/2	日帰り	2B	柴　勇	13	69
877		岩山	前日光	2014	11/15	日帰り	1B	桐生恭子	15	151
279	ｳ	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394		木曽駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2005	8/19-23	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552		木曽駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2009	8/12-16	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
732		乗鞍岳・美ヶ原（春山山行）	北アルプス	2011	5/3-5/5	テント	4C	村松敏彦	13	13
205		雁ケ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
369		馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
464		裏高尾縦走	中央沿線	2005	10/16	日帰り	2A	千葉有子	7	100
354		裏妙義	西上州	2003	11/15-16	国民宿舎	4D	柴　勇	5	148
280	ｴ	越後三山（越後駒ケ岳、中の岳、八海山）	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
465		越後駒ヶ岳	越後	2005	10/16-18	避難小屋	3C	大串秀、高橋潔	7	102
639		越後駒ヶ岳	越後	2009	8/6夜-8	山小屋	3B	高橋　重	11	60

195		越前岳 ＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	3/18	日帰り	A	武内勇二	7	14
348		恵那山	中ア	2003	10/25-26	避難小屋	3B	石垣吉朗	5	135
493		樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2007	7/2-8	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
115		烏帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野清子	3	111
446		烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2005	6/26-27	山麓泊	3B	高橋　潔	7	49
536		霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2009	5/21-26	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
582		赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
284		烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
841		嵯峨山・石尊山～烏帽子山（県連）	房総	2014	1/25-26	山麓泊	2A	小川誠二郎	15	70
621	オ	小出俣山	谷川	2009	3/14-15	テント	4D	高橋　重	11	1
203		大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
707		津梅川・追良瀬川	白神山地	2010	9/22－26	テント	3C	千葉有子	12	101
633		奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	2B	細野清子	11	43
722		曾倉山～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12	142
233		祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/５夜-8	テント	C	細野省二	4	74
285		大洗海岸水族館（ウイズハイク）	常陸	2002	9/28	日帰り	A	外崎　蓮	4	217
437		塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2006	5/14-16	山小屋	4B	柴　勇	7	28
203		大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
41		扇山（公開登山）	中央沿線	1998	3/8	日帰り	A	三浦七郎	1	78
249		扇山	中央沿線	2002	2/10	日帰り	A	松本　豊	4	114
561		百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2008	10/21-23	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
769		扇山～百蔵山	中央線沿	2012	4/21	日帰り	2A	大畠清江	14	14
575		大霧山	奥武蔵	2008	2/10	日帰り	1B	高橋英雄	9	128
885		大霧山	奥武蔵	2015	1/17	日帰り	1A	矢野裕子	15	165
10		大楠山（新人歓迎）	三浦半島	1997	4/20	日帰り	A	細野清子	1	16
281		大雲取谷	奥多摩	2002	8/31-9/1	テント	C	川下敬史	4	203
543		大雲取谷	奥多摩	2007	6/23夜-24	夜行日帰り	3D	堀口昭二	9	48
372		大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
561		百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2009	10/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
761		大蔵高丸	大菩薩	2012	2/4	日帰り	2B	高橋　重	13	101
631		三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	3B	3B	武内勇二	11	38
676		鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12	17
140		大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
95		大鹿山（新人歓迎山行）	大菩薩	1999	4/18	日帰り	A	細野省、清家	2	22
101		大峰山～大台ケ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
628		大峰山・大台ケ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
528		大高山	奥武蔵	2007	4/15	日帰り	2B	中村隆泰	9	10
776		大高山～天覚山～天覧山	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆康	14	29
791		大滝沢	吾妻連峰	2012	7/8	山麓泊	4C	高橋重	14	74
42		大岳山（２期生卒業山行）	奥多摩	1998	3/15	日帰り	A	日下芳十	1	80
455		大岳山	奥多摩	2005	8/21	日帰り	2A	中村八重子	7	77
495		大岳山	奥多摩	2006	7/16	日帰り	3B	中村隆泰	8	57
243		奥多摩三山（大岳山、御前山、三頭山）	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
551		大岳山～鋸尾根	奥多摩	2007	8/12	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
151		大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎　蓮	3	13
762		大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103
373		鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
842		岳ノ山～大鳥屋山	足利山塊	2014	3/21	日帰り	1A	村松敏彦	15	75
587		大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
87		大岱山	甲州	1999	2/7	日帰り	A++	細野省二	2	9
766		大野山	丹沢	2012	4/1	日帰り	1A	坂巻　明	14	6
380		大幡川四十八滝沢	富士周辺	2004	5/30	日帰り	4D	堀口昭二	6	28
403		南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2006	9/25-30	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
366		大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
557		太平山（ウイズハイク）	北関東	2007	9/23	日帰り	1A	小川誠二郎	9	83
140		大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
765		大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14	4
606		奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
342		女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109

101		大峰山～大台ケ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
512		大峰山～吾妻耶山	谷川	2006	11/5	日帰り	2B	青山寿子	8	104
628		大峰山・大台ケ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
774		大室山～加入道山	丹沢	2012	5/19	日帰り	2B	田村光子	14	24
347		大室山･加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427		加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2006	3/20-22	避難小屋	4B	青山寿子	7	5
616		大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
616		大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
727		畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
832		大持山～子持山～武甲山	奥武蔵	2013	11/9	日帰り	2B	田村光子	15	54
18		大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295		大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
302		大山	丹沢	2003	1/19	日帰り	A	高橋芳恵	4	263
625		大山	丹沢	2009	4/26	日帰り	2A	柴　勇	11	14
564		小川山	奥秩父	2007	11/10-11	テント	3B	柴　勇	9	100
484		小川谷・悪谷	奥多摩	2006	5/21	日帰り	3B	堀口昭二	8	21
102		奥久慈男体山	常磐	1999	5/9	日帰り	A+	中村隆泰	2	43
309		奥久慈男体山	常磐	2003	3/30	日帰り	A	堀口・青山	5	6
231		日光白根山	日光	2001	9/29-30	避難小屋	B	武内勇二	4	69
703		戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴　勇	12	92
759		日光白根山(X'mas山行)	日光	2011	12/17-18	テント	3D	村松敏彦	13	94
541		カヤの平・奥裾花（市民登山）	北信濃	2008	6/9-10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
786		立山～奥大日岳～大日岳	北アルプ	2012	8/7 - 10	山小屋	3B	高橋重	14	60
229		奥秩父の沢、川胡桃沢・鶏冠谷右俣	奥秩父	2001	9/23-24	テント	B,D	村松敏彦	4	64
170		奥穂高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
390		前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
598		奥穂高岳	北ア	2008	8/22-24	山小屋	4C	坂口よし江	10	69
864		北穂高岳・奥穂高岳	北アルプス	2014	8/21-24	テント	3C	村松敏彦	15	125
61		西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1999	7/18-21	山小屋	D	村松敏彦	1	107
787		前穂高岳～奥穂高岳	北アルフ	2012	8/9 - 11	山小屋	3C	矢野貞子	14	64
47		石裂山	前日光	1998	4/19	日帰り	A+	柴　勇	1	87
430		石裂山	前日光	2005	4/10	日帰り	2B	高橋芳恵	7	12
603		石裂山	前日光	2008	10/5	日帰り	2A	高橋重	10	82
486		那須旭岳・大白森山	那須	2007	5/27-29	テント	3C	村松敏彦	8	25
602		尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
703		戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴　勇	12	92
577		お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
391		燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
700		常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
783		燕岳～大天井岳～常念岳	北アルフ	2012	7/27 - 30	山小屋・テント	3C	武内勇二	14	52
856		乙女高原～小檜山	中央沿線	2014	6/21	日帰り	2A	中村育子	15	107
537		鬼石沢	丹沢	2007	5/27	日帰り	3C	青山寿子	9	31
479		鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2006	4/9	日帰り	2B	武内勇二	8	9
373		鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
617		大室山・赤鞍ヶ岳	中央沿線	2009	1/25	日帰り	1B	瀬田映子	10	120
180		小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎　蓮	3	90
683		小野子山～十二ヶ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12	31
858		子持山・小野子山	上州	2014	7/12-13	テント	1B	武内勇二	15	110
857		小野岳・二岐山	阿武隈	2014	6/29-30	山麓泊	2B	村松敏彦	15	108
481		帯那山	甲州	2006	4/30	日帰り	1A	高橋英雄	8	13
425		お坊山	中央沿線	2005	3/13	日帰り	3B	村松敏彦	7	1
17		表妙義縦走	上州	1997	6/15	日帰り	C	柴　勇	1	27
238		表妙義	上州	2001	10/27-28	テント	C+	柴　勇	4	88
371		表妙義	上州	2004	4/25	日帰り	2B	榊原文子	6	10
401		表妙義	上州	2004	9/18-19	夜	4D	青山寿子	6	83
654		表妙義	西上州	2009	11/8	日帰り	2B	中村隆泰	11	100
361		恩若峰･源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
338		御嶽山・乗鞍岳	木曽・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
594		木曽御嶽山	木曽	2008	8/2-3	山小屋	3B	坂巻明	10	59

66	ｶ	甲斐駒ヶ岳	南ア	1998	9/11-13	ﾃﾝﾄ&無人小屋	C	細野省二	1	125
218		甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
504		甲斐駒ケ岳	南ア	2006	8/9	山小屋	3C	佐藤健一	8	81
860		甲斐駒ケ岳～仙丈ケ岳	南アルプス	2014	7/21-24	山小屋	3C	大山冬臣	15	114
744		甲斐駒ヶ岳	南アルプス	2011	7/29-30	山小屋	3B	小川誠二郎	13	51
407		宮之浦岳・開聞岳	九州	2004	10/21-24	山小屋	2C	細野清子	6	97
198		蛾ヶ岳～三方分山＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
275		加賀白山	白山	2002	7/19夜-7/	テント	B+	細野清子	4	181
824		加賀白山	北陸	2013	8/7-10	テント	3B	村松敏彦	15	34
698		餓鬼岳～燕岳	北アルプス	2010	8/12～15	山小屋	3C	高橋英雄	12	74
587		大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
155		景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
251		景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本　豊	4	118
678		陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
724		陣馬山～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12	146
889		陣馬山～景信山～城山	高尾山系	2015	2/14	日帰り	1A	北川勝久	15	173
163		籠ノ登山･水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
820		高峰山～篭ノ登山～三方ケ峰	浅間連峰	2013	7/7	日帰り	2B	村松敏彦	15	26
27		尾瀬集中登山(創立記念) A：笠ヶ岳－至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	柴勇、川名	1	47
345		笠ヶ岳･至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎　蓮	5	127
553		笠ヶ岳	北ア	2007	8/17-20	山小屋	3C	高橋　重	9	70
708		北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23－27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
828		笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	2013	9/27-28	山小屋	3B	箕輪完二	15	46
36		笠取山、雁坂峠(ｸﾘｽﾏｽ山行)	奥秩父	1997	12/20-21	テント	B	村松敏彦	1	68
326		笠取山	奥秩父	2003	6/15	日帰り	A	原田君子	5	58
487		笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2006	2/5	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
838		笠取山（X'mas山行）	奥秩父	2013	12/21-22	テント	3C	村松敏彦	15	64
853		雲取山～和名倉山～笠取山～雁坂峠	奥秩父	2014	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	15	100
626		堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
263		甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406		甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2004	10/16-17	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
278		鹿島槍ヶ岳	北ア	2002	8/13夜-17	山小屋	C	高橋英雄	4	190
533		鹿島槍ヶ岳	北ア	2007	4/6	テント	4D	村松敏彦	9	19
593		爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749		爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
389		霞沢岳	北ア	2004	7/23-25	テント	4C	武内勇二	6	51
861		霞沢岳～徳本峠～島々宿	北アルプス	2014	7/30-8/2	山小屋	3C	高橋芳恵	15	117
217		鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
823		月山・蔵王（熊野岳～刈田岳）	出羽	2013	7/31-8/2	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	32
148		四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
347		大室山･加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427		加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2005	3/20-21	避難小屋	3B	青山寿子	7	5
727		畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
774		大室山～加入道山	丹沢	2012	5/19	日帰り	2B	田村光子	14	24
812		茅ヶ岳～金ヶ岳	中央沿線	2013	4/27	日帰り	1A	郷田進	15	6
83		鐘撞堂山（新年鍋山行）	奥武蔵	1999	1/10	日帰り	A	細野清子	2	2
408		鹿野山	房総	2004	10/23	日帰り	1A	原田和昭	6	102
297		加波山　（忘年山行）	常陸	2002	12/8	日帰り	A	原田和昭	4	250
476		兜山～棚山	中央沿線	2006	3/12	日帰り	2A	村松敏彦	8	1
305		鎌倉アルプス天園	湘南	2003	2/9	日帰り	A	細野清子	4	270
726		皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
232		上高地～涸沢	北ア	2000	10/6-7	山小屋	B	大串秀雄	4	71
70		神峰山ふれあいハイク	常磐	1998	9/27	(雨の為、水族館他)	A	県連東葛	1	135
672		神峰山～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12	4
649		甑山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
796		神室山～小又山～火打岳	東北	2012	10/5 - 7	避難小屋	3C	武内勇二	14	87
595		掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
122		茅ヶ岳	中央沿線	1999	9/19	日帰り	A	清家三保子	2	91
608		茅ヶ岳	甲斐	2008	11/2	日帰り	2B	小川洋子	10	95

812		茅ヶ岳～金ケ岳	甲斐	2013	4/27	日帰り	2A	郷田進	15	6
385		榧ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
541		カヤの平・奥裾花（市民登山）	北信濃	2007	9/10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
232		上高地～涸沢	北ア	2001	10/6-8	山小屋	B	大串秀雄	4	71
423		諏訪岳～唐沢山	両毛	2006	2/10-12	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
583		涸沢･蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
431		モミソ沢・新茅の沢～烏尾山	丹沢	2007	4/16-19	テント	5B	佐藤健一	7	14
416		烏場山	房総	2004	12/5	日帰り	1A	細野清子	6	118
806		烏場山（花嫁街道）	房総	2013	1/20	日帰り	1A	箕輪完二	14	115
227		唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
452		唐松岳～鑓ヶ岳～杓子岳	北ア	2005	8/13-15	山小屋	3C	高橋英雄	7	71
454		唐松岳～五竜岳	北ア	2005	8/21-22	山小屋	3B	原田和昭	7	75
679		唐松岳（春山山行）	北アルプス	2010	5/1-4	テント	4D	村松敏彦	12	23
749		爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
729		三ノ木戸山～狩倉山	奥多摩	2011	4/17	日帰り	2B	青山寿子	13	6
81		切込湖・刈込湖	日光	1999	12/14	日帰り	A	柴　勇	1	162
640		切込湖～刈込湖	日光	2009	8/10	日帰り	2A	細野清子	11	62
853		雲取山～和名倉山～笠取山～雁坂峠	奥秩父	2014	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	15	100
7		川苔山	奥多摩	1997	2/22	日帰り	A+	清家三保子	1	11
100		川乗山	奥多摩	1999	5/2	日帰り	A+	高橋英雄	2	39
356		蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
439		川乗谷・逆川	奥多摩	2005	5/22	日帰り	3C	村松敏彦	7	32
655		川苔山	奥多摩	2009	11/15	日帰り	2A	清家三保子	11	102
815		川苔山	奥多摩	2013	5/26	日帰り	2B	田村光子	15	12
205		雁ｹ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
513		大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2007	5/7	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
874		黒岳～雁ｹ腹摺山	中央線沿線	2014	11/3	日帰り	２B	高橋芳恵	15	146
580		勘七の沢	丹沢	2008	4/13	日帰り	3C	佐々木侑	10	16
89		官ノ倉山	奥武蔵	1999	2/21	日帰り	A	日下芳十	2	12
199		高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
468	キ	菊花山	中央沿線	2005	11/3	日帰り	1B	中村隆泰	7	109
266		阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
167		木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
246		木曾駒ヶ岳	中ア	2001	12/22-24	テント、避難小屋	C+	村松敏彦	4	105
279		木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394		木曽駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2004	8/19-22	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552		木曽駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2007	8/12-14	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638		木曽駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	2B	村松敏彦	11	56
376		瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
76		北高尾山稜	中央沿線	1998	11/3	日帰り	A++	細野清子	1	153
494		北岳	南ア	2006	7/13-15	山小屋	3B	原田和昭	8	54
549		塩見岳～北岳	南ア	2008	7/28-32	山小屋	4C	外崎　蓮	9	62
702		北岳	南アルプス	2010	8/26-28	山小屋	3C	村松敏彦	12	88
708		北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23－27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
170		奥穂高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
864		北穂高岳・奥穂高岳	北アルプス	2014	8/21-24	テント	３C	村松敏彦	15	125
253		北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	3/2-3	山小屋	B+	村松敏彦	4	123
290		北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	10/18	日帰り	A	斎藤清一	4	233
579		北八ヶ岳	八ヶ岳	2008	4/5-6	山小屋	3C	安田みづほ	10	12
586		北八ヶ岳　（市民登山）	八ヶ岳	2008	6/7-8	山小屋･テント	2B/3	やまたん	10	31
887		北八ヶ岳（東天狗岳）	北八ヶ岳	2015	1/27-28	山小屋	2C･3C	大山冬臣	15	169
175		鬼怒沼	日光	2000	9/30-10/1	山小屋	B	武内勇二	3	78
602		尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
869		鬼怒沼湿原	奥日光	2014	10/7-8	山小屋	2B	武内勇二	15	136
770		高取山～仏果山～経ヶ岳	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14	16
69		仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247		仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
288		焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
303		達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265

367		行道山	両毛	2004	3/28	日帰り	1B	佐藤健一	6	3
801		清澄山（東大演習林）（１５周年記念行事）	房総	2012	11/11	日帰り	1A	小川誠二郎	14	99
696		霧ヶ峰(車山)	霧ヶ峰	2010	8/1	日帰り	1A	原田和昭	12	70
771		守屋山・霧ヶ峰	八ヶ岳周	2012	3/5	テント	2A	村松敏彦	14	18
81		切込湖・刈込湖	日光	1998	12/13	日帰り	A	柴　勇	1	162
640		切込湖～刈込湖	日光	2009	8/9	日帰り	1A	細野清子	11	62
536		霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2007	5/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
52		霧降高原	日光	1998	5/31	日帰り	A	大串秀雄	1	92
154		霧降高原	日光	2000	5/7	日帰り	A	榊原文子	3	22
485		霧降高原	日光	2006	5/24	日帰り	1A	榊原文子	8	23
555		五十沢～金城山	上越	2008	9/1-3	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
123		金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
620		金時山	箱根	2009	2/22	日帰り	2B	坂口よし江	10	127
847		金時山	箱根	2014	4/20	日帰り	1A	本田愛子	15	84
191		金時山＜富士周辺シリーズ＞	箱根	2001	2/11	日帰り	A	細野清子	7	7
879		矢倉岳～金時山	小田急沿線	2014	11/24	日帰り	2A	田村光子	15	154
136		甲武信岳～金峰山（ｸﾘｽﾏｽ山行）	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
236		瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376		瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
418		金峰山	奥秩父	2004	12/25-26	テント	4D	村松敏彦	6	123
817		瑞牆山～金峰山	奥秩父	2013	6/7-8	山小屋	2B3B	高橋芳恵	15	21
436		金北山	佐渡	2005	8/4-6	山小屋	2B	原田和昭	7	26
775		金北山	佐渡ヶ島	2012	5/26 - 27	山麓泊	2B	村松敏彦	14	26
33	ｸ	九鬼山	中央沿線	1997	11/8	日帰り	A	細野清子	1	64
369		馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
666		九鬼山	中央沿線	2010	2/7	日帰り	2A	中村隆泰	11	127
833		九鬼山	中央沿線	2013	11/17	日帰り	1A	斉田記代美	15	55
415		草津白根山	上州	2004	12/1-2	宿	1A	斎藤清一	6	117
496		草津白根山	上州	2006	7/31-8/1	山麓泊	1A	斎藤清一	8	59
765		大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14	4
60		櫛形山	南ア	1998	7/7	日帰り	A	清家三保子	1	104
212		櫛形山	南ア	2001	6/30	日帰り	A	原田君子	4	25
740		櫛形山	中央線沿線	2011	7/9	日帰り	2B	原田和昭	13	39
745		葛葉川本谷(BOM研修)	丹沢	2011	8/7	日帰り	2B	村松敏彦	13	53
120		葛葉川本谷	丹沢	1999	9/5	日帰り	B	村松敏彦	2	84
325		葛葉川本谷	丹沢	2003	6/8	日帰り	C	堀口昭二	5	56
456		葛葉川本谷　（登山教室）	丹沢	2005	9/11	日帰り	2B	村松敏彦	7	131
438		熊倉山	奥秩父	2005	5/15	日帰り	2B	高橋英雄	7	30
730		熊倉山	秩父	2011	4/24	日帰り	2A	坂巻　明	13	8
434		根本山～熊鷹山	桐生	2006	4/30	日帰り	3B	外崎　蓮	7	21
718		虎丸山～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12	133
483		熊野古道･悪四郎山	熊野	2006	5/14-16	山麓泊	3B	細野清子	8	18
79		雲取山	奥秩父	1998	11/22-23	素泊り小屋	B	細野清、外崎	1	158
158		雲取山（公開登山）	奥秩父	2000	6/3-4	山小屋／テント泊	B	日下芳十	3	27
308		雲取山	奥秩父	2003	3/22-23	避難小屋	C	青山寿子	5	4
487		笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2009	2/8	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
550		雲取山	奥秩父	2007	4/5	山小屋	3A	小川誠二郎	9	65
853		雲取山～和名倉山～笠取山～雁坂峠	奥秩父	2014	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	15	100
713		雲取山～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12	119
168		雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋／テント	C	大串秀雄	3	57
743		雲の平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
516		殿平～鞍吾山	中央沿線	2007	11/24	日帰り	2B	武内勇二	8	115
107		高畑山～倉岳山（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
185		倉岳山（忘年山行）	中央沿線	2000	12/3	日帰り	A	原田君子	3	97
574		鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2009	2/4	日帰り	2B	千葉有子	9	125
712		高畑山～倉岳山	中央線沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12	117
882		倉岳山	中央沿線	2014	12/13	日帰り	1A	村松敏彦	15	160
331		倉戸山	奥多摩	2003	7/13	日帰り	2A	高橋英雄	5	76
831		倉見山	富士急沿線	2013	11/2	日帰り	１A	桐生恭子	15	52

328		栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
444		早池峰山・栗駒山（市民登山）	北上	2006	6/17-20	山麓泊	3B	石垣吉朗	7	43
797		栗駒山・虎毛山	東北	2012	10/20-21	テント	2B	外崎蓮	14	90
674		御前山～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12	9
602		尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
734		黒金山	奥秩父	2011	5/15	夜行日帰り	3B	青山寿子	13	18
13		黒川鶏冠山	大菩薩	1997	5/24	日帰り	A+	川名	1	21
693		農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12	60
179		黒岳	富士周辺	2000	10/29	日帰り	A	原田君子	3	88
739		黒岳	御坂山麓	2011	7/3	日帰り	2A	田村光子	13	37
874		黒岳～雁ケ腹摺山	中央線沿線	2014	11/3	日帰り	2B	高橋芳恵	15	146
189		三ッ峠山～黒岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
137		水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
292		北信三山（黒姫山、戸隠山、飯縄山）	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329		戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
873		黒檜山	上州	2014	10/30	日帰り	1A	坂巻明	15	145
604		黒部峡谷下の廊下	北ア	2008	10/11-13	山小屋	3C	千葉有子	10	85
335		黒部源流	北ア	2003	8/12-17	テント	5D	堀口昭二	5	87
64		黒部五郎岳	北ア	1998	7/31-8/4	山小屋	B+	外崎　蓮	1	116
708		北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23－27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
725		黒斑山・水の塔山	浅間	2011	2/5－6	山麓泊	3C	高橋重	12	148
518	ケ	鶏足山～花香月山（忘年山行）	常磐	2006	12/10	日帰り	2B	川下敬史	8	120
689		釈迦ケ岳～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻明	12	51
435		燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2006	8/1-4	テント	5D	村松敏彦	7	23
719		仏果山～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12	135
544		袈裟丸山	足尾山塊	2007	6/23-24	テント	3B	外崎　蓮	9	50
629		袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
682		袈裟丸山	足尾	2010	5/16	日帰り	2A	中村隆泰	12	29
208		毛無山～十二ケ岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
312		モミソ沢･源次郎沢	丹沢	2004	4/12-14	テント	C	堀口昭二	5	15
361		恩若峰･源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
480		水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2007	4/15-17	テント	3D	佐藤健一	8	11
131		乾徳山	奥秩父	1999	11/23	日帰り	B	三浦七郎	2	120
293		乾徳山	奥秩父	2002	11/3	日帰り	B	安田みづほ	4	242
710		乾徳山	奥秩父	2010	10/24	日帰り	2B	田村光子	12	111
850		乾徳山	奥秩父前衛	2014	5/24	日帰り	2B	郷田進	15	90
333	コ	恋ノ岐沢･平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
310		甲州高尾山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	中村隆泰	5	11
113		庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460		庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2005	10/2-3	避難小屋	3C	大串秀雄	7	90
457		甲東不老山	中央沿線	2005	9/18	日帰り	1A	中村隆泰	7	82
65		塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
597		塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
675		比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
660		足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
40		古賀志山	前日光	1998	2/14	日帰り	A+	柴　勇	1	76
316		赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴　勇	5	26
525		古賀志山（新人歓迎山行）	前日光	2007	3/25	日帰り	1B	中村八重子	9	1
839		大菩薩嶺～小金沢連峰	秩父大菩薩嶺	2014	1/11-12	山小屋	2B	武内勇二	15	66
866		小金沢山	大菩薩嶺	2014	9/13	日帰り	2A	桐生・斉田	15	131
84		南大菩薩小金沢連峰	大菩薩	1999	1/15-16	山小屋	B+	柴　勇	2	4
24		小草平の沢	丹沢	1997	9/21	日帰り	B	村松敏彦	1	42
456		御座山・労山フェスタ	西上州	2005	9/17	日帰り	2B	村松敏彦、労山	7	133
164		五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
637		浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	4C	清家三保子	11	53
649		甑山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
374		五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
394		木曽駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2006	8/19-24	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
642		摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	6C	村松敏彦	11	66

19		御前山	奥多摩	1997	6/28	日帰り	A	村松敏彦	1	29
178		御前山	奥多摩	2000	10/22	日帰り	A	大串秀雄	3	87
243		奥多摩三山（大岳山、御前山、三頭山）	奥多摩	2001	11/23-4	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
610		御前山	奥多摩	2008	11/23	日帰り	2B	箕輪完二	10	100
674		御前山～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12	9
717		御前山（忘年山行）	茨城	2010	12/5	日帰り	1A	武内勇二	12	129
790		御前山（ウイズハイク）	茨城	2012	9/1	日帰り	1A	石垣吉朗	14	71
881		御殿山・愛宕山（忘年山行）	房総	2014	12/7	日帰り	1A	中村育・瀬田	15	157
139		小檜山	奥秩父	2000	1/16	日帰り	B	村松敏彦	2	134
777		小檜山	奥秩父	2012	6/2	日帰り	2A	村松敏彦	14	32
856		乙女高原～小檜山	中央沿線	2014	6/21	日帰り	2A	中村育子	15	107
82		甲武信岳　（ｸﾘｽﾏｽ山行）	奥秩父	1998	12/19-20	テント	C	村松敏彦	1	163
136		甲武信岳～金峰山（ｸﾘｽﾏｽ山行）	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
265		笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
268		甲武信ヶ岳	奥秩父	2002	6/14夜-16	山小屋	B+	外崎　蓮	4	157
376		瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
829		甲武信ヶ岳	奥秩父	2013	10/10-12	山小屋	2B	矢野貞子	15	48
804		甲武信ヶ岳（X'mas山行）	秩父	2012	12/23-24	テント	3C	村松敏彦	14	109
685		古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ﾛｯｼﾞ泊	1A	柴　勇	12	35
629		袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
681		巣神山～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12	27
796		神室山～小又山～火打岳	東北	2012	10/5 - 7	避難小屋	3C	武内勇二	14	87
156		子持山	上州	2000	5/21	日帰り	A	細野清子	3	25
832		大持山～子持山～武甲山	奥武蔵	2013	11/9	日帰り	2B	田村光子	15	54
858		子持山・小野子山	上州	2014	7/12-13	テント	1B	武内勇二	15	110
514		菰釣山～三国山	丹沢	2006	11/11-12	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
196		菰釣山・高指山＜富士周辺シリーズ＞	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴　勇	7	18
227		唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
454		唐松岳～五竜岳	北ア	2006	8/21-23	山小屋	4B	原田和昭	7	75
593		爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749		爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
182		権現山	中央沿線	2000	11/18	日帰り	B	柴　勇	3	94
296		権現山	中央沿線	2002	11/24	日帰り	A	清家三保子	4	248
337		西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎　蓮	5	93
614		西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎　蓮	10	110
641		編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
735		権現山	中央線沿線	2011	5/22	日帰り	2A	中村隆泰	13	20
875		権現山	中央線沿線	2014	11/8	日帰り	2A	中村育子	15	148
675		比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
463	サ	蔵王周辺の山々	蔵王連峰	2005	10/9-12	山麓泊	3B	斎藤清一	7	97
823		月山・蔵王（熊野岳～刈田岳）	出羽	2013	7/31-8/2	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	32
841		嵯峨山・石尊山～烏帽子山（県連）	房総	2014	1/25-26	山麓泊	2A	小川誠二郎	15	70
39		笹尾根	奥多摩	1998	2/8	日帰り	A	清家三保子	1	74
193		笹尾根	奥多摩	2001	2/18	日帰り	A	中村隆泰	3	108
250		笹尾根（日原峠～生藤山）	中央沿線	2002	2/16	日帰り	A	中村隆泰	4	116
362		笹尾根	奥多摩	2004	2/1	日帰り	2B	外崎　蓮	5	168
576		三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	日帰り	1A	外崎　蓮	10	1
615		笹尾根(槇寄山)	奥多摩	2009	1/10	日帰り	2B	矢野裕子	10	114
665		笹尾根（小棡峠～生藤山）	中央沿線	2010	2/6	日帰り	2A	千葉有子	11	125
96		笹子雁ヶ腹摺山（新人歓迎山行）	中央沿線	1999	4/18	日帰り	A+	斎藤清一	2	24
581		笹子雁ヶ腹摺山	中央沿線	2008	4/26	日帰り	2B	原田和昭	10	18
755		笹子雁ヶ腹摺山	大菩薩	2011	11/3	日帰り	2B	村松敏彦	13	83
501		富士山～佐白山（ウィズハイク）	茨城	2007	9/24	日帰り	1A	外崎　蓮	8	71
729		三ノ木戸山～狩倉山	奥多摩	2011	4/17	日帰り	2B	青山寿子	13	6
788		三ノ木戸山（追悼山行）	奥多摩	2012	8/19	日帰り	1A	村松敏彦	14	67
647		佐武流山	上越	2009	9/26-27	テント	4C	青山寿子	11	82
556		笊ヶ岳	南ア	2007	9/9-10	テント	4C	外崎　蓮	9	81
638		木曽駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	4B	村松敏彦	11	56
652		三ノ宿山	日光	2009	11/1	日帰り	2A	中村八重子	11	95

294		雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
820		高峰山～篭ノ登山～三方ケ峰	浅間連峰	2013	7/7	日帰り	2B	村松敏彦	15	26
198		蛾ヶ岳～三方分山＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
413		三方分山～パノラマ台	富士周辺	2004	11/21	日帰り	2B	斎藤清一	6	113
157		南月山～三本槍岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
263		甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406		甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2005	10/16-18	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
569		三本槍岳	那須	2007	12/15-16	テント	3C	吉川誠一	9	114
631		三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	3B	3B	武内勇二	11	38
686		茶臼岳～三本槍岳～朝日岳（市民登山）	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋　重	12	37
336	シ	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
593		爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749		爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
65		塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
451		仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2007	8/5-10	山小屋	6D	大串秀雄	7	66
549		塩見岳～北岳	南ア	2007	7/28-31	山小屋	4C	外崎　蓮	9	62
597		塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
128		杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎　蓮	2	113
466		鹿俣山（玉原高原）	上州	2005	10/27	日帰り	2A	柴田節子、県連	7	105
794		蓬峠～武能岳～茂倉岳～谷川岳（15周年記念山	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14	82
261		鹿倉山	奥多摩	2002	5/3	日帰り	A	高橋英雄	4	138
209		思親山＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	6/3	日帰り	A	斎藤清一	7	32
332		伊吹山･賤ヶ岳	近江	2003	7/25夜-27	テント	2A	武内勇二	5	77
840		シダンゴ山～宮地山	丹沢	2014	1/19	日帰り	1A	外崎蓮	15	68
215		七面山～八紘嶺＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
54		七里川清掃ﾊｲｷﾝｸﾞ	房総	1998	6/7	日帰り	A	大串秀、県連	1	94
144		七里川-追原-元清澄山	房総	2000	2/19-20	日帰り	A	県連自然保護委	2	142
27		尾瀬集中登山(創立記念)　C：至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	柴勇、村松敏	1	47
27		尾瀬集中登山(創立記念) A：笠ヶ岳－至仏山	尾瀬	1998	10/9-12	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	柴勇、川名	1	47
345		笠ヶ岳･至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎　蓮	5	127
828		笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	2013	9/27-28	山小屋	3B	箕輪完二	15	46
373		鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
689		釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻　明	12	51
128		杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎　蓮	2	113
393		白馬～杓子～鑓ヶ岳	北ア	2005	8/12-16	山小屋	4C	高橋英雄	6	64
452		唐松岳～鑓ヶ岳～杓子岳	北ア	2007	8/13-17	山小屋	5C	高橋英雄	7	71
565		社山	日光	2007	11/18	日帰り	2A	石垣吉朗	9	103
443		尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2006	6/17	日帰り	3B	斎藤清一	7	41
330		阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
180		小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎　蓮	3	90
375		十二ヶ岳	富士周辺	2004	5/9	日帰り	2B	中村隆泰	6	18
683		小野子山～十二ケ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12	31
208		毛無山～十二ケ岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
709		天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	3B	3B	武内勇二	12	108
68		上州武尊山	上州	1998	9/19-20	山小屋	B+	柴　勇	1	132
289		上州武尊山	上州	2002	10/13-14	民宿	B	大串秀雄	4	230
482		上州武尊岳	上州	2006	5/3-4	テント	4D	村松敏彦	8	15
780		上州武尊岳	上州	2012	6/30 - 7/1	テント	2B	矢野貞子	14	44
135		上州三峰山	西上州	1999	12/19	日帰り	A+	細野省二	2	126
314		生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
352		戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
250		笹尾根（日原峠～生藤山）	中央沿線	2003	2/17	日帰り	A	中村隆泰	4	116
259		生藤山	中央沿線	2002	4/21	日帰り	A	細野清、榊原	4	135
637		浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	3C	清家三保子	11	53
49		蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
172		燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391		燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
700		常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
747		常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	2011	12/15	山小屋	3B	高橋英雄	13	60

783		燕岳～大天井岳～常念岳	北アルフ	2012	7/27 - 30	山小屋・ﾃﾝﾄ	3C	武内勇二	14	52
433		笙の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2005	4/24	日帰り	3B	青山寿子	7	19
449		笙の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2005	7/23	日帰り	2B	中村隆泰	7	60
613		城峯山(忘年山行)	秩父	2008	12/14	日帰り	1A	やまたん	10	106
22		朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112		朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎　蓮	2	63
124		白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9―11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448		岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2006	7/22-25	テント	4D	細野清子	7	56
738		岩木山・白神岳	東北	2011	7/2-7/4	テント	2B	柴　勇	13	34
461		白毛門沢	上越	2005	10/2	前夜発	3C	千葉有子	7	94
349		白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
387		白砂山	上信越	2004	7/17-18	宿	3B	中村隆泰	6	45
688		白谷沢	奥武蔵	2010	6/13	日帰り	2B	堀口昭二	12	50
118		白峰三山	南ア	1999	8/20-22	山小屋	C	外崎　蓮	2	77
21		白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	細野清子	1	33
317		白馬岳（雪山合宿）	北ア	2003	5/2-5	テント	D	村松敏彦	5	28
393		白馬～杓子～鑓ヶ岳	北ア	2004	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
399		朝日岳～白馬岳	北ア	2005	9/16-20	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
166		白馬三山	北ア	2000	8/5-7	山小屋	B	斎藤清一	3	52
695		白馬岳～朝日岳	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎　蓮	12	65
692		八間山・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12	57
889		陣馬山～景信山～城山	高尾	2015	2/14	日帰り	1A	北川勝久	15	173
431		モミソ沢・新茅の沢～烏尾山	丹沢	2006	4/16-18	テント	4B	佐藤健一	7	14
183		陣場山	中央沿線	2000	11/19	日帰り	A	榊原文子	4	1
251		景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本　豊	4	118
314		生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
678		陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
724		陣馬山～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12	146
763		陣馬山(BOM研修)	高尾	2012	2/26	日帰り	1A	BOM研修生	13	105
889		陣馬山～景信山～城山	高尾山系	2015	2/14	日帰り	1A	北川勝久	15	173
284	ｽ	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
113		庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460		庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2007	10/2-5	避難小屋	5C	大串秀雄	7	90
600		皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
681		巣神山～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12	27
245		助川山（忘年山行）	常陸	2001	12/2	日帰り	A,B	川下敬史	4	103
676		鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12	17
499		錫ヶ岳～前白根山	日光	2006	9/9-10	テント	4C	村松敏彦	8	66
600		皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
153		浅草岳･守門岳	会越	2000	5/3-6	テント／民宿	D	村松敏彦	3	20
346		浅草岳･守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴　勇	5	130
595		掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
690		守門岳	越後	2010	6/26～27	避難小屋	3B	石垣吉朗	12	53
642		摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	4C	村松敏彦	11	66
423		諏訪岳～唐沢山	両毛	2005	2/10-11	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
184		高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
420	ｾ	石尊山～三石山	房総	2005	1/29-30	宿	2A	斎藤清一	6	127
618		とみやま水仙遊歩道・石尊山(県連ロングハイク)	房総	2009	1/31－2/1	山麓泊	3A	斉藤清一	10	122
841		嵯峨山・石尊山～烏帽子山（県連）	房総	2014	1/25-26	山麓泊	2A	小川誠二郎	15	70
8		石老山（公開登山）	中央沿線	1997	3/16	日帰り	A	柴、細野清	1	12
188		石老山＜富士周辺シリーズ＞	中央沿線	2001	1/14	日帰り	A	村松敏彦	7	1
479		鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2007	4/10	日帰り	2B	武内勇二	8	9
395		背戸峨廊	阿武隈	2004	8/22	日帰り	1B	中村八重子	6	71
370		モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
529		セドの沢右俣	丹沢	2007	4/15	日帰り	3C	堀口昭二	9	12
535		セドの沢左俣	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	堀口昭二	9	24
808		瀬淵山～高指山～不老山（甲東三山）	中央線沿	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆康	14	120
607		浅間尾根	奥多摩	2008	11/1	日帰り	2A	村松敏彦	10	93
659		雪入山～浅間山（忘年山行）	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110

146		**浅間嶺**	奥多摩	2000	3/26	日帰り	A	高橋英、安田	3	4
811		**浅間嶺**	奥多摩	2013	4/13	日帰り	1A	斉田記代美	15	5
26		**仙丈ヶ岳**	南ア	1997	9/27-28	山小屋	B	村松敏彦	1	45
218		甲斐駒ヶ岳～**仙丈岳**	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
219		仙丈岳	南ア	2001	7/28-29	小屋・テント	B	清家三保子	4	46
451		**仙丈ヶ岳**～三峰山～塩見岳	南ア	2005	5/8	山小屋	4D	大串秀雄	7	66
785		**仙丈ヶ岳**	南アルフ	2012	3/5	山小屋	3B	武内勇二	14	58
860		甲斐駒ケ岳～**仙丈ケ岳**	南アルプス	2014	7/21-24	山小屋	3C	大山冬臣	15	114
703		**戦場ヶ原**～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴　勇	12	92
819		**戦場ヶ原**・太郎山	日光	2013	6/22-23	テント	2B	武内勇二	15	25
819		戦場ヶ原・**太郎山**	日光	2013	6/22-23	テント	2B	武内勇二	15	25
644		**仙丈ヶ岳**～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	3C	外崎　蓮	11	72
818		甘利山～千頭**星山**	中央線沿線	2013	6/16	日帰り	1A	中村育子	15	23
73		平標山～**仙ノ倉山**	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274		平標山～**仙ノ倉山**	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
792		平標山～**仙の倉山**～万太郎山～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14	76
396	ソ	**相馬山**～榛名富士	上州	2004	8/29	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
722		**曾倉山**～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12	142
116		**蕎麦粒山**	奥多摩	1999	8/8	日帰り	A	斎藤清一	2	70
356		**蕎麦粒山**～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
433		笙の岩～**蕎麦粒山**～棒の折	奥多摩	2006	4/25	日帰り	4B	青山寿子	7	19
449		笙の岩～**蕎麦粒山**	奥多摩	2006	7/24	日帰り	3B	中村隆泰	7	60
536		霧島・**祖母山**・烏帽子岳	九州	2008	5/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
321	タ	**大源太山**～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
765		大洞山～中沢山～**泰光寺山**～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14	4
59		田代山～**帝釈山**	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
810		**大小山**・大坊山(新人歓迎山行)	足利・桐生	2013	4/7	足利・桐生	1A	箕輪完二	15	1
843		**大小山**～大坊山	足利・桐生	2014	3/29	日帰り	1A	箕輪完二	15	77
214		利尻山・**大雪山**	北海道	2002	7/3-9	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
404		大山・蒜山	大山	2004	10/1-5	宿	2B	斎藤清一	6	90
400		立山三山～**大日三山**	北ア	2005	9/17-21	山小屋	3C	外崎　蓮	6	80
786		立山～奥大日岳～**大日岳**	北アルフ	2012	8/7 - 10	山小屋	3B	高橋重	14	60
810		大小山・**大坊山**（新人歓迎山行）	足利・桐生	2013	4/7	足利・桐生	1A	箕輪完二	15	1
843		大小山～**大坊山**	足利・桐生	2014	3/29	日帰り	1A	箕輪完二	15	77
58		**大菩薩峠**	大菩薩	1998	6/28	日帰り	A	大串秀雄	1	100
150		**大菩薩嶺**	大菩薩	2000	4/23	日帰り	B	武内勇二	3	11
364		**大菩薩嶺**	大菩薩	2004	2/22	日帰り	3C	武内勇二	5	170
513		**大菩薩嶺**～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2006	11/5-6	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
650		**大菩薩嶺**	秩父	2009	10/24－25	山小屋	2A	中村隆泰	11	90
839		**大菩薩嶺**～小金沢連峰	秩父大菩薩嶺	2014	1/11-12	山小屋	2B	武内勇二	15	66
78		**大無間山**	南ア	1998	11/21-23	テント	C	清家三保子	1	156
73		**平標山**～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274		**平標山**～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
286		谷川岳～**平標山**	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
792		**平標山**～仙の倉山～万太郎山～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14	76
159		**高岩**	上州	2000	6/10	日帰り	B+	柴　勇	3	33
609		**高岩山**～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
155		景信山～**高尾山**	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
519		**高尾山**	中央沿線	2006	12/17	日帰り	1A	中村八重子	8	124
575		**高尾山**	中央沿線	2008	2/11	日帰り	1A	坂巻・小松	9	130
678		陣馬山～景信山～**高尾山**	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
145		**高川山**	中央沿線	2000	3/12	日帰り	A	日下芳十	3	3
368		**高川山**	中央沿線	2004	4/4	日帰り	2A	中村八重子	6	5
837		**高川山**	中央沿線	2013	12/15	日帰り	1A	瀬田映子	15	62
884		**高川山**	中央沿線	2015	1/12	日帰り	1A	武内勇二	15	164
568		**高宕山**～八郎塚（忘年山行）	房総	2007	12/9	日帰り	2A	佐藤健一	9	112
196		菰釣山・**高指山**＜富士周辺シリーズ＞	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴　勇	7	18
808		瀬淵山～**高指山**～不老山（甲東三山）	中央線沿	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆康	14	120
672		神峰山～**高鈴山**(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12	4

184		高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
111		夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
244		高柄山	中央沿線	2001	11/25	日帰り	A	中村八重子	4	101
834		鶴島御前山～高柄山	中央沿線	2013	11/24	日帰り	2B	大畠清江	15	56
570		鷹取山	三浦半島	2008	1/20	日帰り	1A	中村隆泰	9	117
770		高取山～仏果山～経ヶ岳	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14	16
319		鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
385		榧ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
680		鷹ノ巣山	奥多摩	2010	5/9	日帰り	2B	青山寿子	12	25
107		高畑山～倉岳山（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
712		高畑山～倉岳山	中央線沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12	117
234		高原山	那須	2001	10/17	日帰り	A	中村隆泰	4	79
743		雲の平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
822		高松岳・焼石岳	東北	2013	7/28-30	避難小屋	3B	武内勇二	15	30
624		高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋　重	11	11
521		高水山～棒の折山	奥多摩	2007	1/21	日帰り	2A	千葉有子	8	129
93		高水三山	奥多摩	1999	3/28	日帰り	A	日下芳十	2	19
264		高水三山	奥多摩	2002	5/18	日帰り	A	松本　豊	4	145
888		高水三山（卒業山行）	奥多摩	2015	2/11	日帰り	1A	石塚あさ子	15	171
648		棒の折山～高水２山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	3A	原田和昭	11	85
820		高峰山～篭ノ登山～三方ケ峰	浅間連峰	2013	7/7	日帰り	2B	村松敏彦	15	26
85		高山	日光	1999	1/24	日帰り	A	外崎、村松敏	2	6
306		日光高山	日光	2003	2/11	日帰り	B	細野省二	4	272
488		高山（県連ハイク）	日光	2006	6/8	日帰り	2A	柴田節子、県連	8	32
573		高山	日光	2008	1/27	日帰り	2B	武内勇二	9	124
760		高山(BOM研修)	日光	2012	1/15	日帰り	2B	高橋重	13	97
199		高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
392		宝川ナルミズ沢	谷川	2004	8/8-9	テント	4D	村松敏彦	6	61
44		滝子山	中央沿線	1998	3/22	日帰り	B	清家三保子	1	83
255		滝子山	中央沿線	2002	3/17	日帰り	A+	武内勇二	4	128
287		滝子山	中央沿線	2002	10/6	日帰り	A+	榊原文子	4	224
414		滝子山	中央沿線	2004	11/28	日帰り	3B	青山寿子	6	115
561		百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2010	10/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
673		アモウ沢～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12	7
731		滝子山(BOM研修)	南大菩薩連峰	2011	4/29	日帰り	2B	村松敏彦	13	10
50		武川岳	奥武蔵	1998	5/17	日帰り	A+	中村隆泰	1	90
842		岳ノ山～大鳥屋山	足利山塊	2014	3/21	日帰り	1A	村松敏彦	15	75
59		田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
303		達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
757		旭山～達沢山（忘年山行）	中央線沿線	2011	12/4	日帰り	2A	坂巻明	13	87
3		蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	ﾃﾝﾄ&小屋	C	川名	1	6
502		蓼科山	八ヶ岳	2006	9／30-10	日帰り	2B	石垣吉朗	8	75
677		蓼科山	八ヶ岳	2010	4/24-25	テント	3C	高橋重	12	19
117		剱岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント／小屋	C	柴　勇	2	72
450		剣岳～立山三山	北ア	2006	8/4-8	山小屋	5D	村松敏彦	7	62
786		立山～奥大日岳～大日岳	北アルフ	2012	8/7 - 10	山小屋	3B	高橋重	14	60
400		立山三山～大日三山	北ア	2004	9/17-20	山小屋	3C	外崎　蓮	6	80
476		兜山～棚山	中央沿線	2007	3/13	日帰り	3A	村松敏彦	8	1
520		谷川岳	谷川	2006	12/22-23	テント	4D	村松敏彦	8	126
542		谷川岳	谷川	2007	6/16-17	山小屋	2B	高橋　重	9	46
590		谷川岳山麓（リーダー研修）	谷川	2008	6/28-29	山麓泊	2B	石垣吉朗	10	49
286		谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
792		平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14	76
793		西黒尾根～谷川岳（１５周年記念山行）	谷川	2012	9/22-23	山小屋	2B	村松敏彦	14	79
794		蓬峠～武能岳～茂倉岳～谷川岳（15周年記念山	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14	82
795		天神尾根～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/23	日帰り	2A	高橋英雄	14	85
493		樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2006	7/2-7	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
71		太郎山	日光	1998	10/4	日帰り	B	三浦七郎	1	136
342		女峰･大真名子山･太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109

684		太郎山（県連ウィークディ山行）	日光	2010	5/27	日帰り	2B	原田和昭	12	33
160		リーダー研修ｉｎ丹沢	丹沢	2000	6/17-18	テント	B	村松敏彦	3	34
270		リーダー研修ｉｎ丹沢	丹沢	2002	6/29-30	テント	B/C	村松敏彦	4	166
30		丹沢主脈縦走（公開登山）	丹沢	1997	10/25-26	山小屋	B	村松敏彦	1	57
129		丹沢主脈縦走（新人研修）	丹沢	1999	11/13-14	山小屋	A++	細野省二	2	115
410		丹沢主脈	丹沢	2004	11/6-7	宿	1A	中村隆泰	6	106
53		丹沢主稜縦走	丹沢	1998	6/6-7	山小屋	B	柴　勇	1	93
103		丹沢三ッ峰	丹沢	1999	5/15-16	山小屋	B	清家三保子	2	45
651		鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/	山小屋	2A	北川晴久	11	93
667		鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴　勇	11	129
753		丹勢山	日光	2011	10/23	日帰り	2A	原田和昭	13	78
383		玉原高原	上州	2004	6/19-20	宿	2B	清家三保子	6	35
772		玉原高原～尼ケ禿山～ブナ平（県連）	上州	2012	5/10	日帰り	1A	小川誠二郎	14	20
132	チ	秩父御岳山	奥武蔵	1999	11/28	日帰り	A	安田みづほ	2	121
441		秩父御岳	奥武蔵	2005	5/29	日帰り	1A	中村八重子	7	36
800		秩父御嶽山	奥秩父	2012	11/4	日帰り	2A	坂巻明	14	97
94		茶臼岳	那須	1999	4/10-11	山小屋	C	柴　勇	2	20
263		甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406		甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2006	10/16-19	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
686		茶臼岳～三本槍岳～朝日岳（市民登山）	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
781		会津駒ヶ岳～中門岳	南会津	2012	6/30 - 7/1	山小屋	2B	村松敏彦	14	46
172		燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391		燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
583		涸沢･蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
20		鳥海山	出羽	1997	7/19-21	山小屋	B	柴　勇	1	32
169		鳥海山	出羽	2000	8/18-20	山小屋	B	外崎　蓮	3	60
217		鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
456		鳥海山	出羽	2005	8/26-29	山小屋	3B	武内勇二	7	79
863		鳥海山	出羽	2014	8/7-9	山小屋	3B	箕輪完二	15	123
49		蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
747		常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	2011	12/15	山小屋	3B	高橋英雄	13	60
855		長七郎山	赤城・榛名	2014	6/19	日帰り	1B	坂巻明	15	105
28		長者ケ岳～天子ケ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴　勇	1	54
846		長者ケ岳～天子ケ岳	富士周辺	2014	4/18	日帰り	2A	郷田進	15	83
206		長者ヶ岳～天子ヶ岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
43	ツ	筑波山	常磐	1998	3/21	日帰り	A	川名	1	82
80		筑波山　（忘年山行）	常磐	1998	12/6	日帰り	A	日下芳十	1	160
127		筑波山（ふれあいﾊｲｸ）	常磐	1999	10/24	日帰り	A	柴、県連	2	110
299		筑波山（二期生新春山行）	茨城	2003	1/3	日帰り	A	日下芳十	4	256
358		筑波山	常磐	2004	1/3	日帰り	1A	日下芳十	5	161
419		筑波山	常磐	2005	1/3	日帰り	1A	日下芳十	6	125
827		筑波山（ウイズハイク）	筑波山塊	2013	9/7	日帰り	1A	外崎蓮	15	43
711		筑波山	茨城	2010	11/6－7	テント	4A	川下敬史	12	113
458		土岳・花貫（ウイズハイク）	常磐	2005	9/23	日帰り	2A	日下芳十	7	84
707		津梅川・追良瀬川	白神山地	2010	9/22－26	テント	3C	千葉有子	12	101
6		燕岳	北ア	1997	2/8-11	テント	C	川名	1	10
119		燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
172		燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391		燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
698		餓鬼岳～燕岳	北アルプス	2010	8/12～15	山小屋	3C	高橋英雄	12	74
783		燕岳～大天井岳～常念岳	北アルフ	2012	7/27 - 30	山小屋・ﾃﾝﾄ	3C	武内勇二	14	52
530		坪山	中央沿線	2007	4/22	日帰り	1A	清家三保子	9	13
886		津森山～人骨山・東大演習林（県連）	房総	2015	1/24-25	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	167
108		本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
467		鶴ヶ鳥屋山	中央沿線	2005	10/30	日帰り	2B	柴　勇	7	107
849		本社ヶ丸～鶴ｶﾞ鳥屋山	中央沿線	2014	5/11	日帰り	2B	田村光子	15	88
117		剱岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント／小屋	C	柴　勇	2	72
450		剣岳～立山三山	北ア	2005	8/4-7	山小屋	4D	村松敏彦	7	62
226		剣山	四国	2001	8/31夜-9/	民宿	A	斎藤清一	4	55

668		鶴島御前山	中央沿線	2010	2/21	日帰り	1B	中村八重子	11	132
834		鶴島御前山～高柄山	中央沿線	2013	11/24	日帰り	2B	大畠清江	15	56
606		奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
567	テ	手賀沼一周	東葛	2007	12/1	日帰り	1A	小川誠二郎	9	110
611		手賀沼一周	東葛	2008	12/1	日帰り	1A	高橋重	10	102
658		手賀沼一周	東葛	2009	11/29	日帰り	1A	小川誠二郎	11	108
716		手賀沼一周	東葛	2010	11/28	日帰り	1A	小川誠二郎	12	126
756		手賀沼一周	東葛飾	2011	11/27	日帰り	1A	小川誠二郎	13	85
802		手賀沼一周	東葛	2012	11/25	日帰り	1A	小川誠二郎	14	102
836		手賀沼一周	東葛飾	2013	12/8	日帰り	1A	小川誠二郎	15	61
880		手賀沼一周	我孫子・柏	2014	11/30	日帰り	2A	本田愛子	15	155
334		光岳	南ア	2003	8/7-10	山小屋	4C	外崎　蓮	5	84
388		易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎　蓮	6	48
699		聖岳～光岳	南アルプス	2010	8/18－22	山小屋	4C	高橋　重	12	78
143		晃石山(ﾃﾙｲｼ)	日光	2000	2/11	日帰り	A	細野清子	2	141
366		大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
776		大高山～天覚山～天覧山	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆康	14	29
45		天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
378		赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
508		天狗尾根　（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/14-15	避難小屋	3C	堀口昭二	8	92
709		天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	避難小屋	3B	武内勇二	12	108
624		高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋　重	11	11
28		長者ケ岳～天子ケ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴　勇	1	54
846		長者ケ岳～天子ケ岳	富士周辺	2014	4/18	日帰り	2A	郷田進	15	83
206		長者ヶ岳～天子ヶ岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
152		天上山	伊豆七島	2000	5/3-5	民宿	A	細野清子	3	16
795		天神尾根～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/23	日帰り	2A	高橋英雄	14	85
350		酉谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475		酉谷山～天祖山	奥多摩	2007	2/11-13	避難小屋	4C	青山寿子	7	127
713		雲取山～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12	119
516		殿平～鞍吾山	中央沿線	2006	11/23	日帰り	2B	武内勇二	8	115
661		天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
510		天女山　（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/15	日帰り	1A	松本豊・中村隆	8	100
4		天覧山	奥武蔵	1997	1/15	日帰り	B	村松敏彦	1	8
776		大高山～天覚山～天覧山	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆康	14	29
431	ト	道志二十六夜山	道志	2005	4/23	日帰り	1B	中村隆泰	7	17
813		今倉山～道志二十六夜山	道志	2013	5/6	日帰り	1A	大畠清江	15	8
883		秋山二十六夜山～赤鞍ケ岳・今倉山～道志二十六夜山	道志山塊	2015	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	15	161
886		津森山～人骨山・東大演習林（県連）	房総	2015	1/24-25	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	167
181		塔ノ岳～鍋割山（新人卒業）	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
365		蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
377		塔ノ岳～丹沢三ッ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
437		塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2005	5/14-15	山小屋	3B	柴　勇	7	28
667		鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴　勇	11	129
809		ヤビツ峠～塔ノ岳	丹沢	2013	2/24	日帰り	2B	北川勝久	14	123
626		堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
292		北信三山（黒姫山、戸隠山、飯縄山）	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329		戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
447		美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2006	7/11-17	山麓泊	5D	大串秀雄	7	52
46		徳並山	大菩薩	1998	4/11	日帰り	B	村松敏彦	1	86
662		徳並山	中央沿線	2010	1/17	日帰り	2B	武内勇二	11	118
352		戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
324		戸倉三山	奥多摩	2003	6/7-8	国民宿舎	A+	斎藤清一	5	54
657		馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
515		伊予ヶ岳・富山（県連４０周年）	房総	2007	11/18-20	テント	1A	高橋英雄	8	112
618		とみやま水仙遊歩道・石尊山（県連ロングハイク）	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	1A	斉藤清一	10	122
447		美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2008	7/11-19	山麓泊	7D	大串秀雄	7	52
574		鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2008	2/3	日帰り	2B	千葉有子	9	125
726		皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151

797		栗駒山・**虎毛山**	東北	2012	10/20-21	テント	2B	外崎蓮	14	90
718		**虎丸山**～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12	133
126		秋山郷～**鳥甲山**	上信	1999	10/23-24	（テント）	B+	細野省二	2	107
397		**鳥甲山**	上信	2004	9/4-5	テント	4D	青山寿子	6	74
350		**酉谷山**～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475		**酉谷山**～天祖山	奥多摩	2006	2/11-12	避難小屋	3C	青山寿子	7	127
63	ナ	**苗場山**	信越	1998	7/19-20	山小屋	B	外崎　蓮	1	113
230		**苗場山**	信越	2001	9/29-30	山小屋	B	安田みづほ	4	66
459		**苗場山**	信越	2005	10/1-2	山小屋	3B	清家三保子	7	88
588		**苗場山**	谷川	2008	6/15-16	山小屋	3B	原田君子	10	44
782		**苗場山**	北信越	2012	7/21 - 22	山麓泊	2B	外崎蓮	14	49
697		**長尾谷**	奥多摩	2010	8/8	日帰り	2B	千葉有子	12	72
784		**長尾谷**	奥多摩	2012	7/29	日帰り	3C	村松敏彦	14	56
391		燕～大天井～常念～蝶～**長堀岳**	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
765		大洞山～**中沢山**～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14	4
487		笠取山～和名倉～飛竜～雲取～**長沢山**	奥秩父・奥多摩	2010	6/2-9	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
403		南岳～**中岳**～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2005	9/25-29	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
151		大塚山～**中塚山**	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎　蓮	3	13
890		**長瀞アルプス**～宝登山	秩父	2015	2/21	日帰り	1A	郷田進	15	175
280		越後三山（越後駒ケ岳、**中の岳**、八海山）	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
631		三本槍岳～**流石山**～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11	38
5		**鳴虫山**	日光	1997	1/26	日帰り	A	三浦七郎	1	9
104		**鳴虫山**	日光	1999	5/22	日帰り	A	原田君子	2	46
276		**鳴虫山**	日光	2002	7/21	日帰り	A	松本　豊	4	185
422		**鳴虫山**	日光	2005	2/6	日帰り	2C	清家三保子	6	132
746		**鳴虫山**	日光	2011	8/12	日帰り	1A	桐生恭子	13	58
486		**那須旭岳**・大白森山	那須	2006	5/27-28	テント	3C	村松敏彦	8	25
32		**七ヶ岳**・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
871		**七ケ岳**・荒海山	南会津	2014	10/24-25	テント	2B	村松敏彦	15	141
300		**菜畑山**	道志	2003	1/12	日帰り	A	大串恵子	4	257
31		**鍋割山**(支援隊)	丹沢	1997	10/25	日帰り	A	加藤秀明	1	60
91		**鍋割山**	丹沢	1999	3/20	日帰り	A	三浦七郎	2	14
181		塔ノ岳～**鍋割山**（新人卒業）	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
609		高岩山～**鍋割山**	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
651		**鍋割山**～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/	山小屋	2A	北川晴久	11	93
667		**鍋割山**～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴　勇	11	129
701		**ナメラ沢**	奥秩父	2010	8/21夜-22	湖畔仮眠	2B	堀口昭二	12	85
606		**奈良倉山**～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
773		**鳴神山**	前日光	2012	5/13	日帰り	2A	箕輪完二	14	22
90		**難台山**～吾国山（卒業山行）	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
714		**奥久慈男体山**	茨城	2010	11/14	日帰り	2A	坂巻　明	12	122
477		**難台山**～吾国山	茨城	2006	3/26	日帰り	1B／2B	柴　勇	8	3
653		**難台山**～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
538		**男体山麓荒沢水源**	日光	2007	5/27	日帰り	1A	中村八重子	9	33
374	ニ	五頭山・菱ヶ岳・**二王子岳**	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
584		二王子岳	飯豊	2008	5/31-6/1	避難小屋	3C	石垣吉朗	10	27
859		**西吾妻山**～東大嶺	吾妻連峰	2014	7/20-21	避難小屋	1B	外崎蓮	15	112
793		**西黒尾根**～谷川岳（１５周年記念山行）	谷川	2012	9/22-23	山小屋	2B	村松敏彦	14	79
57		**西沢渓谷**	奥秩父	1998	6/21	日帰り	A	中村隆泰	1	99
337		**西岳**～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎　蓮	5	93
614		**西岳**～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎　蓮	10	110
3		蓼科山、**西天狗岳**	八ヶ岳	1997	1/2-4	ﾃﾝﾄ&小屋	C	川名	1	6
442		**西の湖**・赤岩	日光	2005	6/15	日帰り	1A	榊原文子	7	39
548		焼岳～**西穂高岳**	北ア	2008	7/18-21	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
61		**西穂高岳**～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1998	7/18-20	山小屋	D	村松敏彦	1	107
77		今倉山～**二十六夜山**	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
398		**日光白根山**	日光	2004	9/12	日帰り	2B	大串恵子	6	76
540		**日光白根山**	日光	2007	6/7	日帰り	2B	斎藤清一	9	37
489		**日光男体山**（市民登山）	日光	2006	6/11	日帰り	3A	中村隆泰	8	34

671		日白山	谷川連峰	2010	3/27-28	テント	4D	村松敏彦	12	1
440		入笠山	南ア	2005	5/29	日帰り	1A	細野清子	7	34
271		秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
67		女峰山	日光	1998	9/19-20	無人小屋	C	村松峯子	1	130
342		女峰･大真名子山･太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
197	ヌ	沼津アルプス＜富士周辺シリーズ＞	沼津	2001	4/1	日帰り	A+	村松峯子	7	20
446	ネ	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2008	6/26-30	山麓泊	6B	高橋　潔	7	49
821		猫魔ｹ岳・磐梯山	会津地方	2013	7/20-21	テント	2B	外崎蓮	15	28
589		温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
434		根本山～熊鷹山	桐生	2005	4/29	日帰り	2B	外崎　蓮	7	21
693	ノ	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12	60
344		荒島岳･能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
343		鋸山（ウィズハイク）	房総	2003	9/27	日帰り	1A	外崎　蓮	5	112
460		庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2006	10/2-4	避難小屋	4C	大串秀雄	7	90
551		大岳山～鋸尾根	奥多摩	2008	8/13	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
661		天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
779		鋸山・弥彦山	新潟	2012	6/16-17	テント	1B	外崎蓮	14	41
338		御嶽山・乗鞍岳	木曽・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
732		乗鞍岳・美ヶ原（春山山行）	北アルプス	2011	5/3-5/5	テント	4C	村松敏彦	13	13
577	ハ	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
62		白山	白山	1998	7/17-20	テント	B+	細野省二	1	110
752		羽黒山	山形	2011	10/14-16	テント	1A	武内勇二	13	76
252		箱根・浅間山	箱根	2002	2/24	日帰り	A	斎藤清一	4	120
692		八間山・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12	57
173		八幡平･焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
545		秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2008	6/30-7/3	山麓泊	3B	柴　勇	9	52
601		岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
741		岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎　蓮	13	41
568		高宕山～八郎塚（忘年山行）	房総	2008	12/10	日帰り	3A	佐藤健一	9	112
280		越後三山（越後駒ケ岳、中の岳、八海山）	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
503		八海山・平ヶ岳	越後	2006	10/3-5	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
340		岩木山･八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
633		奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	3B	細野清子	11	43
215		七面山～八紘嶺＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
657		馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
518		鶏足山～花香月山（忘年山行）	常磐	2007	12/11	日帰り	2B	川下敬史	8	120
523		花咲山	中央沿線	2007	1/28	日帰り	1A	中村隆泰	8	133
204		鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘／テント	A+,C	細野清子	4	12
798		鼻曲山	上州	2012	10/21	日帰り	1A	高橋英雄	14	93
409		破風山	奥秩父	2004	10/31	日帰り	2C	日下芳十	6	104
522		浜石岳	駿河	2007	1/21	日帰り	1A	北川勝久	8	131
98		ハマイバ丸(山菜取り山行)	大菩薩	1999	4/29	日帰り	B	柴　勇	2	28
372		大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
161		早池峰･薬師岳	北上	2000	7/1－2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
444		早池峰山・栗駒山（市民登山）	北上	2005	6/17-19	山麓泊	2B	石垣吉朗	7	43
336		爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
171		榛名山	上州	2000	8/27	日帰り	A	細野清子	3	66
736		榛名山（市民登山）	上州	2011	6/5	日帰り	2A	柴　勇	13	22
396		相馬山～榛名富士	上州	2005	8/30	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
511		半月山（県連平日ハイク）	日光	2006	10/19	日帰り	1A	日下芳十、県連	8	102
851		半月山	奥日光	2014	5/26	日帰り	2A	瀬田映子	15	91
872		半月山	奥日光	2014	10/29	日帰り	2A	瀬田映子	15	143
382		磐梯山	会津	2004	6/6	日帰り	2B	村松敏彦	6	32
635		磐梯山	会津	2009	7/12	日帰り	2B	小川誠二郎	11	48
821		猫魔ｹ岳・磐梯山	会津地方	2013	7/20-21	テント	2B	外崎蓮	15	28
27	ヒ	尾瀬集中登山(創立記念)　Ｂ：燧ヶ岳	尾瀬	1997	10/9-11	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	CL柴勇、Ｌ柴	1	47
176		燧ヶ岳	尾瀬	2000	10/7-8	山小屋	A+	外崎　蓮	3	81
435		燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2005	8/1-3	テント	4D	村松敏彦	7	23
830		燧ヶ岳	尾瀬	2013	10/12-13	山小屋	2B	外崎　蓮	15	50

796		神室山～小又山～火打岳	東北	2012	10/5 - 7	避難小屋	3C	武内勇二	14	87
114		妙高山・火打山	頚城	1999	7/31-8/1	テント／小屋	B	柴　勇	2	66
868		火打山～妙高山	頚城山塊	2014	9/26-27	山小屋	3B	箕輪完二	15	134
447		美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2005	7/11-16	山麓泊	4D	大串秀雄	7	52
675		比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
636		東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	4D	佐藤健一	11	50
859		西吾妻山～東大嶺	吾妻連峰	2014	7/20-21	避難小屋	1B	外崎蓮	15	112
887		北八ヶ岳（東天狗岳）	北八ヶ岳	2015	1/27-28	山小屋	2C･3C	大山冬臣	15	169
505		東八ヶ岳縦走（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	3C	柴　勇	8	84
374		五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
225		赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
699		聖岳～光岳	南アルプス	2010	8/18-22	山小屋	4C	高橋重	12	77
636		東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	5D	佐藤健一	11	50
886		津森山～人骨山・東大演習林（県連）	房総	2015	1/24-25	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	167
733		日向山	中央線沿線	2011	5/14	日帰り	1A	原田和昭	13	16
437		塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2007	5/14-17	山小屋	5B	柴　勇	7	28
34		桧洞丸	丹沢	1997	11/15	日帰り	A+	三浦七郎	1	65
320		桧洞丸	丹沢	2003	5/21	日帰り	A+	中村隆泰	5	35
427		加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2007	3/20-23	避難小屋	5B	青山寿子	7	5
75		御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
363		日の出山	奥多摩	2004	2/11	日帰り	2A	岡田秀子	5	169
424		日ノ出山	奥多摩	2005	2/20	日帰り	2B	中村隆泰	6	136
670		日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
691		御岳山～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12	55
762		大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103
491		森吉山・姫神山	東北	2007	6/26-28	山麓泊	2B／2A	細野清子	8	42
402		岩手山・姫神山	奥羽	2005	9/18-21	宿	4B	高橋英雄	6	85
633		奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	4B	細野清子	11	43
612		本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
269		会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2003	6/21夜一2	テント	B+	武内勇二	4	161
332		恋ノ岐沢･平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
503		八海山・平ヶ岳	越後	2007	10/3-6	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
643		笹子川大鹿沢平っ沢	中央沿線	2009	8/22	日帰り	2B	千葉有子	11	70
235		飛龍山	奥秩父	2001	10/20一21	山小屋	B	高橋英雄	4	81
487		笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2008	6/2-7	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
705		飛龍山	奥秩父	2010	9/11-12	山小屋	3A	小川誠二郎	12	97
365		蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
651		鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/	山小屋	2A	北川晴久	11	93
404		大山・蒜山	大山	2005	10/1-6	宿	2B	斎藤清一	6	90
88		日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353		日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
265	ｱ	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
130		武甲山	奥武蔵	1999	11/21	日帰り	A	中村隆泰	2	118
546		武甲山	奥武蔵	2007	7/7	日帰り	1A	小川誠二郎	9	55
832		大持山～子持山～武甲山	奥武蔵	2013	11/9	日帰り	2B	田村光子	15	54
124		白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9一11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448		岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2007	7/22-26	テント	5D	細野清子	7	56
23		富士山	富士周辺	1997	9/13-14	山小屋	B	川名	1	39
272		富士山	富士周辺	2002	7/6一7	山小屋	B	松本　豊	4	172
272		富士山エコフォーラム	富士周辺	2002	7/6-8	ホテル	A	労山	4	172
272		富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本　豊	4	172
301		富士山	富士周辺	2003	1/12-13	テント	B	堀口昭二	4	260
453		富士山	富士周辺	2005	8/20-21	山小屋	3B	石垣吉朗	7	73
501		富士山～佐白山（ウィズハイク）	茨城	2006	9/23	日帰り	1A	外崎　蓮	8	71
721		富士山	富士山	2010	12/18-19	テント	3C	堀口昭二	12	140
221		富士山Ａコース吉田口	富士周辺	2001	8/18	日帰り（山小屋）	B	日下芳十	7	43
222		富士山Dコース富士宮口	富士周辺	2001	8/18-19	山小屋	B	榊原文子	7	45
223		富士山Ｂコース吉田口(駅から)	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	C	川下敬史	7	50
224		富士山Ｃコース須走り口	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	B	原田君子	7	53

706		二子山・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12	99
381		水沢山～二ッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋　潔	6	30
428		二ツ箭山（新人歓迎山行）	常磐	2005	3/27	日帰り	1B	外崎　蓮	7	7
857		小野岳・二岐山	阿武隈	2014	6/29-30	山麓泊	2B	村松敏彦	15	108
69		仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247		仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
719		仏果山～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12	135
770		高取山～仏果山～経ヶ岳	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14	16
327		船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
794		蓬峠～武能岳～茂倉岳～谷川岳（15周年記念山	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14	82
447		美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2007	7/11-18	山麓泊	6D	大串秀雄	7	52
426		不老山	西丹沢	2005	3/19	日帰り	2B	原田和昭	7	3
808		瀬淵山～高指山～不老山（甲東三山）	中央線沿	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆康	14	120
125	ホ	鳳凰三山	南ア	1999	10/16-17	山小屋	B	清家三保子	2	105
339		鳳凰三山	南ア	2003	8/30-31	テント	3C	青山・千葉	5	100
558		鳳凰三山縦走	南ア	2007	9/29-30	山小屋	2B	坂口よし江	9	87
596		鳳凰三山	南ア	2008	8/14-15	山小屋	2B	本間恭子	10	63
826		鳳凰三山(薬師岳～観音岳～地蔵岳)	南ア	2013	8/30-31	山小屋･ﾃﾝﾄ	3B	郷田進	15	41
807		宝篋山(卒業山行)	茨城	2013	2/3	日帰り	1A	矢澤節雄	14	117
845		宝篋山（新人歓迎山行）	茨城県南	2014	4/6	日帰り	1A	坂巻・斉田	15	78
167		木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
552		木曽駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2008	8/12-15	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638		木曽駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	3B	村松敏彦	11	56
86		房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｷﾝｸﾞ	房総	1999	1/30-31	ログハウス	A+	県　連	2	8
141		房総ロングハイク	房総	2000	1/29-30	ログハウス前泊	A+	斎藤、県連	2	137
248		房総ロングハイク	房総	2002	1/26-27	ログハウス	A+	斉藤、県連	4	110
304		房総ロングハイク	房総	2003	1/25―26	ログハウス	B	高橋英、県連	4	267
360		房総ロングハイク	房総	2004	1/24-25	ログハウス	3A	斎藤清一、県連	5	164
473		房総ロングハイク	房総	2006	1/28-29	ログハウス	2A	柴田節子、県連	7	122
517		房総ロングハイク	房総	2006	12/23-24	山麓泊	1A	柴田節子、県連	8	117
572		房総ロングハイク	房総	2008	1/26-27	山麓泊	3A	坂口よし江、県連	9	122
664		房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｸ	房総	2010	1/30-31	山麓泊	2A	小川誠二郎	11	123
421		棒立山	谷川	2005	1/29～30	テント	4D	川下敬史	6	130
526		棒立山	谷川	2007	3/31-4/1	テント	3C	外崎　蓮	9	5
48		棒の折山　（新人歓迎）	奥武蔵	1998	4/26	日帰り	A	外崎、村松敏	1	88
147		棒ノ折山	奥多摩	2000	4/9	日帰り	B	三浦七郎	3	6
433		笙の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2007	4/26	日帰り	5B	青山寿子	7	19
521		高水山～棒の折山	奥多摩	2008	1/22	日帰り	2A	千葉有子	8	129
648		棒の折山～高水２山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	2A	原田和昭	11	85
115		烏帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野省二	2	68
890		長瀞アルプス～宝登山	秩父	2015	2/21	日帰り	1A	郷田進	15	175
134		本仁田山	奥多摩	1999	12/12	日帰り	A	日下芳十	2	125
612		本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
38		本社ヶ丸	中央沿線	1998	1/25	日帰り	A+	細野省二	1	72
108		本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
534		本社ヶ丸	中央沿線	2007	5/13	日帰り	3B	原田和昭	9	22
605		本社ヶ丸北面尾根	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2B	佐藤健一	10	88
849		本社ヶ丸～鶴ｶﾞ鳥屋山	中央沿線	2014	5/11	日帰り	2B	田村光子	15	88
566		愛宕山・ポンポン山	京都	2008	11/20-23	山麓泊	2A	細野清子	9	105
499	マ	錫ヶ岳～前白根山	日光	2007	9/9-11	テント	4C	村松敏彦	8	66
61		西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	2000	7/18-22	山小屋	D	村松敏彦	1	107
390		前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24―26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
787		前穂高岳～奥穂高岳	北アルフ	2012	8/9 - 11	山小屋	3C	矢野貞子	14	64
9		巻機山	越後	1997	4/12-13	テント	C+	坪井三枝子	1	15
210		巻機山（公開登山）	上越	2001	6/9-10	旅館泊	B	加藤秀明	4	22
321		大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
720		巻機山(クリスマス山行)	越後	2010	12/18-19	テント	3C	村松敏彦	12	137
142		幕山	湯河原	2000	2/6	日帰り	A	安田みづほ	2	140
623		真名井沢北稜	奥多摩	2009	4/5	日帰り	2B	青山寿子	11	9

562		丸山	奥武蔵	2007	10/28	日帰り	1A	中村隆泰	9	96
469		天城山（万三郎岳～万二郎岳）	伊豆	2005	11/13-14	山麓泊	3B	大串恵子	7	111
469		天城山（万三郎岳～万二郎岳）	伊豆	2006	11/13-15	山麓泊	4B	大串恵子	7	111
498		万太郎谷	谷川	2006	9/2-3	テント	4D	佐藤健一	8	64
792		平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14	76
273	ミ	御神楽岳	越後	2002	7/12-14	テント	C	細野省二	4	176
313		稲含山･御荷鉾山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
254		三毳山	北関東	2002	3/17	日帰り	A	斎藤清一	4	126
514		菰釣山～三国山	丹沢	2007	11/13	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
341		未丈ヶ岳･荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
192		御正体山＜富士周辺シリーズ＞	道志	2001	2/17	日帰り	B	安田みづほ	7	11
201		御正体山＜富士周辺シリーズ＞	道志	2001	4/22	日帰り	B	安田みづほ	7	13
878		御正体山	道志山塊	2014	11/16	日帰り	2A	大畠清江	15	152
687		御正体山	道志山塊	2010	6/13	日帰り	2A	外崎蓮	12	48
236		瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376		瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
817		瑞牆山～金峰山	奥秩父	2013	6/7-8	山小屋	2B3B	高橋芳恵	15	21
737		瑞牆山(BOM研修)	奥秩父	2011	6/25-26	テント	2B	武内勇二	13	31
381		水沢山～二ッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋　潔	6	30
726		皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
262		水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2002	5/12	夜行日帰り	B/C	堀口昭二	4	140
480		水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2006	4/15-16	テント	3D	佐藤健一	8	11
634		水根沢谷	奥多摩	2009	7/5	日帰り	2C	柴　勇	11	46
137		水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
163		籠ノ登山･水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
725		黒斑山・水の塔山	浅間	2011	2/5－6	山麓泊	3C	高橋重	12	149
75		御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
762		大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103
691		御岳山～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12	55
420		石尊山～三石山	房総	2006	1/29-31	宿	2A	斎藤清一	6	127
601		岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
741		岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎　蓮	13	41
12		三ツ峠山	富士周辺	1997	5/4	日帰り	A	村松敏彦	1	20
386		三ツ峠山	富士周辺	2004	7/11	日帰り	2B	中村八重子	6	43
547		三ツ峠山	富士周辺	2007	7/8	日帰り	2B	中村八重子	9	57
599		三ツ峠山	富士周辺	2008	9/7	日帰り	2A	中村隆泰	10	71
189		三ッ峠山～黒岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
805		三つ峠山	富士急沿	2013	1/13-14	山小屋	2B	武内勇二	14	112
18		大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295		大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
377		塔ノ岳～丹沢三ッ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
451		仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2006	8/5-9	山小屋	5D	大串秀雄	7	66
715		大山三峰山	丹沢	2010	11/21	日帰り	2B	千葉有子	12	124
758		三峰山	丹沢	2011	12/11	日帰り	2B	外崎　蓮	13	92
35		三頭山　（忘年山行）	奥多摩	1997	12/7	日帰り	A	清家三保子	1	66
241		三頭山	奥多摩	2001	11/11	日帰り	A	細野省二	4	94
243		奥多摩三山（大岳山、御前山、三頭山）	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
412		三頭山	奥多摩	2004	11/13	日帰り	2B	原田和昭	6	111
357		三頭山（登山教室）	奥多摩	2003	9/11	日帰り	1A	柴　勇	5	142
576		三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	避難小屋	3B	外崎蓮	10	1
632		三頭山	奥多摩	2009	6/28	日帰り	2B	小川誠二郎	11	41
799		三頭山～向山	奥多摩	2012	11/3	日帰り	2A	大畠清江	14	95
876		三頭山	奥多摩	2014	11/11	日帰り	1A	中村育子	15	149
157		南月山～三本槍ヶ岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
349		白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
470		南高尾山縦走	中央沿線	2005	11/23	日帰り	2B	榊原文子	7	114
403		南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2004	9/25-28	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
825		南岳～槍ケ岳	北アルプス	2013	8/22-25	テント	4C	武内勇二	15	38
506		南八ヶ岳(赤岳) B班　（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/14-15	テント	3C	武内勇二	8	87

507		南八ヶ岳(赤岳) C班　(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	山小屋	2B	川下敬史	8	90
384		南八ヶ岳縦走	八ヶ岳	2004	6/19-20	山小屋	3B	坂口よし江	6	38
865		南山展望台～愛宕山（岩間）（ウイズハイク）	筑波山塊	2014	9/6	日帰り	1A	斉田・外崎	15	128
149		蓑山	奥武蔵	2000	4/22	日帰り	A	安田みづほ	3	9
478		宮地山～岩殿山	中央沿線	2006	4/2	日帰り	3B	青山寿子	8	7
840		シダンゴ山～宮地山	丹沢	2014	1/19	日帰り	1A	外崎蓮	15	68
407		宮之浦岳・開聞岳	九州	2003	10/21-23	山小屋	2C	細野清子	6	97
114		妙高山・火打山	頚城	1999	7/31-8/1	テント／小屋	B	柴　勇	2	66
868		火打山～妙高山	頚城山塊	2014	9/26-27	山小屋	3B	箕輪完二	15	134
37		明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
592		明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
37		明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
123		金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
592		明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
490		妙法ヶ岳	奥秩父	2006	6/25	日帰り	1B	高橋英雄	8	40
799	ム	三頭山～向山	奥多摩	2012	11/3	日帰り	2A	大畠清江	14	95
656		武川岳	奥秩父	2009	11/21	日帰り	2A	田村光子	11	104
186		六ツ石山	奥多摩	2000	12/17	日帰り	A+	中村隆泰	3	99
319		鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
282	メ	飯盛山	八ヶ岳	2002	8/31	日帰り	A	高橋芳恵	4	207
622	モ	元清澄山(新人歓迎山行)	房総	2009	3/29	日帰り	2A	武内勇二	11	4
767		物語山(新人歓迎山行)	上州	2012	4/8	日帰り	1A	原田和昭	14	8
88		日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353		日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
257		モミソ沢	丹沢	2002	4/14	日帰り	B	堀口昭二	4	132
312		モミソ沢･源次郎沢	丹沢	2003	4/12-13	テント	C	堀口昭二	5	15
370		モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
431		モミソ沢・新茅の沢～烏尾山	丹沢	2005	4/16-17	テント	3B	佐藤健一	7	14
535		モミソ沢	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	佐藤健一	9	24
133		百蔵山（忘年山行）	中央沿線	1999	12/5	日帰り	A	高橋英雄	2	122
315		百蔵山	中央沿線	2003	4/20	日帰り	A	清家・外崎	5	25
561		百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2007	10/21-22	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
769		扇山～百蔵山	中央線沿	2012	4/21	日帰り	2A	大畠清江	14	14
771		守屋山・霧ヶ峰	八ヶ岳周	2012	3/5	テント	2A	村松敏彦	14	18
491		森吉山・姫神山	東北	2006	6/26-27	山麓泊	2B／1A	細野清子	8	42
161	ヤ	早池峰･薬師岳	北上	2000	7/1－2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
164		五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
216		薬師岳	北ア	2001	7/19-23	山小屋	C	外崎　蓮	4	33
637		浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	5C	清家三保子	11	53
723		薬師岳	南アルプス	2011	1/22-24	テント	4D	千葉有子	12	144
748		薬師岳	北アルプス	2011	8/18-20	山小屋	3B	高橋重	13	63
411		矢倉岳～足柄古道	箱根	2004	11/7	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
474		矢倉岳	箱根	2006	2/5	日帰り	1A	高橋英雄	7	125
879		矢倉岳～金時山	小田急沿線	2014	11/24	日帰り	2A	田村光子	15	154
288		焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
328		栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
462		焼石岳	奥羽	2005	10/9-10	避難小屋	2B	石垣吉朗	7	96
822		高松岳・焼石岳	東北	2013	7/28-30	避難小屋	3B	武内勇二	15	30
548		焼岳～西穂高岳	北ア	2007	7/18-20	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
173		八幡平･焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
271		秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
814		弥三郎岳	中央沿線	2013	5/12	日帰り	2B	坂巻明	15	10
111		夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
472		矢平山	中央沿線	2006	1/8	日帰り	2A	村松敏彦	7	120
768		八ヶ岳（赤岳）	八ヶ岳	2012	4/14-15	テント	4D	北川勝久	14	12
72		八ヶ岳　(公開登山)　(創立記念山行)	八ヶ岳	1998	10/10-11	テント＆山小屋	A	柴　勇	1	137
92		八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	1999	3/20-21	山小屋	C	村松敏彦	2	16
187		八ヶ岳　(クリスマス山行)	八ヶ岳	2000	12/23-24	日帰り	B, C	村松敏彦	3	100
277		八ヶ岳	八ヶ岳	2002	7/26夜-28	山小屋	B+	外崎　蓮	4	187

509		八ヶ岳本峰縦走（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	4C	村松敏彦	8	96
283		谷津川・地獄谷	奥武蔵	2002	9/15-16	テント	C	村松敏彦	4	210
779		鋸山・弥彦山	新潟	2012	6/16-17	テント	1B	外崎蓮	14	41
809		ヤビツ峠～塔ノ岳	丹沢	2013	2/24	日帰り	2B	北川勝久	14	123
675		比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
256		八溝山　（新人歓迎）	奥久慈	2002	3/24	日帰り	A	松本　豊	4	130
803		八溝山（忘年山行）	茨城	2012	12/2	日帰り	1A	田村光子	14	104
119		燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
393		白馬～杓子～鑓ヶ岳	北ア	2006	8/12-17	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
452		唐松岳～鑓ヶ岳～杓子岳	北ア	2006	8/13-16	山小屋	4C	高橋英雄	7	71
825		南岳～槍ヶ岳	北アルプス	2013	8/22-25	テント	4C	武内勇二	15	38
11		槍ヶ岳	北ア	1997	4/25-28	テント	D	村松敏彦	1	18
168		雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋／テント	C	大串秀雄	3	57
403		南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2007	9/25-31	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
700		常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
322	ュ	夕日岳	前日光	2003	5/25	日帰り	A	原田和昭	5	40
563		夕日岳	前日光	2007	11/4	日帰り	1A	外崎　蓮	9	98
585		夕日岳	日光	2008	6/1	日帰り	1A	箕輪カオル	10	29
659		雪入山～浅間山（忘年山行）	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
589		温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
109		湯の丸山・四阿山	上州	1999	6/19-20	民宿泊り	B	外崎　蓮	2	58
446		烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2006	6/26-28	山麓泊	4B	高橋　潔	7	49
630		湯の丸山・四阿山（市民登山）	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
207		湯檜曽川旧道	谷川	2001	5/26	日帰り	A	榊原文子	4	19
266		阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
493	ョ	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2008	7/2-9	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
15		養老渓谷（クリーンハイク）	房総	1997	6/1	日帰り	A	県連	1	25
751		横隈山	奥武蔵	2011	10/9	日帰り	2B	中村隆泰	13	73
685		古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ﾛｯｼﾞ泊	1A	柴勇	12	35
148		四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
471		蓬田岳（忘年山行）	福島	2005	12/11	日帰り	1A	武内勇二	7	116
794		蓬峠～武能岳～茂倉岳～谷川岳（15周年記念山	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14	82
294	ラ	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
330		阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
214	リ	利尻山・大雪山	北海道	2001	7/3-8	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
742		利尻山・礼文島	北海道	2011	7/18-7/21	山小屋	3C	村松敏彦	13	44
106		両神山（公開登山）	奥秩父	1999	6/5-6	山小屋／テント	B	村松敏彦	2	49
591		両神山	奥秩父	2008	7/5-6	山小屋	2A	高橋芳恵	10	51
706		二子山・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12	99
848		四阿屋山・両神山	奥秩父	2014	5/9-10	山麓泊	3B	矢野貞子	15	86
742		利尻山・礼文島	北海道	2011	7/18-7/21	山小屋	3C	村松敏彦	13	44
90	ワ	難台山～吾国山（卒業山行）	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
260		愛宕山～吾国山	茨城	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
477		難台山～吾国山	茨城	2007	3/27	日帰り	1B／3B	柴　勇	8	3
653		難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
743		雲の平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
357		和名倉山	奥秩父	2003	12/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	158
487		笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2007	6/2-6	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
853		雲取山～和名倉山～笠取山～雁坂峠	奥秩父	2014	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	15	100
25		蕨山	奥武蔵	1997	9/23	日帰り	A	細野清子	1	44
200		有間山～蕨山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎　蓮	4	5
240		蕨山	奥武蔵	2001	11/11	日帰り	A	安田みづほ	4	92
527		有馬山～蕨山	奥武蔵	2008	4/9	日帰り	3B	青山寿子	9	8
754		蕨山	奥武蔵	2011	10/30	日帰り	2A	坂巻　明	13	81
484		小川谷・悪谷	奥多摩	2007	5/22	日帰り	3B	堀口昭二	8	21

編集後記

やまなみの編集を引き受けて、今年は２年目。昨年度はやまなみの発行がなかったので、実質今年度から編集に携わったことになります。ＩＮさんから送られてくる原稿、地図、写真、概要を紙面に割り振り、指定された文字の大きさに直したり、写真を選んで入れたりといった作業をしました。仕事の都合で参加できなかった山行の感想を読んだり、写真を見て「私も参加したかった!!」と、幾度思ったことか。新たに行ってみたい山が確実に増えてきたなと思う…今日、この頃です。（村越百々代）

中村育子さんから「やまなみ」編集を手伝って下さい。「私、ワードを自由に扱えないのですが」「私がお教えしますから」「それならお手伝いします」。会で一番定例山行に参加していながら、会活動のお手伝いを殆んどしていない後ろめたさから、能力がないのに編集係を引き受けてしまった。中村さんのきめ細かい原稿の下準備とご指導、そして分担量を少なくしていただいたお陰で、期限内に編集完了できて安堵している。

なお、「やまなみ」発行は、「岳人あびこ」の文化であり大切にしたいと思っている。（矢澤節雄）

やまなみ１５号が完成しました。編集は前編集長、武内さんに教えていただきながら４年目になりますが、昨年から個人的都合であまりお役に立てず、すっかり中村編集長のお手を煩わせての完成です。

途中予算を見直す際、やまなみ制作論議もありましたが、続投が決まったこと、今思えばやはりよかったと思います。この記録集はみなさんの思い出と貴重な資料になってくれるでしょう。（新谷直恵）

今年度からやまなみの発行が隔年になり、今号には２年分が掲載されました。写真の数が減り、１山行の紙数がコンパクトになりましたが、紀行文と写真には担当した方の「思い」が詰まっていて、羨ましくなるような山行の数々です。また学ぶことも沢山あって、これらの山行を岳人あびこの「共有財産」にすることができるのは、原稿執筆者はむろんのこと、「寄稿」「挿絵」を快諾してくださった方々を始め、多くの方のご協力のおかげです。心から感謝申しあげます。編集の未熟さはお許しいただきたい。表紙の絵は昨夏亡くなられた小川誠二郎氏の、年賀状として製作された版画作品です。（中村育子）

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

山行文集　**やまなみ 第１５号**

発行日　平成２７年６月３日

発行者　岳人あびこ　会長　武内雄二

千葉県柏市布施新町４－１５－９

編集者　会報部　やまなみ編集係

村越百々代　　矢澤節雄

新谷直恵　　中村育子

印刷所　太平洋印刷株式会社

（会員限り　非売品）

ホームページ　mailto:gakujin-abiko@jcom.home.ne.jp